
京都式オレンジプラン

10 のアイメッセージ評価 報告書

2018年2月

京都地域包括ケア推進機構
認知症総合対策推進プロジェクト

はじめに

2013年に、京都地域包括ケア推進機構で策定した京都式オレンジプラン（京都認知症総合対策推進計画）では、「認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会」を目指すべき姿として掲げています。また、認知症の人とその家族の望む社会の姿を「10のアイメッセージ」として明文化し、京都式オレンジプランのアウトカム評価に位置づけ、認知症の早期発見・早期対応をはじめとした認知症ケアの充実や家族（介護者）への支援が行われるよう、医療・介護・福祉等の関係者が連携を強化し、この5年間、様々な取組を推し進めてきたところです。

今回、計画期間の最終年度にあたり、オール京都体制で行ったこれらの取組について、評価・検証を行うのと同時に、次期計画の策定に向けて、認知症の人や家族、関係者の皆さんの様々なご意見やご提案を幅広く把握し、計画に反映するため、初めて「10のアイメッセージ評価」及び「本人ミーティング・家族ミーティング」を実施したところ、100名を超える認知症の人に参加いただくことができました。この報告書は、その評価結果と京都における認知症施策の今後の方向性を取りまとめたものです。

今回の評価で得られた結果を次期計画の策定に反映し、今後の施策展開に活かしていくことはもとより、認知症の人や家族、関係者・関係機関の皆様の多様な活動にも活用されることを期待するものです。

最後に、今回実施した、10のアイメッセージ評価や本人ミーティングが、今後、京都のどの地域においても実施され、ご本人の思いが様々な施策や取組の場で活かされることにより、認知症の人にやさしい地域づくりが加速することを願います。

2018年2月

京都地域包括ケア推進機構
認知症総合対策推進プロジェクト

— 目 次 —

第一部 京都式オレンジプラン 10 のアイメッセージ評価

I. 調査の概要	1
1. 目的	1
2. 実施主体	1
3. 期間	1
4. 対象者（評価主体）	1
5. 調査内容	1
6. 調査方法およびスケジュール	3
7. 倫理的配慮	4
II. 回収の結果	5
1. 本人調査	5
2. 家族調査	6
3. 支援者調査	7
III. 回答の結果	8
1. 評価対象者（評価主体）別の回答結果の対照表	8
2. 本人調査の回答結果	9
(1) 認知症の状態像別にみた本人調査の回答結果	10
(2) 本人の意見・要望【自由記述】	13
(3) 本人調査に関わった調査協力者の回答結果	17
3. 家族調査の回答結果	23
4. 支援者調査の回答結果	24
IV. 評価対象者（評価主体）別の回答結果の比較	25
V. 10 のアイメッセージ評価結果に対する京都式オレンジプラン改定検討ワーキング意見	48
1. 評価の意義と明らかになったこと	48
2. 10 のアイメッセージを実現するための方向性	49
3. 新たに必要な施策や取組	50
4. 10 のアイメッセージ評価の活用	50
5. 次回の評価に向けての課題提示	50

第二部 本人・家族の声を京都式オレンジプランに反映させるための

「本人ミーティング・家族ミーティング」

I. 実施の概要	51
1. 目的	51
2. 主催	51
3. 協力機関	51
4. 実施地域	51
5. 方法	51
6. 実施の手順	52
7. 地域別の実施要領	52
8. 分析方法	53
9. 倫理的配慮	53
II. 地域別「本人ミーティング・家族ミーティング」の詳細と評価結果	54
1. 南部地域	54
2. 北部地域	59
III. 二つの地域における「本人ミーティング・家族ミーティング」評価の共通点と相違点	62

第三部 参考資料

I. 10 のアイメッセージ評価自由記述の分析【アドバイザーレポート】	63
II. 本人ミーティング・家族ミーティング発言まとめ	74
1. 南部会場	74
2. 北部会場	88
III. 10 のアイメッセージ評価に係る調査票	110
1. 本人調査票	110
2. 家族調査票	115
3. 支援者調査票	118
IV. 京都式オレンジプラン「10 のアイメッセージ」評価協力者マニュアル	120
●認知症総合対策推進プロジェクト委員名簿	137

本評価事業を実施するにあたり、
ご協力いただいた関係者をはじめ
調査にご参加いただいたご本人・ご家族の皆様
この場を借りて厚くお礼と感謝を申し上げます



第一部

京都式オレンジプラン 10のアイメッセージ評価

I. 調査の概要

1. 目的

京都市オレンジプランのアウトカム指標である「10のアイメッセージ」について、本人と家族、支援者による評価調査、及びこれらを踏まえた有識者による検討を行い、京都における認知症を取り巻く「今」がどのような現状であるのかを把握するとともに次期計画の策定に向け、効果的な認知症施策の立案に資する基礎資料を得ることを目的として、本調査を行った。

2. 実施主体

京都地域包括ケア推進機構（認知症総合対策推進プロジェクト）

3. 期間

2017年3月から2017年10月まで

4. 対象者（評価主体）

（1）本人調査

地域の様々な資源やサービスを利用して在宅生活をしている認知症の人105名。

（2）家族調査

地域の様々な資源やサービスを利用しながら在宅生活をしている（最近までしていた）認知症の人の家族等111名。

（3）支援者調査

本人、家族を支援している地域包括支援センター職員、認知症カフェ運営者、ケアマネジャー、介護事業所職員、認知症サポート医等の支援者485名。

5. 調査内容

（1）評価項目

京都市オレンジプラン改定・検討ワーキングにおいて、「10のアイメッセージ」を分かりやすいよう、23の調査項目（図表1）に整理し、調査票（p.110-119）を作成した。

（2）基本属性

1) 本人調査

①年齢、②性別、③DASC18の点数、④介護認定の有無、⑤介護度、⑥同居家族の有無、⑦発病後の年数、⑧所在市町村、⑨本人調査の実施状況（本人・代弁者の回答能力に関する印象、評価協力者と本人・代弁者との関係、本人評価の課題）

※代弁者が回答した場合は、以下の代弁者の基本情報

①年齢、②性別、③本人との関係、④同居の有無、⑤同居期間

2) 家族調査

①年齢、②所在市町村、③本人との関係、④本人の状態、⑤本人調査参加の有無

3) 支援者調査

①事業区分、②所在市町村

【図表 1】

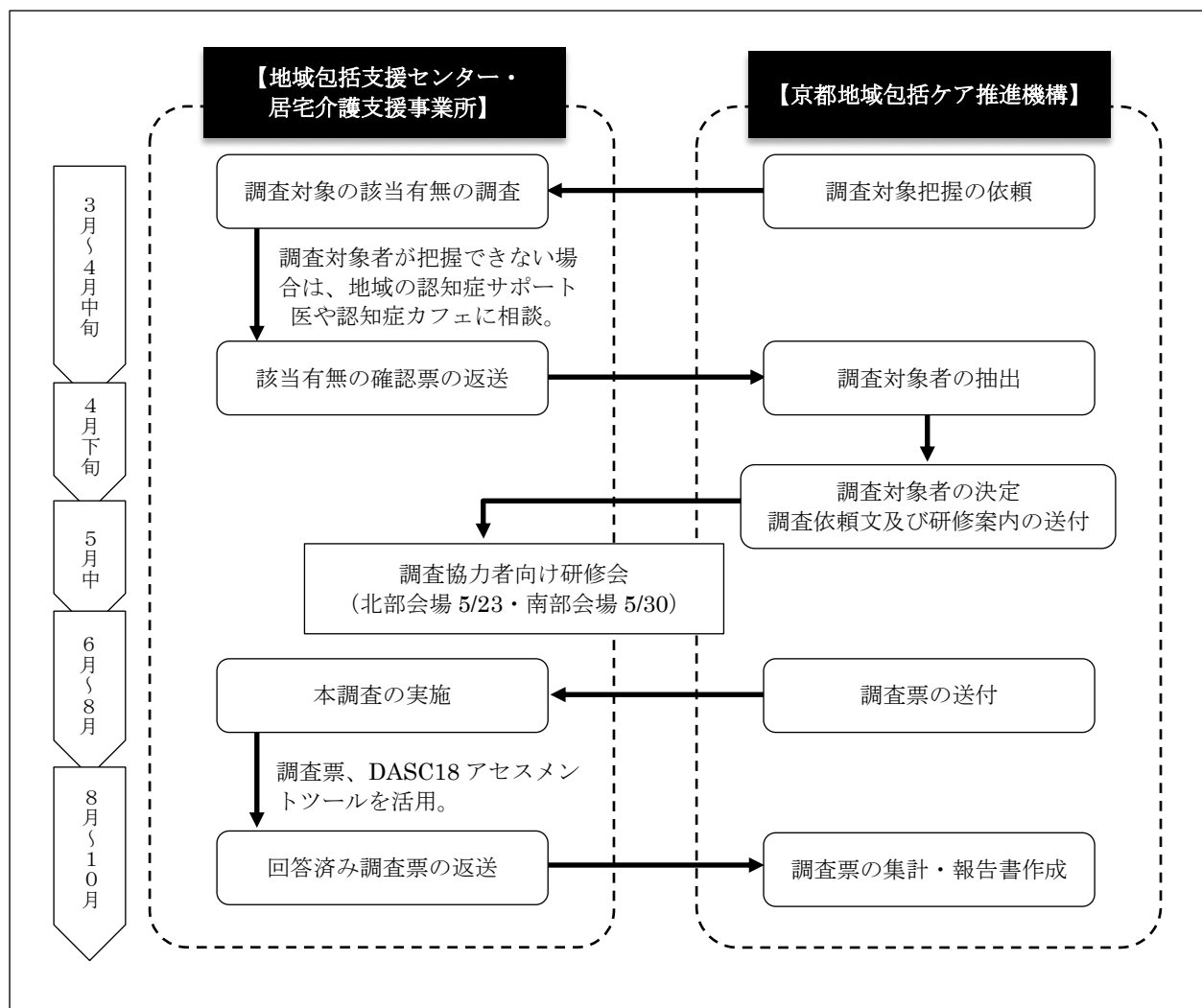
京都式オレンジプラン『10のアイメッセージ』評価項目

10のアイメッセージ		評価項目	
I	私は、周囲のすべての人が認知症について正しく理解してくれているので、人権や個性に十分な配慮がなされ、できることは見守られ、できないことは支えられて、活動的にすごしている。	1	周りのすべての人が、認知症を正しく理解してくれている
		2	周りの人は、私らしさや私のしたいことをいつも気にかけてくれている
		3	周りの人は、私ができることは見守り、できないことはそばにいて助けてくれている
		4	私は、診断される前と同様、活動的にすごしている
II	私は、症状が軽いうちに診断を受け、この病気を理解し、適切な支援を受けて、将来について考え決める事ができ、心安らかに過ごしている。	5	私は、軽いうちに診断を受け、病気を理解できた
		6	私は、将来の過ごし方まで考え決めることができた
III	私は、体調を崩した時にはすぐに治療を受けることができ、具合の悪い時を除いて住み慣れた場所で終始切れ目のない医療と介護を受けて、健やかにすごしている。	7	私は、身体の具合が悪くなったらいつでも診てもらえる
		8	私は、医療と介護の支えで住み慣れたところで健やかにすごしている
IV	私は、地域の一員として社会参加し、能力の範囲で社会に貢献し、生きがいをもってすごしている。	9	私は、手助けしてもらいながら地域の一員として社会参加できている
		10	私は、私なりに社会に貢献することができている
		11	私は、生きがいを感じている
V	私は、趣味やレクリエーションなどしたいことをかなえられ、人生を楽しんですごしている。	12	私は、趣味やレクリエーションなどしたいことがかなえられている
		13	私は、人生を楽しんでいる
VI	私は、私を支えてくれている家族の生活と人生にも十分な配慮がされているので、気兼ねせずすごしている。	14	私を支えてくれている家族の生活と人生にも十分な配慮がなされている
		15	私は、家族や社会に迷惑をかけていると気兼ねすることなくすごせている
VII	私は、自らの思いを言葉でうまく言い表せない場合があることを理解され、人生の終末に至るまで意思や好みを尊重されてすごしている。	16	私は、言葉でうまくいえなくても私の気持ちをわかってもらえている
		17	人生の終末に至るまで、わたしの思いが尊重されると思う
VIII	私は、京都のどの地域に住んでいても、適切な情報が得られ、身近になんでも相談できる人がいて、安心できる居場所をもってすごしている。	18	私は、適切な情報を得ている
		19	私は、身近に何でも相談できる人がいる
		20	私には、落ち着いていられる場所がある
IX	私は、若年性の認知症であっても、私に合ったサービスがあるので、意欲をもって参加し、すごしている。	21	【若年性認知症の方のみ】若年性の認知症の私に合ったサービスがある
		22	【若年性認知症の方のみ】私に合ったサービスに意欲をもって参加している
X	私は、私や家族の願いである認知症を治す様々な研究がされているので、期待をもってすごしている。	23	私は、いま行われている認知症を治す研究に期待している

6. 調査方法およびスケジュール

本調査に関する進捗状況は、以下の通りである。

【図表 2】 京都式オレンジプラン「10 のアイメッセージ」評価に係る本人・家族調査の流れ



(1) 調査対象者の抽出【3月～4月中旬】

京都式オレンジプランの評価主体として調査に協力してくれる本人・家族を探すため、府内全ての地域包括支援センター及び「認知症の人とその家族を支えるためのケアマネジャー研修」の修了者（以下、ケアマネジャー）が所属する事業所に対し、機縁法による該当者の把握を行った。

(2) 調査対象者（本人・家族）の決定【4月下旬】

当初、確認された本人・家族（母集団）の中から地域や自立度等の要素を勘案した調査対象の選定を行う予定であったが、把握の結果、該当する母集団が少なかったため、本調査においては、把握されたすべての本人・家族全員を調査の対象とした。対象となった調査協力者（評価協力者）に対し、調査の趣旨などを含めた調査依頼文の送付を行った。

(3) 調査協力者の選定と研修会の実施【5月中】

本人・家族調査においては、質問内容に対する理解をしやすいするため、以下を調査協力者として設け、調査対象者に対する聞き取りを行うこととした。

- ①地域包括支援センター職員（本人及び家族調査の対象者が所在する地域包括支援センターの職員）
- ②認知症の人とその家族を支えるためのケアマネジャー研修修了者（本人評価の対象となった人のケアマネジメントを行う介護支援専門員）

上記の調査協力者が聞き取りを行う際、質問内容に対する理解不足や不慣れな場合、苦情の増加や回答拒否などにつながりやすい。そのため、調査協力者が一定のスキルを身につけ、聞き取りの精度を確保することをねらいに、調査協力者向けの研修会を実施した。この研修会は、北部と南部の2か所に開催され、調査の趣旨、スケジュールなどの説明や DASC18 の使い方、聞き取りの際に求められるサポート内容に関する講義など調査の均一化を図るものとして行われた。

(4) 本調査の実施【6月～8月】

調査票に基づき、聞き取り又はアンケート形式により実施された。本人・家族に対する調査においては、「評価協力者マニュアル」にもとづき、調査協力者（評価協力者）によるサポートが行われた。本人による回答が困難な項目については、代弁者が本人の代わりになった立場での回答を求め、その結果を記入した。なお、これらすべての回答は無記名記入を原則とし、回答が終わった調査票は、郵送により回収された。

1) 本人調査（本人評価）

調査協力者（評価協力者）が、調査趣旨を説明し、マニュアルに沿って本人（代弁者含む）に聞き取りを実施し、その回答結果を記入する。同時に、DASC18 に対する調査も実施した。

2) 家族調査（家族評価）

調査協力者（評価協力者）が、調査趣旨を説明した上、調査票を手渡し、調査票への回答を依頼した。

3) 支援者調査（支援者評価）

調査対象者に調査票を郵送し、調査票への回答を依頼した。

(5) 結果とりまとめ・分析【8月～10月】

- 1) 本人調査のデータの確認および集計（項目別、状態像別）
- 2) 家族調査のデータの確認および集計（項目別）
- 3) 支援者調査のデータの確認および集計（項目別、圏域別）
- 4) 本人の意見・要望（自由記述）に関する記入内容の分類
- 5) 本人評価の課題（自由記述）に関する記入内容の分類
- 6) 各調査結果を項目別に比較・検討のための図表化

7. 倫理的配慮

本調査を行うにあたって、対象となった人のプライバシーや匿名性の保護などの倫理的な配慮を十分に行うことが「調査協力者向け研修会」において説明し、個人情報の保持に努めた。

Ⅱ. 回収の結果

1. 本人調査

(1) 回収結果

調査対象者 105 名のうち、有効回答を得られたのは 98 名 (93.3%) である。各圏域別の調査対象および回収の詳細は、図表 3 のとおりである。

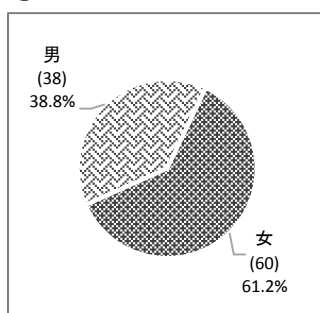
【図表 3 圏域別の回収率】

		全数	回収 (%)
1	京都市	36	34 (94.4%)
2	乙訓	7	7 (100.0%)
3	山城北	26	19 (73.1%)
4	山城南	9	9 (100.0%)
5	南丹	11	11 (100.0%)
6	中丹	10	8 (80.0%)
7	丹後	6	5 (83.3%)
	不明	-	5
	計	105	98 (93.3%)

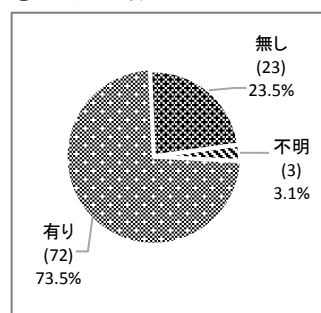
(2) 回答者の基本属性

※以下、図表の中の () 内の数字は、回答数を示すものである。

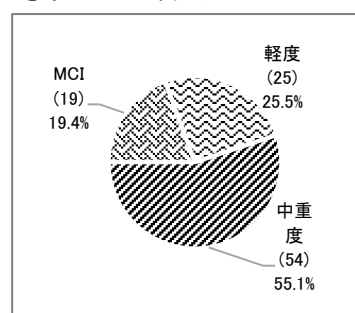
①性別



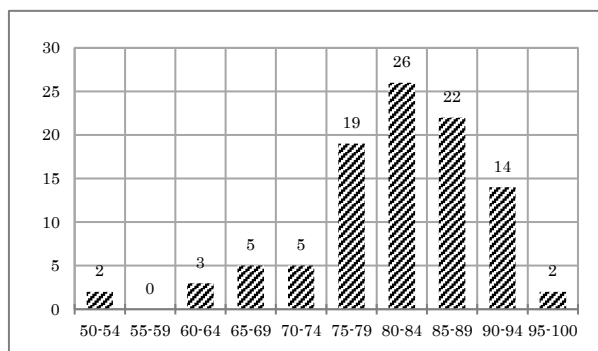
②同居の有無



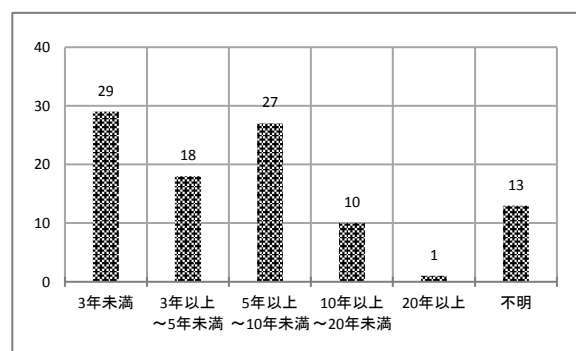
③状態別の分布



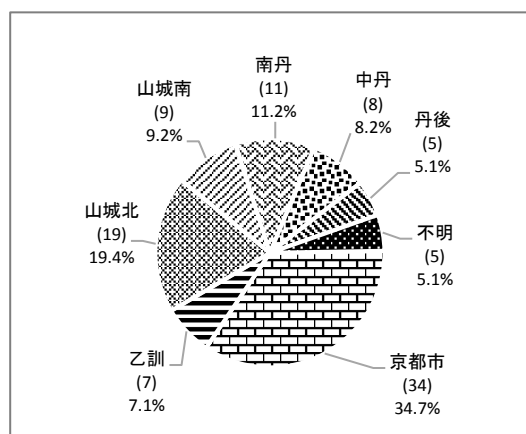
④年齢別の分布



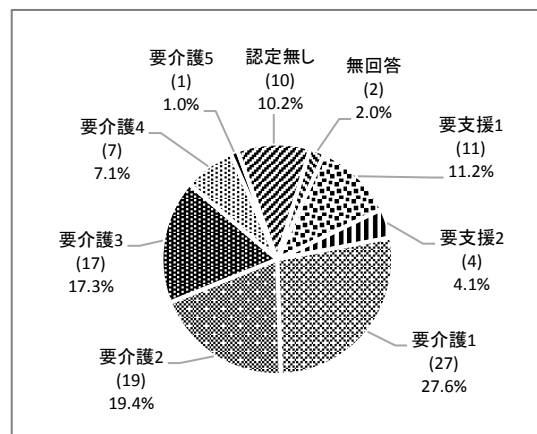
⑤発症後の年数



⑥圏域別の分布



⑦介護認定の有無別の分布



2. 家族調査

(1) 回収結果

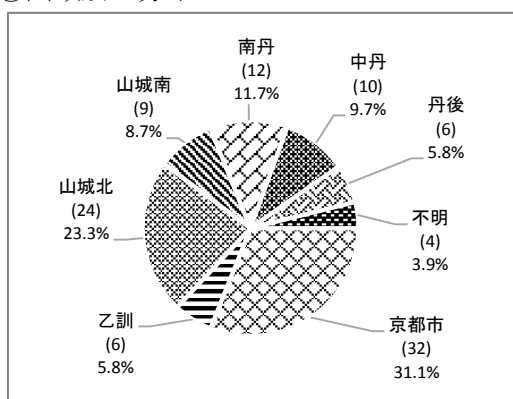
調査対象者 111 名のうち、有効回答を得られたのは 103 名 (92.8%) である。各圏域別の調査対象および回収の詳細は、図表 4 のとおりである。

【図表 4 圏域別の回収率】

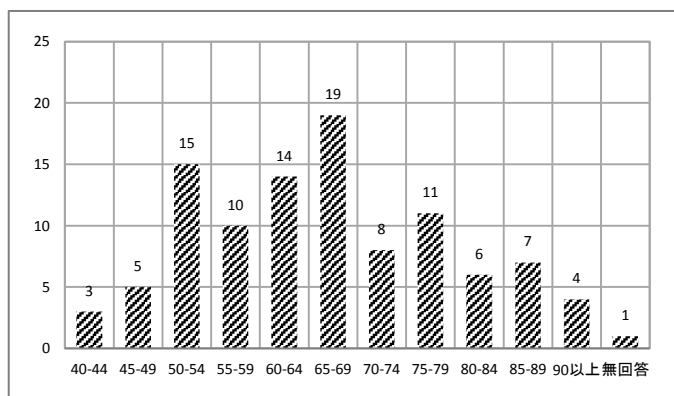
		全数	回収 (%)
1	京都市	33	32 (97.0%)
2	乙訓	8	6 (75.0%)
3	山城北	27	24 (88.9%)
4	山城南	10	9 (90.0%)
5	南丹	13	12 (92.3%)
6	中丹	12	10 (83.3%)
7	丹後	8	6 (75.0%)
	不明	-	4
	計	111	103 (92.8%)

(2) 回答者の基本属性

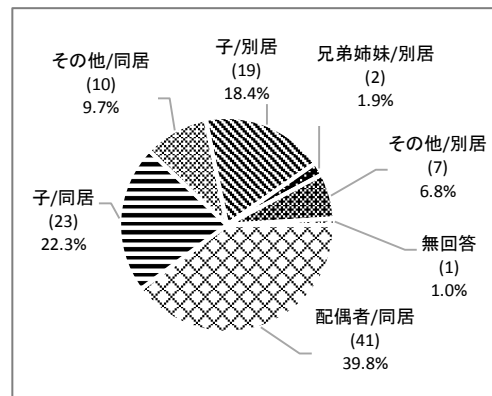
① 圏域別の分布



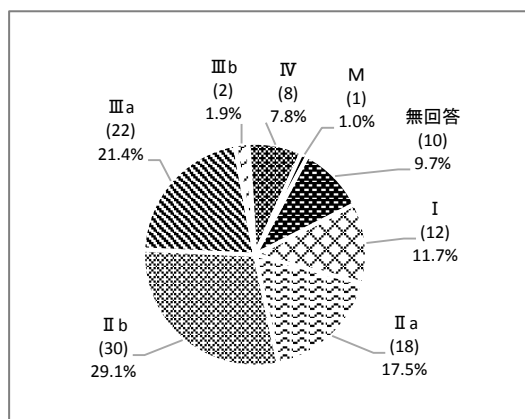
② 年齢別の分布



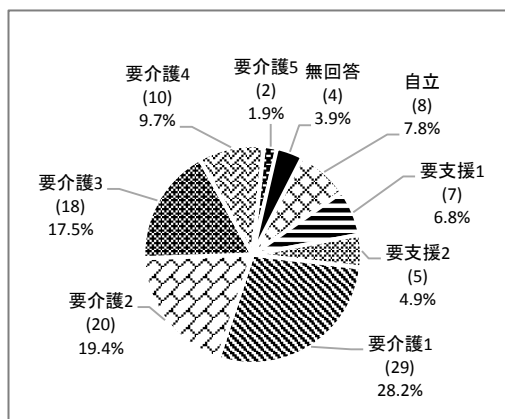
③ 本人との続柄別の分布



④ 認知症高齢者の日常生活自立度別の分布



⑤ 要介護度別の分布



3. 支援者調査

(1) 回収結果

調査対象者 485 名のうち、有効回答を得られたのは 345 名（71.1%）である。属性別の調査対象および回収の詳細は、図表 5 のとおりである。

【図表 5 属性別の回収率】

		全数	回収 (%)
1	地域包括支援センター ※1	133	101 (75.9%)
2	認知症リンクワーカー養成研修修了者 ※2	28	17 (60.7%)
3	認知症カフェ運営者 ※2	40	31 (77.5%)
4	認知症の人とその家族を支えるためのケアマネジャー研修修了者 ※3	42	40 (95.2%)
5	介護事業所職員（居宅系サービス） ※4	72	46 (63.9%)
6	認知症サポート医	101	72 (71.3%)
7	認知症の人と家族の会会員	30	19 (63.3%)
8	機構構成団体	39	19 (48.7%)
	計	485	345 (71.1%)

評価者数については、地域バランスに配慮して設定

※1 日常生活圏域ごとに設置されている全ての地域包括支援センター（サブセンター含む）から各 1 名

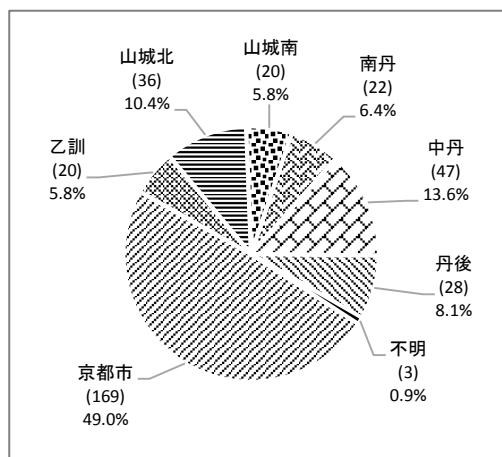
※2 市町村（京都市内は行政区・支所）ごとに 1 名

※3 市町村（京都市内は行政区）ごとに 2 名

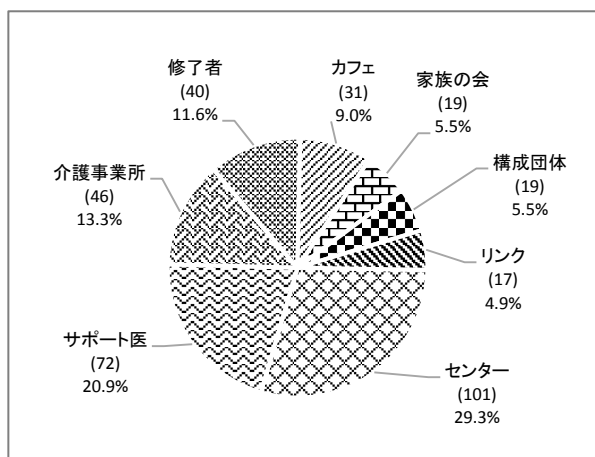
※4 小規模多機能など地域密着型事業所から府域 33 名、京都市域 39 名

(2) 回答者の基本属性

① 圏域別の分布



② 属性別の分布



Ⅲ. 回答の結果

1. 評価対象者（評価主体）別の回答結果の対照表

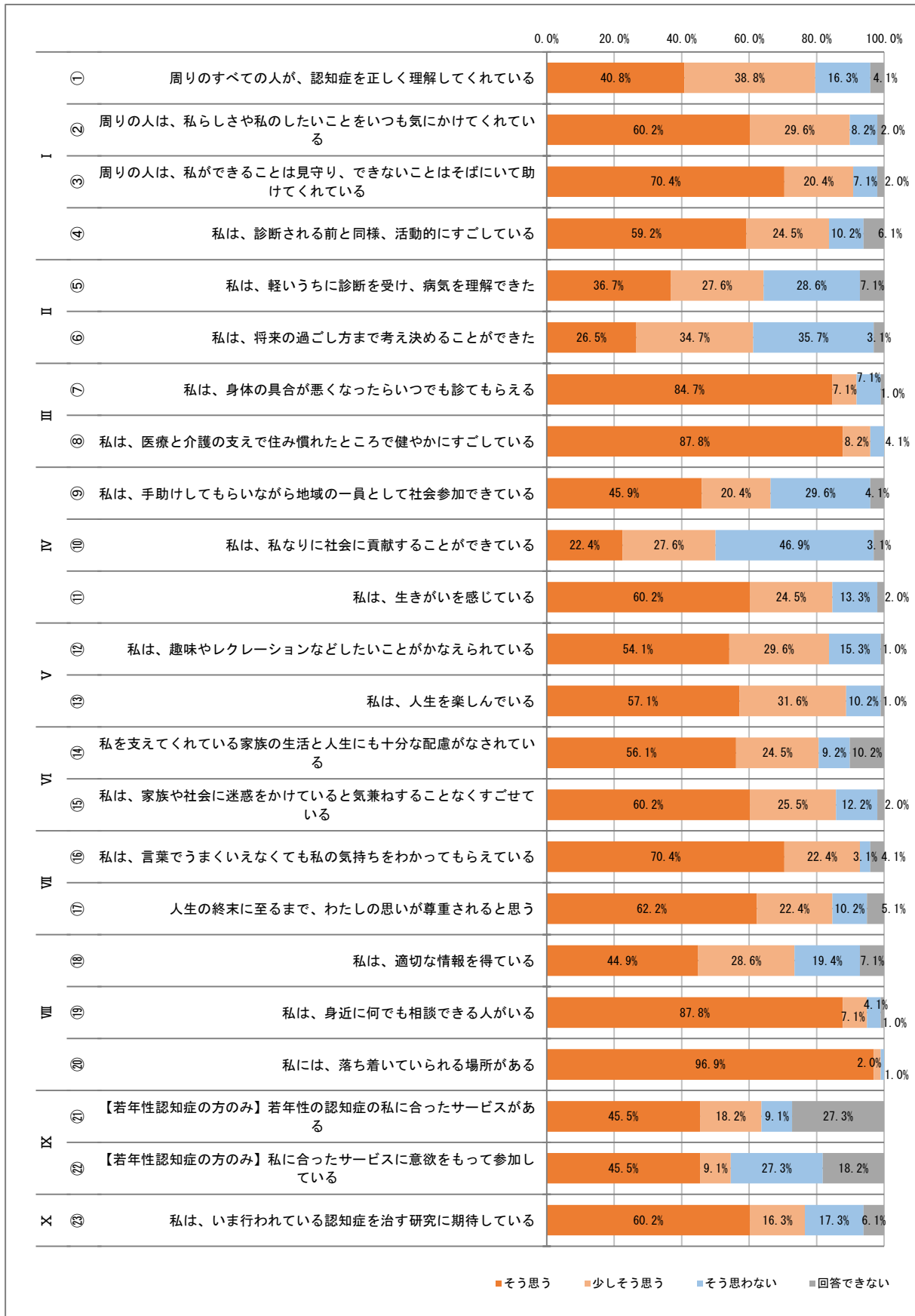
調 査 項 目		本人※1	家族※2	支援者※2	考えられる背景
回答数		(98)	(103)	(345)	
I	① 周りのすべての人が、認知症を正しく理解してくれている	80%	79%	70%	・ 認知症への不理解や偏見 ・ 行動や活動に対する制約 ・ 自分らしさが発揮できない
	② 周りの人は、私らしさや私のしたいことをいつも気にかけてくれている	90%	81%	41%	
	③ 周りの人は、私ができることは見守り、できないことはそばにいて助けてくれている	91%	83%	38%	
	④ 私は、診断される前と同様、活動的に過ごしている	84%	55%	30%	
II	⑤ 私は、軽いうちに診断を受け、病気を理解できた	64%	43%	21%	・ 診断までに時間がかかる ・ 受容支援や寄り添い支援の不足
	⑥ 私は、将来の過ごし方まで考え決めることができた	61%	27%	10%	
III	⑦ 私は、身体の具合が悪くなったらいつでも診てもらえる	92%	94%	54%	・ 身体合併症に対するケアの排除 ・ 在宅療養の困難さ（ケアの不足）
	⑧ 私は、医療と介護の支えで住み慣れたところで健やかに過ごしている	96%	83%	42%	
IV	⑨ 私は、手助けしてもらいながら地域の一員として社会参加できている	66%	44%	23%	・ 認知症を理由に、就労や社会参加が妨げられている
	⑩ 私は、私なりに社会に貢献することができている	50%	28%	16%	
	⑪ 私は、生きがいを感じている	85%	43%	15%	
V	⑫ 私は、趣味やレクリエーションなどしたいことがかなえられている	84%	60%	28%	・ 認知症を理由に、自己実現が妨げられている
	⑬ 私は、人生を楽しんでいる	89%	50%	18%	
VI	⑭ 私を支えてくれている家族の生活と人生にも十分な配慮がなされている	81%	66%	38%	・ 家族支援が不十分、負担が大きい ・ 認知症への不理解や偏見
	⑮ 私は、家族や社会に迷惑をかけていると気兼ねすることなくすごせている	86%	70%	14%	
VII	⑯ 私は、言葉でうまくいえなくても私の気持ちをわかってもらえている	93%	73%	23%	・ 受容支援や寄り添い支援の不足 ・ 意志決定支援の不足
	⑰ 人生の終末に至るまで、わたしの思いが尊重されると思う	85%	71%	15%	
VIII	⑱ 私は、適切な情報を得ている	73%	40%	24%	・ 情報提供や支援体制が不十分（不十分な地域がある）
	⑲ 私は、身近に何でも相談できる人がいる	95%	78%	38%	
	⑳ 私には、落ち着いていられる場所がある	99%	94%	41%	
IX	㉑ 【若年性認知症の方のみ】若年性の認知症の私に合ったサービスがある	64%	59%	10%	・ 若年性認知症に対するサービスの不足（サービスがない）
	㉒ 【若年性認知症の方のみ】私に合ったサービスに意欲をもって参加している	55%	56%	8%	
X	㉓ 私は、いま行われている認知症を治す研究に期待している	77%	92%	73%	

注 ※1. 「本人評価」の％は、回答項目のうち「そう思う」「少しそう思う」と回答された割合の合計値である。

※2. 「家族評価」および「支援者評価」の％は、回答項目のうち「とてもそう思う」「少しそう思う」と回答された割合の合計値である。

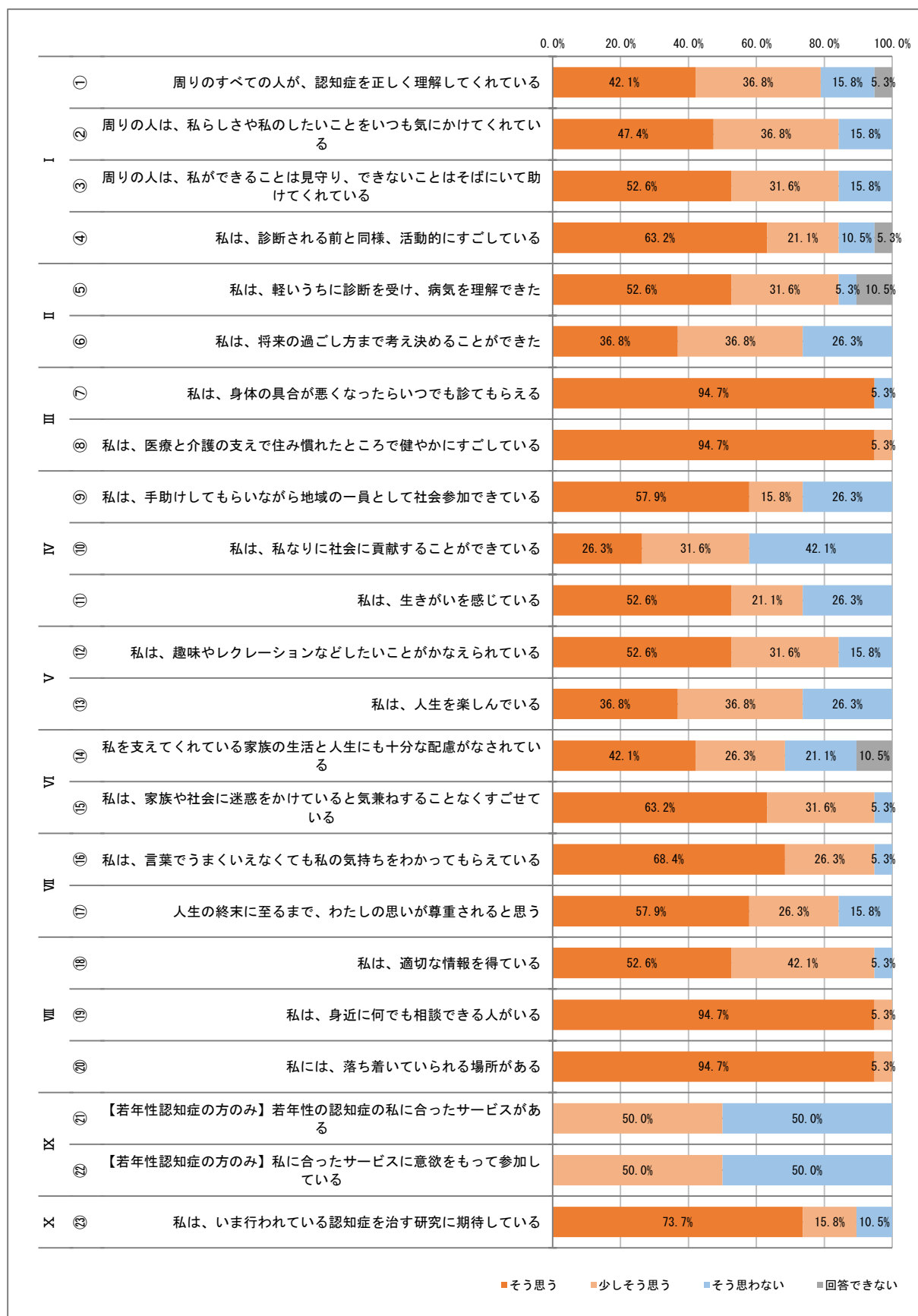
※3. 上記の％は、いずれも小数第1位を四捨五入したものである。

2. 本人調査の回答結果

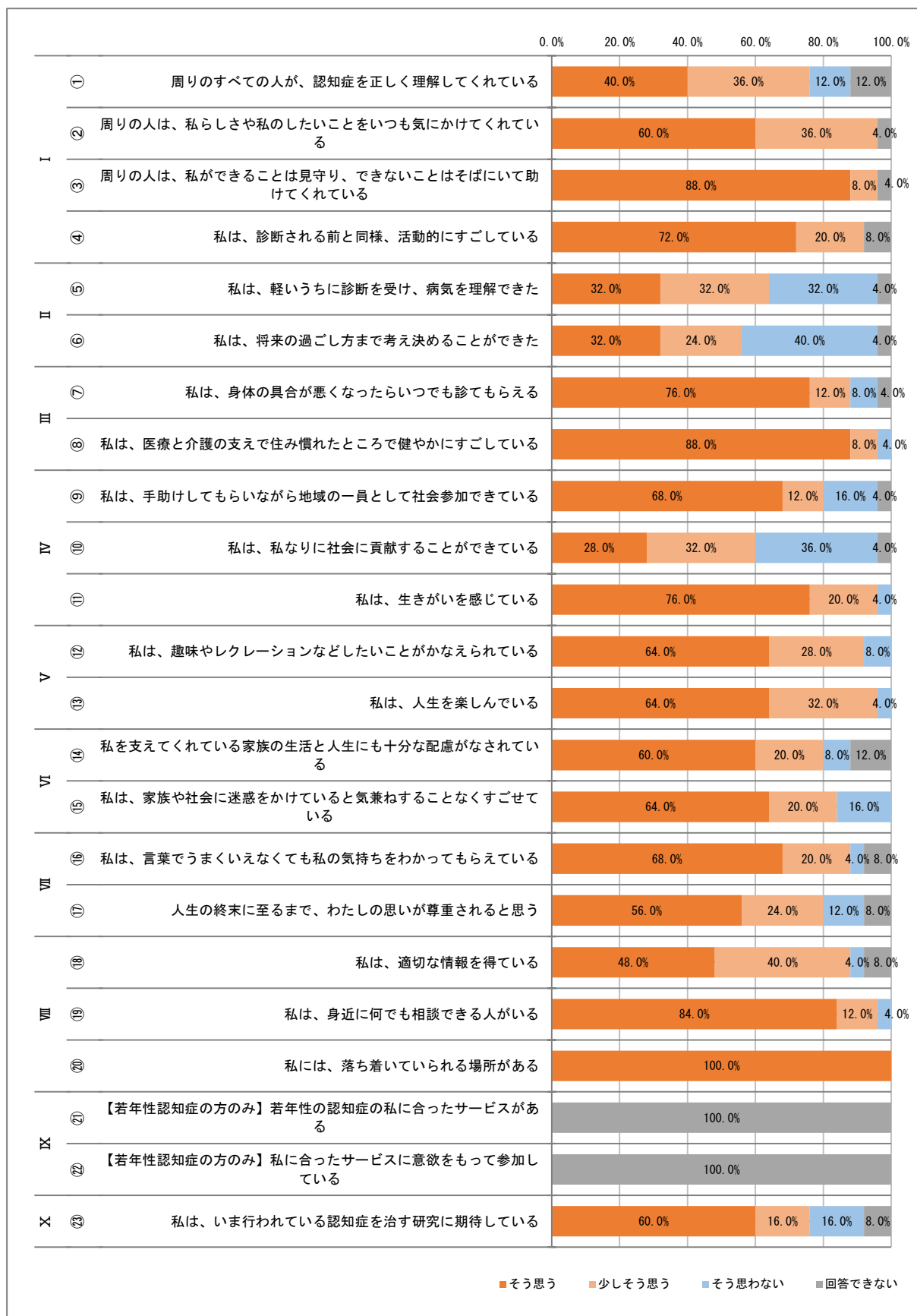


(1) 認知症の状態像別にみた本人調査の回答結果

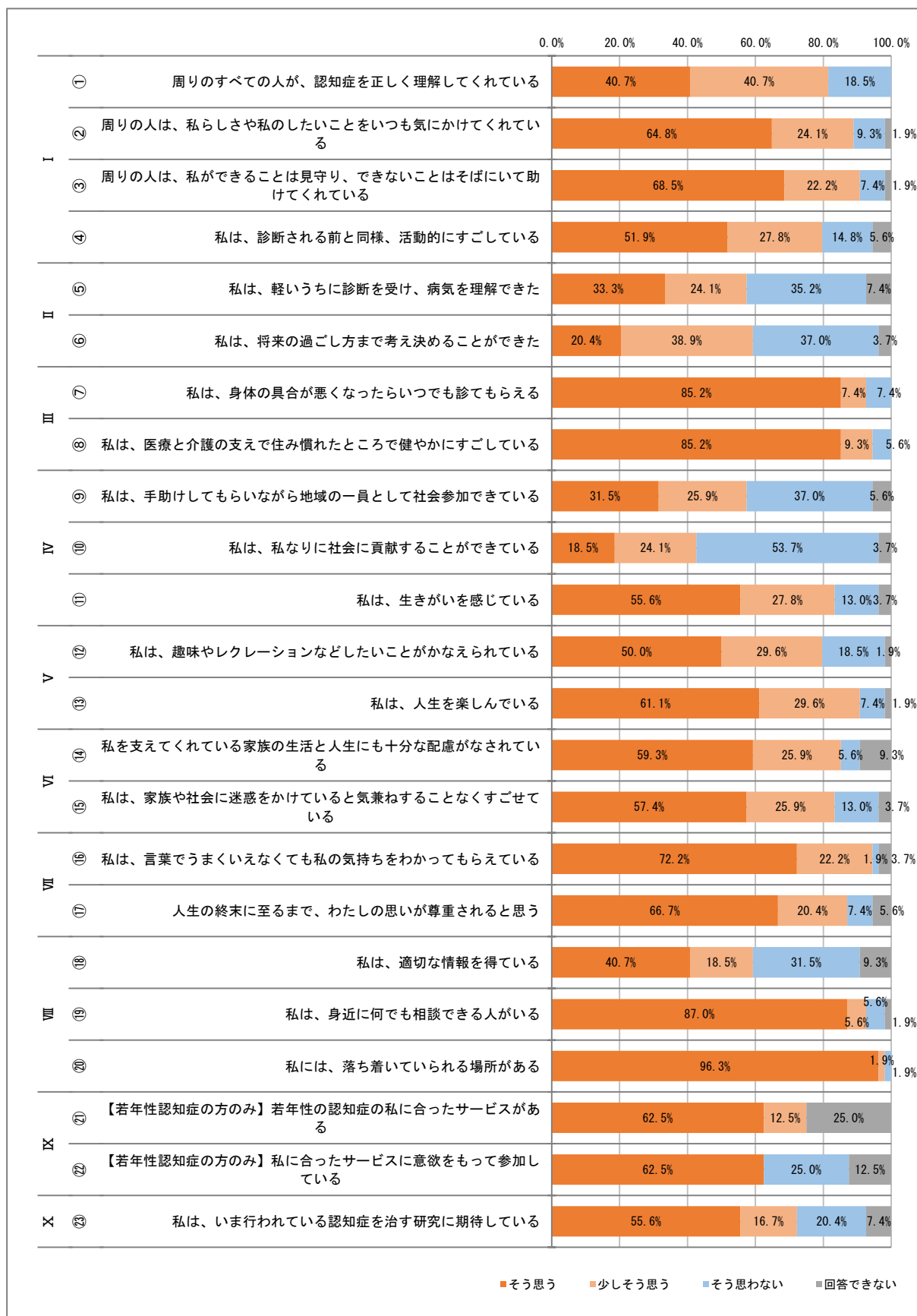
1) MCI一対象者：19名



2) 軽度一対象者：25名



3) 中重度一対象者：54名



(2) 本人の意見・要望 (※分析については、参考資料のアドバイザーレポート p. 63-73 参照)

no	回答内容	サブ カテゴリー	カテゴリー
1	認知症と言われてからの方が、緊張して生活している。①何度も同じ事を言っていないか。②日付を何度も確認する③面倒と思っても頑張っている。④何度も繰り返し考えるので疲れる。	認知症になったの ショック、不具合	
2	外に出ることが減る。面倒で動きたくないと思うこともある。昔から社交的ではない(人と会いたいと自ら思わない)。		
3	認知症の薬は今後ももっと進んでいってほしい。でももし身体の状態が悪くなったり、認知症が進んできて関わっている人を怒鳴ったりしたらどうしようという思いはあります。		
4	昨年と比べて、出来ない事が増えている。特に、すぐに疲れてしまい大好きな夜のコンサートに行かれないのが辛いと思うことがある。		
5	地域町内等の役はしていない。ゴミのネットの当番もしていない。近所づきあいはあり、地域の一人として生活しているという思いはある。		
6	料理が好きで今も料理はしている。お肉を買いすぎる。漬け物はしなくなった。ぬか漬のタイミング等わからなくなってきた。体力的にも困難。		
7	軽度の精神障害のある息子がおり、将来が心配。自分の事は自分で分からなくなってしまったら、他の家族が何とかしてくれると思う。		
8	私は自分の変化に気がつかなかったが妻から聞いた事で最初は驚いたし腹が立つというか、どうして良いのかわからないという状態だった。		
9	時間はかかった(1年程)がアルツハイマー型認知症と言われて「ああ、そうか」と思った。今は自分が楽になれると思う良いことを取り組みたい。		
10	治療を受けるようになって急に深いプールに入ったような気がする。それまでは普通に平泳ぎで泳いでいたのに急に深いプールに入ってしまったて凄く不安という感じ。		
11	新しい仕事で物の名前を覚えるのは凄く大変。うまく出来ないが自分のそういうところを隠したい。すると会話をしなくなり孤立する。でも頑張ろうと思う。でも出来ないことになり周りの人がイライラするのが分かる。がんばり続けるのはなかなか難しい。		
12	自分の思いが言葉に出来ず相手にうまく伝えられない。		
13	妻が認知症で自分も認知症の診断を受けて今後の生活を考えると不安がある。		
14	発症後うまく仕事ができずうつ状態になった。ボランティアとして社会貢献するのは良いが仕事となると責任が伴うのでつらく行ないたいとは思わない。今は2つのボランティアをしている。		
15	心配なことは車の運転をやめたことで物忘れが進みやすくなるのではということ。		
16	自分でできることは自分でしないとイケない。家や土地の管理(草取りも含め)をするのは大変になってきた。		
17	軽度認知症と言われてショックを受けている。潜在的に認知症を意識しているみたいで思うように行動出来なくなった。		
18	この病気になったら楽しめない。一つひとつできなくなっていくと思うと辛い。		
19	将来を考えていた頃にこのような状態になり行き詰まりを感じている。		
20	以前は地域の役員などをして活躍していたが今は責任もって引き受けられない。		
21	元気でやりたい事をしていたら尊重されていると思うかも知れないが今はそういう状態ではない。		
22	同じ年代の人が近くに居なくなった。		
23	ここ最近、出来ない事が増えてきたと思う。		
24	デイに行ってボケてる人を見て私もこうなるんかなと思う。		
25	やりたいことは沢山あるが1人では出来なくなった。		
26	すぐに忘れるし自分でも何だかよくわからない事がある。覚えておこうと思っても忘れてしまう。これは病気なのか。		
27	人様に迷惑かけていると思います。気を使っています。		
28	仕事上で必要な判断力が弱ってきたと思うが、仕事から引退する事は決心が付かない。		
29	運転には自信があるがこれも少し「おっと」と思う事が出てきた。病院に連れて行かれて運転をやめるようにといわれるとたちまち困る。		
30	何か邪魔くさいという気持ちになるが、好きだと思えることは続けて活きたい。またそうできるように努力するつもりである。	前向きな 気持ち	前向きな 気持ちやあ

31	足腰を鍛えてボランティアを再開したい。		きらめ等が入り交じる複雑な心境		
32	車の運転を辞めて自転車や徒歩移動する事もあり良い意味で体重も適度となり運動の機会を得ることとなった。今後人工知能なども研究されて認知症になっても安心して車の運転ができる様に車の開発が進むと良いと思う。人工知能などで安全に車に乗れるようになったら運転してみたい。				
33	家以外のところに出かける楽しみがある。心配事ないように生活する。くよくよしない。				
34	何も意見はない。今、しあわせです。				
35	毎日楽しくやっている。どんな時も気持ちの持ち様である。				
36	もし身体状態が悪くなったり、認知症が進んでも今住んでいる地域で暮らしたい。全然知らない見たこともない景色の所で余後を過ごすなんて考えられません。	慣れた暮らし継続や自己決定への望み			
37	寝たきりになったら、大好きなクラシックを聴きながら最期を過ごしたいです。亡き夫の時も、音楽に助けてもらったから…。				
38	自分は夫と暮らしたいだけである。夫は、買い物も行ってくれるし、入浴のお手伝いもしてくれる。また、白髪染めもしてくれる。本当に感謝している。夫がいつも側にいてくれるので、安心である。				
39	来年もその次の年もこのまま悪くならず家で出来ることをして過ごしたいと思っている。				
40	区の老人会にも出かけている。これからも今のまま生活していきたい。				
41	今までクラシックを聴く会やコーラス、PTA で色々とお付き合いしてきてこれからも続けたいと思う。東京オリンピックまでは元気で暮らしたい。自宅に来る鳥や小鳥、サギなどと挨拶をするのが楽しい。				
42	自宅で最期までいたい。楽しみにしているパチンコ、将棋、畑仕事がいつまでも出来たら幸せ。				
43	今まで1人でしたいと思ったことをしてきたのでこれからも自分がしたいと思った事はしていきます。				
44	色んな支援を受けなければならない事は仕方がないと思うこともあるが基本的に他人に干渉されることが大嫌いなので必要のない事はお断りさせていただきます。				
45	年寄り扱いされたくありません。お風呂なんて小規模で入りたくないです。自宅のシャワーで充分。自分のことは自分でします。人生の最後も自分で決めたいです。				
46	要介護状態の妻とくらして家事全般を担っていてそれが役割であり生きがい、というかやらなければいけない事になっている。心身状态的に自分で遠いところまで出かけられない事と妻を置いて出られないため趣味や楽しみはありません。	自分の役割と生きがい			
47	自分の事が出来なくなるのでとにかく歩く事をしなければならないと思っている。買物に行く行為は仕事でもあり歩く事もできるので毎日買物に行く。				
48	今まで法事や地域の祭事については自分は主になって切り盛りしてきた。自分が生きている間は頑張って切り盛りをしなければならないと思っている。				
49	年齢と共に体力も物憶えも衰えていく事は仕方ないなと思っている。85年も生きているのでやむを得ないと半分あきらめ半分納得している。	年齢もあつてのあきらめ			
50	将来の過ごし方はあきらめている。				
51	認知症の診断を受けたのはつらいがこれを直す薬が出来てほしいとは思わない「もういいや」と思っている。				
52	自分は年を取り物忘れも多くなってきている。年だから当たり前だと思っている。) 認知症を治す研究をしているといっても年を取ったら皆、もの忘れは出てくる。治すことが無理だと思っている。				
53	ダメになったらそのまま逝かせて欲しい。				
54	考えても仕方が無い。				
55	先が見えているから期待はしていない。自分の力ではどうする事もできない。	認知症への気持ちの備え			
56	この病気は誰でも成り得る病気だと聞いたので落ち込んだ事はない。				
57	地域町内等の役はしていない。ゴミのネットの当番もしていない。近所づきあいはあり、地域の一員として生活しているという思いはある。			住み慣れた地域への思い	住み慣れた地
58	妻と一緒に地域の人と交流を持ちながら生活を続けていきたい。				
59	住み慣れたところで生活捨てて行くのが一番いいと思う。				
60	今は近所の人が声をかけてもらって催し物にも参加できている。				

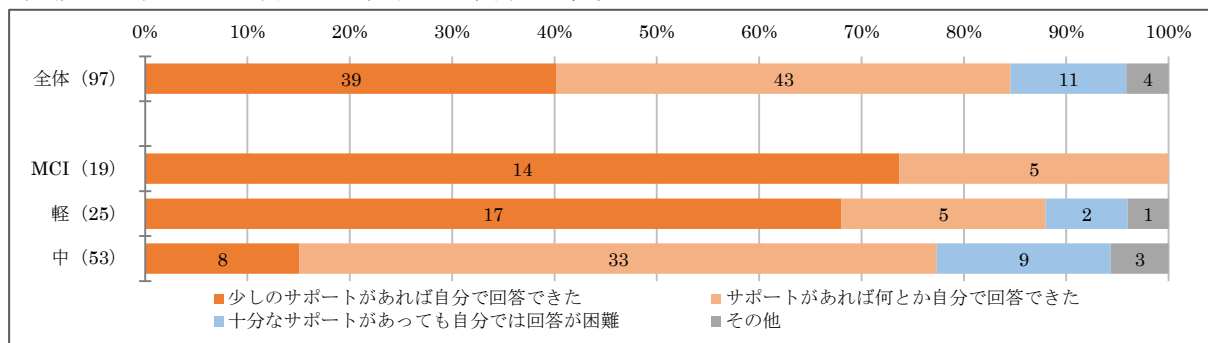
61	この家がいい。周りも知ってくれている。	周囲の人のつきあいが継続できていない気持ちや、地域や周囲の人を頼ることができない気持ち	域でのつながりや周囲に頼れない気持ち
62	自分は今のところに来て60年になる。近所の人とも顔見知りになっていたのが良かったと思う。皆今までどおり話をしてくれる。		
63	自分の事など周りの人も気にかけてくれていると自分ではそう思っている。影で悪口を言われたり、ほかの人からみたらどうなのかは分からない。		
64	定年直後に引越しせずに住み続けていたら社会参加や社会後見ができていたかもしれない。		
65	町内会の行事には参加出来ないので迷惑をかけていると思う。		
66	周囲の人にうてば響く様に気を配ってもらうことは難しい。		
67	ある程度は自分で考えて動かないと仕方がないと思う。		
68	地域の人に私は忘れてしまうからといっても分かってもらえず何でもできると言って1人では不安な役割を持たされることがあって困る。		
69	野菜の収穫が楽しみ。重いものが持てなくなったので嫁に手伝って欲しいと思うけれども嫁も仕事で疲れていると思うとなかなか頼めない。		
70	相手が困るだろうから先に自分から病気のことを言っておく。		
71	「お辛いですね」と言われた事があるけれども辛いと思うのであればほっといてと思う。		
72	ドラマを観ていてもストーリーが繋がらないが、家族が解説してくれる。	家族の支援に対する信頼と期待	
73	先の事まで考えられない。家族が何とかしてくれるかと思う。		
74	子供たちは遠方に住んでいるが気にかけてくれている。同じ町内には兄弟、従兄弟等も気にかけてくれている。		
75	子ども達が良くしてくれるのでありがたい。		
76	娘が居てくれるので助かっている。		
77	嫁も息子も娘も私が何も言わなくてもすべてしてくれる。分かってくれてありがたい。このままでよい。		
78	嫁が昼ごはんを準備してくれているので1人で気楽に食べている。		
79	これまで40年医療にかかることなく健康に暮らしている。今デイサービスにも通えて何かあれば家族が何とか助けてくれる。		
80	三人の子ども達が身近に居て私ができることを一緒にやったり見たりしてくれている。		
81	日中を1人で過ごすことはほとんどなく色んな思いは娘と話をしている。伝わっている。思ったことは口に出している。出せていることでこれでいいと思っている。		
82	長男夫婦と住んでいる。子ども達に迷惑をかけないようにと思っている。		
83	息子夫婦で色々と考えてくれていて嬉しい。病院にも連れて行ってくれる。		
84	余計なことは言わず嫌われないようにしないといけない。笑いあって生活したい。		
85	今日が無事済んだらいい。娘と一緒にいて必要になったら病院に入る。		
86	いつまでも元気でいたら周りが助かると思う。		
87	今は娘と暮らしているから住みやすい。でもこれからは分からん。施設も考える。		
88	夫が協力してくれている。その夫が入院したら心配。		
89	娘が近くに居てくれて孫の成長が見れて嬉しい。		
90	家族との生活でマイナス的な考えがあったらダメだと思う。もし顔を忘れても家族が自分の事をわかってくれる。		
91	家族支援が大きく地域で元気に生活できている。		
92	困った時は娘に相談できている。遠慮はしていないが世話になっている身なので娘がどう思っているが気になる事はある。		
93	娘や愛犬のりんちゃんを頼りにしている。		
94	あまり深く考えたら生活できない。これ以上希望はない。家でその日の生活が出来たらいい。		
95	この家でずっと暮らしたい。みんなに面倒を見てもらってここで暮らしたい。		
96	将来は妻に任せると決めている。		
97	息子に任せているから私には情報が無くてもよい。		
98	いつも娘が声かけしてくれる。忘れる事があるけれど思い出すこともある。思い出せない事は放っておく。		

99	共同生活の小型版のような所は仲間がいて話が出るのでよい。		
100	週1回、デイに通っているが週1回でもいく予定があるとその日までにこれをしておこうとか考えます。		
101	施設が沢山あるといいです。		
102	1年前から娘宅で暮らしている。近所に友人が居ないのでデイサービスが他者との生活のすべて。		
103	デイを楽しみにしてそれが生活のハリであったり生きがいを担っている。		
104	デイでドライブに連れ出してくれたりみんなで畑をする事があるので楽しみにしている。		
105	明日、デイに行かなあかんと思うと楽しい。		
106	デイに行ったり裏に出してもらって花を作ったりして楽しい。		
107	デイに行くと感じている人が側にいる。デイに来たら楽しい。		
108	昔、山登りが空きだったが今はもういけない。だけどデイサービスに行って楽しく過ごしている。	介護保険サービスへの満足と期待	介護保険サービスや地域での支援への満足
109	デイサービスで色々なことをさせてくれるので楽しい。情報は豊富です。		
110	デイサービスはいい所。知り合いも居ていい所。		
111	自分で出かけられなくなり家で過ごす時間が長くなったら施設に入と思う。施設に入ると挨拶だけでも誰かと話す事ができる。		
112	今はデイサービスに行って、歌を歌ってる時が心が晴れて楽しい。家で1人でいたら要らん事ばかり考えてしまう。		
113	デイに行っているときに人生を楽しんでいると思える時。		
114	デイが楽しい。デイで好き勝手している。		
115	デイサービスでのレクは満足している。人と関わることで生きがいを感じている。		
116	デイサービスでは良くしてもらっていて楽しませてもらっている。		
117	介護サービスとかちゃんとやってくれているから今はこれ以上ない。		
118	デイなど活動の場があり楽しく出来ている。		
119	デイサービスは楽しい。気の合う友人ができてずっと喋っている。でも寝る前に反省してから寝るようにしている。		
120	自分の地域は介護予防教室などの取り組みがあり十分な事をしてもらっている。これ以上はいいと思う。	地域サービスの支援	
121	認知症を治す薬を早く作って下さい。		
122	予防の薬がもらえんと思ったがもらえない。何のために継続受診しているのかわからないが続けたほうが良いと思って定期受診している。		
123	予防教室には元気に参加している。不安もあるけど出来るだけ楽しく人に迷惑をかけたくない。もの忘れが増えないで欲しい。		
124	畑仕事をしていて作った野菜を近所の人にあげている。畑仕事は身体を動かすので老化予防になっていると思う。	薬や治療、予防、制度への期待	薬や制度、仕組みへの期待
125	今後人工知能なども研究されて認知症になっても安心して車の運転ができる様に車の開発が進むと良いと思う。人工知能などで安全に車に乗れるようになったら運転してみたい。		
126	私も認知症についてはよくわからない。認知症が治ったらいいと思う。		
127	認知症と診断されてもテストを受けて合格すれば車の運転をさせて欲しい。年に1回でも検査を受けるつもりがある。そういう仕組みにならないかと思っている。免許失効の際に外出ができるよう移動手段の充実を図ってほしい。		
128	若年性の私にあったサービスがない。現在運動ジムに行っているがテニス等もしてみたい。身体を動かすのは楽しい。	自分に合うサービスや参加機会の不足	
129	社会参加はできていない。参加できる場所、受け入れ先が無い。		
130	活動の場があれば参加できると思う。		
131	働ける場がほしい。		
132	仲間の時間は大切だと思う。	仲間や相談できる場所の大切さ	
133	私には相談できるところができたがどこの誰へ相談して良いのかわからない人がもっと沢山いるように思う。		
134	相談できる人や、落ち着いていられる場所は、ある。		

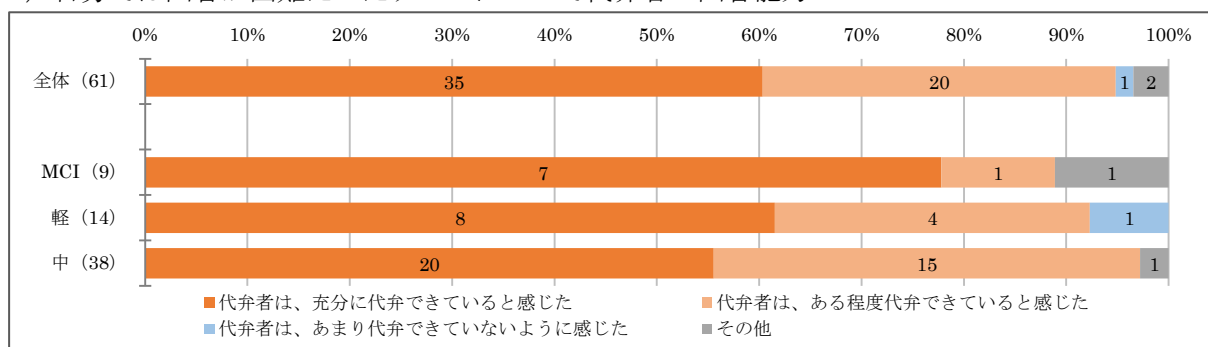
135	認知症・病気の事については知りたいとも思わない。病院にかかっているし情報はもらえていると思う。		
136	経済的な心配があまり無いので気持ちがゆっくりしているのだと思う。	経済的な 安心感の 必要性	

(3) 本人調査に関わった調査協力者の回答結果

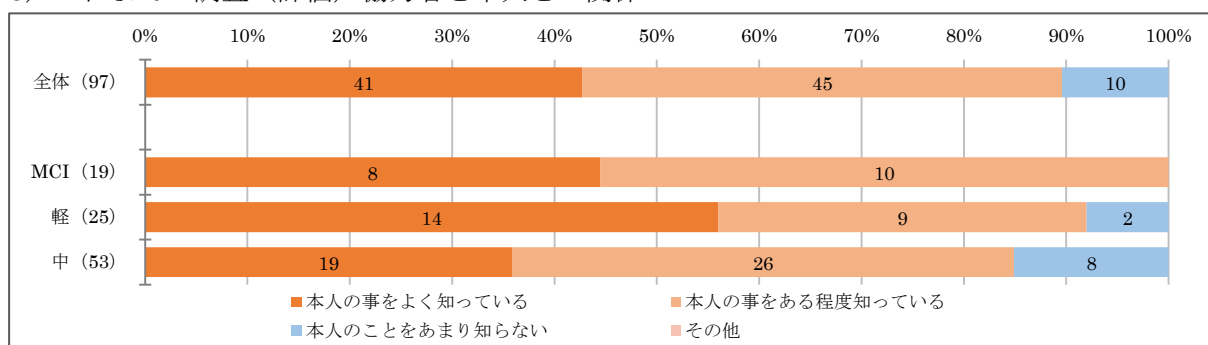
1) 調査を終了して本人の回答能力に関する印象



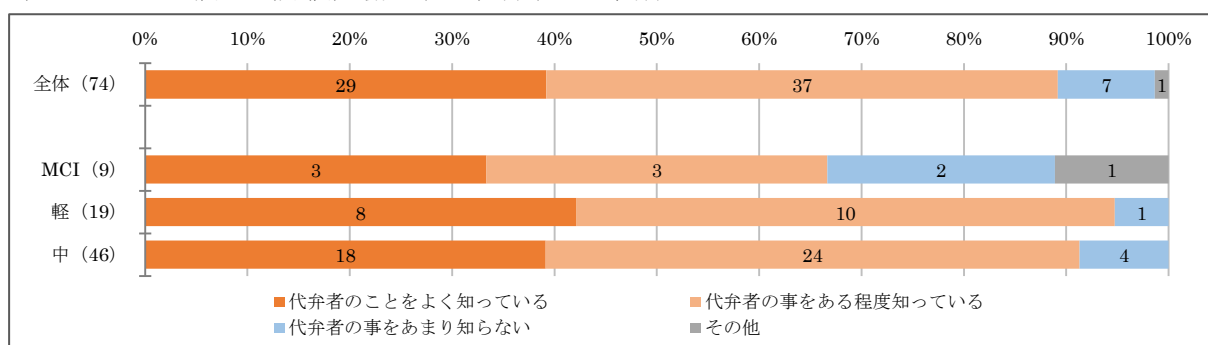
2) 自分では回答が困難だったケースについて代弁者の回答能力



3) これまでの調査（評価）協力者と本人との関係



4) これまでの調査（評価）協力者と代弁者との関係



5) 調査協力者が感じた本人評価の課題

(※分析については、参考資料のアドバイザーレポート p. 63-73 参照)

no	回答内容	項目	サブ カテゴリー	カテゴリー		
1	2年前より極度な進行は見られず。ひとり暮らしを今のままでできる限り続けたいと希望されている。	今までの暮らしの継続への希望	合間から聞こえてくる本人の心情	アイメッセージを聞くことのインパクト		
2	物忘れの自覚は大きく、置いた場所を忘れるなど困りごとが増えてはこられているが、日常生活は1人で畑や草取り、家事全般、おむねできておられる。					
3	医師から、物忘れの薬はもらい、飲まれているが、診断は受けておられないので、回答できなかった項目もあります。また、認知症についてや将来について等、周りの方がどう思っているか等も、考えた生活をされていないと話され、回答できませんでした。					
4	物忘れがあっても、人に迷惑をかけず、1人でがんばろうと意欲的に生活されていました。					
5	買い物に行くことが楽しみで、自分で今では何でも出来るのであまり不満も感じていない。					
6	もともと記憶力が高く、自立心が高く、大変聡明な方です。年齢と共に物忘れが出ていることを早くから自覚されて、不安に思っていました。家族に頼れない事情があるため、先々の準備として任意後見制度を活用されていました。その分「物忘れ（認知症）」に対して人一倍不安が強く、時に混乱されるのだと思います。	認知症やもの忘れへの不安				
7	自分で物忘れを自覚するようになり心療内科受診し、数年間はうつとして診断、治療を受けていた。入院をきっかけに仕事を辞めた（夫からの「もういいんじゃないかな」というアドバイスで）夫のサポートに感謝している。					
8	前職場との関係はよく、今も友人としての付き合いや同法人のデイでボランティアとして参加している。言葉が出にくい、今も認知症の場面、物忘れの事を言うときは涙が出る。					
9	私だけがという内にこもったような気分が続いた。相談出来るところまでたどり着くのに1年ほどかかった。まだまだ知らない事（情報）がたくさんあると感じている。					
10	MCI と診断されたのが春のことで、受容されていないこともあり、現在できていることについても間違ったことを言っていないか、していないかと不安を持たれている。独居のため今後の不安も強いです。					
11	本人の長男は3年前に他界。本人の夫は老健施設入所。本人と嫁の二人暮らし。嫁はよくしてくれるが、遠慮してしまう。できるだけ嫁に迷惑をかけず、過ごしたいと思う。	家族に負担をかけないようという思い				
12	しかし認知症に対する周囲の理解に関しては、ご自身から発信しても怪訝な顔をされることもあると聴取。本人にとってサービスとしては申し分ないのかもしれないが、地域の方に認知症に対する理解が浸透しているのかどうかは判断しかねるところであった。	認知症に対する周囲の理解不足への嘆き				
13	思うことが言えた。	アイメッセージへの確かな返答				
14	自身がアルツハイマー型認知症であることを自覚し、各機関や介護保険サービスを活用する事で自分の好きなことを続けられているという話を聞くことができた。					
15	協力を依頼した際と調査前に主旨を伝え、そういう事なら私が答えると快諾されていた様子で、調査時は少し迷われる質問もありましたが、不快な様子は感じませんでした。					
16	質問のひとつひとつに、考えをめぐらせ解答されていた。					

17	同じ内容の話は何度か話された。しかし、会話の能力は高く、自分の思いをちゃんと表現できた。		
18	代弁なくしっかり説明する事で本人が全て答える事ができた。		
19	DASC を先に行い本人評価を行った。自身が回答出来るか心配であったが私の予想以上の回答が出来た。		
20	本人に対する聞き取りでは、質問の内容を自ら繰り返し考え答えていた。妻は「まだよう分かってんねんなあ」と感無量な感じであった。		
21	日頃、妻の高圧的（独善的）にみえる迫力に押され、自分の言葉で語ることの少ない方ですが、今回改めて話を伺うことで本人様に自分の暮らしに満足、納得されている部分が判って安心しました。		
22	日常の理解力、判断力、短期記憶の低下など状態としてかなり進んでいると感じる方ですが、今の自分の暮らしを肯定的にとらえており満足されている事、介護する家族の感じる疲労感などをよそに現状にも介護者にも満足している様子が判りました。		
23	思いのほか、本人は自分の思いもよく話してくれました。		
24	「私は自分なりにそう思っている。他の人がみたらどうかしらん。」ほとんどの質問に前向きな返答がきかれなかった。		
25	現在は妻が本人にストレスがかからないように配慮した生活を送っているので穏やかに過ごしている。		
26	子供様方の支援がご本人の不安を和らげている様子が伺える。		
27	妻も本人の認知症を地域に公表して一斉掃除などの行事には本人が一人で出ても協力が得られており本人の疎外感が少ないと感じた。		
28	陰で妻の賢明な対応努力があるのだろうと思う。		
29	長男、次男、三男と関東在住で遠方であるが近くにダンス仲間の知り合いがあり、娘さんには何かの手続きなど手助けしてもらいながら困った時には何でも相談でき助けてもらえる環境がある。	黒子的な家族の支援	
30	家族支援が大きいため本人は現状の生活を楽しめていると思えた。		
31	近くに住む娘のサポートがあるので、特に不自由なく生活出来ているようである。		
32	対象者は1年前は会話も少なく外出も少なかったのですが、歩行器のレンタルと奥様の支援でカラオケサークルに出かけることが増え趣味活動が行え、今はほぼ満足されていますが、奥様の支援があってこそ出来ているので奥様が体調崩してしまったりすると、困ってしまうと感じられていました。		
33	自宅内でも掃除や洗濯干しなど妻が身体的に出来ない事を役割分担しており、生きがい（存在価値）を感じて生活出来ているので穏やかな生活が実現できていると思う。	家族の支援で役割を継続	
34	昨年に骨折で約1ヶ月入院してから認知症の表出があり、今年から夫氏の症状の進行にともなって夫氏の世話ができなくなったため急激な進行が観られている。娘一人が介護者で本人夫婦をいつまで介護できるかという不安はある。	家族介護継続への不安	
35	発病後の年数については、診断に至るまでに時間を要しているとのこと。家族の気づきは3年前頃からあったが、様子観察となり、他の医療機関を探すまでにてんかん発作による転倒などあったことがくやまれるとのことでした。	発症から診断までの振り返り	
36	主治医の認知症発症の記載を参考に発症からの期間を8ヶ月としたが実際、同居の家族（長男）に何うと数年前から短期記憶が保てなかったり午後3時に買い物に行かなくてはならないと思いきや勝手に出ていくことが増えていったとの事。		
37	デイサービスは楽しいところと感じている（歌やゲームには参加出来ている）。	介護サービスがあることでの安定	

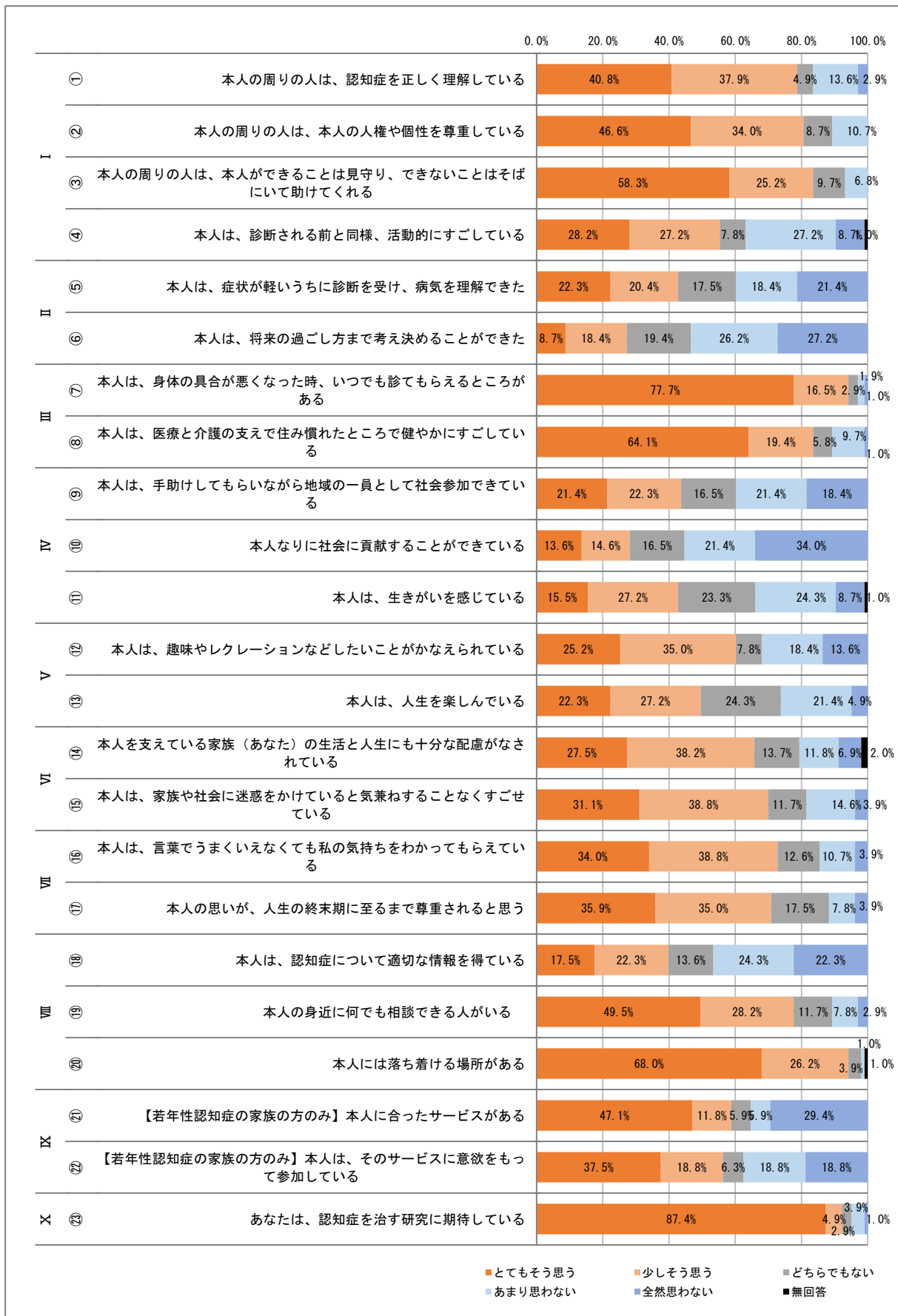
調査を通じて垣間見えてくる周囲の支えや思い

38	今は週 5 回のデイサービスに行って、歌ってるときが楽しい。色々な役割もあり、生きがいを感している。		
39	初めてご本人とお会いしたのが 2 年ほど前です。認知症カフェを勧めました。それ以後、老人福祉センターと認知症カフェを楽しく通うことが出来ています。	周囲の自然な見守り	
40	内服も飲み忘れなく服用できており、環境、人間関係など安定している。		
41	認知症の妻と二人暮らし。子供は 1 人。子供は遠方に住んでおり、関わりが少なく。近所に住む弟夫婦や姪が見守りや支援を行う。また、地域の方が自然に見守りされている。		
42	本人が病名について知っているにしても本人の前で「認知症」という言葉を使うことにはためらいを感じる。	認知症について 正面から本人と 話し合うことの難しさ	
43	調査対象者は未受診であり、物忘れの進行や日常生活の変化（支障）から、別居の家族が「認知症」であると認識されています。が、本人に受診の促しをする事をためられており「認知症」と伝えないでほしいと言われる中での調査協力でした。「物忘れ」の自覚、受け入れはある中での本人評価になりました。言葉の選択に迷いました。		
44	本人は認知症とっていないので「物忘れ」におきかえて調査を行った。支援者の理解があるためアンケートが行えた。	認知症との 自覚の難しさ	アイメッセ ージ調査の 難しさ
45	“なぜそんなことを聞くの” にひっかかってしまうと、怒りの感情が出てしまった。		
46	アルツハイマー型認知症の診断を受けているが、本人は自身が認知症であるとは思っていない。自分が認知症であるならという気持ちで回答頂きました。		
47	病識のある方に聞き取りが出来れば本調査の主旨にもっと協力できたのかなと感じた。		
48	本人は確定診断を受け「アルツハイマー型認知症」と告知を受けられているが全く記憶なく自覚もない。ご家族はしっかりと理解され対応されている。		
49	本人自身は「年なんだから物忘れあっても当然」と言われる（認知症とは思っていない）。		
50	本人の病識がない場合や専門医の診断を受けていない場合、質問が難しい。		
51	現在症状としては中期の状態である。本人に物忘れがある自覚はなく周りがサポートしていても理解できてない事が多い。		
52	本人は物忘れがあることは自覚しているが、認知症とは思っていない。		
53	ご自分では物忘れや問題行動の自覚がない。		
54	物忘れの自覚あるが認知症という病識はない。		
55	身体は 90 歳代後半と思えない壮健であるが、認知症状は進行中である。妻が有料老人ホームに入所中にも関わらず自宅にいて近隣の老人宅にその夫人と同居していると言ったり、先程まで二階にいた（妻は脳梗塞の後遺症で自力歩行不可）が今は外出していない等幻視症状もあり、常時見守りが必要は状況である。	生活状況 自覚の難しさ	
56	デイサービスの利用や近所の散歩など自分の好きなことが（畑仕事もできなくなったがしているつもり）できているので、楽しく生活している様である。		
57	排便の失敗があり娘はよく怒ってしまうということがあるが、その時に受けた不快も後では覚えていない感じ。		
58	調査は協力的だが、日常訪問時には物忘れ自覚した発言あるがアンケートになると構えて認知症独特の正常時の答えが出た。日常の様子とややかけ離れた結果になることもあった。	よそ行きの対応	
59	質問を砕いて理解してもらえると、模範解答のように話してくだ		

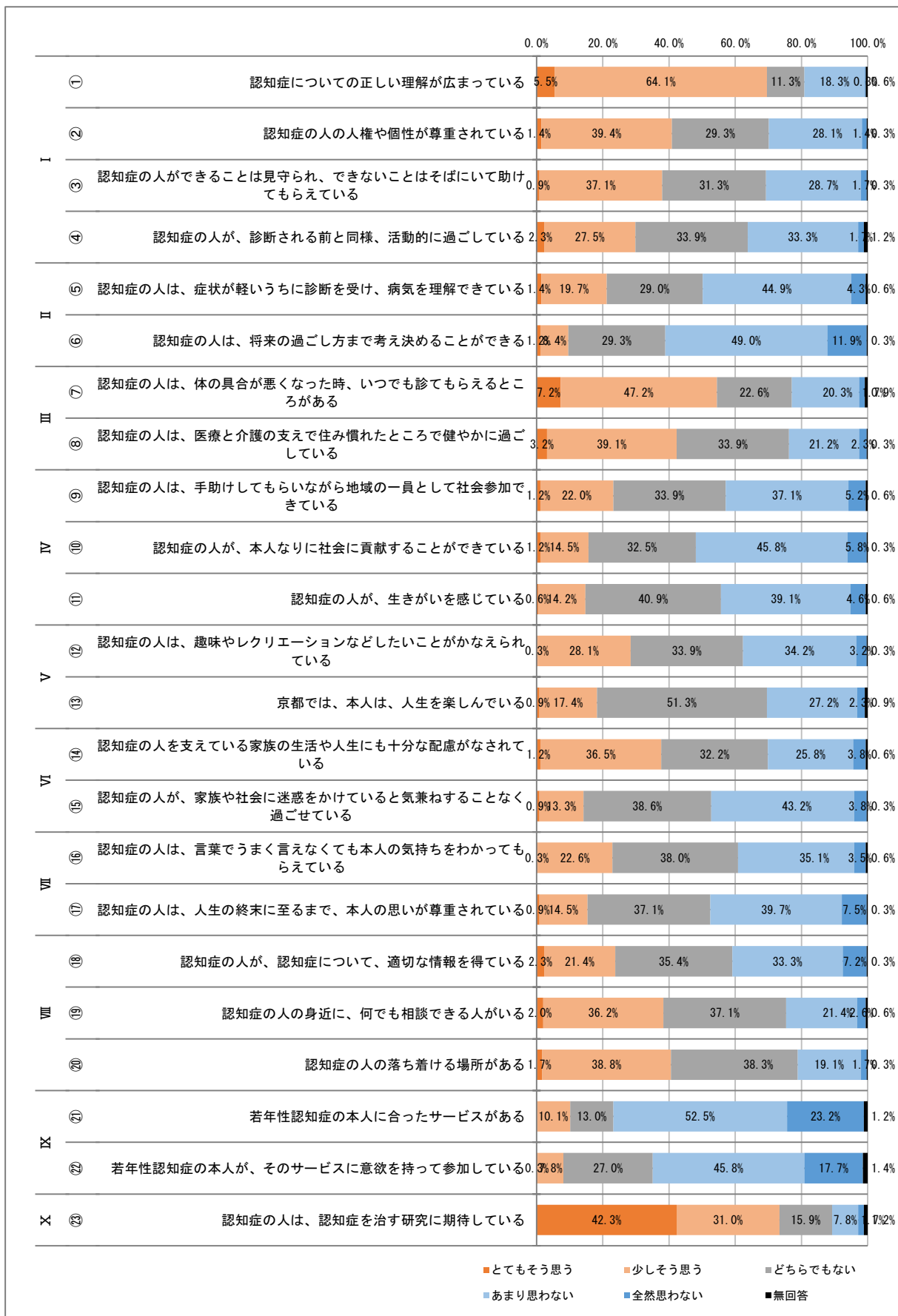
	さるが娘さんいわく「デイが楽しいのは自分は人より優れている、元気と思えるから。優越感を持てるからなんです」との事。プライドが高いので、本人の理想で回答して下さった部分があるかもしれません。		
60	認知症の進行とまた別に身体機能の低下から活動量が低下しているため「同様に活動的」の判断がつきませんでした。	加齢など認知症以外の要因によるできなさとの区別の難しさ	
61	代弁者「自分としては色々サポートが得られていることもあるが、本人がそもそも、自分はそこそこ出来ていると思っているので年齢的なことで出来ない事を家族や周囲に助けてもらっていることは理解できても、その先の家族が支援をうけているとは感じていないかも、分かりません」とのこと。		
62	加齢に伴う身体能力の低下で世話をかけ気兼ねすると理解されている。加齢からくる社会参加のしづらさも加わるため、“認知症”と分けて考えにくく、判断に困りました。		
63	認知症は軽度であると思うが、判断能力の低下は知的障害と経験不足が関係していると思う。自由に生活しているが独居のため常に助言者が居れば在宅で生活可能だが、病気も有り在宅生活は困難になっている。		
64	認知症の進行は強いと感じました。全ての項目に対し自分なりの発言はありましたが内容の理解は難しく、回答内容も的を得ていませんでした。	認知機能低下による理解困難	
65	質問の意味が充分理解できず家族への調査の様になってしまった。		
66	例文を用いての問い掛けに対しても返答に悩む事が多く家族の代弁者によるところが多かった。		
67	本人からの聞き取りは、大変難しかった。質問をわかりやすく説明し、本人の言葉を引き出すのは苦労した。		
68	認知症の段階は進んでいる方のため、的確な答えではない。		
69	ご本人は認知症の状態的に1人で回答されることは不可能だが、ご主人が非常に丁寧に一つ一つの質問について考えをまとめて下さっており、調査はスムーズだった。		
70	評価項目を理解していただくのが難しかった。		
71	代弁者でも質問の意図をくむことは難しいと感じました。	質問内容の意味を正しく伝えることの難しさ	
72	言い替えや具体的な内容に質問を言い替えて行いましたが、本来の質問内容とズレが生じていないか不安になりました。		
73	全体的に“そう思う”答える事が多く、質問についてわからない意味等かみくだいたり代弁者が（例えば）〇〇とか言うとその代弁者の例と同じような返答が返ってきたりする事があった。		
74	全体的に聴き取り方が難しいです。DISC18の状況から考えると“そう思う”と言える事が少ないと思うが評価が出来にくい（認知症の症状からして）合っているのかどうか。		
75	質問の言葉が漠然としていて、わかりやすく説明するのに困った。		
76	DASC18についてはグループホームに入居された後の調査であったため、判断が難しい設問があった。		
77	調子の良い時期とのことで驚くほど円滑に調査する事ができた。調子の悪い時は「お母さん！お母さん！」と大きな声で娘を母親と思い込み探し求める他、ADLの低下により全介助状態の時期が1～数ヶ月続く。ここ数年、良い時期を悪い時期を数ヶ月毎の波を繰り返している。	回答のタイミングや場面の設定	調査の工夫や調査に関する留意点
78	話しやすい雰囲気づくりのために、認定調査の続きでケアマネジャー同席の形をとった。		
79	質問項目は難しいものであったが、わかりやすく話すことで何とかある程度回答してもらうことはできた。		

80	少しボンヤリしている感じで、いつもの会話もしっかり理解しているか、わからない部分あり。調査の項目、ひとつひとつに戸惑う感じだったが、息子さんより「考えすぎると難しいから直感的に答えてみな」と助言あり。なんとか一通り答える。	代弁者の促しなど 返事を引き出す方法
81	本人が短気の性格もありこちらの質問に対して怒った口調で答える。妻が「もっとまじめに考えて答えないと」と言われると何とか自身の考えを言われた。	
82	事前に自宅で調査票記入されており、内容の確認に時間を費やすことができた。	
83	本人はとても幸せな生い立ちをしており、人に対する信頼があるので認知症になっても幸福に生活しておられると感じた。又、妻も本人の認知症を地域に公表して一斉掃除などの行事には本人が一人で出ても協力が得られており本人の疎外感が少ないと感じた。	もともとの 本人の人生や性格、 人間関係へのスタンス
84	回答者が質問されて答える事が好きな方であったためスムーズに行う事ができた。	
85	ご本人は、もうこの年まで元気に来られたので、この先の事はあまり深く考えておられないように感じました。	
86	人生の中で PTA 役員や民生委員を長年つとめてきたというのが本人の自慢になっており、調査についても説明をするとしっかりと自分の思いを答えて下さる。若干、質問をかみ砕いて伝える必要はあったが的外れな答えはほとんどなかった。	
87	診断前からかわり、家族への様々な説得、混乱、パニックを起こしたご本人の対応を長年支援してきた振り返りにもなりしつかりしたご自身の思いの返答に心こみ上げてくるものがありました。	
88	調査を通じて色々なお話をお聞きすることになったのですが、同じ認知症の方でも性格や年齢からくる受け止め方の違いがあるのかなと思いました。	
89	夫の支えがあること、本人が従順であることで、日常支障なし、不満もない。認知症ながらうまく暮らせるタイプ	
90	当方居宅の為認知症の方は半数以上であるが、主旨を考慮しての対象者を選んだ。	対象者選択のバイアス
91	家族さんが大変協力的で本人の介護も援助者に相談して下さり、本人の出来る事、困難な事の区別をされ適切な介護をされている。	
92	質問に関して代弁者（娘）の顔色を見て話される。代弁者と同席の時は依存性が高くデイサービス等では「より自由」行動している。本人と代弁者は共依存の関係があり、代弁者は本人を必要以上に保護する事で代弁者の存在意義を再確認していると思われる。	代弁者が 同席することの課題
93	調査時、妻と娘が同席していたが、本人の思いを話していただいたかったので（妻が側にいると妻のことについて多く語られるため）本人のみ別の部屋で調査を行った。	

3. 家族調査の回答結果



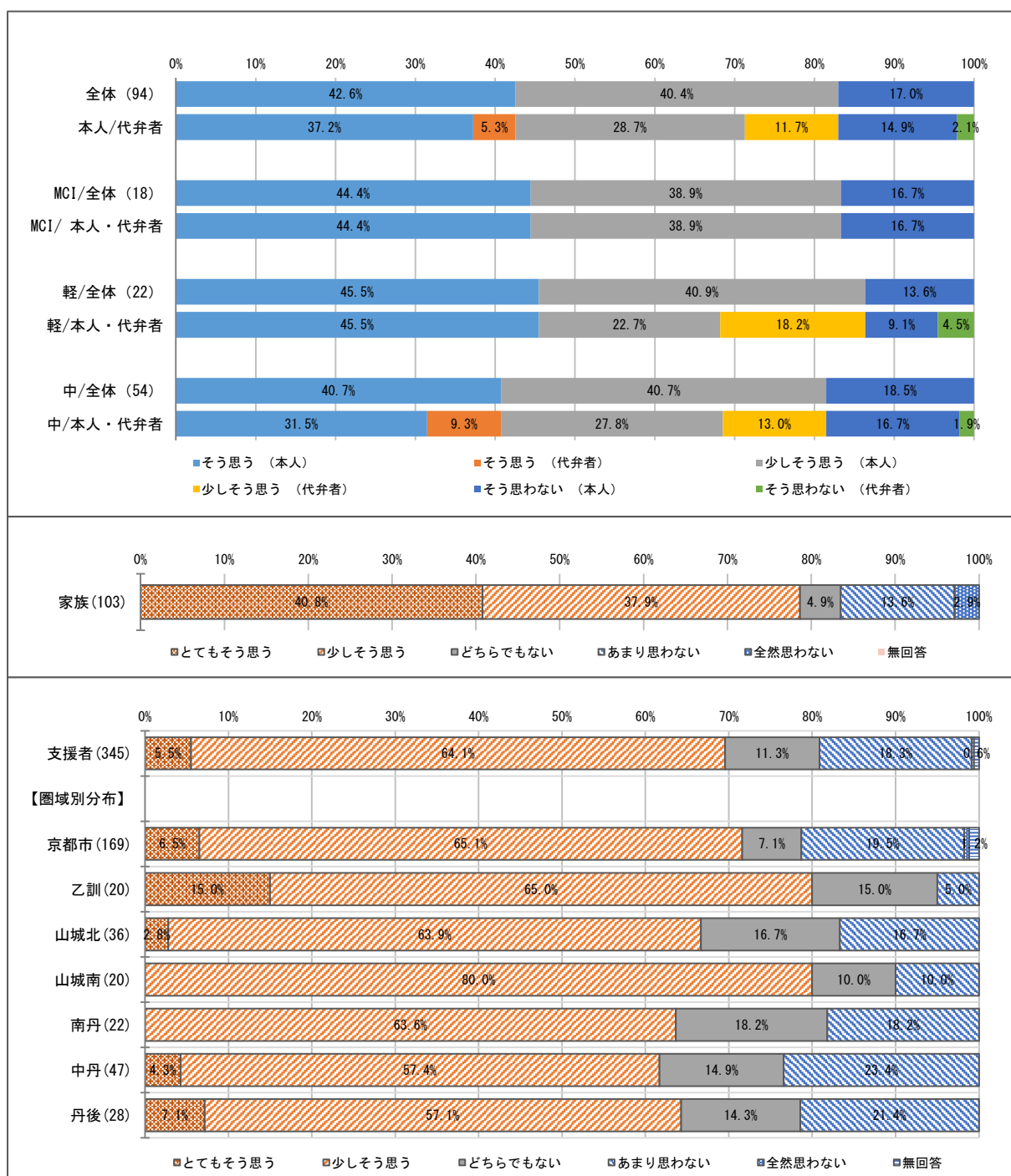
4. 支援者調査の回答結果



Ⅳ. 評価対象者（評価主体）別の回答結果の比較

<評価項目①>

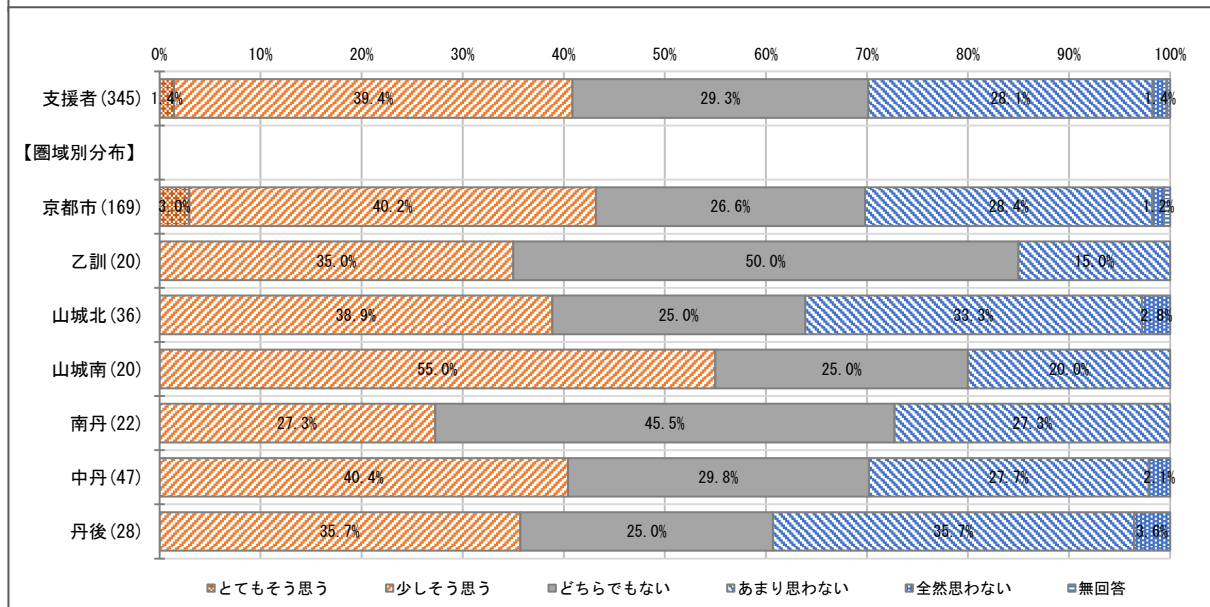
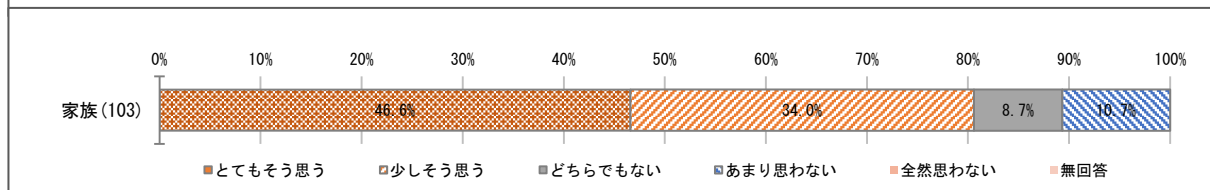
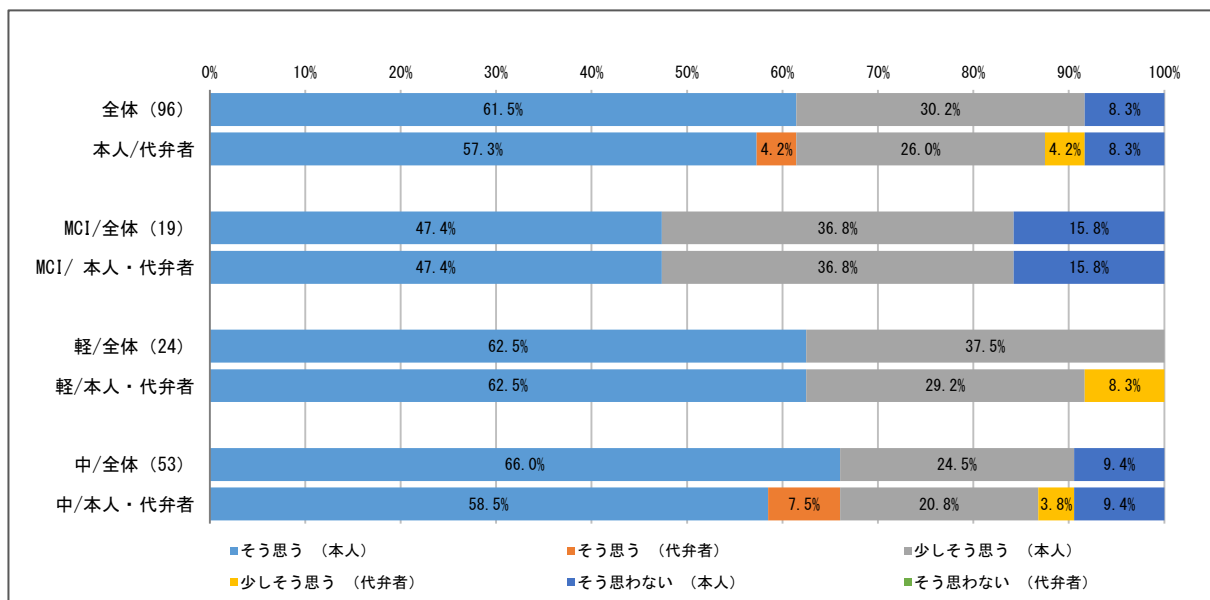
本人調査	周りのすべての人が、認知症を正しく理解してくれている
家族調査	本人の周りの人は、認知症を正しく理解している
支援者調査	認知症についての正しい理解が広まっている



※「本人」結果は、回答者（「本人」と「代弁者」）を区別しているため、「回答できない」は含まない。そのため、p.9のグラフで示す結果とは一致しない場合がある。以下、p.47まで同様。

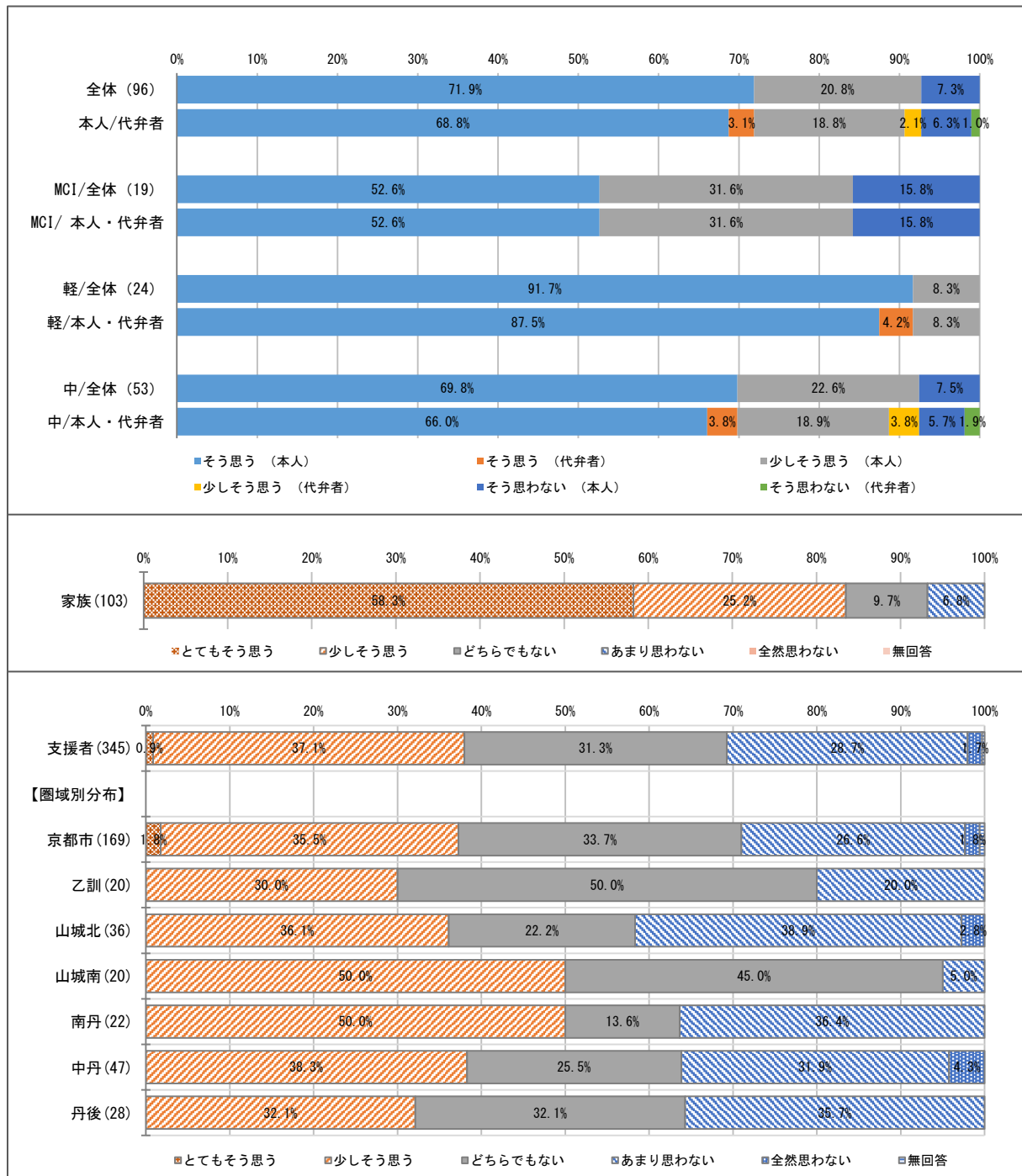
<評価項目②>

本人調査	周りの人は、私らしさや私のしたいことをいつも気にかけてくれている
家族調査	本人の周りの人は、本人の人権や個性を尊重している
支援者調査	認知症の人の人権や個性が尊重されている



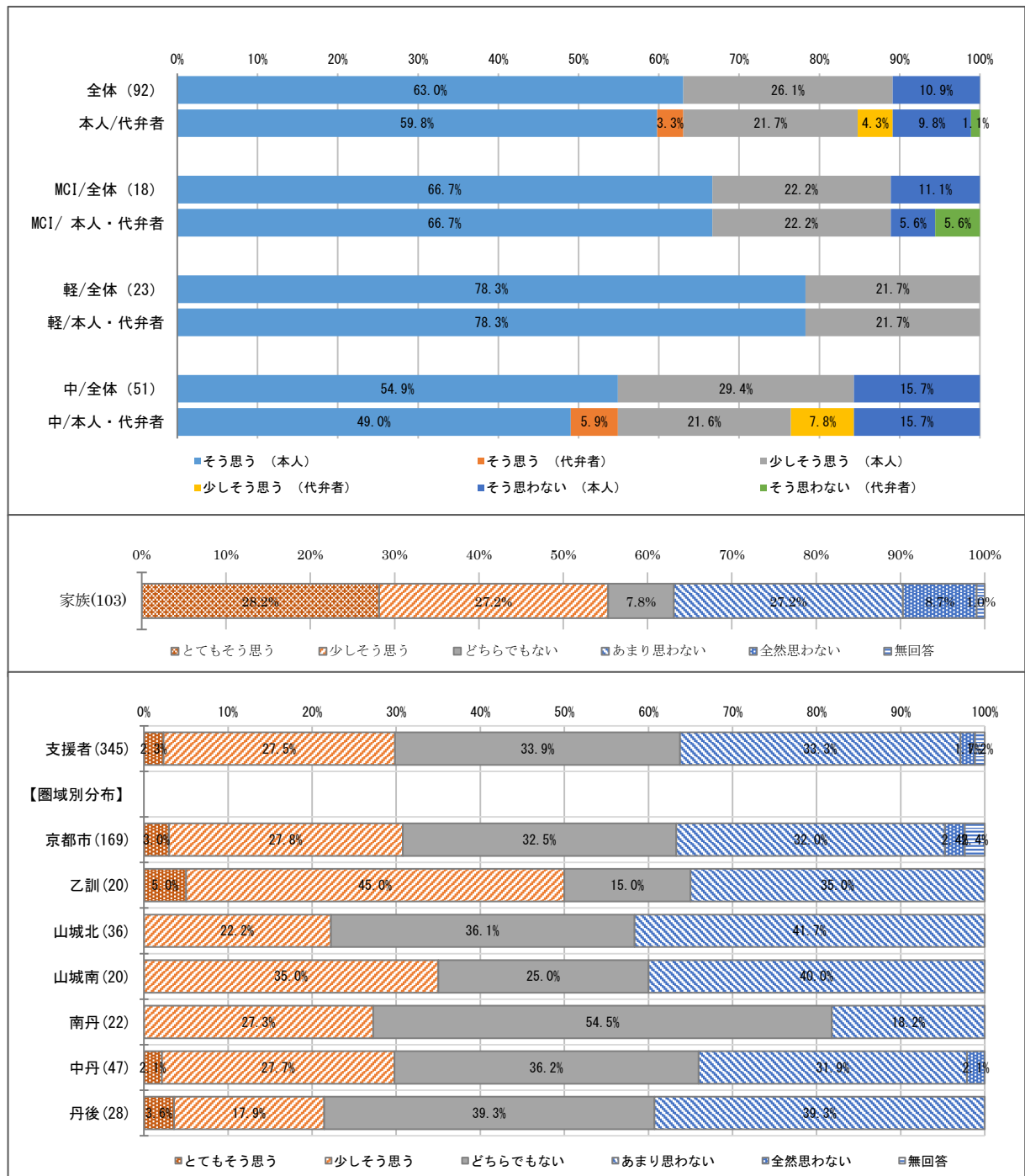
<評価項目③>

本人調査	周りの人は、私ができることは見守り、できないことはそばにいて助けてくれている
家族調査	本人の周りの人は、本人ができることは見守り、できないことはそばにいて助けてくれる
支援者調査	認知症の人ができることは見守られ、できないことはそばにいて助けてもらっている



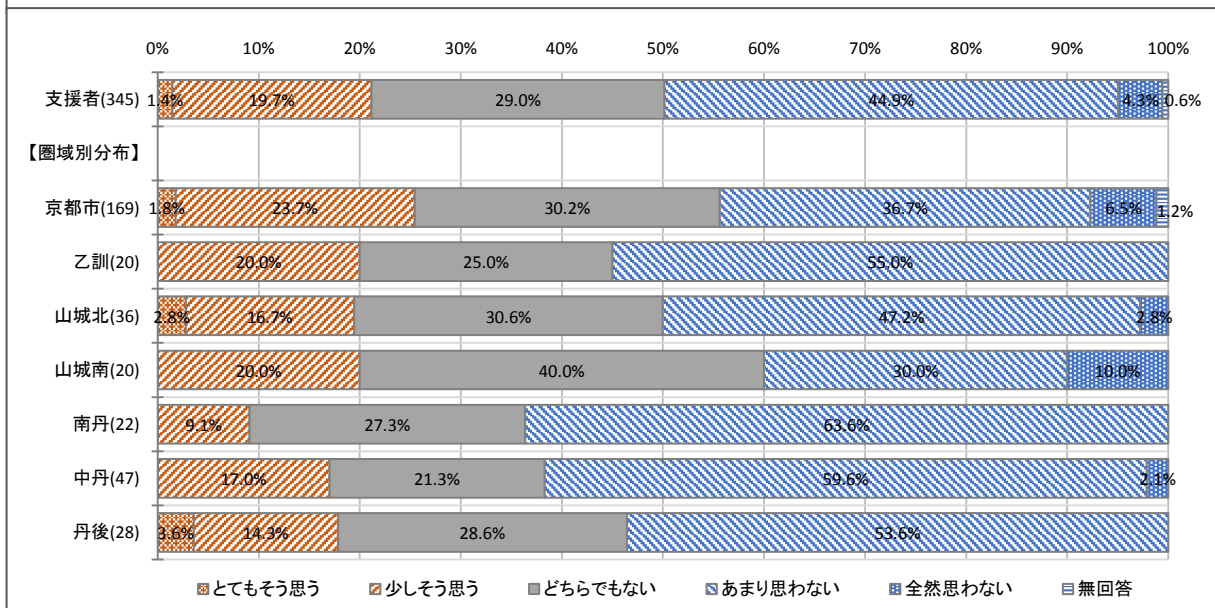
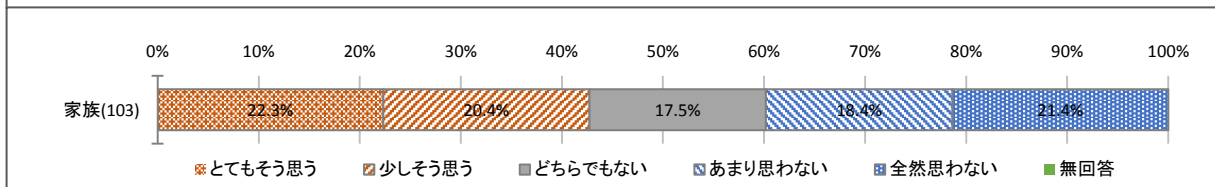
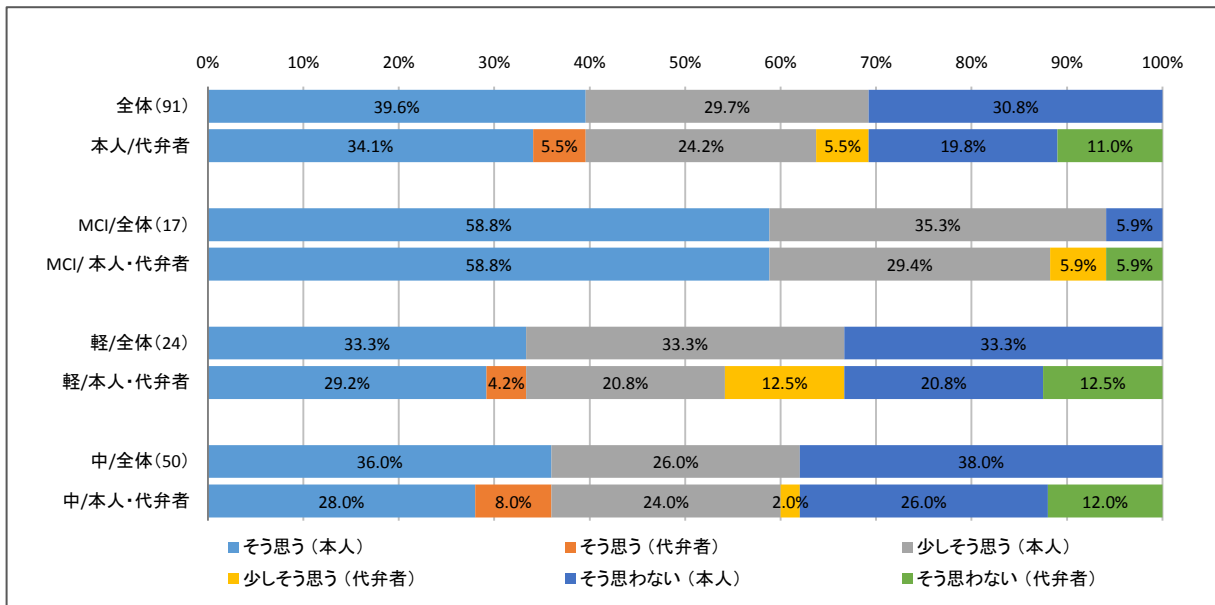
<評価項目④>

本人調査	私は、診断される前と同様、活動的にすごしている
家族調査	本人は、診断される前と同様、活動的にすごしている
支援者調査	認知症の人が、診断される前と同様、活動的に過ごしている



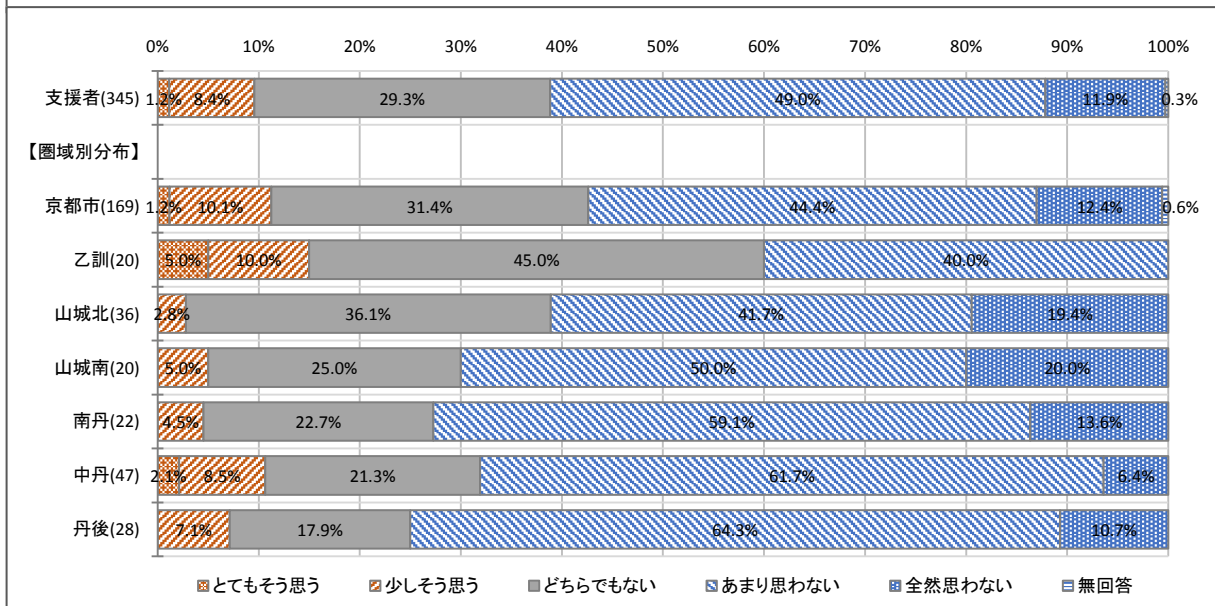
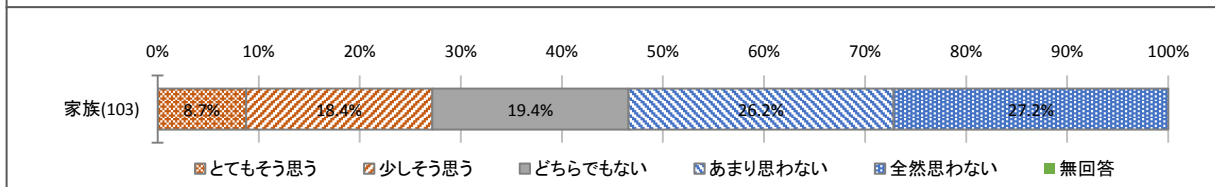
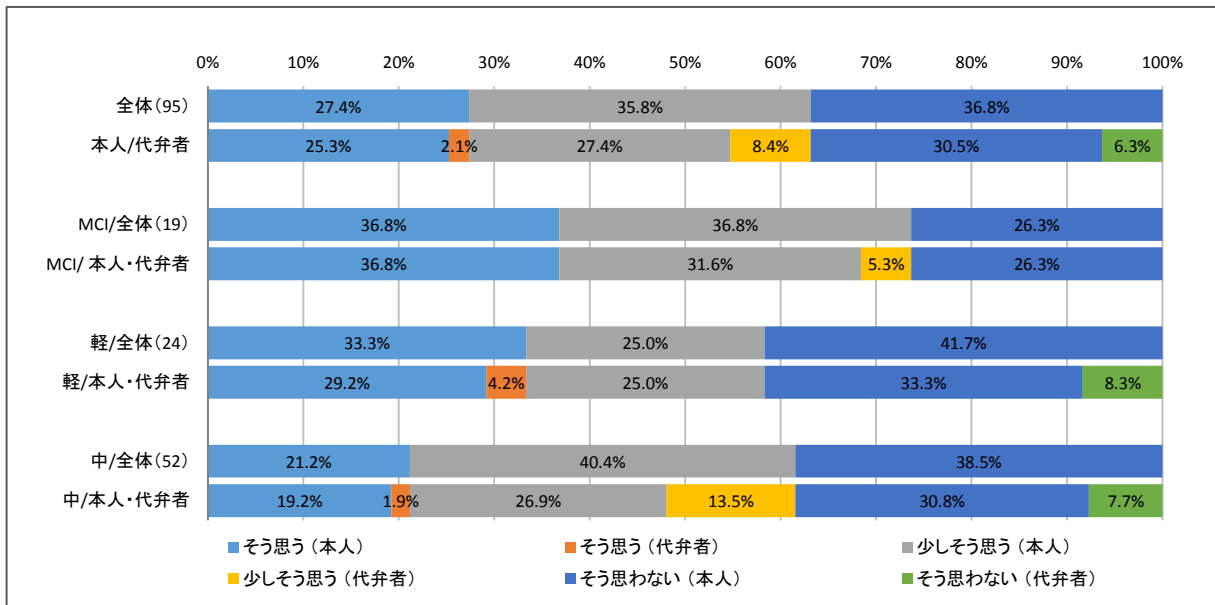
<評価項目⑤>

本人調査	私は、軽いうちに診断を受け、病気を理解できた
家族調査	本人は、症状が軽いうちに診断を受け、病気を理解できた
支援者調査	認知症の人は、症状が軽いうちに診断を受け、病気を理解できている



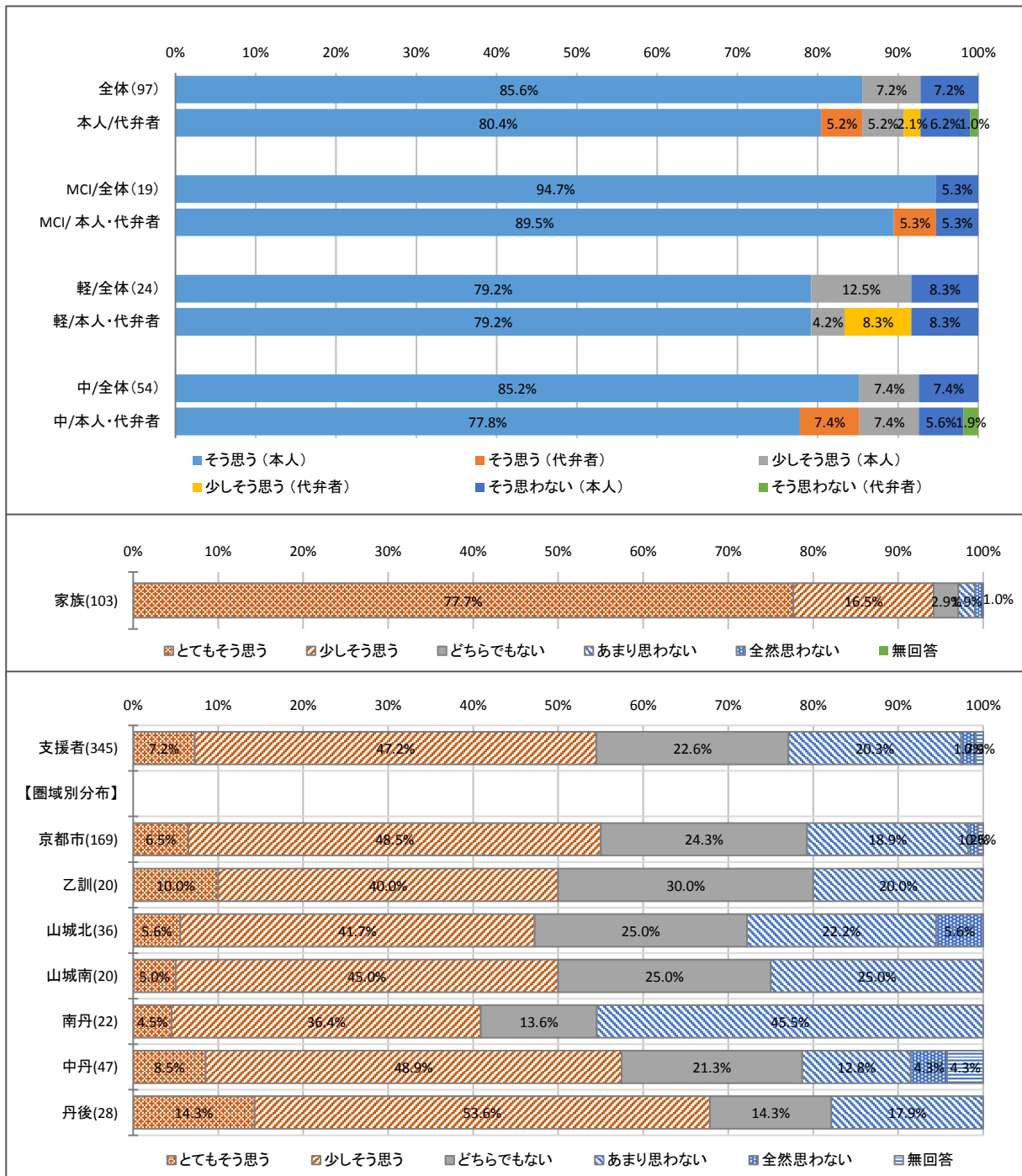
<評価項目⑥>

本人調査	私は、将来の過ごし方まで考え決めることができた
家族調査	本人は、将来の過ごし方まで考え決めることができた
支援者調査	認知症の人は、将来の過ごし方まで考え決めることができる



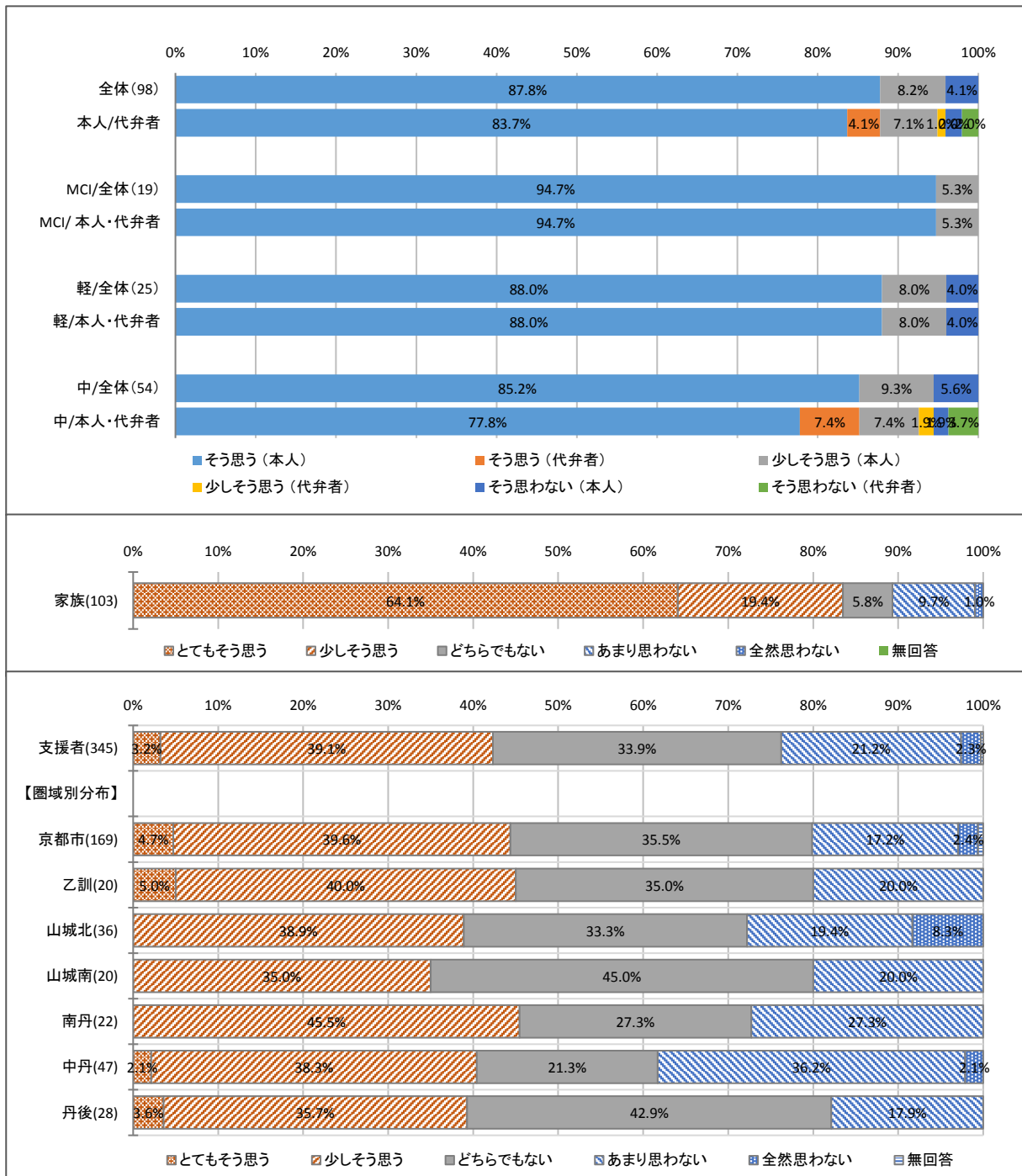
<評価項目⑦>

本人調査	私は、身体の具合が悪くなったらいつでも診てもらえる
家族調査	本人は、身体の具合が悪くなった時、いつでも診てもらえるところがある
支援者調査	認知症の人は、体の具合が悪くなった時、いつでも診てもらえるところがある



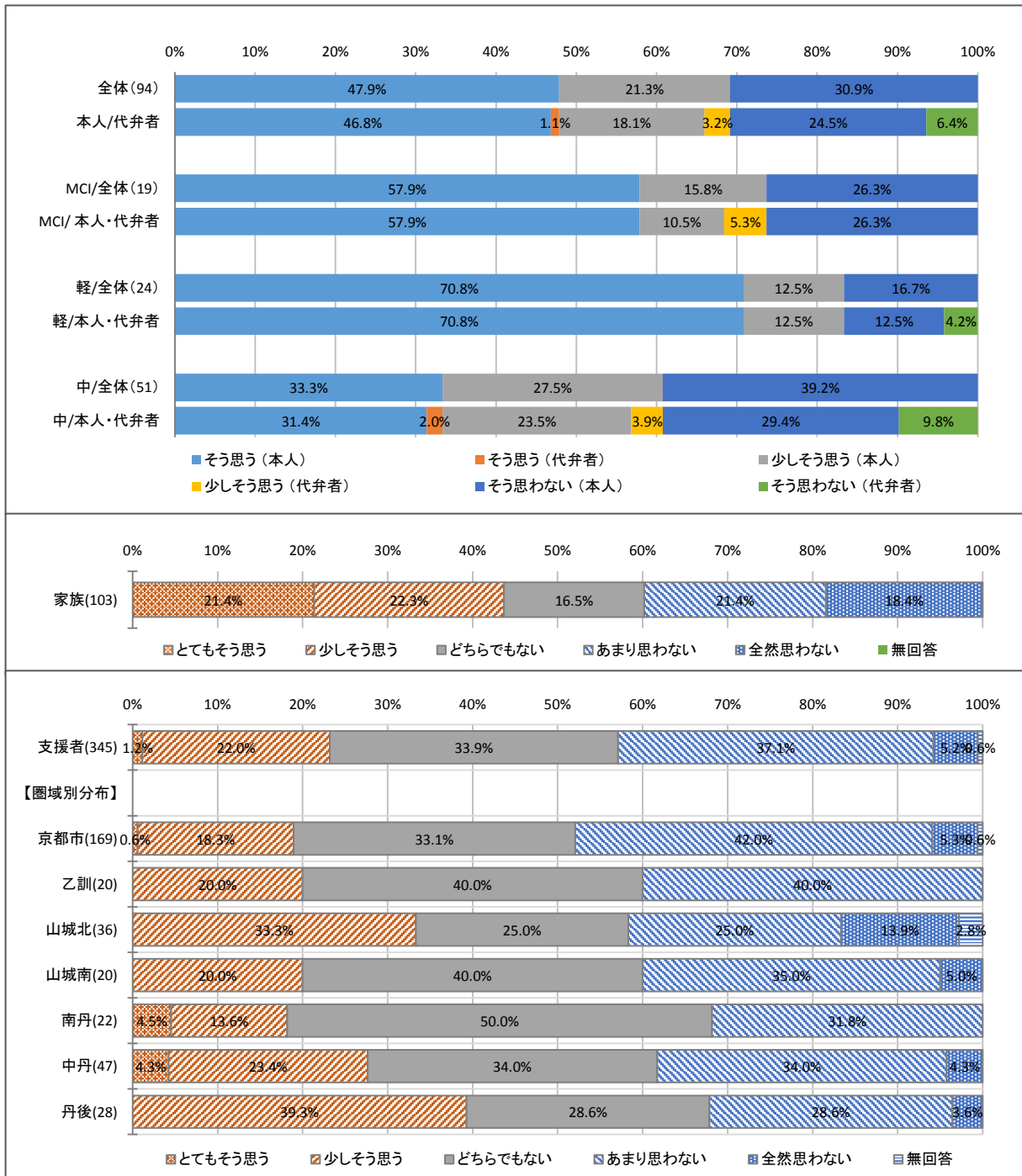
<評価項目⑧>

本人調査	私は、医療と介護の支えで住み慣れたところで健やかにすごしている
家族調査	本人は、医療と介護の支えで住み慣れたところで健やかにすごしている
支援者調査	認知症の人は、医療と介護の支えで住み慣れたところで健やかに過ごしている



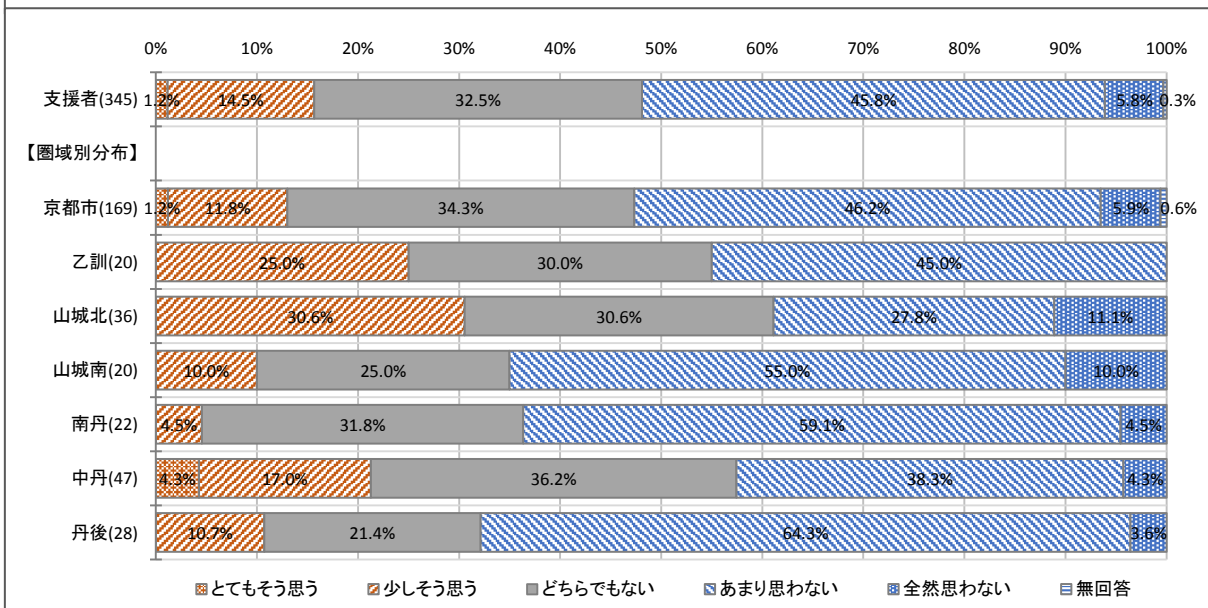
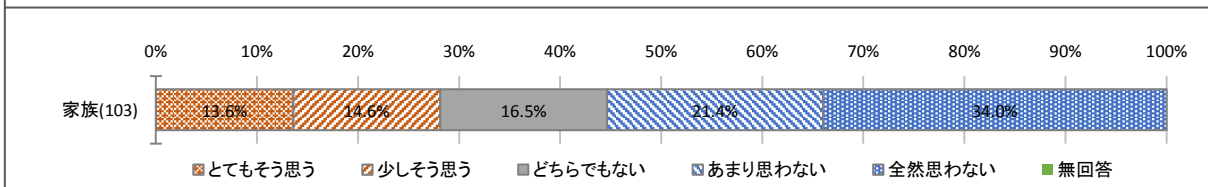
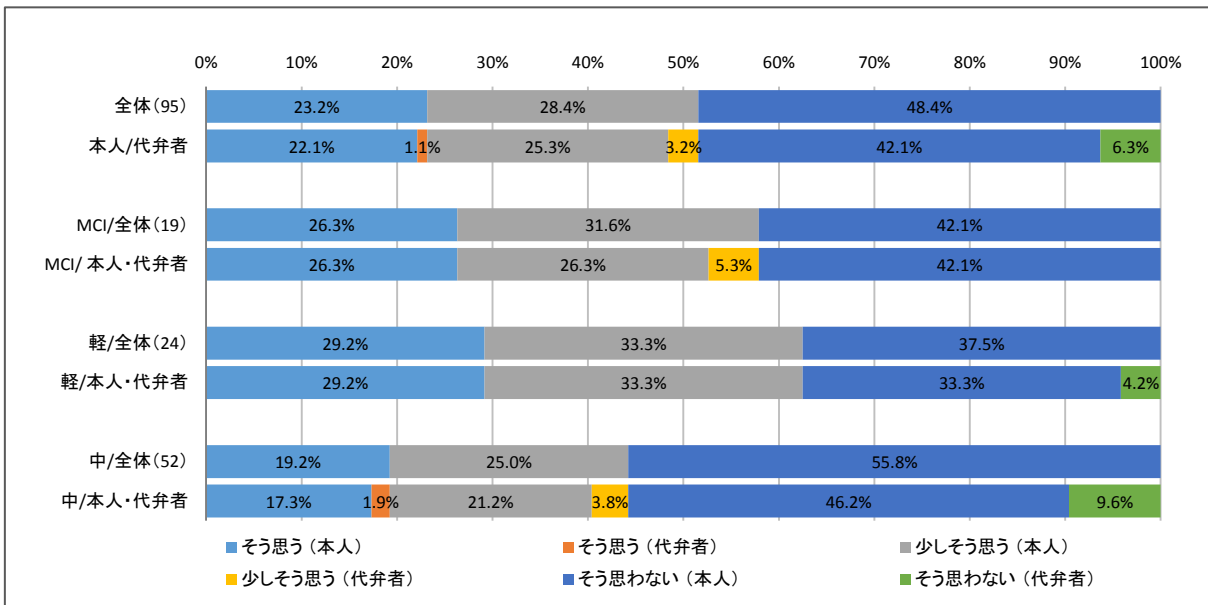
<評価項目⑨>

本人調査	私は、手助けしてもらいながら地域の一員として社会参加できている
家族調査	本人は、手助けしてもらいながら地域の一員として社会参加できている
支援者調査	認知症の人は、手助けしてもらいながら地域の一員として社会参加できている



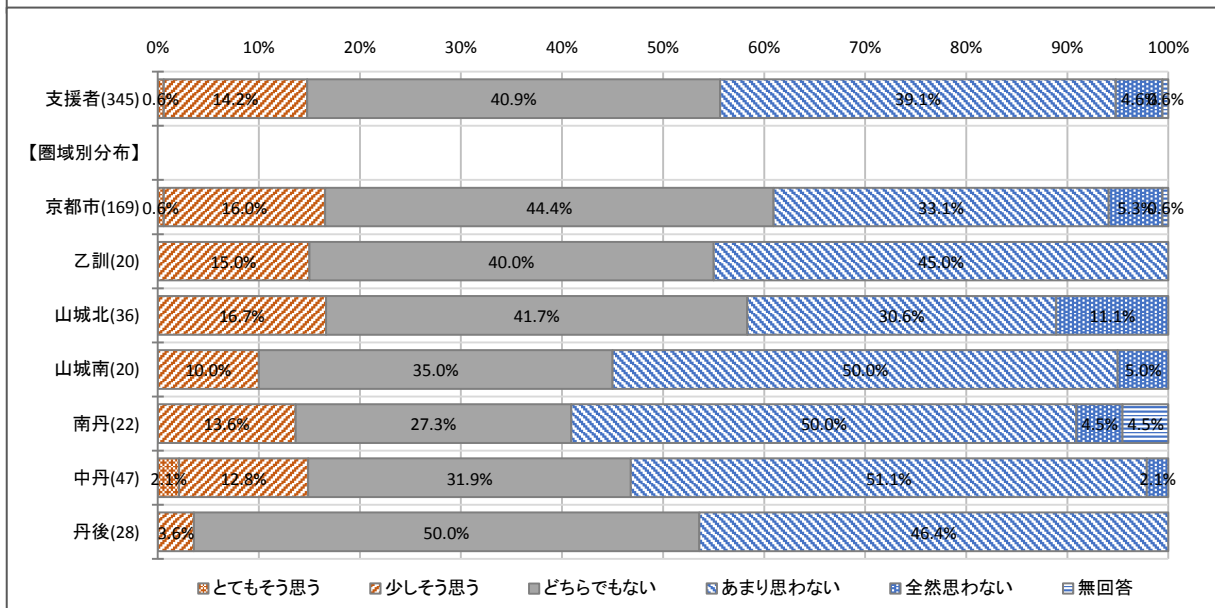
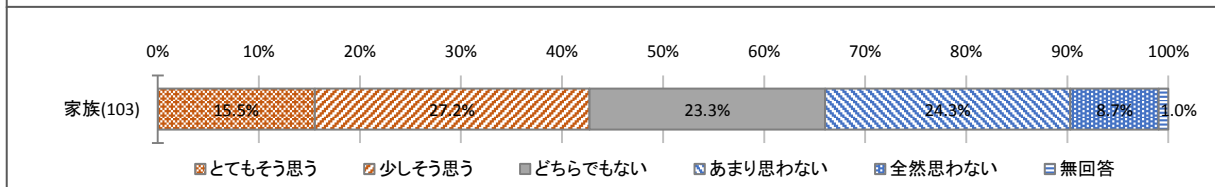
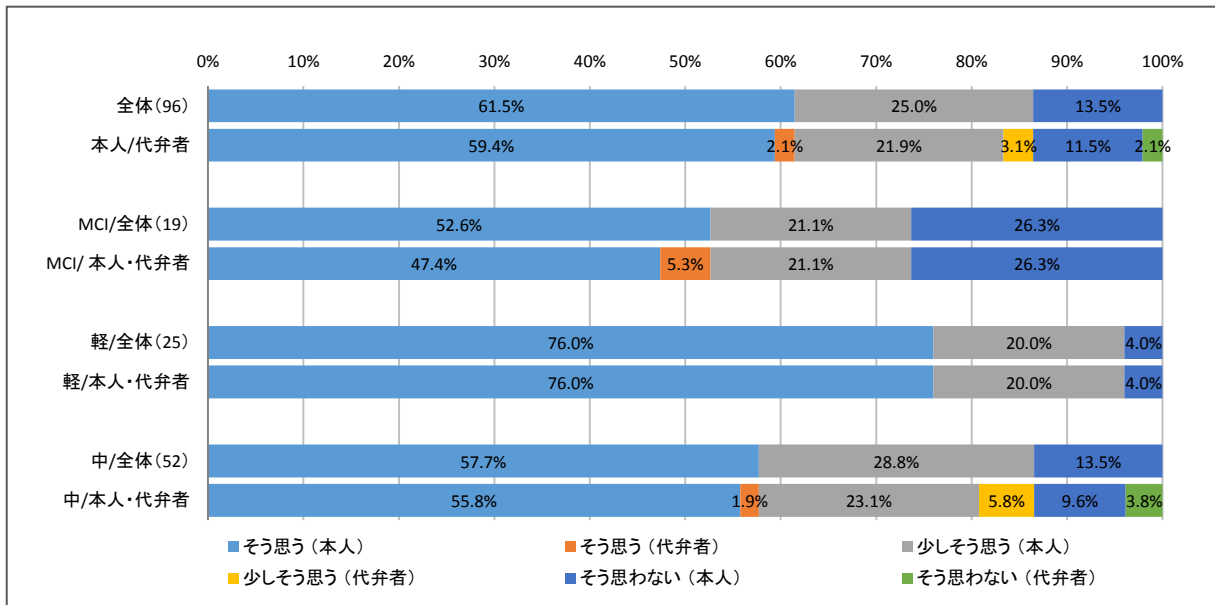
<評価項目⑩>

本人調査	私は、私なりに社会に貢献することができている
家族調査	本人なりに社会に貢献することができている
支援者調査	認知症の人が、本人なりに社会に貢献することができている



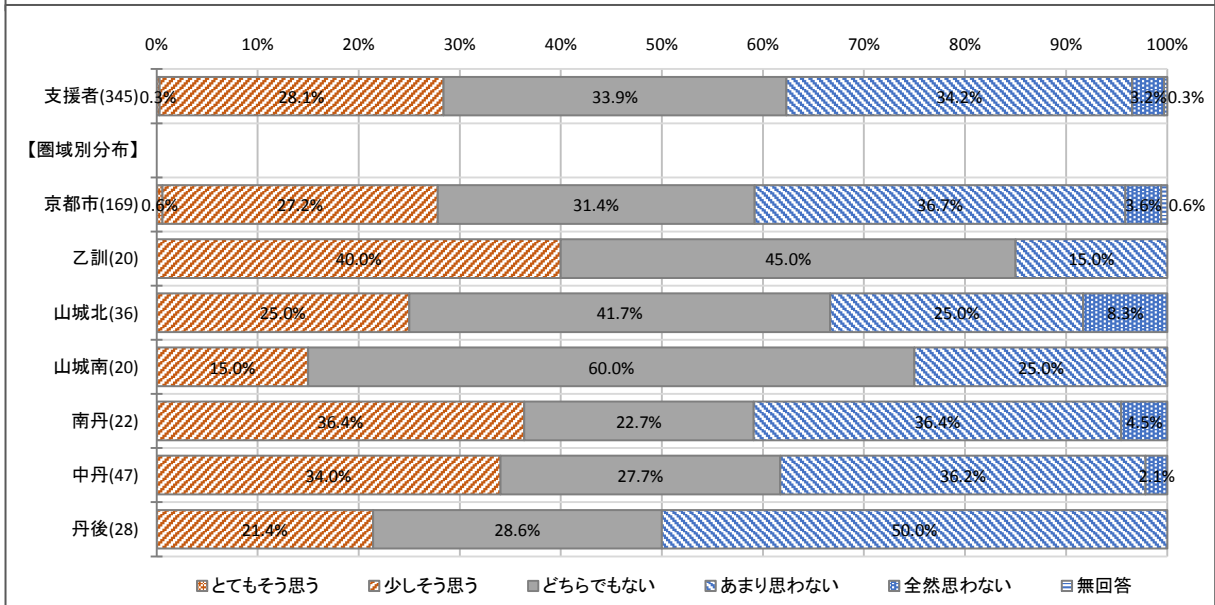
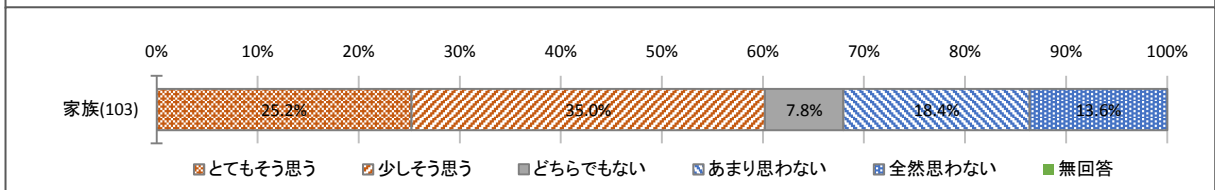
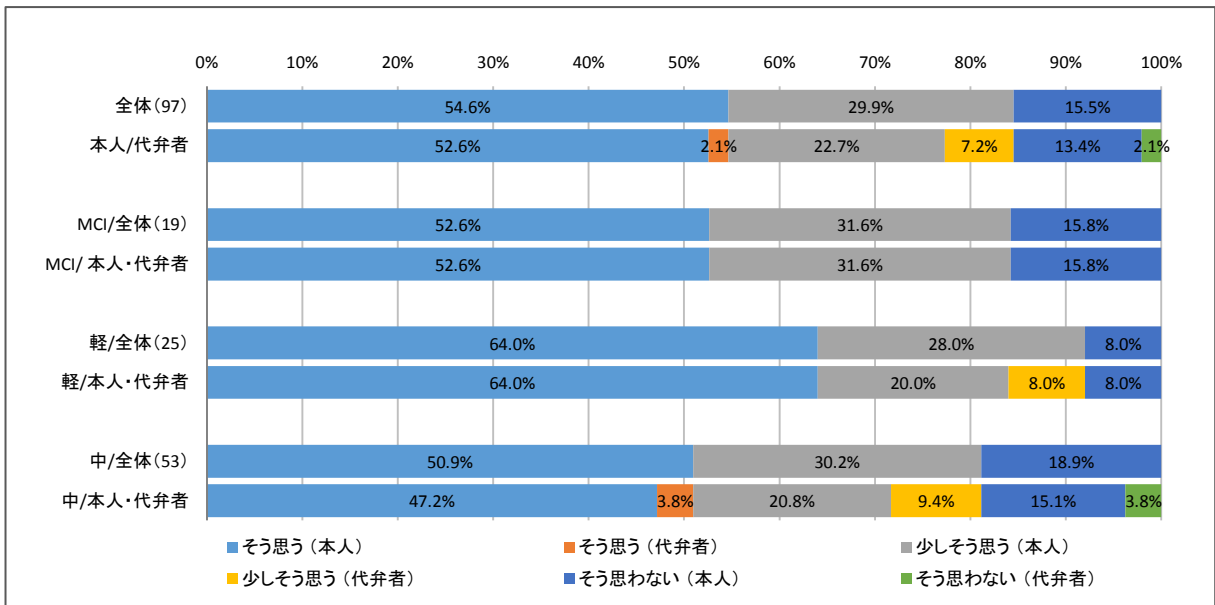
<評価項目⑩>

本人調査	私は、生きがいを感じている
家族調査	本人は、生きがいを感じている
支援者調査	認知症の人が、生きがいを感じている



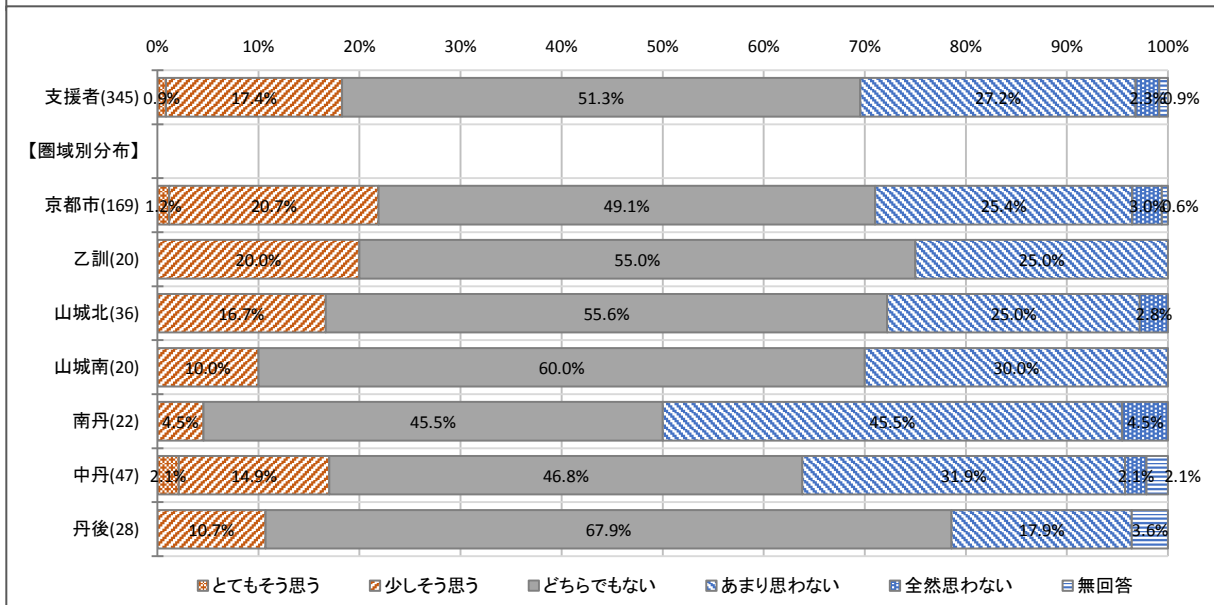
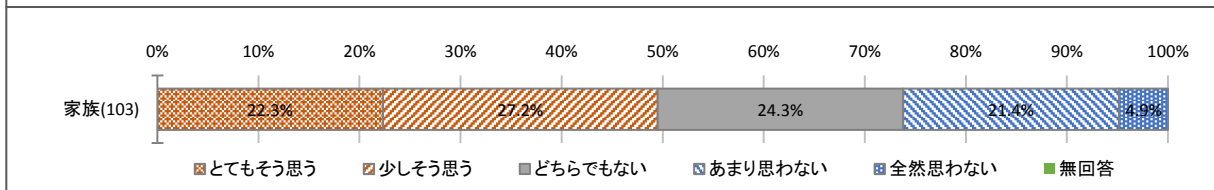
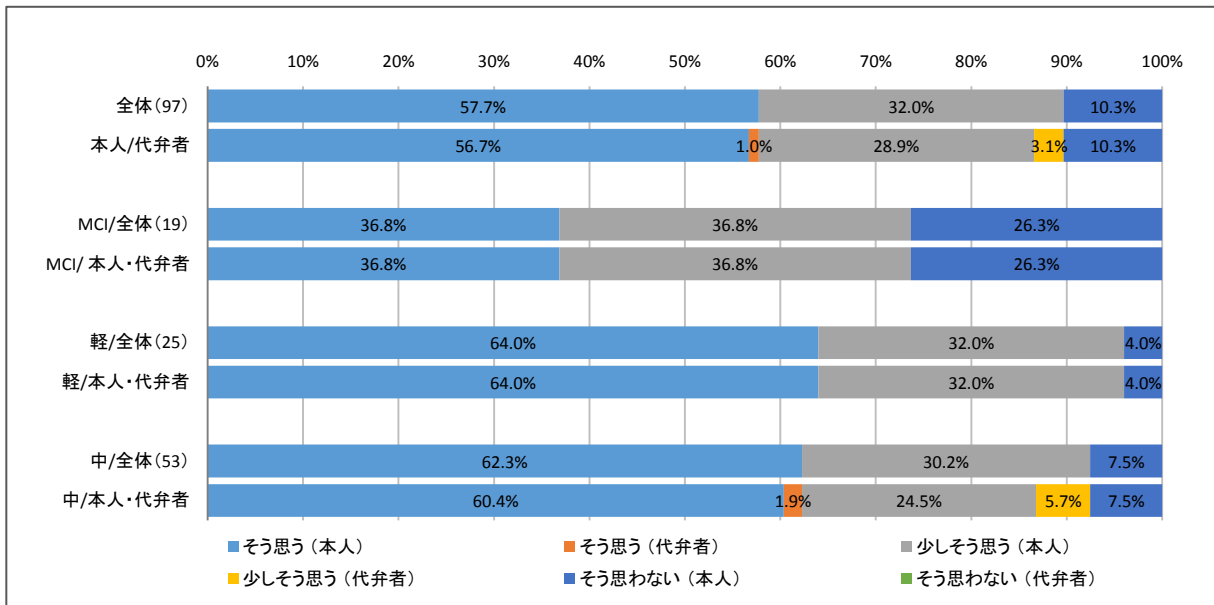
<評価項目⑫>

本人調査	私は、趣味やレクリエーションなどしたいことがかなえられている
家族調査	本人は、趣味やレクリエーションなどしたいことがかなえられている
支援者調査	認知症の人は、趣味やレクリエーションなどしたいことがかなえられている



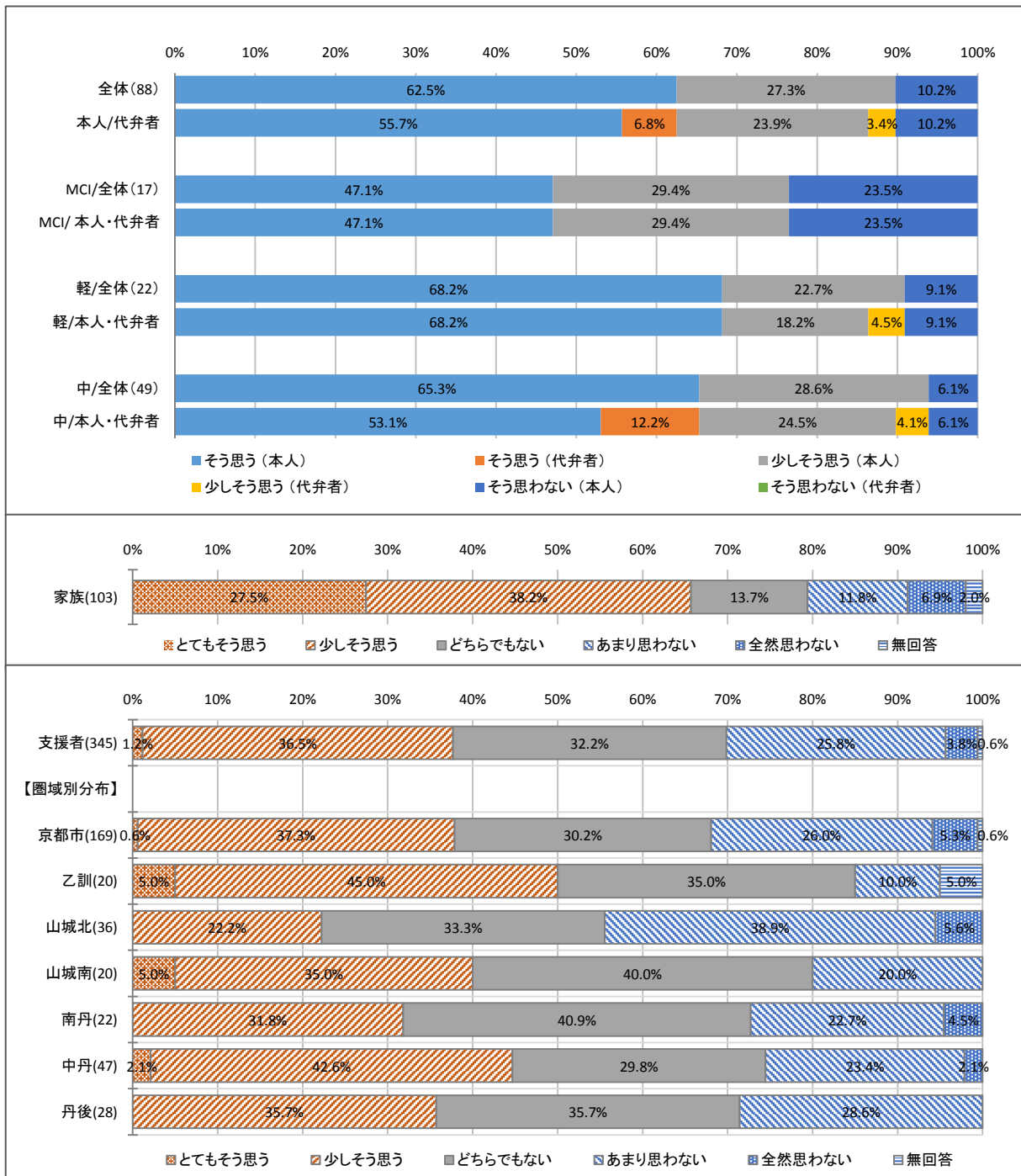
<評価項目⑬>

本人調査	私は、人生を楽しんでいる
家族調査	本人は、人生を楽しんでいる
支援者調査	京都では、本人は、人生を楽しんでいる



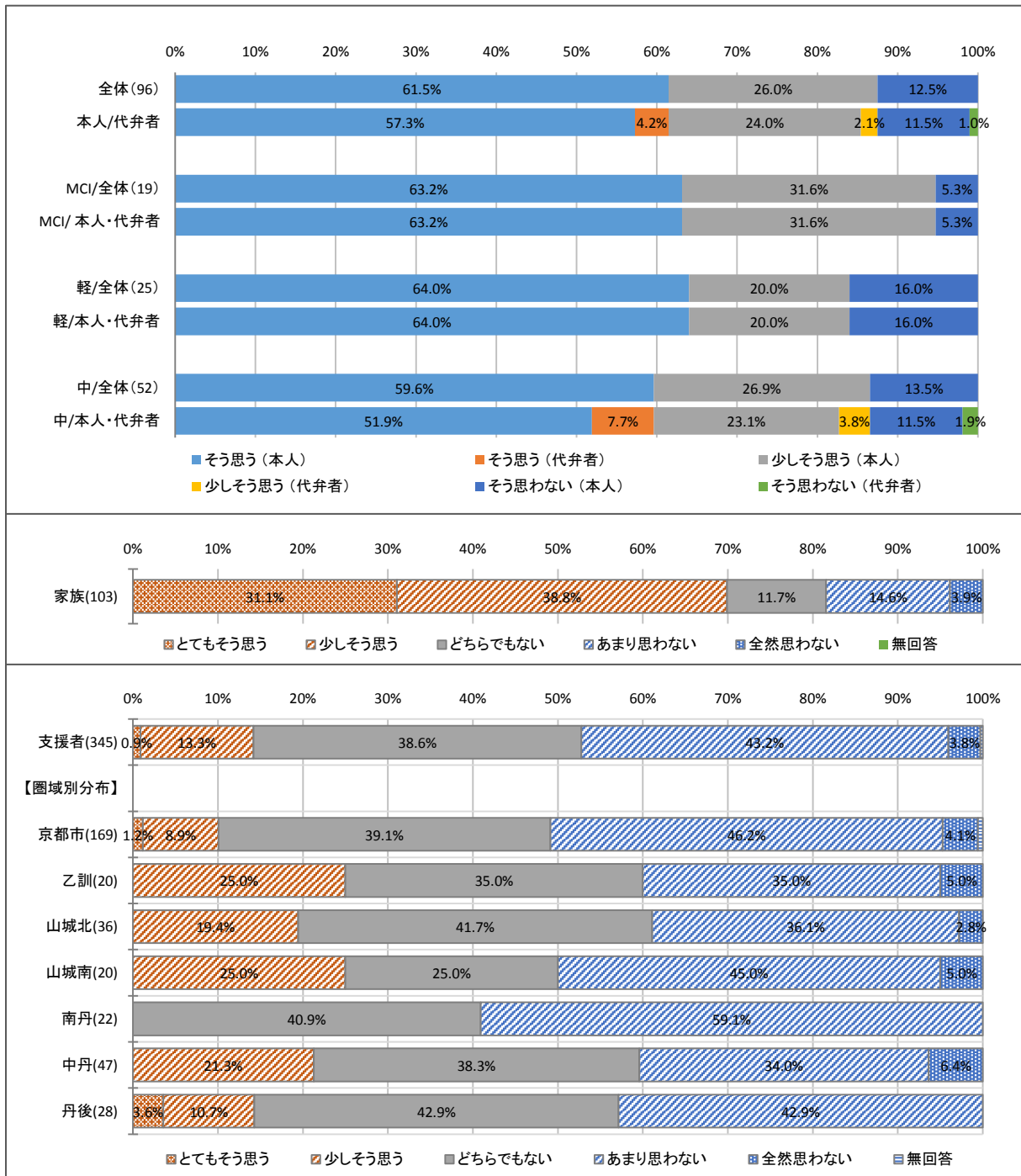
<評価項目⑭>

本人調査	私を支えてくれている家族の生活と人生にも十分な配慮がなされている
家族調査	本人を支えている家族（あなた）の生活と人生にも十分な配慮がなされている
支援者調査	認知症の人を支えている家族の生活や人生にも十分な配慮がなされている



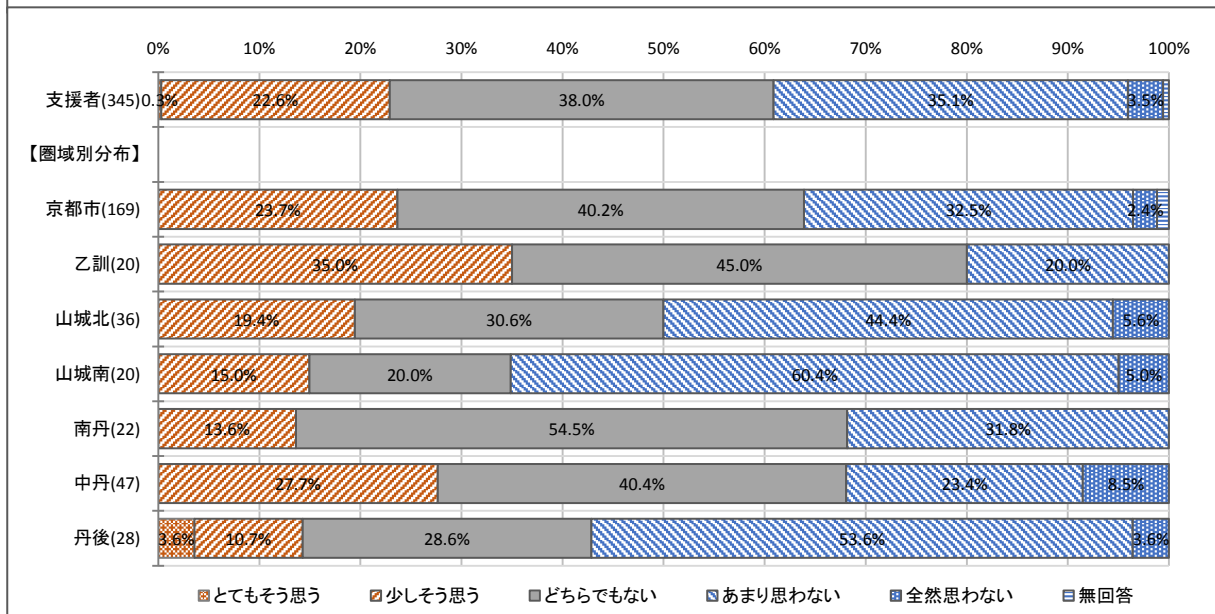
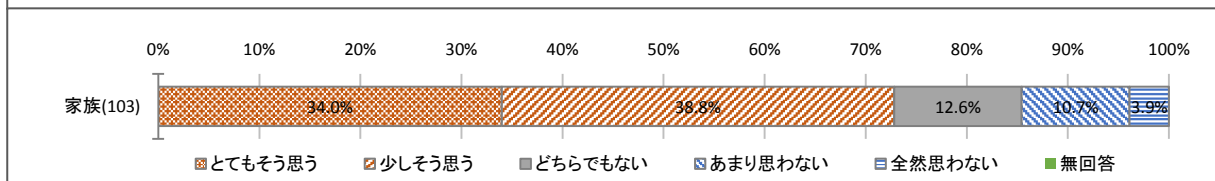
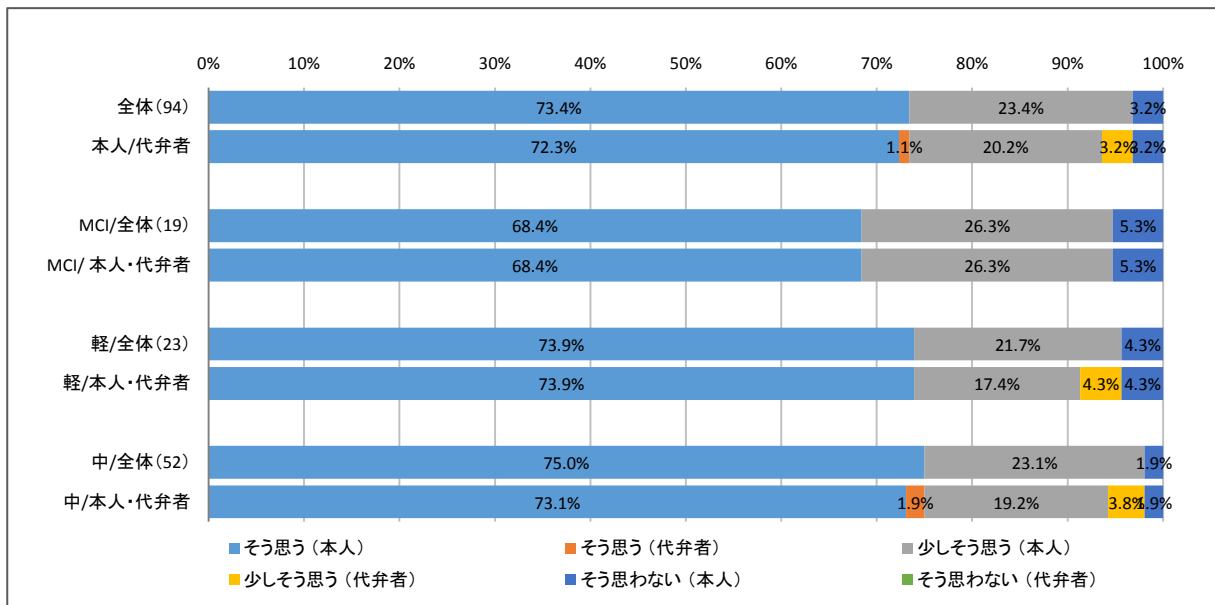
<評価項目⑮>

本人調査	私は、家族や社会に迷惑をかけていると気兼ねすることなくすごせている
家族調査	本人は、家族や社会に迷惑をかけていると気兼ねすることなくすごせている
支援者調査	認知症の人が、家族や社会に迷惑をかけていると気兼ねすることなく過ごせている



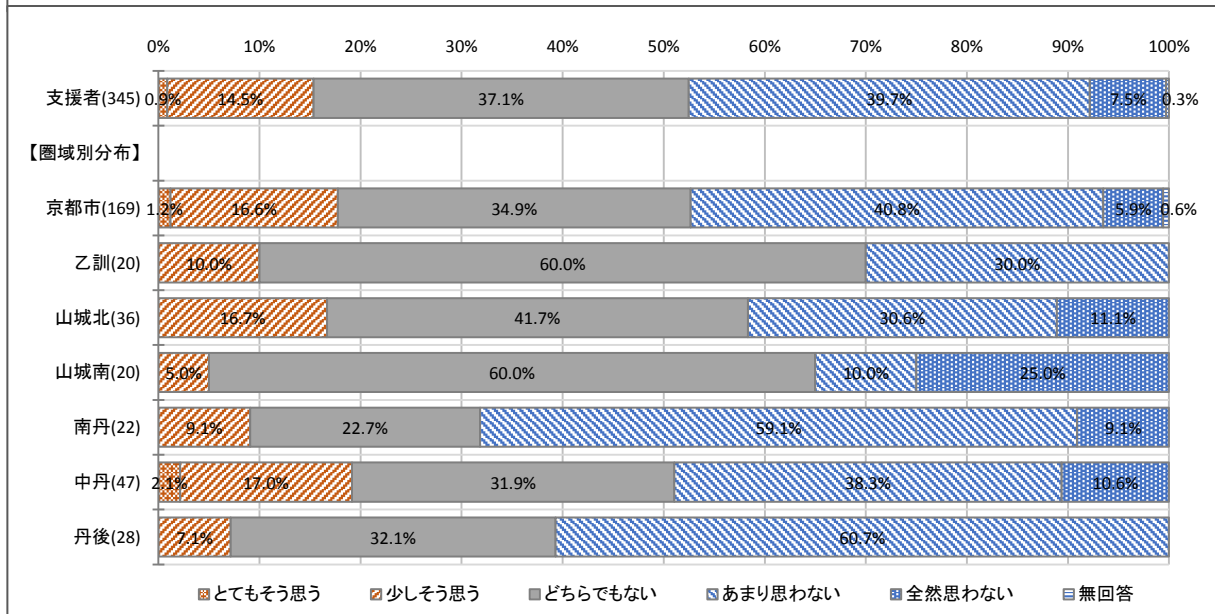
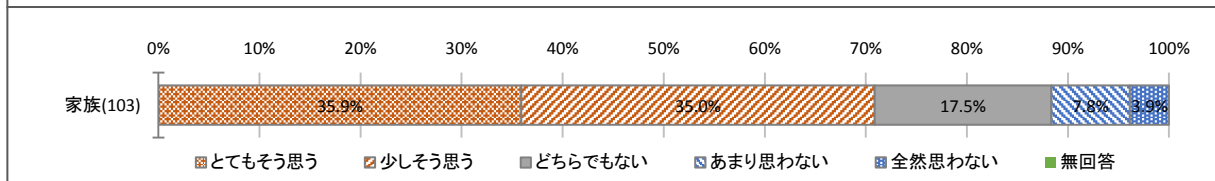
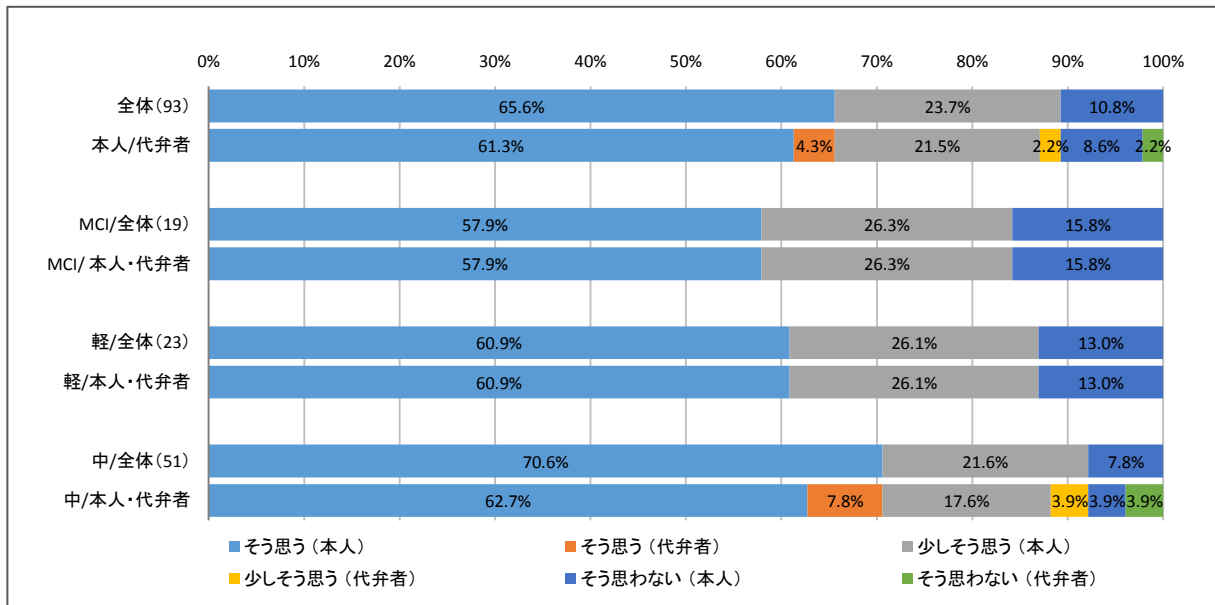
<評価項目⑩>

本人調査	私は、言葉でうまくいえなくても私の気持ちをわかってもらえている
家族調査	本人は、言葉でうまくいえなくても私の気持ちをわかってもらえている
支援者調査	認知症の人は、言葉でうまく言えなくても本人の気持ちをわかってもらえている



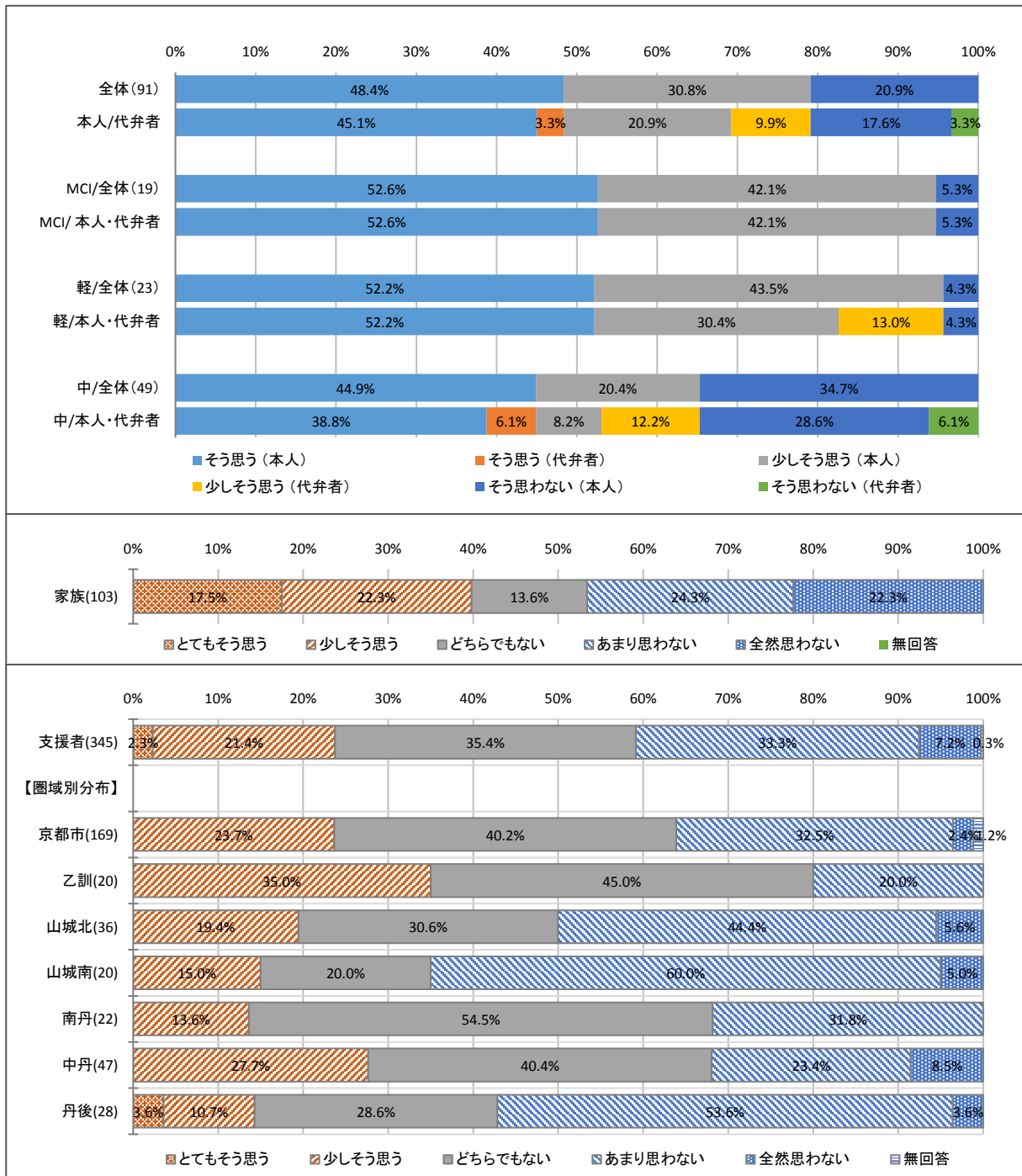
<評価項目⑩>

本人調査	人生の終末に至るまで、わたしの思いが尊重されると思う
家族調査	本人の思いが、人生の終末期に至るまで尊重されると思う
支援者調査	認知症の人は、人生の終末に至るまで、本人の思いが尊重されている



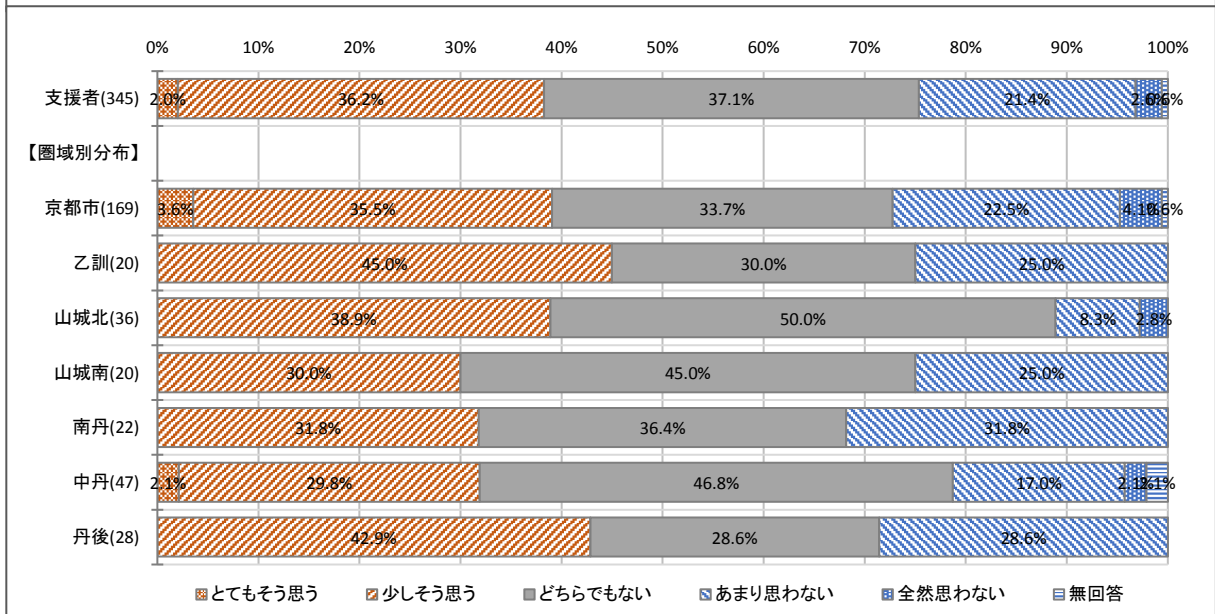
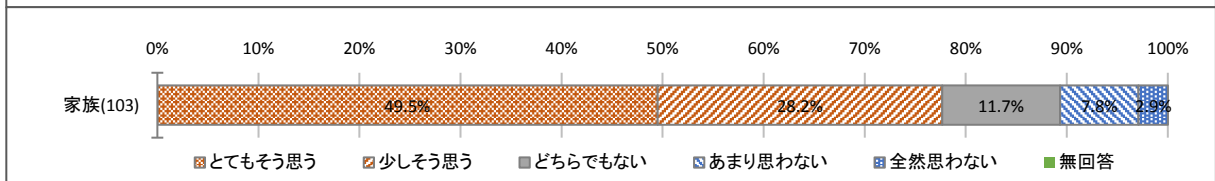
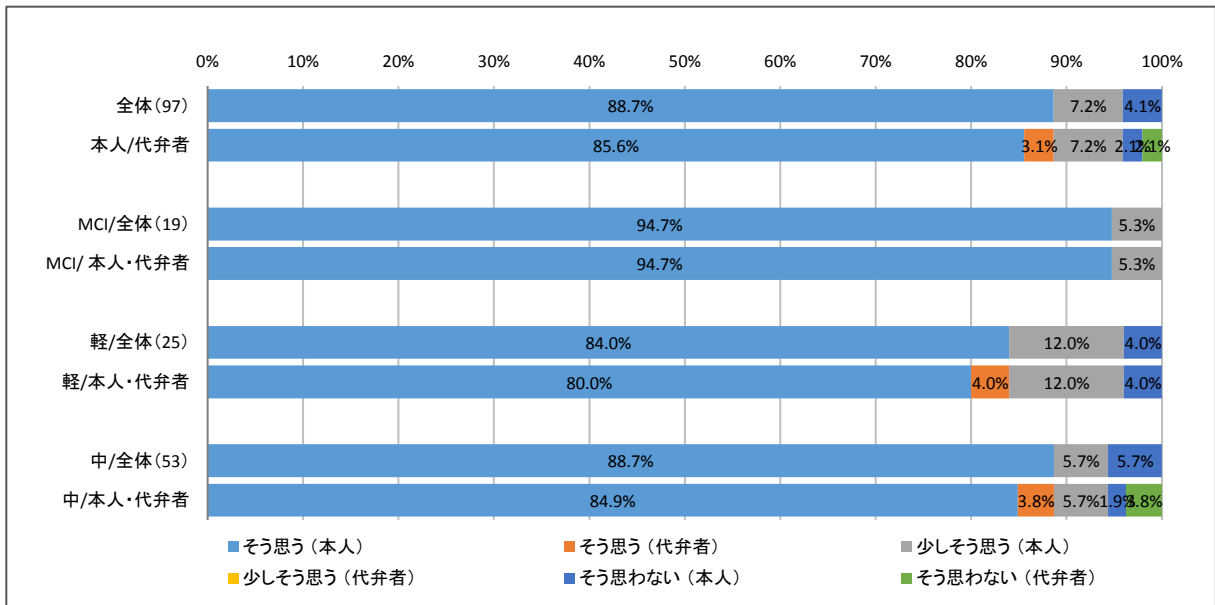
<評価項目⑩>

本人調査	私は、適切な情報を得ている
家族調査	本人は、認知症について適切な情報を得ている
支援者調査	認知症の人が、認知症について、適切な情報を得ている



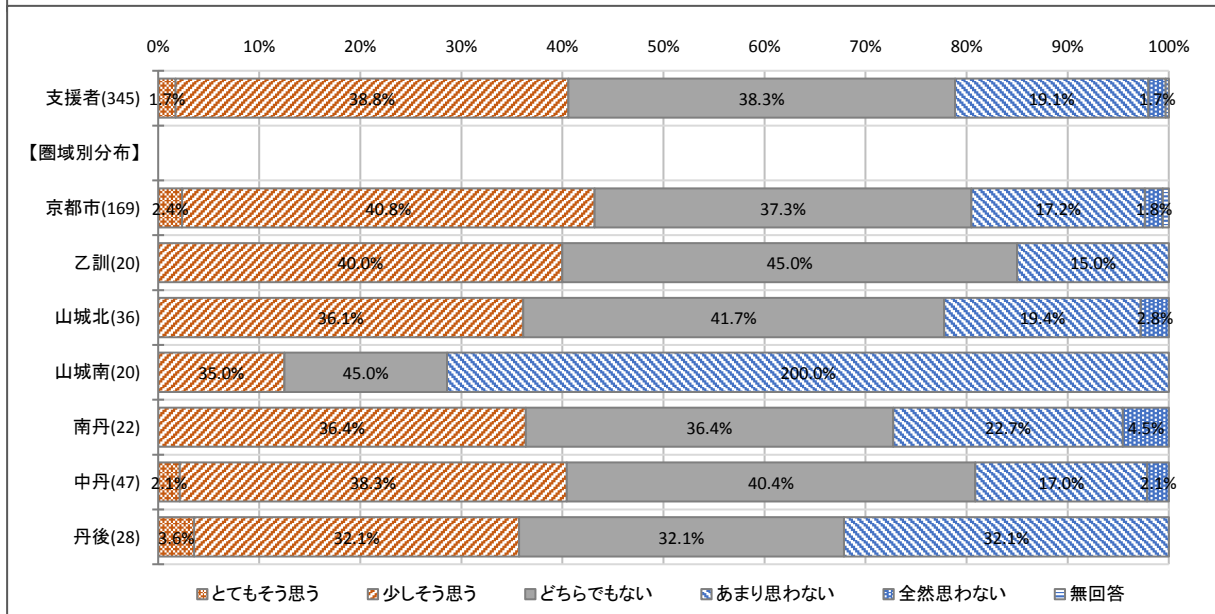
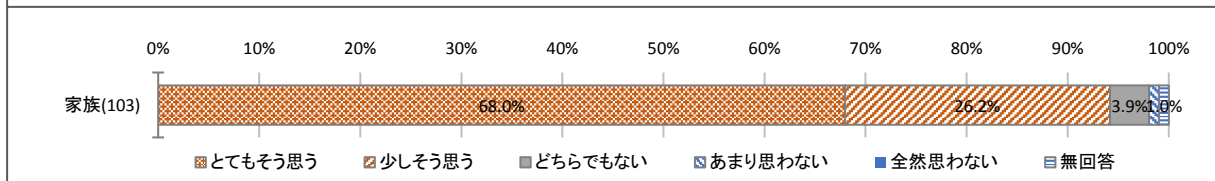
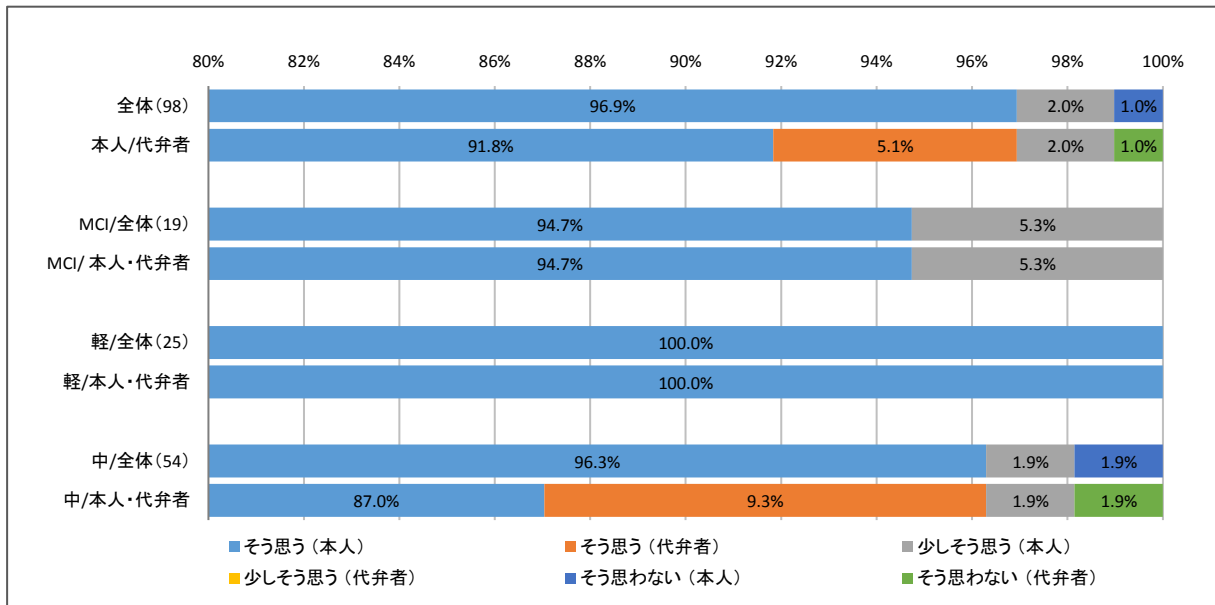
<評価項目⑱>

本人調査	私は、身近に何でも相談できる人がある
家族調査	本人の身近に何でも相談できる人がある
支援者調査	認知症の人の身近に、何でも相談できる人がある



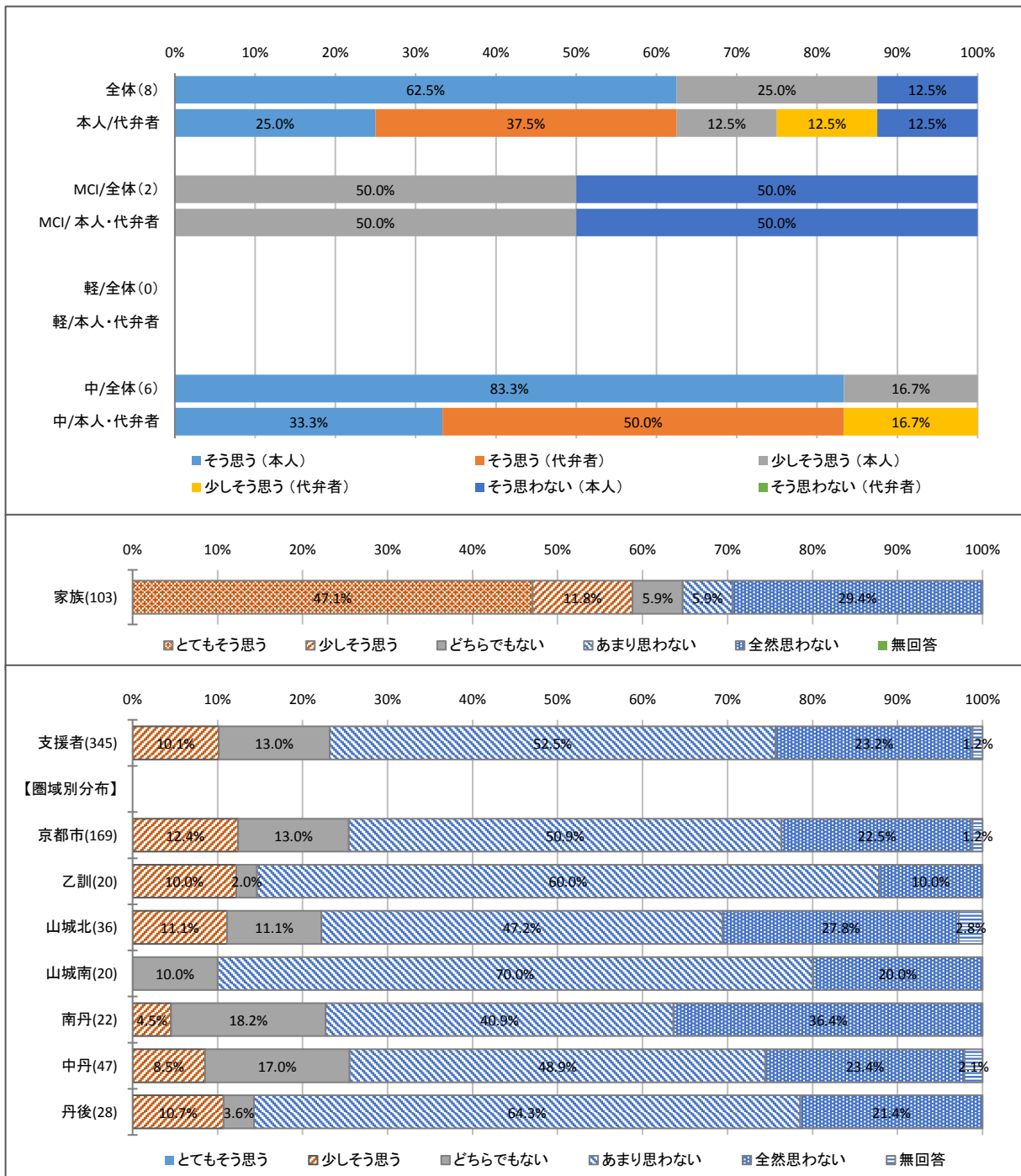
<評価項目⑳>

本人調査	私には、落ち着いていられる場所がある
家族調査	本人には落ち着ける場所がある
支援者調査	認知症の人の落ち着ける場所がある



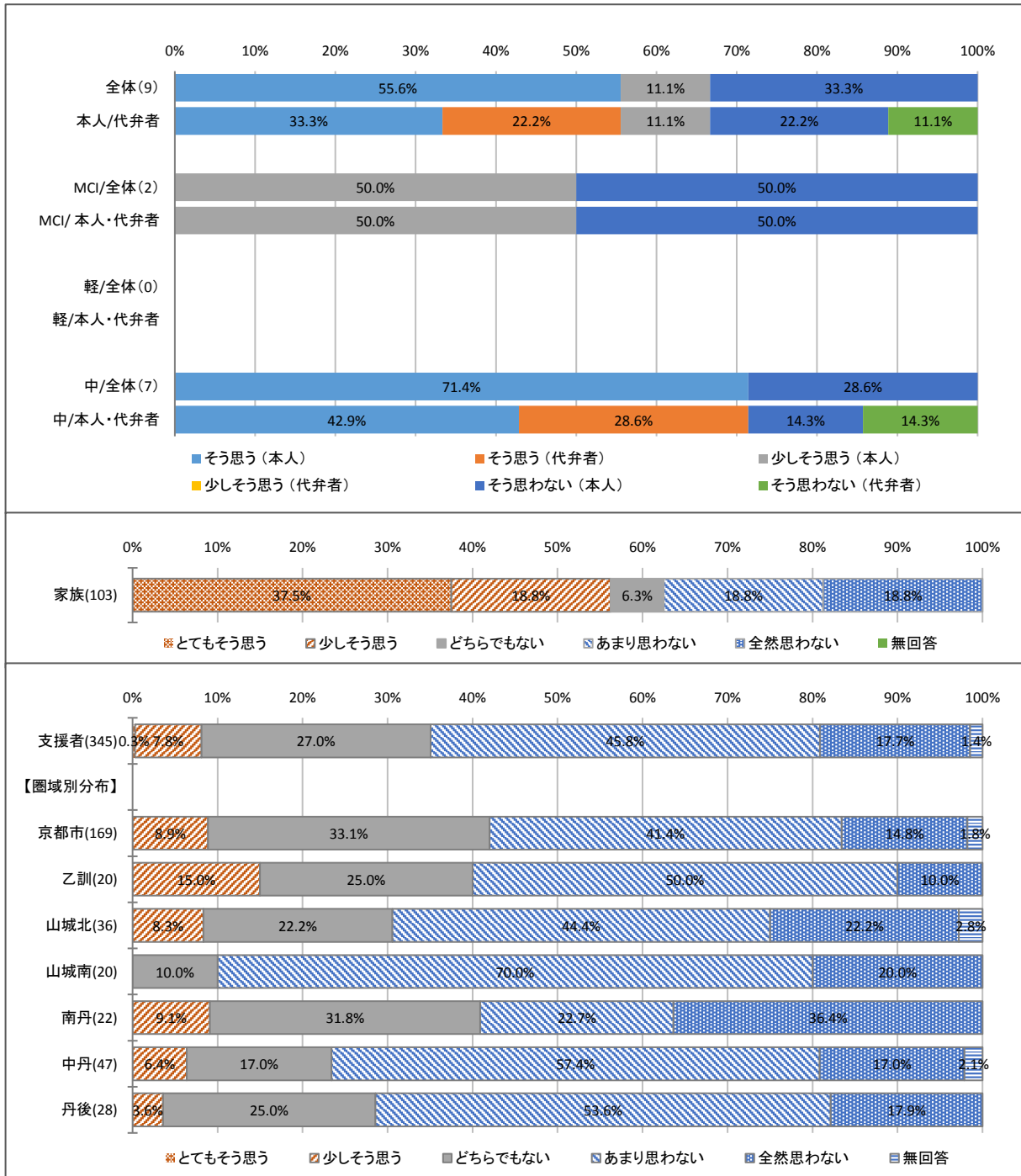
<評価項目⑭>

本人調査	【若年性認知症の方のみ】 若年性の認知症の私に合ったサービスがある
家族調査	【若年性認知症の家族の方のみ】 本人に合ったサービスがある
支援者調査	若年性認知症の本人に合ったサービスがある



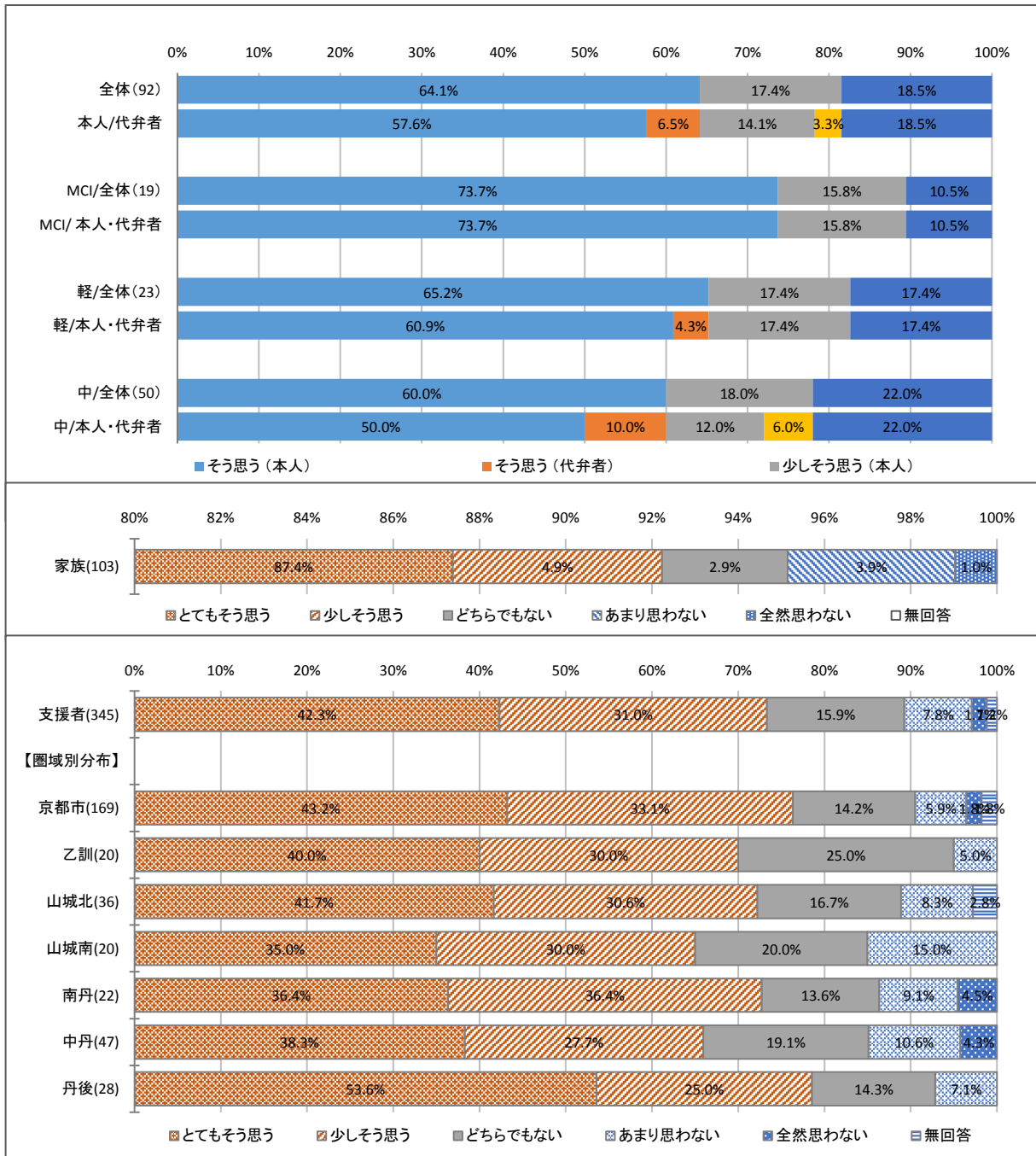
<評価項目②>

本人調査	【若年性認知症の方のみ】 私に合ったサービスに意欲をもって参加している
家族調査	【若年性認知症の家族の方のみ】 本人は、そのサービスに意欲をもって参加している
支援者調査	若年性認知症の本人が、そのサービスに意欲を持って参加している



<評価項目②>

本人調査	私は、いま行われている認知症を治す研究に期待している
家族調査	あなたは、認知症を治す研究に期待している
支援者調査	認知症の人は、認知症を治す研究に期待している



V. 10のアイメッセージ評価結果に対する

京都式オレンジプラン改定検討ワーキング意見

1. 評価の意義と明らかになったこと

本人参加のもと、京都府内全域を対象とした「10のアイメッセージ」評価を実施したことは、全国初の試みであり、これまでの京都の取組の成果であるとともに、本人・家族ミーティングの実施と合わせて、本人の意見を施策に反映するという仕組みを提示できた意義は大きい。

一方、評価に参加した本人が200人の募集に対し、100人弱にとどまったことは、認知症施策への本人参加における京都の現状を反映しており、今後、評価に参加できる本人を増やしていくことが、一つの目標となる。

また、評価23項目のうち、病気の理解、将来の過ごし方、社会参加、社会貢献に係る項目の評価が低くなっている。認知症ではない高齢者でもこの傾向が予測されることから、回答の信憑性・妥当性の高さを示唆する結果と見ることもできるが、認知症特有の状況か他の高齢者にも共通の状況かといった問題もあり、その解釈は難しい。

(1) 本人評価と支援者評価の乖離

全体的に、本人、家族、支援者の順で、評価が低くなっていく傾向がみられるが、理由については、評価をした本人が、調査員（地域包括支援センター職員やケアマネジャー）から本人評価者として選ばれたことから、既に支援を受け、在宅で穏やかに過ごしている人たちであり、加えて一定の言語能力を維持している人たちであるということも一因と考えられる。

一方、支援者は、支援が十分でない本人や評価への協力が困難な本人のことや先進的な取組についての知識から、厳しく地域全体を評価したということが考えられる。

また、本人や家族にとって、日頃、支援をしてくれている調査員の質問に対し、「そう思わない」とは言いにくかったということも考えられるが、いずれにしても、今後、本人評価の対象者を拡大していく中で、京都のどの地域に住んでいても、誰から支援を受けているにしても、今回のような高い本人評価が得られることを目指していきたい。

(2) 達成状況

本人評価が高い6項目（③、⑦、⑧、⑯、⑲、⑳）は、十分な支援を受けている人など一部の本人には、形になりつつあるが、支援者評価からは、それがまだ全体化されるレベルには至っていないことが示されている。また、本人評価が低い3項目（⑤、⑥、⑩）は、家族、支援者評価でも同様の結果なので、達成度が低いといえる。

(3) 施策への反映

評価の乖離の理由について、更なる考察が必要となるが、本人、家族、支援者とも評価が低い項目については、重点課題として、先行して取り組んでいくこと、また、本調査の自由記述や本人・家族ミーティングでの具体的な「生の声」を相補的に組み合わせ、新しい京都式オレンジプランの施策に反映していくことが必要となる。

また、今後、後期高齢者となる比較的若い人のニーズを前倒しで実施していくことで、施策の満足度を高めていくことにつながると考える。

2. 10 のアイメッセージを実現するための方向性

I	依然として認知症に対する偏見が北風となっているので、認知症の人がアクティブに生きているというポジティブな情報をシャワーの様に提供していくことが必要である。
II	早期診断が本人にとってのメリットとなることを啓発することにより、早期診断を促すとともに、診断後の支援として、例えば、「認知症リンクワーカー」など本人や家族の気持ちに寄り添い、精神的な支えとなり、それぞれの方の個性を理解しながら、認知症とともに生きる生活を一緒に考えていくような支援が必要。また、運転免許証更新時の検査はスクリーニングとしても利用できることに着目すれば、高齢者の自動車運転免許更新に係る認知機能検査との連携は早期診断という意味でも、車に代わる移動手段を含むその後の生活支援という意味でも重要な課題の一つである。
III	医療・介護関係者の連携体制が整ってきたと評価できるが、在宅だけでなく、病院や施設の連携、先駆的な取組を共有する仕組みが必要である。
IV	本人の個性に応じ、地域課題を捉えた脱領域の社会参加の場づくりと移動手段の確保が必要である。この社会参加により、認知症をオープンにして積極的に生きている人たちの言葉や姿を発信することになり、認知症に対する社会のイメージ（疾病観）を変え、より多くの本人の社会参加につながるという好循環が生まれる。
V	認知症になっても人生を楽しむ機会が失われることがないよう、新たな社会参加の場だけでなく、これまでの趣味や活動を続けられるよう、地域への啓発を進めることが必要。北部においては、移動支援が必要である。
VI	家族が認知症という病気を理解し、希望を持つことが、初期からの切れ目無い支援（社会参加や生活の再構築）を容易にするので、十分な家族支援（疾患に対する情報やピアサポートの場等の提供）が必要である。
VII	認知症の人に関わる医療福祉関係者、企業、地域住民の全ての人に、認知症の人の意思を尊重することの大事さを理解してもらうとともに、本人の意思決定を支援するためのスキルの向上が必要である。
VIII	本人に必要な情報（病気に関する知識、相談窓口、制度やサービス等）を本人に分かるように伝えるという取組が必要である。
IX	若年性認知症の人が利用できるサービスが乏しいので、若年性認知症や初期認知症の人とその家族へのサービスの開発が必要である。
X	認知症の治療に対する期待は高く、様々な研究に協力していくことが求められている。

3. 新たに必要な施策や取組

- 生活圏域（歩いて行けるところ）での社会参加の場や保健所等での本人が語る場（本人ミーティング）の創設
- 医療機関等に「認知症リンクワーカー」を配置し、希望者を支援機能の場につなぐ取組
- 本人一人ひとりに寄り添い、本人のニーズや課題を「見える化」すること
- 地域ごとの「10のアイメッセージ」の実現に向けた取組の可視化や相互に学ぶ機会
- 専門職が地域に関わっていくための認知症地域支援推進員の取組
- 義務教育の一環として認知症の理解・促進ができる制度
- 10のアイメッセージをケアマネジャーなどの介護関係者や医療関係者に普及していくこと

4. 10のアイメッセージ評価の活用

「そう思わない」と回答した本人にその理由を聞いていくことやその方の状態像を分析すること、また、地域差がある項目については、どのような背景・理由が考えられるか、地域ごとに支援者と意見交換することにより、今後の対策に活かすことが可能となる。

また、今回、調査員として協力した支援者が、本人への聞き取りを通して、支援を必要とする対象者としての本人ではなく、認知症と共に生きる生活者としての本人と接することで得ることのできた気づきも多くあり、今後の支援にもおおいに活かされる。

5. 次回の評価に向けての課題提示

- 本人の評価者を増やし、性別、年齢層、地域などの群で分析ができればよい。
- 介護保険施設、有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅等で生活されている本人やひとり暮らしの本人にも評価に参加してもらうことや、認知症ではない高齢者や一般住民に参加してもらうことにより、意識の差や京都式オレンジプランの浸透度が分かる。
- 軽度の方の評価者を増やせば、入り口の課題が明確になる。
- 本人への聞き取り方法のばらつきがあるため、標準化が必要。
- 本人をよく知る支援者が本人に聞き取りを行うことはバイアスにつながる。
- バイアスがかかるかもしれないが、「10のアイメッセージ」がより地域に根付いたものとなるためには、認知症リンクワーカー等が本人と本音で語り合える人間関係を構築し、評価支援者（調査員）になっていければ良い。
- 「認知症リンクワーカー」に対する研修に評価支援者研修を組み込み、「認知症リンクワーカー」を評価支援者として育成していくことで、評価に参加できる本人を増やすことが可能となる。

第二部

本人・家族の声を京都式オレンジプランに反映させるための
「本人ミーティング・家族ミーティング」

I. 実施の概要

1. 目的

「本人ミーティング・家族ミーティング」は、以下の二つの目的によって、行われた。

- ①本人や家族が感じている生活の困りごとや願いを率直に語り合い、語った内容をもとに、認知症にやさしいまちづくりについての施策のより良いあり方を検討し、改定京都式オレンジプランに反映させる。
- ②今回の開催を契機に、府内市町村に本人ミーティングの開催を広げ、各地域で本人が思いや意見を語り合うことによって、本人同士の支え合い、初期支援、とぎれない医療・介護や、より良い地域づくり、施策づくりに展開していく流れをつくる。

2. 主催

京都府、京都地域包括ケア推進機構

3. 協力機関

京都府立医科大学、京都文教大学、京都府立洛南病院、宇治市、宇治市福祉サービス公社

4. 実施地域

	人口（2017/3/31 現在）	高齢化率（2017/3/31 現在）
南部（宇治市域）	188,457 人	27.7%
北部（丹後圏域）	99,466 人	36.0%

5. 方法

本調査は、フォーカス・グループ・ディスカッション法を用いて行われた。この手法は、「あらかじめ選定された研究関心のテーマについて焦点が定まった議論をしてもらう目的のために、明確に定義された母集団から少人数の対象者を集めて行うディスカッション」である¹。なお、質問項目は表1に示すとおりである。

表1 フォーカス・グループ・ディスカッションにおける質問項目

質問項目	本人	家族
①こんなことをしたい、こんな生活だったらいいなあ、という願いや希望について	○	○
②日々の中で感じている（ちょっとした）生活のしづらさ、困りごとについて	○	○
③医療や介護、地域の支援について感じていること、こうあってほしいと思うことについて	○	○

¹ 千年よしみ・阿部彩（2000）「フォーカス・グループ・ディスカッションの手法と課題：ケース・スタディを通じて」『人口問題研究』国立社会保障人口問題研究所 56(3), p.56-69.

6. 実施の手順

(1) 参加者（本人・家族）の決定

認知症疾患医療センター、認知症カフェ、認知症の人と家族の会、10のアイメッセージ評価協力者等から参加者を募集

(2) ミーティングの準備（北部地域のみ）

- ・本人の記録様式「ひらめきノート」の作成
- ・本人の日々の生活の記録（生活時々での困りごと、希望等）
- ・参加者の事前交流（臨床美術）
- ・ファシリテーター、サポーターの決定
- ・実施場所・配席の決定

(3) ミーティングの実施

集合、ミーティングの目的・方法の説明、討議（2時間）、記録、内容のフィードバック、確認・補強、同意の取得

(4) 意見解析

発言内容を10のアイメッセージごとに分類し、本人・家族の意見を解析

7. 地域別の実施要領

上記の「6. 実施の手順」に従い、それぞれの地域において以下のような要領でミーティングが行われた。

		南部（宇治市域）	北部（丹後圏域）
実施体制		京都文教大学、府立洛南病院	丹後保健所、府立医科大学附属病院、府立医科大学附属北部医療センター
参加者の属性		認知症疾患医療センター（デイケア）の利用者とその家族等	認知症疾患医療センターの受診者とその家族
当日	場所	京都文教大学	府立医科大学附属北部医療センター
	日時	＜本人＞ 7月4日（火）15:10～16:40 ＜家族＞ 8月28日（月）12:30～14:00	＜本人・家族＞ 8月23日（水）13:30～15:30
	参加者	本人（1グループ）：6名 家族（1グループ）：5名 ファシリテーター：2名 パートナー、サポーター等延べ：51名	本人（2グループ）：6名 家族（1グループ）：4名 ファシリテーター：3名 パートナー、サポーター等：20名
目標			丹後に本人グループをつくること
備考		2017年6月20日 プレミーティングを実施	2017年7月5日 事前交流会（臨床美術）を実施
※ミーティング開催における関係者の区分 (1) パートナー：本人の側にいて、必要な時にバックアップする人 (2) ファシリテーター：参加者の心の動きや状況を見ながら、話し合いを進行していく人 (3) サポーター：運営を支援する人 (4) オブザーバー：本人の思いを今後活かして欲しい行政関係者等			

8. 分析方法

フォーカス・グループ・ディスカッションによって得られたデータの分析は、以下の手順で質的分析を行った。

- ①録音記録を文字化する。
- ②浮かび上がってくるテーマを探しながら全てのデータを読み、仮のコードを付与する。
- ③上記の②で繰り返し浮かび上がったテーマについて、コードをまとめ、どのようなカテゴリーが形成できるか考える。これらの作業を通じて、仮のコードの修正や変換をする。
- ④その後、似たような特徴をもつ概念のグループにコードをまとめて、カテゴリー化する。

9. 倫理的配慮

フォーカス・グループ・ディスカッションの実施にあたり、発言内容を録音し、録音した内容は逐語録にすることについて、参加者の同意を得た。フォーカス・グループ・ディスカッションで得られたデータおよび音声から起こされたテキストデータは匿名化して分析に用い、終了後に録音データ、テキストデータは厳重に保管する。

Ⅱ. 地域別「本人ミーティング・家族ミーティング」の詳細と評価結果

1. 南部地域

【本人ミーティング・家族ミーティング開催の詳細】

①2017年6月22日(木):グループワーク

- ・場所:京都文教大学
- ・参加:認知症当事者(本人7名、家族6名)、大学教職員2名、大学生8名、宇治市・福祉サービス公社・洛南病院・京都府職員13名、れもねいだー(認知症サポーター)7名の計43名が参加。

②2017年7月4日(火):本人ミーティング

- ・場所:京都文教大学
- ・参加:認知症当事者(本人6名、家族5名)、大学教職員2名、大学生8名、宇治市・福祉サービス公社・洛南病院・京都府職員16名、れもねいだー9名の計46名が参加。本人の横で家族(もしくはパートナー)がサポートする形で、本人同士の話し合いを行った。それ以外の参加者は見守り手として参加。

③2017年8月28日(月):家族ミーティング

- ・場所:洛南病院
- ・参加:認知症当事者(家族5名)、大学教員1名、宇治市・福祉サービス公社・洛南病院・京都府職員10名、れもねいだー9名の計26名で実施。家族同士の話し合いを行った。それ以外の参加者は見守り手として参加。

以下は、本人・家族ミーティングおよびグループワークでの本人・家族の発言とともに本人・家族から今回の評価・提案のために提出された文章を基に分析を行った結果である。

表記のうち、【 】内は分析から生成されたカテゴリーを示す。なお、第三部参考資料(p.74～87)の本人・家族の生の声も、ぜひご参照いただきたい。

(1) 私は、周囲のすべての人が、認知症について正しく理解してくれているので、人権や個性に十分な配慮がなされ、できることは見守られ、できないことは支えられて、活動的にすごしている。

【周囲の認知症についての理解が進んでいる】という声と、【周囲の認知症についての理解が進んでいいない】という声があり、【認知症についての理解が進んでいるところとそうでないところのギャップがある】ことが伺われた。

そのような周囲の状況の中での【当事者本人の姿勢】も様々で、周囲に認知症を理解して欲しい、【認知症をオープンにできる社会に】なって欲しいという思いの一方で、周囲に

認知症をオープンにしている当事者もいれば、認知症をオープンにできない当事者もいる。

認知症をオープンにしている当事者は、【場との出会い・仲間との出会い】を契機に、【仲間から周囲へ理解を広げる】ようにしておられた。【理解が進むためには当事者の社会参加が必要】で、認知症を持った一人ひとりの人と接する中で【認知症の人の個別性・多様性】を理解して欲しい、という強いメッセージが語られた。

認知症についての理解を進める場としては、町内会などの【近所】、子どもや若者への【教育現場】、そしてより【幅広い府民一般】が挙げられ、実際の当事者による活動が語られた。このように当事者が認知症とともに生きる経験を語り、認知症の疾病観が代わり、地域での認知症理解が進めば、認知症をオープンにして社会参加できる方々が増えてくると思われる。

そのような周囲の認知症の理解の進んだ地域では、【生活圏域】で【認知症・世代を超えた】場で、認知症を持ちながらも活動的にすごしている状況が語られた。

（２）私は、症状が軽いうちに診断を受け、この病気を理解し、適切な支援を受けて、将来について考え決めることができ、心安らかにすごしている。

【早期診断・支援を受けることができた】【認知症の理解と将来に向けての過ごし方】を【本人と家族がパートナーとしてペアで考え・行動】してきた、という声の一方で、「早期に診断を受けることはできたが、この病気を理解し、適切な支援を受けるまでに時間がかかった」というように、「診断と支援とのタイムラグが長い」ことが課題として抽出された。【診断後に支援につながるまでの苦悩】では、認知症と診断された後の不安や苦悩が語られている。認知症という病気がよくわからず、今後どうしていったらいいのかという不安を抱えながら、周囲とのコミュニケーションがうまくいなくなり、孤立・孤独に陥っていく様子が伺われる。心理的にも【最初の支援につながるハードルが高い】ことが伺われる。

このような「早期診断・早期絶望」の状況を改善するために「診断と支援をつなげる取組」が求められると考えられる。具体的には、【リンクワーカー】の希望が提出された。【診断後に支援につながるまでの苦悩】からも、リンクワーカーに求められるものとしては、単に資源を紹介するようなコーディネーター的な役割だけではなく、本人や家族の気持ちに寄り添い、精神的・心理的な支えとなり、それぞれの方の個別性を理解しながら、認知症とともに生きる生活の再構築を一緒に考えていくような態度が求められると思われる。

診断前も診断後も、孤立に陥りがちな当事者が必要な支援につながっていくためには、仲間や支援者との出会いが必要になる。とりわけ、当事者同士の出会いが最初のハードルを下げるという当事者の経験からの指摘があり、仙台の「おれんじドア」のような【当事者による相談窓口】設置の提案があった。このような出会いが入り口となり、【仲間との出会い・居場所・活動の場（ピアサポートの場）】につながっていくことが、当事者が認知症とともに生きる生活の再構築を行なっていくために、必要と考えられる。

（３）私は、体調を崩した時にはすぐに治療を受けることができ、具合の悪い時を除いて住み慣れた場所で終始切れ目のない医療と介護を受けて、すこやかにすごしている。

【医療と福祉の連携により地域包括が認知症の人の存在を把握・支援する必要性】では、とくに一人暮らしや若年性の認知症の方を地域包括が把握し、福祉と医療の連携・支援を行う必要性が語られた。また、【早期から医療と福祉が切れ目なくつながる必要性】では、早期認知症の方が支援につながらない現状が語られ、進行してからではなく、早期から地域包括をはじめとした福祉につながる必要性が語られた。

【かかりつけ医の必要性】では、すぐにかかれる病院があるという声の一方で、まだまだ認知症への理解が乏しい医師もいるという声が上がった。【ニーズに沿った介護サービスの必要性】では、認知症対応型のデイサービスの不十分な点について、家族から具体的な希望が挙がった。【介護と医療の連携の必要性】では、デイサービスと医療の連携の必要性が語られた。

認知症になっても住み慣れた場所で暮らし続けるためには、【医療と介護にとどまらない地域の支援】が必要であることも語られた。

（４）私は、地域の一員として社会参加し、能力の範囲で社会に貢献し、生きがいをもってすごしている。

（５）私は、趣味やレクリエーションなどしたいことをかなえられ、人生を楽しんでいます。

認知症の発症・診断後、本人や家族は、周囲とのつながりが失われ、【社会からの孤立】状態に陥りがちである。

個として不安・孤独と直面した当事者が、再び希望と自信を取り戻していくためには、【仲間との出会い・居場所・活動の場（ピアサポートの場）】が重要であることが語られた。さらに、そのような場は、地域において【認知症・世代を超えた交流の場】に展開していく。そのような場では、本人も家族も支援者も対等な関係で【一緒に楽しむ】ことが大切である。当事者の【能動的な参加】を可能にすることも重要に思われる。当事者の【主体的な活動】としての卓球クラブから、自然発生的にカフェが生まれ、【自然な交流】がなされているケースも語られた。

とりわけ、今後は【歩いて行ける居場所・活動の場】が求められている。【地域包括との協働】の中で、生活圏域ごとに場を作っていく動きもある。そのような場が増え、【他地域の当事者・支援者との交流】によってつながっていけば、認知症にやさしい社会が実現していく可能性を感じる。

出会いや場があれば、【地域の一員として社会参加】している様子が語られた。そのような【ピアサポートの場】や【認知症・世代を超えた交流の場】では、【認知症とともに生きる経験の伝達】が行われる。さらに、【地域における認知症啓蒙活動】は社会貢献につな

がっていく。

このような場としては、趣味や楽しみに加えて、社会貢献につながるような【ボランティア】や【就労】などのニーズもみられ、それが【生きがい】につながっていく。それぞれの方の個性に合わせた社会参加の場が求められる。

（６）私は、私を支えてくれている家族の生活と人生にも十分な配慮がされているので、気兼ねせずにすごしている。

家族が安心して過ごすためには、【周囲の理解】が必要である。また、支援者による支援とともに、【家族同士の相談】ができるような「ピアサポートの場」が必要である。

【家族、本人、それぞれの場・支援の必要性】も語られた。【本人が一人でも活動できる場・支援】として、具体的に、「れもねいだー」（宇治市認知症アクションアライアンス「れもねいど」における、ボランティアの認知症サポーター）や、来春宇治に開設される「京都府認知症総合センター」への期待が語られた。

本人支援による本人の安心・喜び・幸せが、そのまま家族の安心・喜び・幸せにつながるという【本人支援が家族支援につながる】ことも語られた。これは本人と家族がパートナーとしてペアで活動してきた宇治の当事者グループの特徴とも考えられるが、このような認知症とともに生きる本人と家族のあり方も注目される。

（７）私は、自らの思いをうまく言い表せない場合があることを理解され、人生の終末に至るまで意思や好みを尊重されてすごしている。

【家族・介護スタッフによる本人の気持ちの理解】が語られた。認知症に伴う物忘れや認知機能の低下を補い、本人の思いを受けとめ、支援していく【パートナーの存在】が必要である。そのようなパートナーと終末期の相談をしている【ACPの実践】も語られた。

（８）私は、京都のどの地域に住んでいても、適切な情報が得られ、身近になんでも相談できる人がいて、安心できる居場所をもってすごしている。

宇治の当事者グループの方々は、ご自身たちが恵まれた状況にありながら、宇治市内でも、京都の他の地域でも、まだまだそのような状況にないことを認識され、【恵まれた状況を宇治市内・外の地域に広めていくことが必要】と語られている。

また、ご自身の経験から、生活圏内の【近所の歩いて行ける距離に安心できる居場所が必要】というメッセージが語られた。

(9) 私は、若年性の認知症であっても、私に合ったサービスがあるので、意欲をもって参加し、すごしている。

若年性や早期の方への支援は「まだまだ達成されていない」と語られた。

【地域包括が若年性認知症の人の存在を把握】し、早期に支援につなげる必要性が語られた従来の介護保険サービスはより認知症のステージが進行した方を想定したものになっており、今後増えてこられる【若年性や早期の認知症の方々に合った支援】の開発が求められる。また、現状は、早期に診断されても、支援がない・支援につながらないことが多く、「早期診断、早期絶望」になっていることもまだ多いと思われる。「診断後に本人や家族を支える取組」が求められる。【若年性認知症の人が早期から福祉支援につながる必要性】がある。

若年性認知症に合った支援の一つとして、就労支援の可能性も考えられる。当事者本人からは、就労による【社会参加・社会貢献・労働への対価・生きがい】も語られた。

【認知症啓蒙活動への若年性当事者の参加】は、認知症の疾病観を変え、認知症に対する地域の理解が進み、認知症をオープンにしてより多くの認知症の当事者が地域で暮らしやすくなることにもつながる。

若年性や早期の方が、早期から必要な支援を得られることは、認知症を持ちながらの社会生活を可能にするとともに、【認知症の進行に対する備え】にもつながっていくと思われる。

(10) 私は、私や家族の願いである認知症を治す様々な研究がされているので、期待をもってすごしている。

【治療薬への期待】【治療薬開発推進のための具体的な提言】、そして期待を持つことが支えになるという【期待という支え】が語られた。

その他、【災害時における認知症当事者への対応の必要性】が語られた。

平尾 和之（京都文教大学臨床心理学部臨床心理学科 教授）

2. 北部地域

【本人ミーティング・家族ミーティング開催の詳細】

①2017年7月5日(水):事前交流会

- ・場所:京都府立医科大学附属北部医療センター
- ・参加:認知症当事者(本人9名、家族6名)、臨床美術の会メンバー、認知症初期集中支援チーム員、認知症カフェ運営者、認知症疾患医療センター医師・相談員、市町村職員(2市1町)、丹後保健所職員
- ・方法:本人や家族たちが顔なじみになって、ミーティングに向けて話しやすい雰囲気を作るため臨床美術の体験と作品鑑賞の交流会を実施。併せて、本人ミーティングや気づきノートの説明も行った。

②2017年8月23日(水):本人ミーティング、家族ミーティング

- ・場所:京都府立医科大学附属北部医療センター
- ・参加:認知症当事者(本人6名、家族4名)認知症初期集中支援チーム員、認知症カフェ運営者、居場所ボランティア、認知症疾患医療センター医師・相談員、市町村職員(2市2町)、府職員(若年性認知症支援コーディネーター、丹後保健所、高齢者支援課)
- ・方法:本人2グループ、家族グループに分かれて、話し合いを行った。それ以外は見守り手として参加。

カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを『 』、参加者の言葉は「 」で示す。

(1) 語られていた内容が一番多かったのは、アイメッセージ①と⑥に関連したものであった。これは、本人と家族の双方で共通していた。

1) 本人グループからの評価

- ・【家族の理解とサポートが得られている実感】を持てている参加者がいた一方で、【家族から理解が得られていない思い】(特に夫)を持っていた参加者がいた。
- ・【家族の理解とサポートが得られている実感】は、『車の運転』をしてくれることを語った参加者が多かった。認知症と診断されたことで免許証を返還したことと、車がなければ外出や移動することが難しいという**地域性を表**している。また、配偶者と助け合ったり、一緒に考えたりすることもサポートが得られている実感につながると考える。
- ・『役割を維持』では、孫からの頼まれ物で本人のやる気を高めていた参加者がいた。しかし、「**玄関に來客があっても夫が出てくれることはほとんどなく、今までどおり私が対応する**」と語っていた参加者がおり、【家族から理解が得られていない思い】につながっていた参加者もいた。この参加者は役割を継続できている一方で負担感を感じており、認知症の方に役割を持って生活することの難しい側面を示していた。

2) 家族グループからの評価

- ・最も多く語られていたのは、【認知症のために障害された日常生活と増える介護】であった。最初は行動や言動が『繰り返されることへの苛立ち』を感じていたが、【本人の思いに着眼】し、【本人とのつきあい方の工夫】をしながら日々生活をされており、これはアイメッセージ①と⑥に沿った姿といえる。
- ・家族に特徴的なカテゴリーは、【周囲への認知症の告白と伝えるタイミング】と考える。病名を黙っていても、行動や言動から認知症であることが他者にわかってしまうことが予測されることから、伝えるタイミングを迷っていることが語られていた。

3) 本人グループと家族グループにおいて共通する評価内容

- ・【近所との関係性】では、『近所・友人との良い関係』を築いている参加者がいた一方で、『近所の人に求めないサポート』の参加者がいた。近所の人にサポートを求めるか否かは、認知症の発症前からの近所との関係性によって異なると考えられる。
- ・【認知症の悪いイメージ】では、一般的なイメージだけではなく、騙された体験や詐欺に遭った体験があった。また、認知機能が低下することによる自尊心の低下が、「馬鹿にされる」という受け止めになることも考えられる。これらの体験は、自分や家族を守るために周囲のサポートを拒否して、本人と家族が孤立してしまう危険性を孕む。

(2) 認知症の本人の方の語りが中心だったカテゴリーは、アイメッセージ②、③、④、⑤、⑦、⑧に関連するものだった。

1) 【認知症への葛藤】

- ・物忘れの【症状の自覚】から受診して診断を受けた後、『知りたくなかった病名』と考えて『受診への後悔』があり、常に自分は『認知症であることの囚われ』があると語られていた。この葛藤は、アイメッセージ2) の達成を阻害するものであるため、認知症と診断された後にも疾患を受容する過程で介入やサポートが必要ではないかと考える。
- ・認知症の本人が求めている将来は、『知りたい認知症の良い結果』や『健康への希求』、安らかな『最期の在り方』であった。後者の2つは、健康な高齢者も望むことであるため、認知症の方の特徴というよりも高齢者の特徴と考える。

2) 【住み慣れた場所の暮らし】を求めている、医療に求めるものは待ち時間以外語られていなかった。高齢者にとって、病院は身体を治療するところであるため、認知症と病院との関連がなかったのではないだろうか。

3) 【失った誇り】

- ・退職や今までの活動を辞めたことによる。これは、【他者からの孤立】を深める要因のひとつと考えられる。

4) 【本音と抑圧】

- ・本音を言える人もいれば、考えや思いを表現しない人がいた。これは、言語機能の低下だけではなく、元々の性格も関連しているのではないかと考える。(特に高齢の女性の場合)

5) 活動（アイメッセージ⑤）

- ・買い物や畑仕事のような【継続している習慣】や、外出や趣味などの【楽しみになる活動】を続けている参加者がいた一方で、【活動のしんどさ】を語られた参加者がいた。
【活動のしんどさ】では『何もしたくない思い』という無気力さや、『できない思い』というような自尊心の低下が背景に考えられた。
- ・【車の運転ができない不便さ】も認知症の人の活動性を抑制する要因の一つになっていることが考えられた。
また、先にも述べたが車がないと生活が不便になるという地域性もある。
- ・家族にも共通していたが、『人に迷惑をかけることの気がかり』が活動を抑制する要因になっていたと考える。

（3）家族の語りから

1) 【求めている情報】

- ・認知症の介護に悩んでおり、情報を求めている。若い年代の人は、インターネットを活用していた。

2) 【介護サービスの不足】

- ・若年の認知症を対象にしたサービスの不足が語られていた。

（4）全体を通して

- ・認知症の本人の方に、【認知症への葛藤】や【失った誇り】がある場合、他者との関係や活動性、生活に影響を及ぼすことが考えられる。診断後のサポートする視点として重要と考える。
- ・家族に語られていた内容の多さから、「どのような症状と関わっているのか」「それにどのような思いを持っているのか」「何を大切にして介護しているのか」「工夫していること」について語り合う場がやはり大切である。家族会の開催が難しい地域こそ、場を設定するサポート（その場に行く交通も含めて）が必要となる。
- ・親戚や近所の人たちに病名をいつ伝えようか、という家族の迷いが明らかになった。詐欺に遭う危険性や、プライバシーの問題、伝える相手との関係性などの問題もあり、非常に難しい問題である。

Ⅲ. 二つの地域における「本人ミーティング・家族ミーティング」評価の 共通点と相違点

本人・家族の声を京都式オレンジプランに反映させるため、本人ミーティングと家族ミーティングを、京都府北部(丹後圏域)と南部(宇治市域)で実施した。

北部グループは、今回の京都式オレンジプラン評価に際して、形成されたグループである。この機会に北部に当事者グループが形成されたことは、大変意義深かった。

一方、南部グループは、宇治市認知症アクションアライアンス(れもねいど)において、これまでも「当事者研究グループミーティング」を重ねてきた経験があり、当事者活動への意識が高いグループであった。

したがって、北部グループでは、比較的、生活の現状や困りごとについての語りに重点があるのに対し、南部グループでは、これまでの経験に基づき、今後の希望から具体的に必要な支援への提言に重点がおかれていた。以下、北部グループと南部グループの共通点と相違点を記す。

(1) 私は、周囲のすべての人が、認知症について正しく理解してくれているので、人権や個性に十分な配慮がなされ、できることは見守られ、できないことは支えられて、活動的にすごしている。

周囲に認知症を伝える・オープンにする・支援を求めることへの迷いや葛藤、難しさは共通している。北部グループでは、認知症発症前からの近所との関係性が影響するのに対して、南部グループでは、認知症発症後に出会った仲間から周囲へ理解を広げるというスタイルが語られた。北部では黙っていてもいずれ近所には伝わるのに対し、南部では認知症の人の引きこもり・孤独死も話題になるなど、地域性による違いもみられた。

(2) 私は、症状が軽いうちに診断を受け、この病気を理解し、適切な支援を受けて、将来について考え決めることができ、心安らかにすごしている。

認知症診断後に、不安や苦悩、葛藤を抱え、周囲とのつながりを失い、孤立に陥っていく経験は共通している。診断後の本人や家族の気持ちに寄り添い、それぞれの方が必要な支援につながるような取り組みが必要である。

(4) 私は、地域の一員として社会参加し、能力の範囲で社会に貢献し、生きがいをもってすごしている。

(5) 私は、趣味やレクリエーションなどしたいことをかなえられ、人生を楽しんですごしている。

本人や家族が仲間と出会うことのできるピアサポートの場の重要性も共通している。南部ではそのような場を歩いて行ける生活圏域ごとに作ることが今後の課題になっているのに対して、北部ではそのような場に行く交通手段が課題になる。地域性による相違で、都市型モデルと田舎型モデルを考える必要があるだろう。

(9) 私は、若年性の認知症であっても、私に合ったサービスがあるので、意欲をもって参加し、すごしている。

若年性認知症を対象にした支援の不足は、共通して語られていた。

平尾 和之 (京都文教大学臨床心理学部臨床心理学科 教授)

第三部

参考資料

I. 10のアイメッセージ評価自由記述の分析【アドバイザリーレポート】

京都式オレンジプラン改定検討ワーキング

アドバイザー 武地 一

(藤田保健衛生大学医学部認知症・高齢診療科 教授)

10のアイメッセージの定量的評価とともに、調査の際に調査協力者が感じたこと、考えたことが自由記述として記載された。また同時に、調査に際して当事者である認知症の人から出された意見・要望についても聞き取り、自由記述式での記載が行われた。アイメッセージ評価は、様々な調査方法としての限界があり、その調査から漏れ聞こえてくることや今後の調査への改良のヒントがそれらの自由記述に含まれていることが予想された。また、アイメッセージ評価という認知症の本人に直接、施策のアウトカム評価を委ねるという先進的な取り組みの意義も、それらの自由記述から浮かび上がってくるであろうと思われる。そこで、質的分析の手法によって、それらの自由記述の分析を試みた。原文、コード、概念、カテゴリーと集約し、サブカテゴリーが必要な場合にはサブカテゴリーも作成した。以下の記述では、カテゴリー、サブカテゴリー、原文の一部（固有名詞などは改変）を示す。

1. 本人の意見・要望（※分類については p. 13～p. 17 参照）

アイメッセージの調査の際に本人の意見・要望を自由に述べてもらうことが行われた。ここでは、その自由記述の分析を行う。質的分析の後、本人の意見・要望については、以下の6つのカテゴリーが抽出された。問いかけの設定は「本人の意見・要望」となっているが、6つのカテゴリーのうち5つまでが認知症という病気を持って生きることへの複雑な心情や家族など周囲の支援への感謝などであった。

- (1) 【認知症になったのショックや不具合】
- (2) 【前向きな気持ちやあきらめ等が入り交じる複雑な心境】
- (3) 【住み慣れた地域でのつながりや周囲に頼れない気持ち】
- (4) 【家族の支援に対する信頼と期待】
- (5) 【介護保険サービスや地域での支援への満足】
- (6) 【薬や制度、仕組みへの期待】

(1) 【認知症になったのショックや不具合】

このカテゴリーでは認知症と診断されたこと、自分が認知症になったことへのショックや、日常生活における不具合を感じている様子が示されていた。

私は自分の変化に気がつかなかったが妻から聞いた事で最初は驚いたし腹が立つというか、どうして良いのかわからないという状態だった。

昨年と比べて、出来ない事が増えている。特に、すぐに疲れてしまい大好きな夜のコンサートに行かれないのが辛いと思うことがある。

（２）【前向きな気持ちやあきらめ等が入り交じる複雑な心境】

２ つめのカテゴリー「前向きな気持ちやあきらめ等が入り交じる複雑な心境」には、以下の５つのサブカテゴリーが含まれており、認知症になっても前向きに生きていこうとする思いや、慣れた暮らしの継続への望み、年齢もあつてのあきらめの気持ちなどが語られていた。

- １）前向きな気持ち
- ２）慣れた暮らし継続や自己決定への望み
- ３）自分の役割と生きがい
- ４）年齢もあつてのあきらめ
- ５）認知症への気持ちの備え

１ つめのサブカテゴリー「前向きな気持ち」では、認知症はあってもポジティブに生きようとする思いや現状への満足が語られていた。

何か邪魔くさいという気持ちになるが、好きだと思えることは続けていきたい。またそうできるように努力するつもりである。

２ つめのサブカテゴリー「慣れた暮らし継続や自己決定への望み」では、期待をこめてということになるかもしれないが、生活の継続性への望みが語られていた。

来年もその次の年もこのまま悪くならず家で出来ることをして過ごしたいと思っている。

３ つめのサブカテゴリー「自分の役割と生きがい」では、１ つめと２ つめのサブカテゴリーとも共通するが、自分の役割や生きがいという観点での思いが示されていた。

自分の事が出来なくなるのでとにかく歩く事をしなければならないと思っている。買物に行く行為は仕事でもあり歩く事もできるので毎日買物に行く。

４ つめのサブカテゴリー「年齢もあつてのあきらめ」では、これまで長い人生を過ごし、その中で認知症に出会ったというあきらめとも言える気持ちが語られていた。

自分は年を取り物忘れも多くなっている。年だから当たり前だと思っている。認知症を治す研究をしているといっても年を取ったら皆、もの忘れは出てくる。治すことが無理だと思っている。

５ つめのサブカテゴリー「認知症への気持ちの備え」では、認知症という病気への心構えができていたと思われる心境が示されていた。

この病気は誰でも成り得る病気だと聞いたので落ち込んだ事はない。

（３）【住み慣れた地域でのつながりや周囲に頼れない気持ち】

次に３つめのカテゴリー「住み慣れた地域でのつながりや周囲に頼れない気持ち」では、自身が長年の暮らしを継続してきた地域へ思いや人間関係への期待が示されるとともに、地域の人々との関係性が難しくなったり、地域の人々に頼ることもできないという思いが、以下の２つのサブカテゴリーに示されていた。

１）住み慣れた地域への思い

２）周囲の人とのつきあいが継続できていない気持ちや、地域や周囲の人を頼ることができない気持ち

１つめのサブカテゴリー「住み慣れた地域への思い」では、２つめのカテゴリーの中で示されていた「慣れた生活への継続」とも共通するが、長年住み慣れた地域にいることの安心感などが示されていた。

自分は今のところに来て６０年になる。近所の人とも顔見知りになっていたのが良かったと思う。皆今までどおり話をしてくれる。

２つめのサブカテゴリー「周囲の人とのつきあいが継続できていない気持ちや、地域や周囲の人を頼ることができない気持ち」では、認知症になったことで住み慣れた地域との関係に微妙な距離感や緊張関係が生じてきたことを感じている様子が示されていた。

地域の人に私は忘れてしまうからといっても分かってもらえず何でもできると言って１人では不安な役割を持たされることがあって困る。

（４）【家族の支援に対する信頼と期待】

４つめのカテゴリー「家族の支援に対する信頼と期待」は多くの対象者が家族の支援への感謝の気持ちを中心とする信頼や期待を語っていた。他者との関係という点では地域の人々も家族も同じであるが、関係の強さや病気のことも含め受けとめてくれているという点で次元の異なる関係性であることが読み取れる。

ドラマを観ていてもストーリーが繋がらないが、家族が解説してくれる。

子供たちは遠方に住んでいるが気にかけてくれている。同じ町内には兄弟、従兄弟等も気にかけてくれている。

家族との生活でマイナス的な考えがあったらダメだと思う。もし顔を忘れても家族が自分の事をわかってくれる。

（５）【介護保険サービスや地域での支援への満足】

５つめのカテゴリー「介護保険サービスや地域での支援への満足」では、介護保険サービスや地域の公的な支援への満足感が示されていた。中でも専門職等の見守りのもとで仲間同士の交流や自分らしさの発揮が行えるデイサービスへの満足感や必要な時には施設が使えるという期待が示されていた。

デイを楽しみにしていてそれが生活のハリであったり生きがいを担っている。

自分で出かけられなくなり家で過ごす時間が長くなったら施設に入と思う。施設に入ると挨拶だけでも誰かと話す事ができる。

自分の地域は介護予防教室などの取り組みがあり十分な事をしてもらっている。これ以上はいらないと思う。

(6)【薬や制度、仕組みへの期待】

6 つめのカテゴリー「薬や制度、仕組みへの期待」では、薬や治療、予防活動、社会制度に対する意見や要望、期待が語られており、以下の 4 つのサブカテゴリーに分けられた。

- 1) 薬や治療、予防、制度への期待
- 2) 自分に合うサービスや参加機会の不足
- 3) 仲間や相談できる場所の大切さ
- 4) 経済的な安心感の必要性

1 つめのサブカテゴリーでは、薬や治療、予防とともに自動車運転に関する仕組みなどへの期待が示されていた。

予防教室には元気に参加している。不安もあるけど出来るだけ楽しく人に迷惑をかけたくない。もの忘れが増えないで欲しい。

認知症と診断されてもテストを受けて合格すれば車の運転をさせて欲しい。年に 1 回でも検査を受けるつもりがある。そういう仕組みにならないかと思っている。免許失効の際に外出ができるよう移動手段の充実を図ってほしい。

2 つめのサブカテゴリー「自分に合うサービスや参加機会の不足」では、若年性認知症の人に合ったサービスがないことや、就労の機会がほしいことなど、現在の社会制度では満たされていないニーズがあることが示されていた。

若年性の私にあったサービスがない。現在カーブスに行っているがテニス等もしてみたい。身体を動かすのは楽しい。

社会参加はできていない。参加できる場所、受け入れ先が無い。

3 つめのサブカテゴリー「仲間や相談できる場所の大切さ」では、仲間や気楽に相談できる場所の大切さが語られていた。

私には相談できるところができたがどこの誰へ相談して良いのかわからない人がもっと沢山いるように思う。

4 つめのサブカテゴリー「経済的な安心感の必要性」では、経済的な不安のないことでの安心感、逆に考えると、安心感をもって認知症とともに生きる上では、経済的に不安がないことが必要と思われることが述べられていた。

経済的な心配があまり無いので気持ちがゆっくりしているのだと思う。

2. 調査協力者が感じた本人評価の課題（※分類については p. 18～p. 22 参照）

アイメッセージ評価に関して調査協力者が感じた点の自由記述は、最終的に以下の4つのカテゴリーに集約された。

- (1) 【アイメッセージを聞くことのインパクト】
- (2) 【調査を通じて垣間見えてくる周囲の支えや思い】
- (3) 【アイメッセージ調査の難しさ】
- (4) 【調査の工夫や調査に関する留意点】

(1) 【アイメッセージを聞くことのインパクト】

カテゴリーの1つ目「アイメッセージを聞くことのインパクト」は更に2つのサブカテゴリー「アイメッセージへの確かな返答」と「合間から聞こえてくる本人の心情」に分けられた。

- 1) 合間から聞こえてくる本人の心情
- 2) アイメッセージへの確かな返答

1) 合間から聞こえてくる本人の心情

1つ目のサブカテゴリー「合間から聞こえてくる本人の心情」では、更に細分するとすれば、以下の4つの項目が語られていた。

- ① 今までの暮らしの継続への希望
- ② 認知症やもの忘れへの不安
- ③ 家族に負担をかけないようにという思い
- ④ 認知症に対する周囲の理解不足への嘆き

その1つ目は「今までの暮らしの継続への希望」であり、以下のような様子が示されていた。

物忘れがあっても、人に迷惑をかけず、1人でがんばろうと意欲的に生活されていました。

2つ目の「認知症やもの忘れへの不安」では、認知症（MCI 含む）と診断されたことや自分の物忘れの強さや将来への不安が語られていた様子が示されていた。

MCI と診断されたのが春のことで、受容されていないこともあり、現在できていることについても間違ったことを言っていないか、していないかと不安を持たれている。独居のため今後の不安も強いです。

3つ目の「家族に負担をかけないようにという思い」では、現在の生活状況と共に以下のような思いが語られていた。

嫁はよくしてくれるが、遠慮してしまう。できるだけ嫁に迷惑をかけず、過ごしたいと思う。

「合間から聞こえてくる本人の心情」の4つ目の項目として「認知症に対する周囲の理解不足への嘆き」についての語りも以下のように示されていた。

認知症に対する周囲の理解に関しては、ご自身から発信しても怪訝な顔をされることもあると聴取。本人にとってサービスとしては申し分ないのかもしれないが、地域の方に認知症に対する理解が浸透しているのかどうかは判断しかねるところであった。

2) アイメッセージへの確かな返答

その2つ目のサブカテゴリー「アイメッセージへの確かな返答」では、認知症の人にアイメッセージ評価に答えてもらう中で、調査員が予想していた以上のボールがストレートに飛んできたことが示されていた。

協力を依頼した際と調査前に主旨を伝え、そういう事なら私が答えると快諾されていた様子で、調査時は少し迷われる質問もありましたが、不快な様子は感じませんでした。

また、そのような様子を見ることで、調査員にとっても、代弁者として同席した家族にとっても、キャッチしたボールのずしんとした手ごたえを感じた様子も記載されていた。

本人に対する聞き取りでは、質問の内容を自ら繰り返し考え答えていた。妻は「まだよう分かってんねんなあ」と感無量な感じであった。

中には代弁者の大きな援助のもとでということもあった様子であるが、今回の周到に準備された調査を通じて、本人の意見が聞くことができた様子も示されていた。

代弁者2名による日常生活に促した質問の解説の助けもあり、全項目本人回答となりました。

(2) 【調査を通じて垣間見えてくる周囲の支えや思い】

次に2つ目のカテゴリー「調査を通じて垣間見えてくる周囲の支えや思い」には6つのサブカテゴリーが含まれ、家族、介護サービス、周囲の人々などの見守りが本人を支援してこそその本人の今の状況があると感じられる様子や、そのように支援する家族などの不安な気持ちが示されていた。

- 1) 黒子的な家族の支援
- 2) 家族の支援で役割を継続
- 3) 家族介護継続への不安
- 4) 発症から診断までの振り返り
- 5) 介護サービスがあることでの安定
- 6) 周囲の自然な見守り

1 つ目のサブカテゴリー「黒子的な家族の支援」では、以下のような観察が記載されていた。

妻も本人の認知症を地域に公表して一斉掃除などの行事には本人が一人で出ても協力が得られており本人の疎外感が少ないと感じた。

2 つ目のサブカテゴリー「家族の支援で役割を継続」では、「黒子的な家族の支援」の結果としての役割をもって生きがいを感じている様子が示されていた。

自宅内でも掃除や洗濯干しなど妻が身体的に出来ない事を役割分担しており、生きがい(存在価値)を感じて生活出来ているので穏やかな生活が実現できていると思う。

しかし、3 つ目のサブカテゴリー「家族介護継続への不安」では、そのような支援の継続性への不安が見え隠れする様子が示されていた。

娘一人が介護者で本人夫婦をいつまで介護できるかという不安はある。

4 つ目のサブカテゴリー「発症から診断までの振り返り」においては、今回のような調査を通じてのことと思われるが、診断までの経緯が語られることもあった様子が示されている。

主治医の認知症発症の記載を参考に発症からの期間を8ヶ月としたが実際、同居の家族(長男)に何うと数年前から短期記憶が保てなかったり午後3時に買い物に行かなくてはならないと思い勝手に出ていくことが増えていったとの事。

5 つ目のサブカテゴリー「介護サービスがあることでの安定」には、介護サービスもあつての本人の安定している様子が示されていた。

今は週5回のデイサービスに行って、歌ってるときが楽しい。色んな役割もあり、生きがいも感じている。

「調査を通じて垣間見えてくる周囲の支えや思い」の6 つ目のサブカテゴリー「周囲の自然な見守り」では、家族、専門職や介護サービスに加えて、地域の人びとの自然な見守りもアイメッセージ評価の対象者に有効に働いていることが記載されていた。

認知症の妻と二人暮らし。子供は1人。子供は遠方に住んでおり、関わりが少ない。近所に住む弟夫婦や姪が見守りや支援を行う。また、地域の方が自然に見守りされている。

(3) 【アイメッセージ調査の難しさ】

これまでの2つのカテゴリーでは、アイメッセージ評価を通じて直接的間接的に本人の思いが聞こえてくる様子や、それを成り立たせている要因についての記載がなされていたが、この3つ目のカテゴリーでは、アイメッセージ評価の調査が難航した様子や、その理由につながる様子が以下の7つのサブカテゴリーを通じて示されていた。

- 1) 認知症について正面から本人と話し合うことの難しさ
- 2) 認知症との自覚の難しさ
- 3) 生活状況自覚の難しさ
- 4) よそ行きの対応
- 5) 加齢など認知症以外の要因によるできなさとの区別の難しさ
- 6) 認知機能低下による理解困難
- 7) 質問内容の意味を正しく伝えることの難しさ

まず1つ目のサブカテゴリー「認知症について正面から本人と話し合うことの難しさ」では、認知症という病気に伴う偏見やイメージなどもあるため、「認知症」という言葉を前面に出す難しさが示されていた。

本人が病名について知っているにしても本人の前で「認知症」という言葉を使うことにはためらいを感じる。

次に2つ目のサブカテゴリー「認知症との自覚の難しさ」では、評価対象者が自分は認知症であると自覚していない中で評価を行う難しさが示されていた。

アルツハイマー型認知症の診断を受けているが、本人は自身が認知症であるとは思っていない。自分が認知症であるならという気持ちで回答頂きました。

3つ目のサブカテゴリー「生活状況自覚の難しさ」は認知症であるという自覚があるかどうかとは別に、認知症のため、ご自身の生活状況が把握できていない中での生活状況の評価になってしまったという意識が示されていた。

排便の失敗があり娘はよく怒ってしまうということがあるが、その時に受けた不快も後では覚えていない感じ。

4つ目のサブカテゴリー「よそ行きの対応」においても、現実には即した回答にはなっていなかったであろう考察が示されていた。

調査は協力的だが、日常訪問時には物忘れ自覚した発言あるがアンケートになると構えて認知症独特の正常時の答えが出た。日常の様子とややかけ離れた結果になることもあった。

5つ目のサブカテゴリー「加齢など認知症以外の要因によるできなさとの区別の難しさ」では、認知症以外の不具合もある中、アイメッセージへの回答が認知症によるものかどうかを見極める難しさが示されていた。

加齢に伴う身体能力の低下で世話をかけ気兼ねすると理解されている。加齢からくる社会参加のしづらさも加わるため、「認知症」と分けて考えにくく、判断に困りました。

6つ目のサブカテゴリー「認知機能低下による理解困難」では、認知機能低下のためア

イメッセージの文言の内容を理解することそのものが難しかった様子が記載されていた。

認知症の進行は強いと感じました。全ての項目に対し自分なりの発言はありましたが内容の理解は難しく、回答内容も的を得ていませんでした。

このカテゴリーの7つ目のサブカテゴリー「質問内容の意味を正しく伝えることの難しさ」では、対象者の理解の状態も関係するものの、それ以外にもアイメッセージの意味するところが伝えにくいと思われることが記載されていた。

言い替えや具体的な内容に質問を言い替えて行いましたが、本来の質問内容とズレが生じていないか不安になりました。

(4) 【調査の工夫や調査に関する留意点】

4つのカテゴリーのうち最後のカテゴリー「調査の工夫や調査に関する留意点」については、以下の5つのサブカテゴリーが抽出された。

- 1) 回答のタイミングや場面の設定
- 2) 代弁者の促しなど返事を引き出す方法
- 3) もともとの本人の人生や性格、人間関係へのスタンス
- 4) 対象者選択のバイアス
- 5) 代弁者が同席することの課題

1つ目のサブカテゴリー「回答のタイミングや場面の設定」では、調査のタイミングや場面を設定する工夫について示されていた。

話しやすい雰囲気づくりのために、認定調査の続きでケアマネジャー同席の形をとった。

2つ目のサブカテゴリー「代弁者の促しなど返事を引き出す方法」では、回答がでにくい場合など、代弁者の協力が行われた様子などが示されていた。

少しボンヤリしている感じで、いつもの会話もはっきり理解しているか、わからない部分あり。調査の項目、ひとつひとつに戸惑う感じだったが、息子さんより「考えすぎると難しいから直感的に答えてみな」と助言あり。なんとか一通り答える。話しやすい雰囲気づくりのために、認定調査の続きでケアマネジャー同席の形をとった。

3つ目のサブカテゴリー「もともとの本人の人生や性格、人間関係へのスタンス」では、アイメッセージ評価への回答が、本人の生活歴や年齢、今回のような聞き取り調査や他者への振る舞いにおける個性が影響するのではないかという考察が示されていた。

調査を通じて色々なお話をお聞きすることになったのですが同じ認知症の方でも性格や年齢からくる受け止め方の違いがあるのかなと思いました。

4つ目のサブカテゴリー「対象者選択のバイアス」では、今回の評価対象者の選択が支

援環境の整った人が対象になることが多かった可能性が示されていた。

家族さんが大変協力的で本人の介護も援助者に相談して下さり、本人の出来る事、困難な事の区別をされ適切な介護をされている。

最後のサブカテゴリー「代弁者が同席することの課題」では、代弁者が同席することが必要な場合や欠かせない場合もあるであろうが、同席することでの回答のゆがみも生じるのではないかという懸念が示されていた。

調査時、妻と娘が同席していたが、本人の思いを話していただきたかったので（妻が側にいると妻のことについて多く語られるため）本人のみ別の部屋で調査を行った。

以上、質的分析によって抽出された4つのカテゴリーを提示した。これらのカテゴリーに関する考察は自由記述（本人の意見・要望）とも関連するところがあるので、その分析を提示した後まとめて考察を行うこととする。

3. 自由記述に関する考察

（1）自由記述から見てきたこと

全体として、調査協力者の調査に際しての課題に示されたように、認知症という疾患に内包された困難さも含む難しい調査であったことが見て取れるが、このようなアイメッセージ評価を行うこととその行間から漏れ聞こえてくる声を通じて、認知症の人からの直接的メッセージが確かに響いてくる様子もあり、認知症とともに生きる複雑な思いが聞こえても来た。その複雑な思いは、認知症の意見・要望にも示されたように、認知症になったショックや日常生活の中で感じる不具合に始まり、地域の人々とのかかわりの中での信頼感もあれば頼れない気持ちにも表われていたが、一方で、そこには前向きな気持ちや家族などの支援が支えになっている様子も示されていた。

（2）アイメッセージ評価の意義

10のアイメッセージ評価を通じて最も大きな収穫は、多くの認知症の人と正面から向き合い、丁寧にその思いを聞き取ったことにあると思われる。逆に言うと、日常生活の中で、認知症の人の思いにこれほど丁寧に耳を傾ける機会がないという指摘もできるであろう。

（3）アイメッセージ評価の実施法について

アイメッセージ評価には調査協力者の自由記述に記録された観察や本人評価と専門職評価の大きなギャップに示されるように、多くの課題を残しているが、対象者の選択など改善できる点は改善しつつも、問いかけの難しさは残したまま、本人へのアイメッセージの問いかけを今後も継続、拡大していくことは重要な選択肢であろう。なぜなら、認知症の人に、現在の文言で問いかけることは原理的にも困難さを伴うことが予想され、今回の分析でも明らかに示されたが、そのような困難さも伴うような問いかけを投げかけることでしか、本人からのストレートなメッセージは戻ってこなかったかもしれないし、今回の

分析で漏れ聞こえてきたような心情も聞こえなかったかもしれない。

自由記述の分析を通して、アイメッセージの定量評価だけでは読み取れなかった多くのことを読み取ることができたが、ここでも認知症という疾患が内包する難しさはあり、認知症の人が直接発することができなかったメッセージも多数あるかもしれない。そのことも念頭に置き、今回の解析結果を解釈することが必要であろう。

（４）今後への展望

今回の調査では、本人の意見・要望にも表われていたように、家族からの支援が十分な人、そして、介護保険サービスに満足感を抱いている人が多数含まれ、調査対象者にバイアスがかかっていた可能性もあるが、地域の人々の理解や社会が家族を支援することも含む社会での環境づくりが進めば、どのような認知症の人が調査対象者となっても、今回の本人評価と同じような「イエス」が聞かれるようになるかもしれないということかもしれない。それは岡野雄一氏の「ペコロスの母に会いに行く」で描かれたように「認知症になることもそう悪くない」社会となるのかもしれない。

《協力者》

杉原 百合子（同志社女子大学看護学部看護学科 准教授）

松本 瞳（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 修士課程）

Ⅱ. 本人ミーティング・家族ミーティング発言まとめ

1. 南部会場

以下、色駆け部分は家族の発言を意味する。

1) 私は、周囲のすべての人が、認知症について正しく理解してくれているので、人権や個性に十分な配慮がなされ、できることは見守られ、できないことは支えられて、活動的にすごしている。

no	発言	コード	カテゴリー
1	10のアイメッセージの基本の「き」は1の1だと思ってます。それは10個すべてにかかわってくるのかなというふうに、私たちは考えました。	アイメッセージ1が基本	アイメッセージ1が基本盤
2	私も1番が1番大きいかなという風に思ってるんですけども。	アイメッセージ1が大きい	
3	宇治市の施策がほんとうに行き渡ってて、生活しているマンションの中とか、毎週通っている教会の中とか、そういう生活圏の中では、皆さんほんとうに主人を通してですけども、理解された中で、ほんとうに恵まれた中で生活しているというのが実感です。	宇治市の生活圏の中では理解され、恵まれている	周囲の認知症についての理解が進んでいる
4	自分が暮らしている地域では、ある程度、理解があると感じている。	生活圏の中では理解されている	
5	うちの人はすごく周りに恵まれて、こうして市民でもないのに宇治市にお世話になって、色々いろいろなことをさせてもらって実現してる。	本人は周りに恵まれて、活動を実現している	
6	恩恵をたくさん受けて、生きる力もたくさんいただいたなという風に思ってるんです。	恩恵や生きる力をもらった	
7	周りの理解度というのは、(2015年の中間評価後)この2年半でものすごく私たちの周りでは変わってます。	周囲の理解度はこの2年半ですごく良くなった	
8	全然知らない人たちが声をかけてくれる。それに対しては、家内は非常に喜んでます。	近所の知らない人が声をかけてくれ、本人は喜んでる	
9	家内の人生の中では、最高の時やないでしょうかね。一番幸せな時やと僕は思ってます。	本人の人生にとっては最高のとき	
10	早い段階で公表しているのがよかった。周りの人の理解を得られた。	早い段階での公表によって周囲の理解が得られた	
11	身近な方はよく理解してくれている。診断を受けた10年前からすればよくなっている。	10年前と比べれば理解が進んでいる	
12	すべての人が認知症を理解してくれているとは思えない。	すべての人は理解していない	周囲の認知症についての理解が進んでいない
13	診断を受けた当時は支援は全くなかった。	以前は支援は全くなかった	
14	(周囲の方々は)まだまだ理解できてないのが多いです。	周囲の方はまだまだ理解できていない	
15	地域の自治会の人の認知症に対する理解度は相当低いと思います。	地域自治会の認知症の理解は低い	
16	本人にしたら、私自身もそれはまだ大丈夫ですよ、それはもう少し認知症のことをよく考えて、よく研究してもらってから発言してほしいなということがあります。	認知症に理解のない発言がある	
17	それぞれ症状が違うのが当たり前ですし、認知症の人はもう何もできない、これもできない、あれもできないというふうに思われてるということ自体が、まだまだ認知症を分かかってもらってないというのが、いつも実感することなんです。	認知症の人は何もできないという不理解	
18	何もできない人と決めつけられてしまう。	何もできないという不理解	
19	(ボランティアの)中でやはりすごく厳しい言葉を聞きます。主人は見た目、分からないけれども、よく話をしていたら「そうなのかな」という感じで見られて、「それでボランティアに来ているのはどうかな」と言われることもあります。	認知症の人はボランティアができないという偏見	
20	認知症の人は何を言っているのか、聞いているのかというのが分かっていないのかなというふうに捉えられています。一応は分かっているんですけども、主人はシャイなので、全	認知症の人は分かっていないという誤解	

	然自分の気持ちを人の前で言えない感じなんですよ。（中略）その辺は誤解されるというふうに思います。		
21	彼女も10年間勤めたパートを社長のほうから辞めろと言われた。でもその社長がもうちょっと認知症のことを理解できていたらと思う。	職場での理解のなさ	
22	お付き合いをしていく間に、あ、そんな感じなんやというふうに思われたら、割と離れていかれているというか、気を使われて。	周囲が離れていく	
23	（認知症であることを後から）知られて、「かわいそうにね。おつらいでしょう」と言われるのは嫌です。ですから（中略）私は認知症なんだと最初に言っちゃうわけです。	認知症への同情は嫌	
24	自分のことを人に語るということのを避けてきてしまっているんですね。	自分のことを人に語るのを避けている	
25	最初に出会ったときに、こういう状態なんですよということを言いにくくて。	最初から認知症と言いにくい	
26	私たちはオープンにしたほうがいいのか、悪いのか、まだまだ今、抵抗を感じてる時なんですけど。	認知症をオープンにすることに抵抗感がある	
27	あまりばれないようにみたいなことで、それでも続けられるかなというふうなところから始めて、でも、絶対それは皆さんに必ず分かることで、なんか分かりにくい話してるかとか、そういうところで、結局自分から引いてしまうことになってしまうので、やはり前には進めない感があります。	自分から引いてしまって前に進めない	
28	引いてしまわないですむような世間というか社会だったら。	自分から引いてしまわないですむような社会だったら	
29	取材を受けた新聞社が「患者」という表現を使っていて落胆した。	患者という表現に落胆	
30	認知症の人にかかわっている医療・福祉・行政の人には「患者」という言葉を使って欲しくない。	患者という言葉は使って欲しくない	
31	認知症患者と一括りにせず、一個人として接して欲しい。	患者ではなく一個人として接して欲しい	
32	疾患に対する「患者」という言葉に違和感はない。	患者という言葉に違和感はない	
33	認知症に対する理解だとか、ボランティアさんにしてもそうですし、広がりがあるのに、一方では全然というか、全くそうじゃないというところがあるので、どうにか足がかりができたらいかなという風に今思っているところです。	認知症に対する理解は、広がりがある一方で、全く理解されていないところもある	認知症についての理解が進んでいるところとそうでないところのギャップがある
34	自分たちの周りの人の理解は進んでる。でも、世間一般を考えると、まだまだなのかなというところで、行ったり来たりしてます。	認知症に対する周囲の理解と世間一般の理解のギャップ	
35	私は頑張らないことがいいと思うんです。	頑張らないことがいい	
36	努力をして、自分の殻を打ち破らないと、いつまでたっても前に動けませんので。	自分の殻を打ち破らないと前に動けない	当事者本人の姿勢
37	できるだけ前を向いていきたいです。最初はもうちょっと不安だったんです。来てよかった。	できるだけ前を向いていきたい	
38	「私は、周りのすべての人が」というとき、これはどこまでを「すべての人」としているのか。なぜ「大半」とか「ほとんどの人」ではまずいのかということなんです。	周りのすべての人に理解してもらう必要があるのか	
39	周りの人はどこまでの範囲だろう。家族ぐらいか。すべては無理じゃないか。	周りの人は家族ぐらいか	すべての人に理解してもらう必要があるか
40	親しい人には知ってもらいたい、親しくない人にはあえて…という気持ち。	親しい人に理解してもらえたら	
41	一緒に活動しているパートナーには理解して欲しい。	パートナーには理解して欲しい	
42	洛南病院に行ったということで、みんなと、メンバーと出会えたわけですね。それで、私たちの人生が変わっていった。（中略）どうしてこう変わったかなと思うと、すごく人との出会い、場との出会いというのがすごく大きいと思うのです。	場との出会い、人との出会いで人生が変わった	場との出会い・仲間との出会い

43	私にとったら仲間がいますので、その仲間と会うということが、精神的なことでもすごくいい形で作用しているのではないかなと思っています。	仲間と会うことが精神的にいい形で作用している	
44	親しい人とのかかわりが大事。	親しい人とのかかわりが大事	仲間から周囲へ理解を広げる
45	私は、仲間を作ることから始めましたので、仲間にまずは理解してもらう。	まずは仲間に理解してもらう	
46	いつも同じ人ばかりと話をしても、同じ話になって、理解はしてくれるようになりますけれども、そこから進まない。だから最終的には、理解してもらいにくい人も含めて、意思の疎通ができるような関係を作るような作戦がいるのではないかなと思っています。	最終的には理解してもらいにくい人にも意思の疎通ができるような関係を作る	
47	認知症と認めていない人だっている。声を上げられない人はたくさんいる。	声を上げられない人が沢山いる	認知症をオープンにできる社会に
48	主人がいつも言うのには、私たちみたいな軽い人が沢山いらっしやいますよね。でも認知症という声をあげられない。私たちのようにあげられない人が沢山いるんです。	声をあげられない軽度認知症の人が沢山いる	
49	それはやはり、今の社会が言えないような社会になっているんじゃないかということを主人も言っているんですけども、言えるようになれば一番幸せなんです。それで、やはり言えたら、私たちも一番楽なんですけれども、それをなんとか堂々と公表できるような社会にして欲しいなというのが私たちの願いです。	認知症を堂々と公表できるような社会にして欲しい	
50	本当に認知症を社会が理解してくれているなら、堂々と認知症だと公表できるのに。	認知症を理解してくれている社会なら認知症を公表できる	
51	当事者（本人・家族）が認知症ですと言える環境であって欲しい。	認知症だと言える環境になって欲しい	
52	「周りの全ての人が認知症について正しく理解してくれている」と私は思うのですが、だけでも「正しく理解」というのが、一体何を指すのかわからない。	認知症の正しい理解が何を指すのかわからない	認知症の人の個別性・多様性
53	一つのタイプだとか、なんかそこを見て、それで認知症が分かったなどと言ったら、分かったというか理解したと言ったら、それは間違いじゃないかなというのが私の最初にそこ（アイメッセージ1）を見たときの感想なんです。	一つのタイプを見て認知症を理解したと言うのは間違い	
54	個人個人で違いがあるんだと。・・・中略・・・だから最初から思い込んで、認知症の人はこんな人だという思い込みを社会全体が持ってはまずいのじゃないかなというようなことを思いました。	認知症は個人個人で違いがある	
55	症状に個人差があるので、どうしていいかわからないことが多々ある。	症状には個人差がある	
56	認知症はそれぞれの人がそれぞれの認知症が出ているわけですから、まずそれを区分して、どうのこうのと分類すること自体が難しい。	認知症はそれぞれの認知症があるので分類するのが難しい	
57	個々の当事者を見て、出来ないことをサポートして欲しい。	個々の出来ないことをサポートして欲しい	
58	支えられることに抵抗や自己嫌悪を感じることもある。	支えられることへの抵抗感	
59	私は理解が進むために努力している。自ら歩く認知症と言っている。	歩く認知症	理解が進むためには当事者の社会参加が必要
60	より理解が進むために必要なことは、多くの当事者が表に出ること。	理解が進むためには当事者が表に出るべき	
61	より日常の当事者が社会に出るのに準備をするということがあるとすればですけどね。（中略）要するに、よく知ってもらうためにはやはり当事者が外に出ていくべきだと思っています。	認知症を知ってもらうためには当事者が外に出ていくべき	
62	見てもらったらって変ですけども、理解してもらうためには、知ってもらうこと、一つのタイプとしてね。逆にいうと、（中略）認知症と言うけれども、そんなにみんな同じじゃないので、その辺を知ってもらうということも一つかと思っています。	認知症の一つのタイプとして知ってもらうために自分を見てもらう	
63	ですから、私一人が頑張っても全然意味がない。	声を上げる当事者が増える必要性	

64	当事者と接する機会が増すことで周りが変わる（マスコミも）。	当事者と接すれば周囲が変わる	
65	多くの当事者が公表することで、認知症の理解が進む。社会を変えるのは当事者。	社会を変えるのは当事者	
66	認知症が正しく理解されるために、認知症の疾病観を変えるために努力している。	認知症の疾病観を変える	
67	自治会として、いわゆる町内会として（認知症の）勉強会するのはうちが初めてだったんです。	町内会として認知症の勉強会をするのは初めて	
68	家族の方が認知症になっても、決して恥ずかしいことではないし、隠すことでもないし、それに65歳以上になれば7人に1人認知症になると。誰がなってもおかしくない時代で、できるだけ引け目を感じずに認知症になったら応援すると。	認知症になっても引け目を感じないように応援する	近所で認知症についての理解を進める必要性
69	当事者、あるいは当事者の家族、そういう人がすぐく肩の荷が降りたと。あるいは周囲の方にサポートしてもらうことによって、大変、結果的に公表し良かったと。	認知症をオープンにし、肩の荷がおりる	
70	より理解が進めのために必要なことは、子供たち・若者への教育。	理解を進めるためには子どもや若者への教育が必要	
71	正しい理解を進めるために、教育の現場へというのをずっと言ってきたことなんですけれども。	教育現場で認知症の正しい理解を進める	教育現場で認知症についての理解を進める必要性
72	今後はぜひ教育の現場に、認知症の正しい理解ということを盛り込んでもらいたいというのがあります。	教育現場で認知症の正しい理解を盛り込んで欲しい	
73	私は何をやったかという、小学校で子どもたちの前で「私は認知症です」という話をしました。	小学生たちに自分が認知症であるという話をした	
74	小学校の子どもたちにお話しした経験を踏まえまして、単に未来の子どもたちだけでなく、その場に居合わせた先生、その反応というのがものすごく大きかったんですね。	教育現場で、小学生に加えて、先生からの反応が大きかった	
75	できるだけ幅広い方に認知症をご理解いただくということが大事やと思ってるんですけども。	幅広い人に認知症を理解してもらうことが大事	
76	幅広い方に、できるだけ、この（京都式オレンジプラン評価の）結果を知っていただきたいというふうに思いました。	幅広い人に京都式オレンジプラン評価を知ってもらいたい	幅広い府民一般に認知症についての理解を進める必要性
77	京都府民の一般の周囲の方ですね。そういう方へどうかたちでこれ（京都式オレンジプラン評価）が伝わっていくのか。	京都式オレンジプランが府民一般にどう伝わるのか	
78	皆に伝えていこうと思ったのは、イベントでマイクを渡されての一言から。	伝えていこうと思ったきっかけ	
79	市長と面談し、その後登壇、大勢の人の前で話す。人が変わった。	大勢の人の前で話すように	
80	デイサービス、料理、お茶摘み、支えられながら、活動的にやっている。	支えられて活動的に	診断前と同様、活動的
81	特に家族として、1の4番に関してましては、私は本当にそう思う。	家族として、診断前と同様、活動的に過ごしている	
82	1の4に関しては、やっぱり本人は現役のときのことを思い出して、違うよなあ、全然違う生活だよなという時と、それから退職したときのことを考えると、今のほうが充実してるよなという時と、その時によって、やっぱりこれは症状のせいだと思うんですけども、行ったり来たり、そんなことをしてます。	現役時か退職後か、比較時期によって活動的かどうかは異なる	比較時期によって活動的かどうかは異なる
83	包括と一緒にあって、卓球教室を立ち上げようかなと画策はしてますけどね。	包括との協働で卓球教室を立ち上げ	生活圏域での理解と活動の場
84	歩いていける距離での卓球教室を今、目指してるんですけどね。	歩いていける距離での卓球教室	
85	地域の人たち、別に認知症とかお年寄り対象とかそういうのではなくて、限定じゃなくって集える人が集まるという、集まってやるというやつをしてるんですね。	認知症・高齢者に限定しない地域の集まり	認知症・世代を超えた理解と活動の場
86	包括が入っている高齢者総合福祉センター、施設でやってるので、児童館が付いているんです。そしたら、子どもたちが来るようになりまして、小学生の子が混じってます。卓球です、一緒に。で中学生も来てるんです。	高齢者総合福祉センターと児童館隣接により、小学生・中学生とも交流	
87	デイサービスに中学生が職業体験にやって来たんです。その子たちといっぱいしゃべれてよかったなと思います。	中学生との交流がよかった	

2) 私は、症状が軽いうちに診断を受け、この病気を理解し、適切な支援を受けて、将来について考え決めることができ、心安らかに過ごしている。

no	発言	コード	カテゴリー
1	信頼できる医師との出会いによって、早期に受診・診断された。適切な支援につながった。	信頼できる医師との出会い	早期診断・支援を受けることができた
2	周りに認知症の当事者がいて、それを見てきたことが自分自身の早い発見につながった。	周りに認知症の当事者がいて早い発見につながる	
3	私の家内は2番の軽いうちに診断を受け、病気を理解して過ごすことができているという感じです。	軽いうちに診断を受け、病気を理解している	
4	そこから公社さんとかの手助けをいただきながら、いろんなサービスを受けさせていただいて、洛南のテニスもそうですし、れもんカフェもそうです。デイサービスのお仕事もそうです。	軽いうちに適切な支援を受けることができた	
5	最初に認知症連続講座を受けまして、それでちょっと自分もおかしいん違うかなということで、診察を受けて、早いうちに分かったんです。	認知症講座を受けて、早いうちに診断を受けた	
6	今は支援を受け、自ら活動することによって、前向きに日々を過ごすことが出来ている。	支援を受け前向きに過ごしている	
7	一日一日を楽しく積み重ねて、それを積み重ねていくことによって、将来につなげていけると思っています。	日々の楽しさの積み重ねが将来につながる	
8	自分も認知症のことが最初はよく分からなかった。	最初は認知症のことがわからなかった	認知症の理解と将来に向けての過ごし方
9	認知症を知らないうちに診断された。当人は怖かった。わからないことばかり。	認知症を知らないうちに診断された	
10	当事者は言うに及ばず、家族に対しても、認知症に対する正しい理解をしてもらうよう、サポートする必要がある。	家族も正しい理解ができるようサポート	
11	病気を理解し、車の運転を止めた。	車の運転を止めた	
12	絵画教室で、認知症と対峙した（向き合った）。	認知症と向き合った	
13	認知症とは闘っても良いことはない。仲良くつきあって行くより他に道はないと悟った。	認知症とつきあっていく	
14	拘泥から逃れる術を考えた（あっち向いてホイ）。	拘泥から逃れる術	
15	忘れることへ備えた。	忘れることへの備え	
16	早くに記憶は妻に委ね、忘れるストレスから逃れる工夫をした。	記憶を委ねストレスから逃れた	
17	進行性の病気だという自覚があるので、出来るうちに出来ることをやらなければならないという思いはあるが、いつまで出来るかという不安がある。	進行性の病気の自覚といつまで出来るかという不安	
18	介護施設（デイサービス）の利用を自ら早期に決めた。	デイサービスの早期利用	
19	私たちは、この2人で活動するというのを決めたっていうか、そういうふうな気持ちになれたというのをよくよく考えてみたんですが、最初に行った洛南病院のテニス教室というのが、ペアで、家族と本人と一緒にやるというところから出発したんですね。	本人と家族と一緒に活動することから始めた	本人と家族がパートナーとしてペアで考え・行動
20	ばらばらという考えは全くないので、いつも2人一緒にいろんなふうに物事を考え、行動するというふうなのが普通になってしまっているのです。	本人と家族と一緒に考え・行動	
21	将来について自分では決められないので夫が決めている。	将来については夫が決めている	
22	早期に診断を受けることは出来たが、この病気を正しく理解し、適切な支援を受けるまでに時間がかかった。	診断後支援を受けるまでに時間がかかった	診断後に支援につながるまでの苦悩
23	診断を受けた時、就労していたので、将来について考え決めることがなかなか出来ず、苦悩した。	将来について考え決めることができず苦悩	
24	就労しているときに診断を受けましたので、すごく苦しかったですね。（中略）すごく孤立感孤独感ということですか、別に誰にしかと（無視）されたわけでもないですけども、勝手に自分たちでそういうふうに進んで、自分たちで追い込んでいったわけなんです。	診断後の孤立感・孤独感	
25	仕事というものを続けていいのかどうかということがすごくあったということで、まず、第一は苦しみがあったということ。	診断後の仕事の継続についての苦悩	

26	これからどう暮らしていったらいいんだろうというのが、すごく常に不安があって、洛南病院にいて、れもんの仲間と出会うまでが、一番苦しい時期を過ごしたということがあったんです。	診断後の生活についての不安・苦悩	最初の支援につながるハードルが高い
27	その時って、いろいろ病気のこととか、ネットとかでも見ますが、何か素通りしていくんですね。悪いことばっかりが残っていくというかたちで、なかなか前向きになれない。	診断後の前向きになれない心境	
28	早いうちに一回診断を受けて、自分で理解しているということと、あと、まだ私は認知症じゃないということもあります。その抵抗はあります。	認知症受容には抵抗感もある	
29	私もそうだったんですけれども、そこに行こうというハードルがやっぱり高いんですね。（中略）最初の一步ってなかなか踏み出せない。	最初の支援につながるハードルが高い	
30	どうにか引きこもりの人たちを少しでも何か、みんなが、おれんじサロンに集ってきてくれるような募集の仕方というか、そういう方法ないか。	引きこもりの人をおれんじサロンにつなぐ方法	リンクワーカー
31	診断を受けたスタートラインからの支援がより重要になると思うが、出来ていないと思う。	診断を受けたスタートラインからの支援が重要	
32	早期の出会いが最も重要と思われる。早期受診のすすめ。早期に支援者と出会うこと。	早期の支援者との出会いが重要	
33	私たちはちょうど診断を受けたときは働いてましたので、そのときにリンクワーカーさんがいたらよかったなという思いがすごくありました。	診断時にリンクワーカーがいればよかった	
34	そのときに支えてくれた人たち、そういう支援があったら違ってただろうなというのをひしひしと感ずることがありました。	診断後の支援があったらという実感	
35	精神的な支えがあったら、もっと楽に生活を再構築するということを考えて、実行できたんじゃないかなというふうに思っています。	診断後の精神的支えがあったら	
36	リンクワーカーの必要性というのは、私が診断直後、一番そういうのが欲しかった。	診断後にリンクワーカーが欲しかった	
37	これから（認知症に）なる人にとってのリンクワーカーは、医療と直結した場であってほしいと思いますね。	医療と直結したリンクワーカーを希望	
38	宇治の場合は、本当に包括の方が頑張って、リンクワーカー的、認知症コーディネーターの方がかなり頑張って、いろんな本人の誘い出しができてると、私の近くでは感じてます。	認知症コーディネーターの頑張り	
39	ともいきフェスティバルでの経験。講演会前の本人アピールから、講演会・会場から当事者が質問、認知症オープンカフェへ当事者が来訪・本人ミーティングへとつながった。	当事者と当事者の出会い	当事者による相談窓口
40	ハードルが高い人をどう誘うかということで、私は去年の12月のともいきフェスティバルの講演会のあとの会場から、何のためらいもなく、本人ですって手を上げた方がいらして、それからカフェにも見えたんですね。	ハードルが高い人をどう誘うか	
41	ハードルが高いというふうに思ってる現実も確かにありますけれども、意外とオープンにすると、オープンにさらっと出てくる人もいると思うんですね。	当事者がオープンにすると、オープンにしやすい	
42	本人同士の相談窓口の設置、それをお願いしてます。仙台では、おれんじドアというのをスタートさせましたね。あれに似たかたちで、本人が本人を呼ぶ、そんな時間、場所をきちんと決めたものを。	本人同士の相談窓口の設置の提案	
43	テニス教室、れもんカフェで、仲間との出会いに恵まれた。	仲間との出会い	仲間との出会い・居場所・活動の場（ピアサポートの場）
44	テニス教室が始まるまでの約10か月間というのは、私にとって一番大変な時期でした。でも、洛南病院のテニス教室と出会えて、そういう人がいなくても今日があります。	診断後仲間に出会うまでが一番大変だった	
45	1年半たって進行してるはずなんだけれども、立ち止まって勇気をもらえたというのは、道が開けたというか。改善した訳じゃないんですけど、気持ち的にすごく大きく変化しました。	仲間に出会ったことでの気持ちの変化	
46	私の主人は軽いうちに診断を受けて、適切な皆さんと一緒に、仲間に出会っていただいて、それはすごくありがたいんです。	軽いうちに仲間と会えた	

47	こういうこと（軽いうちに診断を受けて、仲間と会えて、テニス教室に参加していること）が広くできればいいなと主人もいつも言っています。	仲間とつながる場が広がればいい	
----	---	-----------------	--

3) 私は、体調を崩した時にはすぐに治療を受けることができ、具合の悪い時を除いて住み慣れた場所で終始切れ目のない医療と介護を受けて、すこやかにすごしている。

no	発言	コード	カテゴリー
1	お年寄りが孤独死されていた。（中略）認知症が、もうわかっているなら、地域包括に連絡はなかったのか、そういうなをすごくつくづく感じました。	一人暮らしの認知症の方の存在を地域包括に連絡できなかったのか	医療と福祉の連携により地域包括が認知症の人の存在を把握・支援する必要性
2	認知症の方、一人暮らしというのは、やっぱり地域包括と密な関係を持ってもらって、やっぱりいろいろな方に、1週間に一遍でも、3日に一遍でも訪ねてもらったら、そういうことはなかったと思うんですよ。	一人暮らしの認知症の方を地域包括が訪問できなかったのか	
3	病院のほうの認知症の方がこの住所に住んでおられるんだったら、やっぱりその包括に連絡して、ちゃんとやっていただけるようにしていただきたいと思いました。	一人暮らしの認知症の方の存在を病院から地域包括に連絡できなかったのか	
4	包括って案外、把握されてないんですよ。だから、その地域、地域に、例えば若年の人がどれだけいるかというのも、全然分からないと言いますし。	地域包括は若年性認知症の方が地域にどれくらいいるか把握していない	
5	包括はその地域のぶんの把握っていうのがなかなかできてない状況じゃないかなというか、仕事で手いっぱい、もう、あつあつあつあつというのをよく聞きますし。	地域包括は地域の認知症の方の把握をする余裕がない	
6	（病院のドクターが）僕は、患者さんがまだ認知症という診断に至ってなかったら、包括なんかには連絡しないよと。進んでからだったら包括には繋ぐけどねっていうのを先生に言われたことがある。	早期の方を病院は包括につなげない	早期から医療と福祉が切れ目なくつながる必要性
7	知り合った方々を見ても、何か包括につながったのはすごく進行してからで、やっと包括につながったというような話も聞きますし、治療のことは病院が見てくれるけど、生活のことに關しては、なかなかというのをいつも言ってるんですが、そういうのはすごく多い。	包括につながるのは進行してからで、病院は治療はしても生活の支援をしてくれない	
8	洛南病院は良かったけれども、どこどこ病院だったらもう何もしてくれなかったとか、何も繋いでくれなかったとか、そういうことを一切教えてくれないっていうことが、すごくあるんじゃないかなというのを、病院間においてあるんじゃないかなというのをあちこちで耳にするんですね。	病院・福祉の連携について、病院間格差がある	
9	医療とか行政、福祉の横のつながりというのを持っていただかないと、いつまでたっても、私たちが何か苦勞を、そこにたどり着くのに、なかなか支援にたどり着くのに、どんどん進行してからやっとたどり着いたとか、支援を探すのに必死にならなければたどり着けないという状況は、改善されないんじゃないかなというふうに思うんです。	医療・福祉のつながりがないとなかなか支援にたどり着かない	
10	不安なことがあればすぐかかれる病院が近くにある。決めている。	すぐにかかれる病院がある	かかりつけ医の必要性
11	認知症への理解が乏しく、診療に消極的な医師がいる。	認知症への理解が乏しい医師	
12	福祉サービス公社の存在は非常に大きい。相談にのってくれた。レモンカフェに行くようになった。地域支援センターだけでも違う。	福祉サービス公社の存在	ニーズに沿った介護サービスの必要性
13	デイサービスに安心して任せられる。	デイサービスを安心して利用	
14	デイサービスでは、夫婦内でできないことを、同性のスタッフが助けてくれる。	家族・デイサービスの連携	
15	認知症の人のためのサービスや設備のある施設がほしい。	認知症のためのサービス	
16	中等度の症状の方の利用できるサービスが希望。	中等度の認知症のためのサービス	
17	宇治市内には認知症型のデイサービスが8つあるのですね。見ていますと、8つとも日曜日は全てやってないですね。ところが、普通の一般のデイサービスは、日曜日やっているとところは半分くらいあります。	一般のデイサービスは半分くらい日曜にやっている	
18	うちの家内は、地域密着型の認知症対応のデイに行っています。そのデイは宇治市に7箇所あるのですが、日曜日にやってくれているデイが1箇所もないんです。	認知症対応型のデイサービスは日曜にやっていない	

19	ある人から相談を受けたのは、短時間のデイの利用ができないものか。というのは朝9時くらいに行って、お風呂にだけ入って12時には帰ってこれる、3時間くらいのショート のデイがどこもやってくれない。	短時間のデイサービスがやっていない	
20	現実的なショートステイが、例えば土曜日の夜にあればいいのですが、実際は土曜日の夜、あるいは金曜日のショートステイは非常に取りにくいですね。	金曜・土曜夜のショートステイが取りにくい	
21	全てデイサービスのスタッフの方との連携で、結果、皮膚科の先生もいてはりますので、本人はどこが痛いとか痒いとかをほとんど言えないですけれども（中略）。認知症が厳しい中では、デイサービスも（中略）気持ちよく利用させていたでいます。	家族・デイサービス・医療の連携	介護と医療の連携の必要性
22	住み慣れたところで健やかに過ごすためには、「医療と介護の支え」に加えて「地域の人みんなの支え」という文言が必要。	医療と介護だけでなく地域の人の支えが必要	医療と介護にとどまらない地域の支援の必要性

4) 私は、地域の一員として社会参加し、能力の範囲で社会に貢献し、生きがいを持ってすごしている。

no	発言	コード	カテゴリー
1	4、5、9に関しては、少し折り合いをつけながら、消極的な評価で、まだまだ物足りない、できてない、こうあったらいいなという思いは沢山あります。	評価としてはまだまだ達成していない	不満足
2	地域の人たち、別に認知症とかお年寄り対象とかそういうのではなくて、限定じゃなくって集える人が集まるという、集まってやるというやつをしてるんですね。	認知症・高齢者に限定しない地域の集まり	認知症・世代を超えた交流の場
3	包括が入っている高齢者総合福祉センター、施設でやってるので、児童館が付いているんです。そしたら、子どもたちが来るようになります、小学生の子が混じってます。卓球です、一緒に。で中学生も来てます。	高齢者総合福祉センターと児童館隣接により、小学生・中学生とも交流	
4	最近まで・・・中略・・・働いていました。やはりそこでコミュニケーションがちょっと取れなかったんです。（中略）結局は孤立してしまう状況になってしまったこともありました。・・・中略・・・それで段々しんどくなってきて、結局仕事を辞めたりとか。	コミュニケーションがとれず、孤立して、しんどくなってきて、仕事を辞めた	社会からの孤立
5	結局はあまり社会に出られなくなってしまう状態、今はあるので。	社会に出られなくなっている現状	
6	生きていく上でも、周りの方との接し方でも、仕事というのはすごく大事だと思うんですね。	生きていく上でも周囲とのつながりとしても仕事は大事	認知症本人の就労の場・就労支援（社会参加・社会貢献・労働への対価・生きがい）
7	毎日でなくてもいいし、数時間でもいいので、お話ししながら、いろんな方と接しながらお仕事ができる場所があったら一番嬉しいと思います。	短時間でも仕事ができる場があれば嬉しい	
8	常設型カフェに夫婦で就労したい。	常設型カフェで就労したい	
9	もっと能力を発揮できる場。単なる趣味、レクリエーションで過ごすだけではどうしようもないということが言いたかったことです。	趣味・レクリエーションだけでなく、能力を発揮できる場が必要	
10	本人各々が持っている能力を保持、発揮できる場が必要と思う。趣味やレクリエーションなどだけではなく、茶摘みの就労など、とくに若年性ではできることは沢山ある。	趣味・レクリエーションだけでなく、能力を発揮できる場が必要	
11	町田市で認知症の患者が洗車の作業をやって、対価を得ている。働く場所というか、自分の居場所というか、そういうことをやっている。いま、楽しむのもいいんですけども、そうではなくてもう一つ、社会貢献になるとか。	楽しむだけではなく、社会貢献になるような、働く場所が欲しい	
12	与えられるのではなくて、自分たちがそういうことを企画して、そして行動を起こして、それに対して評価が得られる。	主体的に行動を起こして、対価を得る	
13	レスポンスがあるような仕事がしたいなというふうに思っています。	レスポンスがある仕事がしたい	
14	働いて対価を得るということを、ぜひこの場でと思ってます。	働いて対価を得る場が欲しい	
15	本人にとって、労働に對価を得るとということが、こんなにも必要なことかとかいうか、これがあとに続く人のために、ぜひ形にしてほしいと思うんですけども。	認知症本人にとって労働に對価を得ることの必要性	

16	働いて対価を得る。単に支援の場所だけじゃなくて、それも支援の場所なんですけれども、そういう場を作ってほしい。それを外に広めることによって、また、世の中の理解度というのはさらに進んでくると思いますし。	単に支援ではなく、認知症本人の就労の場が広まることにより、世の中の理解が進む	
17	デイサービスの中でも仕事をしている（見守り、看板づくり、畑）。	デイサービスでの仕事	
18	（デイサービスの）中でできたものを対価を得たいという希望がすごく大きいんですけども、介護保険の縛りの中でそれができない。	デイサービスで作ったものを売ることは、介護保険の中では難しい	
19	介護保険というのは家族のためにできた保険ではないかなと私は思っています。でも、絶対に当事者のためにあるべき介護施設という考え方が、特に認知症の場合は必要じゃないか。	家族のための介護保険ではなく認知症本人のためにある施設が必要	
20	本人が生きがいを持って、持つて能力を保持するためにも、その介護施設の中でも生きがいを持てれば良い。	認知症本人が能力を保持し、生きがいを持つて施設	
21	今、初期の方のいろいろな策が検討されてますけれども、それが介護保険・介護や、今現在あるサービスの邪魔をしないように連携しながら、何が本人にとって一番大事かということ、ぜひ京都モデルのようなものを作って欲しいなということをお願いしています。	認知症初期における本人にとって大事なサービスの開発	
22	認知症を公表して、教会での支援者、住んでるマンションの人々との出会い。	地域の人々との出会い	地域の一員として社会参加
23	馴染みのお店（床屋、喫茶、食事ほか、商店街のお店）。	馴染みのお店	
24	れもんカフェで、帰り道、カフェ参加の地域の方々から花束をもらった。	れもんカフェ	
25	認知症にならなければ出会わなかった、多くの新しい出会いに感謝している。	認知症にならなければ出会わなかった新しい出会い	
26	引き合わせていただけるような場があれば、仲間があればいろんなことができます。	仲間がいればいろんなことができる	
27	包括と一緒に、卓球教室を立ち上げようかなと画策はしてますけどね。	地域包括と卓球教室を立ち上げ	地域包括との協働
28	歩いていける距離での卓球教室を今、目指してるんですけどね。	歩いて行ける卓球教室	
29	4番の私は私なりに社会に貢献することができている。これは家内の場合は「×」にしたんです。（中略）（支援者の方と）いろいろお話するなかで、多少は家内なりに、常に意識しなくても、結果的に第三者から見ると貢献してることになるんだということで、その答えを訂正をしたんですけど。	社会貢献できているかは、評価者の立場によって違う	認知症とともに生きる経験の伝達
30	Aさんの存在は、うちの家内にとって大変貴重な存在やから、社会貢献してもらってると思ってますよ。	当事者にとっての貴重な存在としての社会貢献	
31	テニスがスタートした先輩、本人の存在というのは、れもんの仲間からの贈り物という、あの一言に全部含めましたけれども、本人にとって、どんなに希望かということ、そのスタートなんです、この、れもねいどの。	認知症とともに生きる先達は本人にとって希望の存在	
32	講演依頼がきた時に、どうする、行くかって言うたら、行くって言うたんですね。もっと世間の人に、若年性認知症を広めたいから、どんどんお話ししにいくよって言って。	若年性認知症の講演への意欲	地域における認知症啓蒙活動
33	講演会活動等、生き生きとしている。	講演活動で生き生きしている	
34	自分で、その町内会の近隣の場所というか、私がそういう風に皆さんに、使命というと大層なんですけど、色々教えてあげていかないといけないのかなあと。	町内会の認知症啓蒙への意欲	
35	高齢者の集い、認知症されとる方の結果的に批判になるんですね。（中略）だから、啓蒙じゃないですけど、できることがあったら、じゃあ私はこれができるよっていう意見も出るような状況を作っていきたいなと思っています。	高齢者の集いにおける認知症への前向きな提案	
36	自分なりに、小さい地域ですけども、地域を見守っていきたいなという決意をしたとこなんです。	地域を見守る決意	
37	私、一緒にボランティアに参加させていただいてるのは、皆さんの理解があって参加できると思っています。	理解がありボランティアへ参加	ボランティア
38	ボランティアに行って参加してることに對して、本人はすごく自分で、何か希望を与えてもらってるということですね。	ボランティア参加による希望	

39	私たちは一般の方たちとボランティアというかたちで（中略）させていただいているんです。	ボランティアとして参加	
40	デイに行き出した初日から、もう生き生きとして帰ってきました。私のお仕事ができた。	デイサービスの仕事で生き生き	
41	小学生や講演を聞かれた方々ほかから返ってくるアンケートや言葉から、生きがいを感じている。	講演を聞かれた方々からの言葉に生きがいを感じる	生きがい
42	音楽が生きがいとなっている。	音楽が生きがい	
43	生きがいがあるので幸せだと思っています。	生きがいがあるので幸せ	

5) 私は、趣味やレクリエーションなどしたいことをかなえられ、人生を楽しんで過ごしている。

no	発言	コード	カテゴリー
1	4、5、9に関しては、少し折り合いをつけながら、消極的な評価で、まだまだ物足りない、できてない、こうあったらいいなという思いは沢山あります。	評価としてはまだまだ達成していない	不満足
2	趣味などできることで安定している	趣味などできることで安定	趣味 レクリエーション
3	歌声広場、テニス教室、したいことをたくさんしている。	したいことをたくさんしている	
4	音楽は自分らしさを表現することが出来る。	音楽を通しての自己表現	
5	音楽活動家として、認知症患者として生きているのは別もの。	音楽活動家としての自分と認知症患者としての自分	
6	自分たちの音楽に共感してくれると嬉しく感じる。	音楽を通してのつながり	仲間との出会い・居場所・活動の場（ピアサポートの場）
7	歌うときはものすごく大きな声で歌えます。だから、そういう場に出ていかれたら、もっと仲間ができると思いますよ。	場に出ると仲間ができる	
8	引き合わせていただけるような場があれば、仲間があればいろんなことができます。	仲間と出会い、仲間があれば、いろんなことができます	
9	こういうこと（軽いうちに診断を受けて、仲間と会えて、テニス教室に参加していること）が広くできればいいなと主人もいつも言っています。	仲間とつながる場が広がればいい	
10	地域の人たち、別に認知症とかお年寄り対象とかそういうのではなくて、限定じゃなくって集える人が集まるという、集まってやるというやつをしてるんですね。	認知症・高齢者に限定しない地域の集まり	認知症・世代を超えた交流の場
11	高齢者総合施設ですね。実際に、そこは高齢者ばかりじゃなくて、児童館とかが複合的に入っている施設ですので、夕方になると小学生が帰ってきました、僕らが卓球をやっているのに一緒に入ってやるというようなことがあるわけです。	高齢者・児童総合施設で小学生も一緒に卓球をする	
12	包括が入っている高齢者総合福祉センター、施設でやってるので、児童館が付いているんです。そしたら、子どもたちが来るようになりまして、小学生の子が混じってます。卓球です、一緒に。で中学生も来てるんです。	高齢者総合福祉センターと児童館隣接により、小学生・中学生とも交流	
13	卓球クラブが終わった後に、カフェをするようになったんです。（中略）みんなが自然発生的にやりましょうということで、カフェをすることになったということがあります、とっても楽しいです。実を言うと。	卓球クラブ後の自然発生的なカフェが楽しい	自然な交流
14	プログラムなんて一つもないんですね。だから何も「きょうは何を話しましょう」とか「交流しましょう」などということはないのですけれども、すごく活発にしています。本人ミーティングの話もしました。	プログラムはないが、活発にしている	
15	最初に私たちがお願いしたことは、とにかく一緒に、お世話するということではなくて、一緒にやってくださいと。（中略）とにかく一緒に楽しめるような形でやっていただきたいんですということをお願いしたんですね。	お世話ではなく、一緒に楽しむ	一緒に楽しむ
16	全部自分たちでやっているんですね。だからお年寄りたちが変わってきたみたいなかたちに、今はなっています。	自分たちで実施する	主体的な活動能動的な参加
17	やってもらっているんじゃないくて、私たち自身がやっているという形でやらせてもらっています。（中略）まずは、自分たちでやっている、人の世話にならなくてもできるよというところなんですよ。	やってもらってるんじゃないくて、自分たち自身がやっている	
18	認知症の人は基本的に交通手段を持ってない人が多いですね。だから、歩いて30分以内にそういうスペースがないかというのを探します。	歩いて行ける居場所	歩いて行ける居場所・活動の場

19	今、私が卓球クラブのマネジメントをしています。包括と私たちだけで、場所を借りて、卓球クラブというものを。	地域包括と卓球クラブをしている	
20	包括と一緒にあって、卓球教室を立ち上げようかなと画策はしてますけどね。	地域包括と卓球教室を立ち上げ	
21	歩いていける距離での卓球教室を今、目指してるんですけどね。	歩いて行ける卓球教室	
22	駒ヶ根市を訪問して、駒ヶ根市の支援者の方と一緒に行動してきた。	他地域の支援者との交流	他地域の当事者・支援者との交流
23	駒ヶ根に行って、うちの家内も非常に喜んで帰ってきたんで、もっと駒ヶ根以外にもいろんな都市の人と交流を持ちたいなと思ってるところです。	他地域の当事者との交流	

6) 私は、私を支えてくれる家族の生活と人生にも十分な配慮がされているので、気兼ねせずにすごしている。

no	発言	コード	カテゴリー
1	本人は体調崩さずいてくれたが、家族は当時の主治医とうまくいかず、不安ばかりで体調を崩した。	不安で体調崩した	不安
2	主治医を変えてから情報・当事者・家族に親身になって話してくださり、今はとても安定している。	主治医の支えで安定	満足
3	6番については、一応、家内も私も回答としては「○」で「1」としてるんですけど。	評価はそう思う	
4	6番は、別に何も世間に遠慮することなく、配慮されて、上手に過ごせていると思います。	評価はそう思う	
5	私自身が、家の中では楽しく、外でも楽しく過ごせたらいいなと思っているんですけど。	家の中でも外でも楽しく過ごせたらいい	周囲の理解の必要性
6	楽しく過ごせるのには、やっぱり認知症の方を理解していただける方が多くなると、それがすごくいいかなと思うんですけど。	楽しく過ごせるには、認知症を理解してくれる人が多くなるといい	
7	気兼ねする人がいない、気兼ねする場ではないところでは楽しめる。	気兼ねしない人・場では楽しめる	
8	教育の現場でというのは、40代、50代のPTA、今の小学校のお母さんたちというのは、介護でほんとうに苦労されてる方が多いという現実も、相談窓口、相談されたところで、娘の友達から相談されたりとか、そんなことも経験してます。	介護で苦労している娘世代の方から相談を受ける	家族同士の相談の場の必要性（教育の場で、世代を超えて）
9	家族、本人、それぞれの居場所というか、そんな支援がすごく欲しいと思ってます。	家族、本人、それぞれの居場所・支援が欲しい	家族、本人、それぞれの場・支援の必要性
10	（本人は）知らない人と一緒に登山ができて、楽しい思いで、今もるんなんですね。私は私で、周辺の高山植物の散策を楽しみまして、何か、別々に行動しても、すごく楽しい経験をしてきたばかりなので、なおのこと、別々の行動ができる支援というのをすごく望みます。	家族、本人、別々の行動ができる支援を希望	
11	夫が一人でも行動できる、そういう支えというのが欲しい。	認知症本人が一人でも行動できる支援が欲しい	本人が一人でも活動できる場・支援の必要性（れもねいだー・認知症総合センターへの期待）
12	茶摘み事業や万願寺の事業で、（中略）別々の仕事を負担して、それでも本人はとっても楽しそうに、「れもねいだー」とさんと交流しながら作業ができてます。	認知症本人が一人で行動できるような「れもねいだー」による支援	
13	（れもねいだーさんと一緒に）男性女性関係なく、何かそれぞれの好きなことで、支えでそういう場が生まれてくれればいいなと。私は総合センターにすごく期待してるんですけども、そんなモデルを作ってほしいなと思ったり。	本人が一人で活動できるような場・支援としての認知症総合センターへの期待	
14	本人が評価したということは、やっぱり家族も評価してるということです。	本人の評価は家族の評価につながる	本人支援が家族支援につながる
15	僕は彼女のよきマネジャーやなあ。いろんなステージに立たせてあげることができると。それに対して、彼女も喜んで、一緒にステージに立ってくれて。	本人のマネジャーとしての家族	
16	家族のためじゃなくて、本人のためになることが、イコール家族のためになることというので。	本人のためになることが家族のためになる	
17	デイサービスの方に、本人は夫や娘への感謝の言葉を述べていた。	本人が家族に感謝	

7) 私は、自らの思いを言葉でうまく言い表せない場合があることを理解され、人生の終末に至るまで意思や好みを尊重されてすごしている。

no	発言	コード	カテゴリー
1	全てデイサービスのスタッフの方との連携で、結果、皮膚科の先生もいてはりますので、本人はどこが痛いとか痒いとかをほとんど言えないですけども（中略）。認知症が厳しい中では、デイサービスも（中略）気持ちよく利用させていたっています。	痛い・痒いを言えないが、家族とデイサービススタッフの連携により、わかってもらえている	家族・介護スタッフによる本人の気持ちの理解
2	会話というか、通常の生活では、僕がいろんなことを話しかけて、本人が聞いて、言葉は発しませんが、だいたいは理解してくれてるのかなとわかります。	本人が言葉を発しなくても、だいたい意思疎通ができています	パートナーの存在
3	家族の存在があるから社会に認めてもらえる。	家族を介して社会につながる	
4	彼女のよきマネジャーやとやっています。これからも、7番もそういうことで、これからも伴走していけると思います。	本人のマネジャー的に、これからも伴奏していける	
5	要介護1で10年いきたい。終末医療（呼吸器、胃ろう）のことも話し合っている。	終末期の相談もしている	ACPの実践

8) 私は、京都のどの地域に住んでいても、適切な情報が得られ、身近に何でも相談できる人がいて、安心できる居場所を持っている。

no	発言	コード	カテゴリー
1	家内と言っているのは、宇治に住んでいてよかったねと。いろんなサービスがあつて。	宇治市にはいろいろなサービスがある	恵まれた状況を宇治市内・外の地域に広めていくことが必要
2	いろんな場に足しげく通って、元氣よく過ごさせていただいてるのも、宇治市に住んでのおかげやと思ってる。	宇治市にはいろいろな場がある	
3	私たちの恵まれた状態をどうやって広めていくかというのが大きな課題だとずっと思ってます。	恵まれた状態をどうやって広めていくかが課題	
4	宇治にも支援の必要な人がまだいっぱいいると思う。他のところも同じようになればいい。	宇治市内にも支援の必要な人がまだ多くいる	
5	宇治市ではカフェも沢山あって、プログラムも充実してみたいなところで、あそこに行こうか、ここに行こうかというふうな選択肢もできるけれども、京都市だったら、なかなかそうはいかないということがあつて。	宇治市にはいろいろな選択肢があるが、京都市ではなかなかそうはいかない	
6	歩いて行ける近くに好きなことができる場があればよい（スポーツ、歌）。	歩いて行ける場	近所の歩いて行ける距離に安心できる居場所が必要
7	自宅に近いところで行けるところがあればよい。電車に乗れなくなったり、今後のことを考えると。	自宅に近い場	
8	地域差というのをさっき言いましたが、うちの人が言い出したのが、歩いて30分以内に行ける場所で、集える場所がないとだめだということを言った。	歩いて行ける距離で集える場所がないとだめ	
9	地域で集うというのが、近所の人に知られるのが嫌だからって言って、だめな人もいるという、なかなかいろんな矛盾がはらんでるという世の中だと思ってながら。	近所に知られるのが嫌で地域で集えない矛盾	
10	ほんとうだったら、近所とか地域で、みんなで、私は認知症ですなんて言わなくても、困ってる人がいたら手助けしてくれるような、そういう環境でコミュニティがあったら、理想だなというのはすごく思ってますし。	認知症をオープンにしなくても手助けしてくれるような地域になったら理想的	
11	みんなが認知症ですということを宣言しなくてもすむようなことが、本当は一番いいという風に思ってます。	認知症をオープンにしなくてもすむようになるのが一番いい	
12	認知症やということを言わなくても、近所の方たちにうまくやっていけたらいいなということと、やっぱりみんながそういうなんを支えていけたらいいなと思うんです。	認知症をオープンにしなくても近所でやっていけるように、みんなが支えていけたらいい	
13	包括の方たちと、いろんな方たちと話し合っていかなあかんと思うんですけど、なかなかそういう（認知症を勉強する）機会がなくてね。（中略）こういう風に勉強させていただいて、みんながいろんなことを支えあえる社会になってほしいなと思います。	認知症を勉強して、支えあえる社会になってほしい	

9) 私は、若年性の認知症であっても、私に合ったサービスがあるので、意欲をもって参加し、すごしている。

no	発言	コード	カテゴリー
----	----	-----	-------

1	包括って案外、把握されてないんですよね。だから、その地域、地域に、例えば若年の人がどれだけいるかというの、全然分からないと言いますし。	地域包括は若年性認知症の方が地域にどれくらいいるか把握していない	地域包括が若年性認知症の人の存在を把握する必要性
2	包括はその地域のぶんの把握っていうのがなかなかできてない状況じゃないかなというか、仕事で手いっぱい、もう、あっぱあっぱしてるということをよく聞きますし。	地域包括は地域の認知症の方の把握をする余裕がない	
3	京都市がやっている、おれんじサロンというところが出発点なんですけれども、そこに来てる若年の人がどれだけかといったら、（中略）今、420人ぐらいいるということなんです、来てるのは5～6人ということで。	入り口問題	若年性認知症の人が早期から福祉支援につながる必要性
4	（病院のドクターが）僕は、患者さんがまだ認知症という診断に至ってなかったら、包括なんかには連絡しないよと。進んでからだったら包括には繋ぐけどねっていうのを先生に言われたことがある。	早期の方を病院は包括につなげない	
5	知り合った方々を見ても、何か包括につながったのはすごく進行してからで、やっと包括につながったというような話も聞きますし、治療のことは病院が見てくれるけど、生活のことに限っては、なかなかというのをいつも言ってるんですが、そういうのはすごく多い。	包括につながるのには進行してからで、病院は治療はしても生活の支援をしてくれない	
6	洛南病院は良かったけれども、どこどこ病院だったらもう何もしてくれなかったとか、何も繋いでくれなかったとか、そういうことを一切教えてくれないっていうことが、すごくあるんじゃないかなというのを、病院間においてあるんじゃないかなというのをあちこちで耳にするんですね。	病院・福祉の連携について、病院間格差がある	
7	医療とか行政、福祉の横のつながりというのを持っていただかないと、いつまでたっても、私たちが何か苦勞を、そこにたどり着くのに、なかなか支援にたどり着くのに、どんどん進行してからやっとたどり着いたとか、支援を探すのに必死にならなければたどり着けないという状況は、改善されないんじゃないかなというふうに思うんです。	医療・福祉のつながりがないとなかなか支援にたどり着かない	若年性や早期の認知症の人に合った支援
8	4、5、9に関しては、少し折り合いをつけながら、消極的な評価で、まだまだ物足りない、できてない、こうあったらいいなという思いは沢山あります。	評価としてはまだまだ達成していない	
9	こういうこと（軽いうちに診断を受けて、仲間と会えて、テニス教室に参加していること）が広くできればいいなと主人もいつも言っています。	仲間とつながる場（趣味・レクリエーション）	
10	宇治にあるサービスのおかげである。福祉サービス公社の存在は大きい。	宇治市にはサービスがある	
11	働いて対価を得るということを、ぜひこの場でと思ってます。	働いて対価を得る場が欲しい	若年性認知症の就労の場・就労支援の必要性（社会参加・社会貢献・労働への対価・生きがい）
12	本人にとって、労働に対価を得るとしてということが、こんなにも必要なことかというか、これがあとに続く人のために、ぜひ形にしてほしいと思うんですけれども。	認知症本人にとって労働に対価を得ることの必要性	
13	働いて対価を得る。単に支援の場所だけじゃなくて、それも支援の場所なんですけれども、そういう場を作してほしい。それを外に広めることによって、また、世の中の理解度というのはさらに進んでくると思いますし。	単に支援ではなく、認知症本人の就労の場が広まることにより、世の中の理解が進む	
14	（デイサービスの）中でできたものを対価を得たいという希望がすごく大きいんですけれども、介護保険の縛りの中でそれができない。	デイサービスで作ったものを売ることは、介護保険の中では難しい	
15	介護保険というのは家族のためにできた保険ではないかなと私は思っています。でも、絶対に当事者のためにあるべき介護施設という考え方が、特に認知症の場合は必要じゃないか。	家族のための介護保険ではなく認知症本人のためにある施設が必要	
16	本人が生きがいを持って、持ってる能力を保持するためにも、その介護施設の中でも生きがいを持てる。	認知症本人が能力を保持し、生きがいを持てる施設	
17	今、初期の方のいろいろな策が検討されていますけれども、それが介護保険・介護や、今現在あるサービスの邪魔をしないように連携しながら、何が本人にとって一番大事かということ、ぜひ京都モデルのようなものを作って欲しいなということ、を言いたいです。	認知症初期における本人にとって大事なサービスの開発	

18	講演依頼がきたときに、どうする、行くかって言うたら、行くって言うたんですね。もっと世間の人に、若年性認知症を広めたいから、どんどんお話ししにいくよって言って。	若年性認知症の講演への意欲	認知症啓蒙活動への若年性当事者の参加
19	忘れることへ備えた。	忘れることへの備え	認知症の進行に対する備え
20	進行性の病気だという自覚があるので、出来るうちに出来ることをやらなければならないという思いはあるが、いつまで出来るかという不安がある。	進行性の病気の自覚といつまで出来るかという不安	
21	介護施設（デイサービス）の利用を自ら早期に決めた。	デイサービスの早期利用	

10）私は、私や家族の願いである認知症を治す様々な研究がされているので、期待をもってすごしている。

no	発言	コード	カテゴリー
1	3年半、治験に参加していた。	治験への参加	治療薬への期待
2	治療薬の開発が進むことを願っている。	治療薬への期待	
3	根本治療薬は少しでも早く発売して欲しい。	治療薬への期待	
4	その対策として、認知症の根本治療薬を研究している企業や研究所に積極的に助成金を出す。	企業・研究所への助成金	治療薬開発推進のための具体的な提言
5	治験期間を短縮する（例えば治験例数を減らすなどして）。	治験期間の短縮	
6	審査期間を短縮する（許可申請書類の優先順位を上げる。認知症患者は増加しており、国家的な問題だから）。	審査期間の短縮	
7	期待は持っている。持てるということは支えになると思うし。	期待を持つことは支え	期待という支え

その他)

no	発言	コード	カテゴリー
1	10項目の中で、一番足りないこと。防災のときに、何かあったときに、認知症の方はどういう風に対応していただけるかということも心配かなと思います。	災害時における認知症の方への対応	災害時における認知症当事者への対応の必要性

2. 北部会場

以下、色駆け部分は家族の発言を意味する。

1) 私は、周囲のすべての人が、認知症について正しく理解してくれているので、人権や個性に十分な配慮がなされ、できることは見守られ、できないことは支えられて、活動的にすごしている。

no	発言	コード	サブ カテゴリー	カテゴリー
1	人にあせい、こうせいと言われることだけしてます。	自分ではできない ことを指示しても らう	できないこ とに対する 説明と指示	家族の理解 とサポート が得られて いる実感
2	私はそのちゃんとが出来ひので、主人があせい、こうせいと言うたらしとるだけで。			
3	その都度、説明してるんですけど、その時は分るんですけど。	その都度説明する		
4	一応、説明は全部しとるんですけど。	説明は全部してい る		
5	この前たまたまチェックせなんだんですわ。そしたら、ごっつい数が。	(夫が) チェック しないと買いすぎ た		
6	朝はパン食で、昼と夕方は飯を作らなあかんで、それは妻が作ってくれます。たまに気が向いたらする時もあるんですけども。	家族は料理を作っ てくれる	食事の準備	
7	昼もなるべく、私がお弁当を持っていくときは、おかずの分を用意して。	おかずを用意する		
8	夫は車も乗るんで、それぐらいのことだったら、もう妻の仕事がちょっと時間のある時だったら行ってくれます。一緒に休んできてくれますし。	家族は車を運転し てくれる	車の運転	
9	それは、もう主人が「連れて行って」と言ったら絶対連れて行ってくれるので、暇人やから。			
10	うちの人が運転できないときに連れて行ったり、ちょっと怖くてできないようになるしと思いながら、もう甘えて、やっていないんです。			
11	私のいうことはちゃんと聞いてくれるんですよ。一番偉い人というたら、私。家では二人しかおらんけど、私のほうが偉いんだなあって自分で言うてるんです。			
12	玄関に来客があっても夫が出てくれることはほとんどなく、今までどおり私に対応する。	今まで通り、自分 で対応している	役割を維持	
13	今は孫に頼まれまして、お地藏さんの赤い前掛けを。	孫から頼まれる		
14	その孫はミシン作業とか苦手やしと、みんな私の方へ。普段の繕い物も、ボタンが取れたとか言ってる。			
15	これは伝票と合わせて、お父さんと二人で冷蔵庫に入れるんで間違いないと。これからは絶対間違っていないとすることにしました。「お前、よう考えた」と褒めてもらったんです。	夫と騙されないよ うに対策を考えた	配偶者との 協同	
16	ちょっとおかしいなあと思ってね、今度、私も授受に立ち会うようにできるだけしとるんです。			
17	それを機に、これからは前の晩に控えてみようかいうて、これまでもあれしとったんですけど。ほんで、改善するようにはしたんですけどね。			
18	それ以来は、電話も訪問販売も、私が在宅のかぎり出ていくんですわ。			
19	もう手に負えんようになったら、交代で。電話がかかってきたときに、こっちに貸せいうて取り上げるのがええのか、悪いのか。	夫と助け合っている		
20	お互い、まあ言ったら助け合ってるね。どっちもがだめになってるから、人間的には。人間的にはと言ったらあれですけど。体力とか、すべて、こっちもあかんし。			
21	来客なんかも僕が出るからな言うて、お前が出んでもええよって。安心しなれいうことを必ず言うて。			
22	これで私も気がついて一緒に立ち会って注文するわいうことになって、今はしとるんやけど。			
23	夫婦で毎日、毎日、雑談しますわね。	夫婦で毎日雑談す る		

24	お父さんがね、正反対の性格なんで、お父さんのカレンダーにみんな書いてあるので、今日、来るのも、お父さんが「今日やったかいな」と。私一人やったらとてもじゃない、来てないかもしれません。忘れてしまっ。	夫と性格が違う		
25	私と(夫)は違うんです。			
26	うちのは、私とは一緒にでなく、そういう聞いたりするのが好きじゃないし。だから音楽会とかいろんなものがあったても(夫は行かない)。	夫と一緒に行動しない		
27	それで今は、玄関にお客さんが見えても、主人はここ(気づきノート)に書きましたけれど、絶対に出ないの。	夫は出てくれない	夫から得られない理解	家族から理解が得られていない思い
28	いや、ちょっとお父さん、ぼろくそに言うてるんやけど。			
29	そんなん言ったら、私、家を出て行けって言われるかもしれない、それはよう言わん。	夫からぼろくそに言われる		
30	歳をとって、殴られもしませんし。おとなしい格好しとっても、殴られまくったんです、私、若いころ。	年をとったから殴られない		
31	いや最近ちょっと耳が遠くなって、診てもらったんですけど、まあもう歳やし。		高齢化する家族	高齢化する家族
32	耳はほんとにね、うちの主人も。だからその加減ができなくて つい大きい。	耳が遠くなった		
33	近所のひととどうこうということもないですし。わりと近所同士は、うちの辺は仲がいいです。そんな喧嘩をするようなことは全然ないですし。	近所同士は仲が良い		
34	野菜も作って、家で食べきれないのは近所に分けたり、そういうことも近所同士あるので、特別どうこうということはないんです。			
35	友達にも認知症になったことは話しているが、今までどおり付き合ってくれるのはありがたいと感謝している。	友人は今までと変わらずに付き合ってくれる	近所・友人との良い関係	
36	いやなんか、何でも言える人がいますからね、中には。			
37	ご近所だったら、助けるような。	近所だったら助けると思う		
38	一般には助けてあげようと思ひなるだけどねえ。			
39	向こうが一生懸命相手してくれるんで。	相手が一生懸命相手してくれる		
40	今のところ、まだ自分のことは自分でできるんで、ただ、短期の記憶で迷子とかそういうのが心配やけどっていうことで一応、連れて行ってもらえる。	短期の記憶(障害)で迷子が心配だけど、連れて行ってくれる		
41	畑仕事も両方一緒にやっていますし、そんな近所の人の手助けというのは。	近所の人の助けはいらない		近所との関係性
42	なんか若い者にでも相談に行こうかなと思って外へ出るんですけど、ああやっぱりやめよう。またなんか言われると嫌だからと思って。			
43	別にどうしても言わんといかんことでもないし、やめようとか思う。	若い人への相談はやめる		
44	わりと私の隣をみても分譲地に家を建てておられる人たちが一緒に隣組になってもらって、若い人が、近所の方は割と。古い部落とは違って、若い人もおられるの。	近所に若い人がいる		
45	自分が病気になってるということを何も言うたらへんで。		近所の人に求めないサポート	
46	言わん方がいい。私もここに書いてます。利用する人があるんで。	認知症であることを他人に言わない		
47	今のところ誰にも言っていないですわ。認知症だということ、医者にかかるとるということも何も言っていないです。	認知症であることを誰にも言っていない		
48	5年ほど前に、今の所に引っ越してきたので、近所の人とはあんまり交流が少ないといっているのか、挨拶したりするぐらいの程度で、中まで入り込んでこられて話すようなことがないので、近所の人にも言っていないです。	近所の人には(認知症であることを)言っていない		
49	ご近所にはあえて、まだ言っていないです。あんまりそのご近所いうても離れてまして、そんなに密に日頃関係がないので。			
50	生協に入っているんですが、毎週1回トラックが来ますよね。そうしたら一緒に入っているグループの人で、近所の人	親切そうにしてくれるが、買った物	他者に利用される恐れ	認知症の悪いイメージ

	で、私の買ったものを運んであげると言って親切そうに運んでくれるんですけど、透明の袋ですから、その中で自分の欲しいものを狙っているんですわ。	を狙っている人がいる		
51	親切に、家内は足が悪いさかいに、「奥さん、持たげるわ」いうて玄関まで、私のとこのを持って入ってくれるんですね。ほんで、そこまではありがたかったんやけど・・・中略・・・ほんで、そのまま持って行った訳ですね。			
52	家内も、ああ詐欺におうたなあって分ったんですわ。			
53	その詐欺の話なんやけど、電話のいろんなセールスがあるでしょう。それから訪問販売があるでしょう。あれでまた同じようなことで引っかかったことがあった。	詐欺に遭った		
54	そういう電話にのっちゃたとか、買ってしまったとか。			
55	あまり認知症、認知症と言わないほうが利用されないのでもいいかなと、今は思っています。			
56	認知症だということは、一人、二人の仲の良い人には、そんな言われたんだわとは言っていますけれど、まあ言っていないです。そういう、あの、認知症だというような目で見られるというような感じがせんでもないですもんね。よその人。	認知症と言わない方が利用されない		
57	実際、こういうことがあったんで、何かお互いに口外するということは、自粛したほうがいいなあとは思ったんで、あえて言ったんですけどね。			
58	関係ない人には、わし認知症やいうて言うことは、言わん方がええなとつくづく思った。			
59	家族もびっくりしています。いいイメージがないですもん、普通、世間で言うあれ（認知症）が。	認知症は良いイメージではない		
60	（兄が）なんかあると、変なことを言うもったととか。変なことを言うもったといっても、僕が何を言うもったか分からへんのに、「変なことを言うもったで」、へええ言うて。	兄が、自分に変なことを言ったという		
61	それで私は全然そういうことを思わないで、私は近所にも認知症だということを言っているんです。みんなに馬鹿にされて。	認知症と言ったために馬鹿にされる	認知症の悪いイメージ	
62	他人さんがそこにおんなったら（おられたら）、「ほんま、Aとこの、あはたれやな」って思いますわな。	他人がいたらあほだと思われる		
63	なんかいろいろ勘繰られたりね、近所の人に。そういうことになるので、もうそういう（前にやっていたことの）話は一切しません。うちの主人に言っています、そういうときは。	近所の人に勘ぐられる		
64	うちの主人は、親戚とか友達とか会うたびに、「認知症になっちゃって」っていうのをすぐ話すんです。	（本人は）認知症になったことを他人にすぐ話す		
65	だから会うたびに言ってます。			
66	同年の仲のいい、旅行とか行く友達には、自分で、同年の会に行ったときに話したそうです。	仲が良い友人には、自分で（認知症だと）話した	本人からの病名の告白	
67	うちは、親戚とかには、もう全部言ってます。	親戚には認知症であることを言っている		
68	私の両親には、だいぶしてから言ったんですね。去年まで内緒。	私の両親にはだいぶ経ってから（認知症）と言った		
69	主人の親には、主人から言いました。主人の姉には私がすぐに、一番に姉に言ったんですけど。	主人の親には自分で言った		
70	グループの人の中に、おしゃべりで家内が「私、認知症ですわ」って言うたんですわね。	おしゃべりな人、妻が認知症であることを言われた	他者から流れる病名	
71	同年の会の人を知ってるんで、周りからは聞こえてきてる話はあると思うんですけど、はっきりそうですって。	同年の会の人（認知症と）知っているんで、周りから聞こえる話はあると思う		
72	普通に全然そんな、認知症だいうて、そういう。	一見、認知症とはわからない	認知症にみえない	
73	ほんとに認知症だろうかって。			

74	久しぶりに会える人は「全然ひどうないやん」とか、そういうことを言われるんですけど。	久しぶりに会える人は認知症とわからない	
75	たぶん話をしたらおかしいというのは、周りの人ももう皆さん気がついてると思うんですけど。	話をしたら、周りの人は（認知症だと）気がつく	認知症であることに気付く近所の人
76	言っていないけど、分ってると思うんですけども、あえて言っていないんですけど。		
77	1時間とか一緒にお喋り話をすると、もうすぐ分る。同じことばかり繰り返し繰り返し言いますし、食事のときにちょっとお酒でも入ったら、もうずうっと同じことばかり言いますので、すぐ分ると思うんです。		
78	おかしいと違うかいうて言われたら、実はいうて言わんなん日が来るとってはおる。	いつか認知症であることを言わなければならない日がある	周囲に病名を伝えるタイミングへの迷い
79	まあいつかは迷惑をかけますけどっていうのを言わなアカンかなあとは思ってるんですけど。	いつかは迷惑をかけますと言わなければならないと思っている	
80	ほんで、どういうタイミングで話したらええのか。	どのタイミングで（認知症であると他者に）話したら良いのだろう	
81	主人は母しくないないんで、母は、ちょっとやっぱり落ち込んではいらないうちですけど。	（認知症の主人の）母は（認知症やはり落ち込んだ	認知症と知って落ち込んだ母親
82	あるある、シャワーはあるわ。お風呂は、もう抜いちゃうから、お湯を。お風呂は2回もいかない。シャワーは何回も、また行く。	何回もシャワーに入る	繰り返される行動と行動
83	さっき下着替えたのを、そこに置いてあるのを着てみたり。	着替えた下着をまた着ている	
84	何回も着替えたりねえ。	何回も着替える	
85	それは分るんですけど、とにかく探さんと病院にも行けないしということで、こういうことだで、こういうことせんなんさけ、触らんように、とにかく触らんといてくれって言うんですけど、もうその瞬間にまた忘れちゃって、また触りにいく。繰り返しですわねえ。	触らないように言っても触りに行き、この繰り返しになる	
86	ずうっとしゃべってたら、同じことをリピートしてますよね。	同じ話を繰り返す	
87	特に近況は、夫婦の会話が、3分間ぐらいのサイクルで同じことをやるんです。それが、昨日も内容は一緒や、今日も一緒やし。・・・中略・・・「お前、さっき言うたやない」って、わしが思わず言うたら考えとったけど、「言うたらへん」って。ほんで、ちょっと心配になってきたんですね。		
88	全然別個になつてるので注文、同じものを何回もして。	同じものを何回も注文する	
89	京都の娘が、気になってよう帰ってくるんですけど、またあるとき戻ってきて、冷蔵庫の中を見たら卵が50数個あった。	冷蔵庫の中に卵が50個あった	
90	散歩は忘れずに行くんですけど、行ったことを忘れて、「散歩行ったかいなあ」言うてまた行こうとしたり、餌も今やったのに、「餌やったかいなあ」言うて、もう1回やろうとしたり。	散歩に行ったことを忘れてまた行こうとしたり、餌をまたやろうとする	
91	最近、もうその貼り紙が分らないのか、いろんなところをばたばた開けたり閉めたり、開けたり閉めたりして。	貼り紙がわからないのか、いろんなところを開けたり閉めたりする	
92	それを決まった場所に入れとくんですけど。そこはもう触ったらアカンでいうて言うんですけど、「分った」言うてる後で、もうあらへんですわ、それが。ほんで、今、出てくるのにも大探しして。	決まった場所においているものが無くなって大探しする	大切な物の紛失
93	今はずうっと、どこへ行くんでも連れていかないと、1人で置いておれないので。	1人に置いて行けないので、どこへ	

認知症のために障害された日常生活と増える介護

		行くのも連れて行く	1人にして おけない状 況
94	どこでも付いてくるんで。	どこでも付いてくる	
95	沢山おかずがあったら、お昼を2回食べてる時があって、どうもこれは2回。帰ったらお茶わんが何か二つ洗ってあったりとか、これ、たぶん2回食べたのかなあっていう日があります。	2回お昼ご飯を食べる時がある	繰り返される食事と空腹の訴え
96	うちは放つといたら何回でも食べるって思うわ。	何回でも（ご飯を）食べる	
97	それいつも一緒にいるからやけど、食べて1時間したら、お腹空いたばかり。	食べて1時間したらお腹が空いたという	
98	初めはもうただの物忘れが多いということで、それがどんどん、もうどんどん、どんどん物忘れがひどくなって。	物忘れがひどくなる	進行する記憶力の低下
99	う極端に物忘れがひどくなって、それこそ、今さっき言うたことが、もう忘れてしまつとるんです。		
100	2～3か月の間に、ばっばっばと目にみえて悪うなつて。		
101	私が奥さんであることが分らなくなつて。		
102	言うても、「そんなことはしとらん」言うて本人は言うし。		
103	また最近、ちょっとひどなつたんちゃうかなあいうような感じを受けるようになりました。		
104	4か月か5か月前から、特に物忘れがひどくなって、大げさに言ったら1分か2分前のことも忘れてしまつて、「さっき何してたのか」とか、どこどこに行こうつて外出しても、「今、どこに行くんだつたつて」とか、食べ物いっぱい買つてきても、帰つてきて「食べもん買ったかいなあ。お昼、食べるもんあるんかいなあ」とかいって言いだす。	外出先や買い物したものを忘れる	
105	犬の食事の用意も忘れるので、「犬に餌やってね」つて言つて用意をしたら、それをやってくれるというかたちで。	犬の餌やりを忘れる	
106	行くつて言つてますけど、今日言つたことも、明日忘れてしまうので、いざ行くとなつたら、ほんとに行つてくれるのかどうかいうのは、ちょっと分らないですね。	（デイサービスに）行くつて言つていますが、忘れるからわからない	
107	自分で長い文章をしゃべつてると、最初のとつかりが何だつたか忘れてしまつて、最後の起承転結がないように、尻すばみの会話になつてることが。	長い文章を話すと、最初がわからなくなる	
108	最近、ちょっとやつぱり、さつき頼んで、「この草を取つてくれ」いうて言つても、もう2～3本取つたら、そのまま放つたらかしになつちやつて、どつかへ行つちやつとかね。	頼んでも放つたらかしにしてどつかへ行つてしまう	
109	先生からは、年齢の割には進行が遅いと言われてる。	年齢の割に進行が遅い	
110	だから食事も1年ぐらい前までは、お昼の用意しなくても、ご飯があつたら冷凍室のもんで、例えば鰻井とか、レンジでチンしたり湯煎したりとかして食べられてたのが、今はちょっと、レンジをしていいのか、湯煎をしていいのかがもう分らなくて。電子レンジも、温めのボタンしか使えないので、600ワットで何分とかは、もう絶対無理ですし。	今はレンジが使えなくなった	増えていく出来ないこと
111	今までは、引き出しにパンツとかパアのティーシャツとかつて全部貼紙をして、そこからチョイスできてたんですけど。	今までは貼紙をして服を自分で選ぶことができていた	
112	完ぺきではないと思いますねえ。	（身の回りのことを自分でするが）完璧ではない	必要な手助け
113	例えば、服装なんかは、全部用意しないとやつぱりだめだとか。	服は全部用意しないとできない	
114	合わない服を着てしまつとか。	合わない服を着てしまつ	
115	だから、常にちょっと手助けがいる感じ。	つねに手助けがいる	

116	3分間ぐらい、同じローテーションで。思わず「さっき、お前、言うたやんけ」ってね、言うたらあかんやろうけど、言うたこともあるんですわ。これの時の質問ですけどね、どう対応したらいいでしょうかね、家族としては。	同じ話を繰り返したときに、「さっきも言った」と言ってしまう	繰り返されることへの苛立ち		
117	さっききれいに風呂掃除やって出てきたのに、また、してと思って。	またシャワーを繰り返してと思う			
118	時々は、わってきついこと言った後に、私、後悔するんで、なるべく。あと、ちょっと落ち込むんで、言ったら。	(本人に) きつく言った後は後悔する			
119	こっちが認知症になりそうな感じがすわ。	こっち(家族)が認知症になりそう			
120	そうです。なりそうな、私らもなりそうな。				
121	まあ3回目やし、同じように僕も返してね、家内が「ほうかあ」って、ほんまにまじめに、(・・・不明瞭)というんじゃないんです。「そんなこと言うと思ったかなあ。忘れとった」って真剣に。ほいで、ごっつい悪なっただけな思っらしい。	本人は悪かったと思っているようである	本人の落ち込み		
122	こないだ、2回シャワーしたんですよ。「へえパパ、またしてんの」って言ってしまっ、さっきもしたよ」って言ったら、ちょっと落ち込んだんで。	さっきもシャワーをしたことを言うと、ちょっと落ち込む			
123	うちのんやったら逆にねえ、落ち込みそうで、落ち込まずに切れるんですわ。かあっとなって、私も、あかんてっ。	落ち込まないで、切れる	本人の苛立ち		本人の思いへの着眼
124	かばんの中をがぁと、本人では分らへんで、こっちがかき回して探すんですけど、そういうのを見とって、やっぱり自分の持ち物をあれだけかき回されたら、やっぱり頭にきますわ、普通の人間でも。	自分の持ち物を人に触られたら、普通の人でも頭にくる			
125	私のことを妹とか子どもと思ってる時が多いみたいで、最近、そういうイライラしてる状況が続いてます。	(妻は) イライラしている状態が続いている			
126	ずうっと収入のことをすごい心配して「自分の分は自分で払わなあかん」とか、そういうことを言うようになりました。	収入と支払いを心配する	本人の心配		
127	「今日も泊ってくれるん」とか、「今日の夕食、作ってくれるん」とか、それを気にして何回も聞くんです。	妻はやってくれることを気にする			
128	「晩、何しよう」いうてな、昼、食べとったら、もう晩の話するんでね。内容は、必ずメニューの話なんです。	昼ご飯中に晩ご飯の心配をする			
129	1人で安心しておれるかなあってところが不安と。	1人で安心していられるか不安	本人の思いを推測		
130	おれるのはおれるんですけど、そうですね、留守番をするのが嫌いなので、誰か来はって、何か言わはっても全然もう忘れてしまっ、何の用事で来はったかも忘れてしまっし、電話かかっててもすぐ忘れてしまっし、だから、そういうのもあって、絶対、1人でいるのが嫌なんだと思います。	留守番はできるが、忘れるから1人でいるのが嫌だと思う			
131	ほんで、とにかく私も一緒に行くわ言うて、付いてくるようになった。やっぱり1人になるのが、不安なあれがあるかもわからんですね。	1人になるのが不安かもしれない			
132	そういう時に、やっぱり切れるというか、自分のものを荒らされとるいう、そういう意識があるんでしょな。	自分のものが荒らされるという意識はある			
133	人のことは、まだ全然忘れてないです。あんまり会わない人のことを割と覚えてる。	人のことは忘れない	健康的側面への着眼	本人とのつきあい方の工夫	
134	自分の家で、2時間ぐらいやったら。	自分の家で2時間くらいなら、1人で居れる			
135	とにかくその繰り返しだとか何とかいうことはあるんですけど、身の回りのことは全部、1人でしてくれるんで。	繰り返しはあるが、身の回りのことは自分でしてくれる			
136	ごはんはジャーから自分でよそって食べるのは食べれるんですけど。	ごはんをジャーからよそえる			
137	上手に会話とか、キャッチボールが出きるもんねえ。	上手に会話ができる			

138	認知症です、その切れたことをすぐ、その瞬間にまた忘れてしまうので、ほんでまた元に戻るんですけど。	切れたことを忘れて、すぐに元に戻る	
139	なるべくでも、言わないほうがいいっていうのはあるんで、3回ぐらいまでは聞いてるんですけど、「もうパパ、これは3回目やけど」とかっては言います。	同じ話を繰り返したときに、3回までは聞く	繰り返す話を否定しない
140	違う内容に話を切り替えるとかね。	(同じ話を繰り返したときに) 違う話にきりかえる	
141	違うことを言うんです、もう全然。		
142	聞き流したほうがいいかな。	聞き流した方が良 いかな	
143	でも、お風呂ってだんだん行かなくなるっていうので、お風呂のことは、もう責めずにおこうと思って。	お風呂にはだんだん行かなくなるとい うので、もう責め ないでおこうと思 う	本人の行動を見守る
144	何時間入ってようが、もう放つこうと思って。	何時間（お風呂に）入ろうが、放 つておこうと思 う	
145	その保険証とか大事なものは、もう違うとこにしまおうとか。	保険証とか大事な ものは、違うとこ ろにしま	収納の工夫
146	保険証とか一式、（・・・不明瞭）用とかに入れとる袋があるんですけど、それを決まった場所に入れとく。	保険証を入れる袋 を決まった場所 に入れる	
147	今後はお前、出たらあかんということは言わんと。儂がおるさかいに、大丈夫やって。	電話に出るなで なく、（夫が）い るから大丈夫だ って	安心を促す 言葉かけ
148	ちょっと一部分は家内を先生にして、「教えてくれや」いうで。	妻を先生にして 「教えてほしい」 と伝える	自尊心を守 る言葉かけ
149	今、僕が迷っとるのは、何にも取り上げたらあかんと思って、ほんで、僕も苦手やけど、どうしようか思っとるのは、食事のほうは全部してくれるんですわ。	何でもとりあげた らいけないと思 っている	本人を変える 対応
150	やっぱり周りの対応によって、本人のそういうのも変わってくるのかなあってちょっと思ってるんですけど。	周りの対応によっ て、本人も変わる	

2) 私は、症状が軽いうちに診断を受け、この病気を理解し、適切な支援を受けて、将来について考えきめることができ、心安らかに過ごしている。

no	発言	コード	サブ カテゴリー	カテゴリー
1	私は、何才ぐらいかな、長男に「認知やろう。ボケとるさかいに病院行け」と言われて。	家族が先に認知症 だとわかった	家族の認知 症の気づき	症状の自覚
2	この前も、こういうことぞと云って、娘とかに。私が言うよりも先に分かっていたと思うんです。			
3	それでも最初の頃は、それこそ、こんなこと覚えとらんかえいうようなんがたまにあって、そういうようなことでしとったんですけど。			
4	たまたま、春に、よう忘れるしなんて、忘れがきついしなんて、いつも行っている先生に言いまして、ほんで頭いうか、診てもらいなるかいうて紹介状を書いてもらって、受けたところが、現実はず全く変わりはないんですけど、たまたまMRIを撮ってもらったら、なんか頭の中はちょっとそういう兆しがあるということを言われて。	物忘れが増えている	物忘れの自 覚	
5	あの、物忘れというのが、いま今のことだから、ちょいと鉛筆でも置いたら、そういう物忘れ。			
6	(物忘れが) 最近増えています。			
7	ぱっとは思ひ出せんぞ。			
8	そういうことが頻繁にあるようになってきたし。あら、こんなとこに置いとったわと。			

9	来客があつて、もう、ばあつと私も喋りやから話してますよ。相手の喋られたことも分かってそうに聞いているんですけど、帰られたら何を話してたんかなと。			
10	思ったときに、あっそうだ、これはあれで、あそこに行かなあかんというのが、ひとつの仕事をする、ええっと、どこに行くんだっただかなと。そんな感じで、ずうっとこうしても、こうしとっても全然自分としては分からないんです。			
11	だから手帳に書いています。ここに来る、それも手帳に書いています。もう、そうせんと忘れてしまう。	手帳にメモを書く		
12	だから玄関にメモを置こうと思っているんです。メモしながら、いつでも話を聞かないといかんなと思っています。			
13	帰られてから話の内容をほとんど覚えていないです。メモをしながら聞くように習慣づけないといけないと考えています。			
14	私はもう手帳があるので生活ができていうだけなんです。そうせんと、もう書いたものがないと。			
15	忘れないようにと思って、ちょっとしたメモ書きが部屋にいっぱいあります。買い物するのでもメモしていく。			
16	自分でね、これ（物忘れ）なんとなかならんのかいなと一人で笑っているんですけども。	物忘れを自分で笑う		
17	自分の身が、こんな病気になったんやからしょうがないなというくらいで。まあ元々、馬鹿なんでねえ。	認知症になったのはしょうがない	認知症になったことのアきらめ	
18	私、自分のことですけど、こんなところにお世話になるとは思わなかったんですよ、私は退職まで保健師をやっていたんです。なんかここにおるのが恥ずかしいようなんですけれど。	認知症になるとは思わなかった	予想外の病名	
19	やっぱり知らんと、年のせいだわで済ませてきた方が良かったかな。	認知症だと知らない方が良かった	知りたくなかった病名	認知症への葛藤
20	（認知症だと）知らなんだ方が良かったかなと思っています。			
21	後悔してます。すぐなんか認知症というのが、ぴいっと出てきて。			
22	それ（認知症）に囚われちゃって。忘れようと思うんですけど。	認知症であることに囚われる	認知症であることの囚われ	
23	そのときは何も思わなかったんですけど、すぐそれに、ふっとその言葉（認知症）がのしかかってくるようになってきて。			
24	そういうもの（認知症）を聞いたばかりに、すぐそれに当てはめてしまう、ちょっと意識過剰があつて。			
25	だから、診てもらわなんだらよかったなあと思って。	受診しなければ良かった	受診への後悔	
26	物忘れがきついし、誰でもあることなのに、そんなんで、紹介状を書いてもらって診てもら。そんなことせなんだらよかったわと。			
27	病気が出てからは、なんというか、行き当たりばったりみたいなことなんですけど、そんなに目標も立てずに、まあまあ。	病気がわかってから、目標をたてない	考えない将来	
28	現実には私、そんな気（け）はないし、だから頭はそんな風になつとつても、こういう状態がずっと続く、そういういい方の結果を見たいわと言って。	認知症の良い結果を見たい	知りたい認知症の良い結果	考える将来
29	まあ元気でおらんならんって、おかげで元気でおりますので。	元気でいなければならぬ	健康への希求	
30	あら、起きてきならへんわというて、行ってみたら、あの世に逝つとんったわというのがたまにありますね。お風呂とかで。ああいう風に、申し訳ないけど、ああいう風でありたいなど。	長患いしたくない	最期の在り方の望み	
31	元気でおりたいと思っています。病気になって、長患いせんように。			
32	まあ年齢の順で逝かないと、と思って。6歳違いますのでね。	年の順に逝く		

3) 私は、体調を崩した時にはすぐに治療を受けることができ、具合の悪い時を除いて住み慣れた場所で終始切れ目のない医療と介護を受けて、すこやかにすごしている。

no	発言	コード	サブ カテゴリー	カテゴリー
1	医療機関にはお世話になってありがたいですし、そういう気持ちですし。	医療機関に世話になっている	病院に世話になっている思い	受けている医療
2	先生に診てもらう。状態がどんな塩梅できとるというという。	受診時、できていることを言われる		
3	(病院の人は)皆、親切に優しく接してくれるんですけど、でも待ち時間が。	病院のスタッフは優しい雰囲気を持っている	好感を持っている医療スタッフ	
4	できますね。みんな笑顔で、言いやすい雰囲気を持っていますね。			
5	その医療のほうは、今のところ(特にないです)。	医療に対する希望はない	医療に対する希望はない	医療への希望
6	病院ですか。現在ですか。全然困ることはありません。			
7	まだ今のところは。皆、元気で暮らしていますので。			
8	はい。特に心配だとか、そういうことはないです。もうなんかあったら、その時には。			
9	もう長いんです、(病院の)待ち時間が。	病院の待ち時間が長い	長い病院の待ち時間	
10	待ち時間が1時間半かかっちゃってとか。			
11	びっくりしました。それで、なんかえろうなっちゃう(しんどくなってしまう)、この雰囲気です。	体調が悪い時は病院に来られない		
12	病院の雰囲気にのまれて、えろうて。			
13	ほんまにえらい者は、こういう大きいところへは来れないですね。			

4) 私は、地域の一員として社会参加し、能力の範囲で社会に貢献し、生きがいを持ってすごしている。

no	発言	コード	サブ カテゴリー	カテゴリー
1	それでも自分から（仕事を）辞めますと。私一人のことなんで、なんともなるんやったらいいんですけども、消防のチームで足を引っ張っているのが一人いたら、二人分になりますからね。僕の分と世話をしてくれる人となってくると、もうできないんで。	仕事を辞めた	退職	失った誇り
2	年金で遊んで、仕事しておりません。			
3	一番最初、アルバイトで勤めとったことがあって、4～5年かな、行っとったですけど、仕事が覚えれんいうのか、忘れるというのか、ちょっと仕事ができんようになったいうて本人が言い出して。ほんで、そんなら辞めさせてもらえいうて、すぐ辞めたんですけど。			
4	（仕事仲間とのつきあいは）続いてないです。	仕事仲間とのつきあいは続いていない		
5	たぶん、仕事の中では、泊まりの仕事だったので、その辺はちょっと厳しかったのに行ってたというか。京丹後消防が始まってからは、もうトップクラスの仕事をしていたので、眉唾でしたけどね。	トップクラスの仕事をしていた	仕事への誇り	
6	夜中の勤務で・・・中略・・・もうここからは幹部候補みたいな格好でね。もう絶対やっただとって、トップまで登りました。			
7	僕は自分一人でどんどんやりました・・・中略・・・偉そうに言うことではないんですけども、頭はよく使った。	仕事を自分1人で どんどんやった		
8	仕事に行っても、どうなんでしょう・・・中略・・・同じ年に消防署の人の上の年からしていくのを、下の。			
9	僕は年功がないので・・・中略・・・よう働いたなと自分では思うんですけど。	よく働いたと自分で思う		
10	というよりも、仕事が仕事なんで、まあしんどいですねと言うしか・・・中略・・・二人は確実にCPA（心肺停止）から復活させましたんで。	2人を復活させた		
11	あの時は、一人は言うてもらったんです。「あの時に助けてもらったんです」って。	御礼を言ってもらえた		
12	宝物です。	宝物の思い出です		

13	本当。私、主体的やったんやで、畑。それで家庭菜園ですけども、本買って、なんでもきちっとせんなんのです。家庭菜園の本を買って、それできちっと、いつ苗を買って、いつ植えるとかして、すごくちゃんとしていた。	昔は主体的だった	主体的だった自分		
14	コンピュータが入ったら、コンピュータもこなせるんです。自分では思うんですけど、けれどさっきのことが分からないというのは迷惑をかけるので、働けないです。	人に迷惑をかけるから働けない	人に迷惑をかけることの気がかり	他者からの孤立	
15	やってみたいといっても、人に迷惑をかけるようなこともありますし、忘れちゃって。	他人に迷惑をかけてしまう			
16	几帳面というより、他の人に迷惑かけるんで。				
17	私が主体的にと言ったら、もうめちゃくちゃになると思います。				
18	やっぱり認知症になったら、どうしても人に迷惑をかけると思うし、きょうは例会の日とか、月に2回例会があるんですけど、行って、そして私は直接宣伝してきて、「私は認知症なんで辞めます」と全部こうやって辞めてきた。				
19	今日は例会の日だと思ったらそこへ行って、認知症になったと宣伝して、それでみな辞めてしまった。				
20	やっぱり認知症になったら、どうしても人に迷惑をかけると思う。				
21	みんな、外にいる子たちも、それぞれ自分の生活がありますから、そんな迷惑のかかることはしません。何があっても、もうそれでいい。				
22	もうどっか身を投げて、海へ行ったら迷惑かけないようにしますとかね、そういうことを言うことがちょくちょくあるんですね。	どこかに身をなげて、海へ行ったら迷惑かけないようにしますということがよくある			
23	すごい迷惑をかけてると思います。	すごい迷惑をあげている			
24	側で聞いている私は、ものすごい嫌ですけど。	側で来ている私（家族）は嫌です			
25	この前も敬老会の案内が来たんですけど、行きません。行ったことないんで。	敬老会には行かない	大勢が集まる場所に感じる苦手さ	他者との関係性の交流の継続	
26	私も敬老会はあまり好きじゃないもんで、ずっと行ってないです。				
27	そういう人が大勢集まる場所は、もう嫌です。	大勢集まる場所は嫌だ			
28	そうですね。わあっとみんなで騒いだりは。家族だったらいいんですが。				
29	自分の手元でできる用事をしながら、一人がいいです。				
30	めったに、もう今は、私自身の友だちは、この年齢ですから皆、出会うような。昔の学校の。作るのは私も好きじゃないんです。				
31	外へ出て友だちと話しますよね。その後でなんかあるとちょっと煩わしいかなと思うので、それが先に立ってね。出かけようと思っても、あ、やめようと思って。	他人と話すのは煩わしい	他者と関わることの煩わしさ		
32	挨拶もせんなんし。	挨拶しなければならない			
33	もう、何、言うてないですけど、毎日、用事とかは。まあすればあるんですけど。もう面倒くさいですからね。電話するのも、なんか向こうの都合は、今どんなだろうと思うし。	相手の都合に合わせて電話するのはめんどくさい			
34	どんだけ違うか、一人一人の関係も変わってくるし。	人との関係性が変わる	他者との関係性の変化		
35	みな断ち切ってしまったのは、ちょっとだめかもしれませんね、私は。	他人とのつきあいを断ち切ったのはだめかもしれない	これではいけない思い		
36	自分でも、これではいかなのただけだなあと思うんですけど、やっぱり家の中で一人であることが多い。				
37	「はい」と言って出て行って、いろいろとお客さんは言われるでしょう。はあはあと分かったように聞くんですけど、帰られたら全部忘れてる。	お客さんに対応するが忘れてしまう	他者とのつきあいの継続	他者との交流の継続	

38	喋りたいことがあったら近所の人のところに行って、喋ったりしてますし。	他人と話をする	いろんな人と話した方が良い	気の合った人と話す
39	だから外へ出て、最初は知らん人でも、ちょっと喋り出したら仲良くなれるし。			
40	ちょこっと話すとか。まあ用事のあるときだけ話したりするぐらいで。			
41	近所の人と立ち話をするとか。用事があって行く場合もありますけれど。			
42	すごいなというより、やっぱり家の中で籠もっているよりも、外へ行っていろんな人と喋るほうが。家族だけの話では、やっぱりそこまですまいこといかんこともあるんで。	メールを送る		
43	近所にも、みな歳いった人たちがよく話しておられるんですけど。私も気の合った人でしたら話すんですけど、そうでない人とは。	メールを送る		
44	それでいつもメールを送ってね。	他人とのつきあいを続けている		
45	相談なんてほどのことはなかったです。ですけども、皆、和やかに付き合っています。	同期の会で旅行をする		
46	時々はお出しますが。もう絶対に外の付き合いは全部断つという訳ではないので。	誘われたら卓球をする		
47	同年の会いうても、年に1回、新年会とか、2年に1回の旅行とかあって、旅行を今度8月の、次の日曜日にするんです。	他人と話すと嫌な事が消える		
48	そこで誘われたら卓球したりとか。	友人が来てくれるのは嬉しい		
49	ずっと家におられる人が近くにおられるし、お互い喋りあったら、家のいらんことだって消えてしまいますので、それで。			
50	たまにお友だちが訪ねて来てくれるんで、「ああ、この人、話にならんなあ。おもしろくない。あそこへ行っても時間の無駄や」と思われたら来てくれへんけれども、来てくれるんで、まあ助かっている。			
51	そう。あの人と話しても、ちょっと全然分からへんで、と思われてしまったら、もう来てくれんと思うので、嬉しいです。ありがたいです。			
52	楽しい人だから、みんな、おってくれたら明るくなるから。	居たらみんなが明るくなる	気にしない他人への迷惑	
53	近所付き合いはね、そう何にも気にしてないですね。	人への迷惑は気にしない		
54	そんなことも思わへんね、私。人に迷惑かけるとか思っへん。			
55	認知症だからこういう、ちゃんと、みんなに迷惑かけながら、相手してもらってるっていうのも、自分は分らないんです。	みんなに迷惑をかけていることがわからない		
56	今のところは、迷惑かけるとかはないです。	今のところ迷惑をかけていない		
57	それは二人だけやから恥かけへん。	(夫婦) 2人だけなら恥をかかない	ネットからの情報収集	
58	私は、情報はほとんどネットなんですわ。	情報は、ネットから集める		
59	ネットと、あと、当事者とか介護者のブログとかなんですわ。	情報は、介護者のブログを見る		
60	こういう時はこうしなつたらという、アドバイスが、ちょっと教えてほしいなと思ってきたんです。ほんま、悩みですわ。	(対応の) アドバイスがほしい	アドバイスの希求	求める情報
61	その対応を聞いたんは、私、まだ老人会のほうの地域の役を持ってますけど、警察から来てね、いろんな講演とかね、おまわりさんが来て、年寄り向きにお話になった。	警察が講演をしていた	講演会の参加	

5) 私は、趣味やレクリエーションなどしたいことをかなえられ、人生を楽しんで過ごしている。

no	発言	コード	サブ カテゴリー	カテゴリー
1	毎日、お父さんと二人で食べるおかずができるだけ。	食事の支度をする		

2	貯蓄もします。	貯蓄をしている	家事・買い物	継続している習慣	
3	一人ですので、2～3日に一度ぐらいはちょっとお買い物に自転車で行くとか。	買い物に行く			
4	私は買い物に自転車で。・・・中略・・・まあ乗るのは乗れるので、自転車道は車は通せんし、あれを使って。買い物を、歩いたり、出かけることにしてます。				
5	退職して、今は身のまわりのこと、食事とか、畑の仕事、ジャガイモ作りしたらそれを手伝いに行くとか。まあそういう生活です。	畑の仕事を手伝う	畑仕事		
6	ただ、家で野菜を作るということは、もうすぐ、今朝欲しいなと思ったら、畑へ行って採ってきたら味噌汁とかすぐできるので、それはありがたい。	畑で野菜を作っている			
7	小さい畑ができるものですから、うちの主人は野菜づくりをしたりして。季節のものはその時にはかせないといけないので、キュウリやらトマトやら、できたものは（近所に）食べてもらって。				
8	最近、畑をちょっと作っとるんですけど、ちょっと離れたところにもあるんです。	最近畑を作っている			
9	あとは、犬が一匹いるので、犬の世話といっても散歩に行く。	犬の世話と散歩に行く			
10	今から畑に行くと言ったら、今、何すると聞いて、できそうだったら（夫と）一緒に行くんです。	配偶者と一緒に外出する	外出		
11	カフェに行ったときは、一緒に行くんです。				
12	新しい場所で、なじみのない所で、私とこのカフェみたいな人はええんやけど、食事会でも2人でいま来てはるから。				
13	ちょっと犬を連れて遊びに行こうかなあ、散歩に行こうかなあと。	犬を連れて散歩に行く			
14	外に出ないと、中で寝とってもしょうがないんで。	外に出る			
15	やっぱり外に出てみんなの顔を見たり、草を見たり。				
16	自分が元気で外へ出ていますけれども、できたらいいんで。				
17	それでずっと与謝野町のところ歩いたり。	町を歩く			
18	今、月に1回、土曜日にカフェには。	土曜日にカフェには行く			
19	ずっと墨絵を教えてもらった。それをまだ今ずっと続けているんです。	墨絵を描く	趣味		楽しみになる活動
20	その墨絵の教室とか、それからパッチワークとかキルトとか、そういうサークルもあって、それはそれでまた行って、気分転換はよくしています。	サークルに参加する			
21	夫の運転で、弟夫婦を誘って、カラオケや食事。	カラオケに行く			
22	剣道教室はやっていると。	剣道教室に行く			
23	ゴールデンウィークとお盆くらいは、皆で集まって。2泊くらいを外で。一番楽しみはそれぐらい。	みんなで集まる			
24	でも野球をやったりとか。ゴルフもやってますよ。	ゴルフをする			
25	ゴルフはしょっちゅう行ってますよ。	卓球をする			
26	そうですね、ピンポンです。				
27	もう携帯は小さいですし、辛気臭いので、大きいやつを。タブレット。	タブレットを使う			
28	だから自分の趣味で、そうやって紛らわしています。	趣味で紛らわす			
29	色を塗るんのは好きなんです。	色を塗るのは好きです	好きな事		
30	私は字を見るのが好きで、なんとなく読む。役に立たんことを。読むのは好きなんですけど、子どものときから読むのは好きですけど、実用的なことにはベケです。	字を見るのが好きです			
31	ご飯の支度以外は自分の好きなこと、地域がやっておられるいろんな会合がありますわね、そういうところは行くんですけど。	自分が好きなところに行く			
32	それから好きなことは、地域の、今はみんなそのまんまずっとみんな歳が大きくなって、こういう年齢よりちょっと下の人やらいて、おばあちゃんと私、そのまま何十年、人は好きですね。				

33	そうですね、酒を一杯やります。	お酒を飲む		
34	あまり酒が飲めないこと。			
35	(富士山に)行ってみたいというだけで。日本一の、日本いうより、世界一きれいな。あんなとこに登らんとばちが当たるなど。60 になってしまったんで、大丈夫かなと。	富士山に行ってみたい	やりたいこと	
36	(富士山に)死ぬまでに行かないとあかんなど。			
37	老人会の遠足、橋立を歩くとか、そういう体を使う方だったら行きたくなるんですけど。	身体を使いたい		
38	私、この病気になったら全部やめるみたい。もうばちっと辞めてしまって、何もやっていません。	何もやっていない		
39	畑もしてましたけど、畑もやめてしまって。全部やめた。			
40	なんかこれは楽しいとかいうことがなくて、ほんまに静かにかというか、平凡です。			
41	したくなくなった。怠け者になってしまった。畑、しんどいもんね。時期、時期に全部片付けて、次の用意して。結構、大変ですもんね。	何かするのはしんどい	何かすることのしんどさ	
42	今は主人もそれは、もう 90 前ですし、そろそろということで、出かけるということはもう小 10 年、ないです。どうしても行かんなどこ以外は。			
43	子どものときは絵は好きだったんですけど、もう今はまったく。クレヨンかなんか、孫が小さいときのを置いて、塗り絵とか置いてあるんですけど、そんなことはしたいと思わないで置いたままで。			
44	昔やってたものも、昔はよくしましたけれど、もう今は根気が完全にありません。例えばちぎり絵ですとか、長いこといっぱいしましたけども。			
45	いやもう、したくないからです。	何もしたくない	何もしたくない思い	活動のしんどさ
46	やってみたいことというのは、今やっていることで十分だと思っています、自分では。	今やっていることで十分だ		
47	いいことやけど、でもなかなか、趣味とかそんなもん、絵も下手くそやったですし、何にもできないです。	何もできない	できない思い	
48	私はそういう今のもの(タブレット)はベケです。			
49	(タブレット)しません。年寄りはありません。			
50	料理は大好きですけど、ただケーキとかパンは焼けません。もうパン焼きとかケーキとか、子どもが学校へ行っているあいだに全部、帰って来たらおやつを食べさせるというような生活をしていましたので、それはできません。	もうパンやケーキは焼けない		
51	今は出んようになったんです、やっぱり。子どもにはやし立てられるのも、ちょっと恥ずかしい、それも嫌なんで、もうお父さんに任せました。	出かけなくなった	外出しない	
52	友だちとどっかへ行くということはないですね。遊びには来てくれていますけれど。			
53	家で一日テレビを見たり。	1 日テレビを見ている		
54	それで痛くなったときは、もう起き上がるも何も。あれからちょっと、いろいろ気持ちにも制限しちゃって。	身体の痛みで気持ちも制限してしまう	気持ちの制限	
55	こうやってやったりして。今はもう、車もあんまり乗らんようにしています。あれは絶対に病気の元ですから、それで走ったら。どっちが悪いのかわからない。	車を運転しない	自分で車を運転できないことの不便さ	車を運転できない不便さ
56	私ら街中やから、車の必要はないんですけど。乗ってましたけど。やっぱり 75 でちゃんと返しました。			
57	それと車に自分で、昔みたいに運転しないものですから、せんようになったんです。			
58	免許証を返しましたし、動きが取れない。	免許を返した		
59	だから車で家を出るときは、車で出ないと買い物にも行かないので。	車がないとどこにも行けない		
60	車がないと田舎はねえ。どこにも出るに出られない。自転車であんまり、とてもじゃなくて無理。遠いんですよ、どこも。			

61	それで車がないと。車の免許もう返したので、動きが取れない。		
62	いや、田舎だとねえ、もう絶対に車がないと動けませんね。		
63	車に乗れんと、もう自転車で行けるとこというたら、私、A地区なんですけど、B施設くらいだったら。		
64	交通便、ここへ来るのがもう、自分で運転できんと、もうバスの回数が少ないで。儲からないので減らしていきなるのはわかるんですけど、丹海も。	交通の便が悪い	
65	あそこの駅へ合うバスはつくっていないし。車に乗れない者は本当に。歳がいったら、もう乗れんようになりますし。これが田舎の典型的な。		
66	でも暑いときはペケですし。（自転車に乗れない）		

6) 私は、私を支えてくれる家族の生活と人生にも十分な配慮がされているので、気兼ねせずにすごしている。

no	発言	コード	サブ カテゴリー	カテゴリー
1	歳をとって、殴られもしませんし。おとなしい格好しとつても、殴られまくったんです、私、若いころ。	年をとったから殴られない	高齢化する 家族	高齢化する 家族
2	いや最近ちょっと耳が遠くなって、診てもらったんですけれど、まあもう歳やし。	耳が遠くなった		
3	耳はほんとにね、うちの主人も。だからその加減ができなくて つい大きい。			
4	近所の人とどうこうということもないですし。わりと近所同士は、うちの辺は仲がいいです。そんな喧嘩をするようなことは全然ないですし。	近所同士は仲が良 い	近所・友人 との良い関 係	近所との関 係性
5	野菜も作って、家で食べきれないのは近所に分けたり、そういうことも近所同士あるので、特別どうこうということはないんです。			
6	友達にも認知症になったことは話しているが、今までどおり付き合ってくれるのはありがたいと感謝している。	友人は今までと変 わらずに付き合っ てくれる		
7	いやなんか、何でも言える人がいますからね、中には。			
8	ご近所だったら、助けるような。	近所だったら助け ると思う		
9	一般には助けてあげようと思ひなだけどねえ。			
10	向こうが一生懸命相手してくれるんで。	相手が一生懸命相 手をしてくれる		
11	今のところ、まだ自分のことは自分でできるんで、ただ、短期の記憶で迷子とかそういうのが心配やけどっていうことで一応、連れて行ってもらえる。	短期の記憶（障 害）で迷子が心配 だけど、連れて行 ってくれる		
12	畑仕事も両方一緒にやっていますし、そんな近所の人の手助けというのは。	近所の人の手助けは いらない	近所の人に 求めないサ ポート	
13	なんか若い者にでも相談に行こうかなと思って外へ出るんですけど、ああやっぱりやめよう。またなんか言われると嫌だからと思って。	若い人への相談は やめる		
14	別にどうしても言わんといかんことでもないし、やめようとか思う。			
15	わりと私の隣をみても分譲地に家を建てておられる人たちが一緒に隣組になってもらって、若い人が、近所の方は割と。古い部落とは違って、若い人もおられるので。	近所に若い人がい る		
16	自分が病気になってるということを何も言うたらへんで。	認知症であることを を他人に言わない		
17	言わん方がいい。私もここに書いてます。利用する人があるんで。			
18	今のところ誰にも言っていないんですわ。認知症だいうこと、医者にかかるとるということも何も言っていないんです。	認知症であることを を誰にも言ってい ない		
19	数年前に、今の所に引っ越してきたので、近所の人とはあんまり交流が少ないといっているのか、挨拶したりするぐらいの程度で、中まで入り込んでこられて話すようなことがないので、近所の人にも言っていないんです。	近所の人には（認 知症であることを を）言っていない		

20	ご近所にはあえて、まだ言ってないです。あんまりそのご近所いうても離れてまして、そんなに密に日頃関係がないので。			
21	生協に入っているんですが、毎週1回トラックが来ますよね。そうしたら一緒に入っているグループの人で、近所の人で、私の買ったものを運んであげると言って親切そうに運んでくれるんですけど、透明の袋ですから、その中で自分の欲しいものを狙っているんですわ。	親切そうにしてくれるが、買った物を狙っている人がいる	他者に利用される恐れ	認知症の悪いイメージ
22	親切に、家内は足が悪いさかいに、「奥さん、持ったげるわ」いうて玄関まで、私のとこのを持って入ってくれるんですね。ほんで、そこまではありがたかったんやけど・・・中略・・・ほんで、そのまま持って行った訳ですね。			
23	家内も、ああ詐欺におうたなあって分ったんですわ。	詐欺に遭った		
24	その詐欺の話なんやけど、電話のいろんなセールスがあるでしょう。それから訪問販売があるでしょう。あれでまた同じようなことで引かなかったことがあった。			
25	そういう電話ののにのっちゃたとか、買ってしまったとか。			
26	あまり認知症、認知症と言わないほうが利用されないのでもいいかなと、今は思っています。	認知症と言わない方が利用されない		
27	認知症だということは、一人、二人の仲の良い人には、そんな言われたんだわとは言っていますけれど、まあ言っていないです。そういう、あの人、認知症だというような目で見られるというような感じがせんでもないですもんね。よその人。			
28	実際、こういうことがあったんで、何かお互いに口外するということは、自粛したほうがいいなあとは私は思ったんで、あえて言ったんですけどね。			
29	関係ない人には、わし認知症やいうて言うことは、言わん方がええなとつくづく思った。			
30	家族もびっくりしています。いいイメージがないですもん、普通、世間で言うあれ（認知症）が。	認知症は良いイメージではない	認知症の悪いイメージ	
31	（兄が）なんかあると、変なことを言うと思ったでとか。変なことを言うと思ったといっても、僕が何を言うと思ったか分からへんのに、「変なこと言うと思ったで」、へええ言うて。	兄が、自分に変なことを言ったという		
32	それで私は全然そういうことを思わないで、私は近所にも認知症だということを言ってしまうんです。みんなに馬鹿にされて。	認知症と言ったために馬鹿にされる		
33	他人さんがそこにおんなったら（おられたら）、「ほんま、Aとこの、あはたれやな」って思いますわな。	他人がいたらあほだと思われる		
34	なんかいろいろ勘繰られたりね、近所の人に。そういうことになるので、もうそういう（前にやっていたことの）話は一切しません。うちの主人に言っています、そういうときは。	近所の人に勘ぐられる		
35	うちの主人は、親戚とか友達とか会うたびに、「認知症になっちゃって」っていうのをすぐ話すんです。	（本人は）認知症になったことを他人にすぐ話す	本人からの病名の告白	周囲への認知症の告白と伝えるタイミングへの迷い
36	だから会うたびに言ってます。			
37	同年の仲のいい、旅行とか行く友達には、自分で、同年の会に行ったときに話したそうです。	仲が良い友人には、自分で（認知症だと）話した		
38	うちは、親戚とかには、もう全部言ってます。	親戚には認知症であることを言っている		
39	私の両親には、だいぶしてから言ったんですね。去年まで内緒。	私の両親にはだいぶ経ってから（認知症）と言った		
40	主人の親には、主人から言いました。主人の姉には私がすぐに、一番に姉に言ったんですけど。	主人の親には自分で言った		
41	グループの人の中に、おしゃべりで家内が「私、認知症ですわ」って言うたんですわね。	おしゃべりな人に、妻が認知症であることを言われた	他者から流れる病名	
42	同年の会の人を知ってるんで、周りからは聞こえてきてる話はあると思うんですけど、はっきりそうですって。	同年の会の人（認知症と）知っ		

		ているので、周りから聞こえる話はあると思う		
43	普通に全然そんな、認知症だいうて、そういう。	一見、認知症とはわからない	認知症にみえない	
44	ほんとに認知症だろうかって。			
45	久しぶりに会える人は「全然ひどうないやん」とか、そういうことを言われるんですけど。	久しぶりに会える人は認知症とわからない		
46	たぶん話をしたらおかしいというのは、周りの人ももう皆さん気がついてると思うんですけど。	話をしたら、周りの人は（認知症だと）気がつく	認知症であることに気付く近所の人	
47	言っていないけど、分ってると思うんですけども、あえて言っていないんですけど。			
48	1時間とか一緒にお喋りして話をすると、もうすぐ分る。同じことばかり繰り返して繰り返して言いますし、食事のときにちょっとお酒でも入ったら、もうずうっと同じことばかり言いますので、すぐ分ると思うんです。			
49	おかしいと違うかいうて言われたら、実はいうて言わんなん日が来ると思っではおる。	いつか認知症であることを言わなければならない日がある	周囲に病名を伝えるタイミングへの迷い	
50	まあいつかは迷惑をかけますけどっていうのを言わなあかなあとは思ってるんですけど。	いつかは迷惑をかけますと言わなければならないと思っている		
51	ほんで、どういうタイミングで話したらええのか。	どのタイミングで（認知症であると他者に）話したら良いのだろう		
52	主人は母しくないないんで、母は、ちょっとやっぱり落ち込んではいらるんですけど。	（認知症の主人の）母は（認知症やはり落ち込んだ	認知症と知って落ち込んだ母親	
53	あるある、シャワーはあるわ。お風呂は、もう抜いちゃうから、お湯を。お風呂は2回もいかない。シャワーは何回も、また行く。	何回もシャワーに入る	繰り返される行動と行動	認知症のために障害された日常生活と増える介護
54	さっき下着換えたのを、そこに置いてあるのを着てみたり。	着替えた下着をまた着ている		
55	何回も着替えたりねえ。	何回も着替える		
56	それは分るんですけど、とにかく探さんと病院にも行けないしということで、こういうことだで、こういうことせんなんさけ、触らんように、とにかく触らんといてくれって言うんですけど、もうその瞬間にまた忘れちゃって、また触りにいく。繰り返してすねえ。	触らないように言っても触りに行き、この繰り返しになる		
57	ずうっとしゃべってたら、同じことをリピートしてますよね。	同じ話を繰り返す		
58	特に近況は、夫婦の会話が、3分間ぐらいのサイクルで同じことをやるんです。それが、昨日も内容は一緒や、今日も一緒やし。・・・中略・・・「お前、さっき言うたやない」って、わしが思わず言うたら考えとったけど、「言うたらへん」って。ほんで、ちょっと心配になってきたんですね。			
59	全然別個になつとるで注文、同じものを何回もして。	同じものを何回も注文する		
60	京都の娘が、気になってよう帰ってくるんですけど、またあるとき戻ってきて、冷蔵庫の中を見たら卵が50数個あった。	冷蔵庫の中に卵が50個あった		
61	散歩は忘れずに行くんですけど、行ったことを忘れて、「散歩行ったかいなあ」言うてまた行こうとしたり、餌も今やったのに、「餌やったかいなあ」言うて、もう1回やろうとしたり。	散歩に行ったことを忘れてまた行こうとしたり、餌をまたやろうとする		
62	最近、もうその貼り紙が分らないのか、いろんなところをばたばた開けたり閉めたり、開けたり閉めたりして。	貼り紙がわからないのか、いろんなところを開けたり閉めたりする		

63	それを決まった場所に入れとくんですけど。そこはもう触ったらあかんでいう言うとするんですけど、「分った」言うその後で、もうあらへんですわ、それが。ほんで、今、出てくるのにも大探して。	決まった場所においているものが無くなって大探しする	大切な物の紛失
64	今はずうっと、どこへ行くんでも連れていかないと、1人で置いておれないので。	1人に置いて行けないので、どこへ行くのも連れて行く	1人にしておけない状況
65	どこでも付いてくるんで。	どこでも付いてくる	
66	沢山おかずがあったら、お昼を2回食べてる時があって、どうもこれは2回。帰ったらお茶わんが何か二つ洗ってあったりとか、これ、たぶん2回食べたのかなあっていう日が何回かあります。	2回お昼ご飯を食べる時がある	繰り返される食事と空腹の訴え
67	うちは放つといたら何回でも食べるって思うわ。	何回でも（ご飯を）食べる	
68	それいつも一緒にいるからやけど、食べて1時間したら、お腹空いたばかり。	食べて1時間したらお腹が空いたという	
69	初めはもうただの物忘れが多いということで、それがどんどん、もうどんどん、どんどん物忘れがひどくなって。	物忘れがひどくなる	進行する記憶力の低下
70	う極端に物忘れがひどくなって、それこそ、今さっき言うたことが、もう忘れてしまつとるんです。		
71	2～3か月の間に、ばっばばつと目にみえて悪うなつて。		
72	私が奥さんであることが分らなくなつて。		
73	言うても、「そんなことはしとらん」言うて本人は言うし。		
74	また最近、ちょっとひどなつたんちゃうかなあいうような感じを受けるようになりまして。		
75	4か月か5か月前から、特に物忘れがひどくなって、大げさに言ったら1分か2分前のことも忘れてしまつて、「さっき何してたのか」とか、どこどこに行こうつて外出しても、「今、どこに行くんだつたっけ」とか、食べ物いっぱい買つてきても、帰つてきて「食べもん買ったかいなあ。お昼、食べるもんあるんかいなあ」とかいって言いだす。	外出先や買い物したものを忘れる	
76	犬の食事の用意も忘れるので、「犬に餌やつてね」つて言つて用意をしたら、それをやつてくれるというかたちで。	犬の餌やりを忘れる	
77	行くつて言つてますけど、今日言つたことも、明日忘れてしまふので、いざ行くとなつたら、ほんとに行つてくれるのかどうかいうのは、ちょっと分らないですね。	（デイサービスに）行くつて言つていますが、忘れるからわからない	
78	自分で長い文章をしゃべつてると、最初のとつかかりが何だつたか忘れてしまつて、最後の起承転結がないように、尻すぼみの会話になつてることが。	長い文章を話すと、最初がわからなくなる	
79	最近、ちょっとやつぱり、さっき頼んで、「ここの草を取つていてくれ」いうて言つても、もう2～3本取つたら、そのまま放つたらかしになつちやつて、どっかへ行つちやうとかね。	頼んでも放つたらかしにしてどこかへ行つてしまう	
80	先生からは、年齢の割には進行が遅いと言われてる。	年齢の割に進行が遅い	
81	だから食事も1年ぐらい前までは、お昼の用意しなくても、ご飯があつたら冷凍室のもんで、例えば鰯井とか、レンジでチンしたり湯煎したりとかして食べられてたのが、今はちょっと、レンジをしていいのか、湯煎をしていいのかがもう分らなくて。電子レンジも、温めのボタンしか使えないので、600ワットで何分とかは、もう絶対無理ですし。	今はレンジが使えなくなった	増えていく出来ないこと
82	今までは、引き出しにパンツとかパアのティーシャツとかつて全部貼紙をして、そこからチョイスできてたんですけど。	今までは貼紙をして服を自分で選ぶことができていた	
83	完べきではないと思いますねえ。	（身の回りのことを自分でするが）完璧ではない	必要な手助け

84	例えば、服装なんかは、全部用意しないとやっぱりだめとか。	服は全部用意しないといけない			
85	合わない服を着てしまうとか。	合わない服を着てしまう			
86	だから、常にちょっと手助けがいる感じ。	つねに手助けがいる			
87	3分間ぐらい、同じローテーションで。思わず「さっき、お前、言うたやんけ」ってね、言うたらあかんやろうけど、言うたこともあるんですわ。これの時の質問ですけどね、どう対応したらいいでしょうかね、家族としては。	同じ話を繰り返したときに、「さっきも言った」と言ってしまう	繰り返されることへの苛立ち		
88	さっききれいに風呂掃除やって出てきたのに、また、してと 思っ	またシャワーを繰り返してと思う			
89	時々は、わってきついこと言った後に、私、後悔するんで、なるべく。あと、ちょっと落ち込むんで、言ったら。	(本人に)きつく言った後は後悔する			
90	こっちが認知症になりそうな感じですよ。	こっち(家族)が認知症になりそう			
91	そうです。なりそうな、私らもなりそうな。				
92	まあ3回目やし、同じように僕も返してね、家内が「ほうかあ」って、ほんまにまじめに、(・・・不明瞭)というんじゃないんです。「そんなこと言うと思ったかなあ。忘れとった」って真剣に。ほいで、ごっつい悪なったかなって思ったらしい。	本人は悪かったと思っているようである	本人の落ち込み		
93	こないだ、2回シャワーしたんですよ。「へえパパ、またしてんの」って言ってしまって、「さっきもしたよ」って言ったら、ちょっと落ち込んだんで。	さっきもシャワーをしたことを言うと、ちょっと落ち込む			
94	うちのんやったら逆にねえ、落ち込みそうで、落ち込まずに切れるんですわ。かあつとなって、私も、あかんてって。	落ち込まないで、切れる	本人の苛立ち		
95	かばんの中をがぁと、本人では分らへんで、こっちがかき回して探すんですけど、そういうのを見とって、やっぱり自分の持ち物をあれだけかき回されたら、やっぱり頭にきますわ、普通の人間でも。	自分の持ち物を人に触られたら、普通の人でも頭にくる			
96	私のことを妹とか子どもと思ってる時が多いみたいで、最近は、そういうイライラしてる状況が続いてます。	(妻は)イライラしている状態が続いている			
97	ずうっと収入のことをすごい心配して「自分の分は自分で払わなあかん」とか、そういうことを言うようになりました。	収入と支払いを心配する	本人の心配	本人の思いへの着眼	
98	「今日も泊ってくれるん」とか、「今日の夕食、作ってくれるん」とか、それを気にして何回も聞くんです。	妻はやってくれることを気にする			
99	「晩、何しよう」いうてな、昼、食べとったら、もう晩の話するんでね。内容は、必ずメニューの話なんです。	昼ご飯中に晩ご飯の心配をする			
100	1人で安心しておれるかなあっていうところが不安と。	1人で安心していられるか不安	本人の思いを推測		
101	おれるのはおれるんですけど、そうですね、留守番をするのが嫌いなので、誰か来はって、何か言わはっても全然もう忘れてしまって、何の用事で来はったかも忘れてしまうし、電話かかっててもすぐ忘れてしまうし、だから、そういうのもあって、絶対、1人でいるのが嫌なんだと思います。	留守番はできるが、忘れるから1人でいるのが嫌だと思う			
102	ほんで、とにかく私も一緒に行くわ言うて、付いてくるようになった。やっぱり1人になるのが、不安なあれがあるかもわからんですね。	1人になるのが不安かもしれない			
103	そういう時に、やっぱり切れるというか、自分のものを荒らされとるいう、そういう意識があるんでしょうな。	自分のものが荒らされるという意識はある			
104	人のことは、まだ全然忘れてないです。あんまり会わない人のことを割と覚えてる	人のことは忘れない	健康的側面への着眼	本人とのつきあい方の工夫	
105	自分の家で、2時間ぐらいやったら。	自分の家で2時間くらいなら、1人で居れる			
106	とにかくその繰り返しだとか何とかいうことはあるんですけど、身の回りのことは全部、1人でしてくれるんで。	繰り返しはあるが、身の回りのこ			

		とは自分でしてく れる	
107	ごはんはジャーから自分でよそって食べるのは食べれるん ですけど。	ごはんをジャーか らよそえる	
108	上手に会話とか、キャッチボールが出きるもんねえ。	上手に会話ができ る	
109	認知症です、その切れたことをすぐ、その瞬間にまた忘れ てしまうんで、ほんでまた元に戻るんですけど。	切れたことを忘れ て、すぐに元に戻 る	
110	なるべくでも、言わないほうがいいっていうのはあるんで、 3回ぐらいまでは聞いてるんですけど、「もうパパ、これは 3回目やけど」とかっては言います。	同じ話を繰り返し たときに、3回ま では聞く	繰り返す話 を否定しな い
111	違う内容に話を切り替えるとかね。	(同じ話を繰り返 したときに) 違う 話にきりかえる	
112	違うことを言うんです、もう全然。		
113	聞き流したほうがいいかな。	聞き流した方が良 いかな	
114	でも、お風呂ってだんだん行かなくなるっていうので、お風 呂のことは、もう責めずにおこうと思って。	お風呂にはだんだ ん行かなくなると いうので、もう責 めないでおこうと 思う	本人の行動 を見守る
115	何時間入ってようが、もう放つこうと思って。	何時間（お風呂 に）入ろうが、放 つておこうと思う	
116	その保険証とか大事なものは、もう違うとこにしようとか。	保険証とか大事な ものは、違うとこ ろにしよう	収納の工夫
117	保険証とか一式、（・・・不明瞭）用とかに入れとる袋が あるんですけど、それを決まった場所に入れとく。	保険証を入れる袋 を決まった場所に 入れる	
118	今後はお前、出たらあかんということは言わんと。儂がおる さかいに、大丈夫やって。	電話に出るなでは なく、（夫が）い るから大丈夫だっ て	安心を促す 言葉かけ
119	ちょっと一部分は家内を先生にして、「教えてくれや」いう て。	妻を先生にして 「教えてほしい」 と伝える	自尊心を守 る言葉かけ
120	今、僕が迷っとるのは、何にも取り上げたらあかんと思っ て、ほんで、僕も苦手やけど、どうしようか思っとるのは、 食事のほうは全部してくれるんですわ。	何でもとりあげた らいけないと思っ ている	本人を変え る対応
121	やっぱり周りの対応によって、本人のそういうのも変わっ てるのかなあってちょっと思ってるんですけど。	周りの対応によっ て、本人も変わる	

7) 私は、自らの思いを言葉でうまく言い表せない場合があることを理解され、人生の終末に至るまで意思や好みを尊重されてすごしている。

no	発言	コード	サブ カテゴリー	カテゴリー
1	言うのはそうなんです。本心はもっと、出る言葉は。どこのお家だってそうだと思いますけれど。	家族に本心を言う	伝える本心	本音と抑圧
2	(息子に) 大きな声でね、ぶわっと言われていると、うわあっと思って。それもね、いつでしたか言いました。それからちょっと。			
3	語らないことって分かりますか。相手にしないこと。	自分の意見を言わない方が喧嘩がない	考えの抑圧	
4	相手がなんか言ったら、それに言い返すと喧嘩になるから、聞き流す。			
5	自分で心配ごとなんかはあんまり感じてないのか、ほとんど口には出さないです。どうなるんかとか、忘れてるということについてのことは一切、自分からは言わないです。	心配事を自分から言わない	表現しない 思い	
6	言わないです、口には。なので、どう思ってるかというのが、ちょっとはつきり分らない感じがですね。			

8) 私は、京都のどの地域に住んでいても、適切な情報が得られ、身近に何でも相談できる人がいて、安心できる居場所を持っている。

no	発言	コード	サブ カテゴリー	カテゴリー
1	倒れて動けんようになった時のことを思うと、もう息子も娘も一生懸命ですよ、自分の暮らしで。だから、夫と二人なんですけど、うちの主人は息子や娘にも知らん所って、離れたくないという。	知らないところに行きたくない	住み慣れた場所 で暮ら したい 思い	住み慣れた場所の暮らし
2	どうしようもないです。移り住むとか、そんなことは全くできないし。			
3	私の近所は田んぼが四つの住宅地になって、40年とか50年。同じような年代の子どもがいたし、そういう風な人たちですから、うちが一番年長者ですけど、皆、同じような環境です。	近所は同じ環境		
4	うちの近所だってみんな、私らの年齢でも、家持ちさん、昔から育っている。	昔から育っている場所である		
5	それは私は新所帯で、ないだけ、好き気ままに言っておられると思いますけど。			
6	このあたりでは、お金のいらない、そういう何とかホームいうところはもう空き待ちだといってね、いつも、前から聞いているし。	近所のホームは空 きがない		
7	(1人で暮らすのが無理になったら) もうそれはそれで、いいと思います。	1人暮らしが無理 になったら仕方が 無い	1人暮らし ができな くなった 時の あきらめ	
8	うちは、もう子ども二人は、高等学校までで、大学に入ったらこちらにいたくても職がないので、そのまま卒業した後、向こうで職について、もう何十年来、夫婦二人暮らし。	夫婦2人暮らし	子どもと離 れた環境	
9	高齢者で夫婦2人で住んでるんです。			
10	息子ら夫婦はごく近所、味噌汁が冷めん程度のとこに生活しとるんですけど、生活実態というものは完全に二分してます。	息子は近所に住ん でいる		
11	もう一人です。隣に若い者がいますけど。	一人暮らし		
12	だから娘とか、娘の家族というか孫たちと一緒にいる時間が短いです。いいんですけども、そんなにいつもはね。年に2〜3回ぐらいとか。	娘や孫と一緒にの時 間が短い		
13	私の健康診断にも行けないし、散髪にも行けないし、だから、そういう時だけでも預かってもらえたら助かるなあと思って。	(介護者の)健康 診断や散髪に行く 時だけでも預かって もらえたら助かる	介護サービ スへの期待	
14	こないだ、初めて申請に行ってきたんです。	初めて(介護認定 の)申請に行った		
15	デイサービスに、月に1回か2回からでも、行きかけてもらいうことができたならありがたいなあいうことを希望では言っとったんですけども。	デイサービスに月 に1回でも2回で も行かせてもらえ たら有り難い		
16	もうどうなるのかな、このままいったらと思うんですけども、そういう状況です。	このままいったら どうなるか、不安 である	将来の不安	
17	コンピュータが入ったら、コンピュータもこなせるんです。自分では思うんですけど、けれどさっきのことが分からないというのは迷惑をかけるので、働けないです。	人に迷惑をかける から働けない	人に迷惑を かけること の気がかり	他者からの 孤立
18	やってみたくていっても、人に迷惑をかけるようなこともありますし、忘れちゃって。	他人に迷惑をかけ てしまう		
19	几帳面というより、他の人に迷惑かけるんで。			
20	私が主体的にと言ったら、もうめっちゃくちゃになると思います。			
21	やっぱり認知症になったら、どうしても人に迷惑をかけると思うし、きょうは例会の日とか、月に2回例会があるんですけど、行って、そして私は直接宣伝してきて、「私は認知症なんで辞めます」と全部こうやって辞めてきた。			

22	今日は例会の日だと思ったらそこへ行って、認知症になったと宣伝して、それでみな辞めてしまった。			
23	やっぱり認知症になったら、どうしても人に迷惑をかけると思う。			
24	みんな、外にいる子たちも、それぞれ自分の生活がありますから、そんな迷惑のかかることはしません。何があっても、もうそれでいい。			
25	もうどっか身を投げて、海へ行って迷惑かけないようにしますかね、そういうことを言うことがちょくちょくあるんですわ。	どこかに身をなげて、海へ行って迷惑かけないようにしますということがよくある		
26	すごい迷惑をかけてると思います。	すごい迷惑をあげている		
27	側で聞いている私は、ものすごい嫌ですけど。	側で来ている私（家族）は嫌です		
28	この前も敬老会の案内が来たんですけど、行きません。行ったことないんで。	敬老会には行かない		
29	私も敬老会はあまり好きじゃないもんで、ずっと行ってないです。			
30	そういう人が大勢集まる場所は、もう嫌です。			
31	そうですね。わあっとみんなで騒いだりは。家族だったらいいんですが。			
32	自分の手元でできる用事をしながら、一人がいいです。	大勢集まる場所は嫌だ		大勢が集まる場所に感じる苦手さ
33	めったに、もう今は、私自身の友だちは、この年齢ですから皆、出会うような。昔の学校の（・・・不明瞭）。作るのは私も好きじゃないんです。			
34	外へ出て友だちと話しますよね。その後でなんかあるとちょっと煩わしいかなと思うので、それが先に立ってね。出かけようと思っても、あ、やめようと思って。	他人と話すのは煩わしい		
35	挨拶もせんならんし。	挨拶しなければならぬ		他者と関わることの煩わしさ
36	もう、何、言うてないですけど、毎日、用事とかは。まあすればあるんですけど。もう面倒くさいですからね。電話するの、なんか向こうの都合は、今どんなだろうと思うし。	相手の都合に合わせて電話するのはめんどくさい		
37	どんだけ違うか、一人一人の関係も変わってくるし。	人との関係性が変わる		他者との関係性の変化
38	みな断ち切ってしまったのは、ちょっとだめかもしれませんね、私は。			
39	自分でも、これではいかんのだけどなあと思うんですけど、やっぱり家の中で一人であることが多い。	他人とのつきあいを断ち切ったのはだめかもしれない		これではいけない思い
40	「はい」と言って出て行って、いろいろとお客さんは言われるでしょう。はあはあと分かったように聞くんですけど、帰られたら全部忘れてる。	お客さんに対応するが忘れてしまう		
41	喋りたいことがあったら近所の人のところに行って、喋ったりしてますし。			
42	だから外へ出て、最初は知らん人でも、ちょっと喋り出したら仲良くなれるし。			
43	ちょこっと話すとか。まあ用事のあるときだけ話したりするぐらいで。	他人と話をする		
44	近所の人と立ち話をするとか。用事があって行く場合もありますけれど。			
45	すごいなというより、やっぱり家の中で籠もっているよりも、外へ行っていろんな人と喋るほうが。家族だけの話では、やっぱりそこまですまいこといかんこともあるんで。	いろんな人と話した方が良い		
46	近所にも、みな歳いった人たちがよく話しておられるんですけど。私も気の合った人でしたら話すんですけど、そうでない人とは。	気の合った人と話す		
47	それでいつもメールを送ってね。	メールを送る		
48	相談なんてほどのことはなかったです。ですけども、皆、和やかに付き合っています。	他人とのつきあいを続けている		

49	時々は出ますけれども。もう絶対に外の付き合いは全部断つという訳ではないので。			
50	同年の会いうても、年に1回、新年会とか、2年に1回の旅行とかあって、旅行を今度8月の、次の日曜日にするんです。	同期の会で旅行をする		
51	そこで誘われたら卓球したりとか。	誘われたら卓球をする		
52	ずっと家におられる人が近くにおられるし、お互い喋りあったら、家のいらんことだって消えてしまいますので、それで。	他人と話すと嫌な事が消える		
53	たまにお友だちが訪ねて来てくれるんで、「ああ、この人、話にならんなあ。おもしろくない。あそこへ行っても時間の無駄や」と思われたら来てくれへんけれども、来てくれるんで、まあ助かっている。	友人が来てくれるのは嬉しい	他者と関わることのポジティブな感覚	
54	そう。あのひとと話しても、ちょっと全然分からねで、と思われてしまったら、もう来てくれんと思うので、嬉しいです。ありがたいです。			
55	楽しい人だから、みんな、おってくれたら明るくなるから。	居たらみんなが明るくなる		
56	近所付き合いはね、そう何にも気にしていないですね。			
57	そんなことも思わへんね、私。人に迷惑かけるとか思っへん。	人への迷惑は気にならない		
58	認知症だからこういう、ちゃんと、みんなに迷惑かけながら、相手してもらってるっていうのも、自分は分らないんです。	みんなに迷惑をかけていることがわからない	気にしない他人への迷惑	
59	今のところは、迷惑かけるとかはないです。	今のところ迷惑をかけていない		
60	それは二人だけやから恥かけへん。	(夫婦) 2人だけなら恥をかかない		
61	私は、情報はほとんどネットなんです。	情報は、ネットから集める	ネットからの情報収集	
62	ネットと、あと、当事者とか介護者のブログとかなんです。	情報は、介護者のブログを見る		
63	こういう時はこうしなったらという、アドバイスが、ちょっと教えてほしいなと思ってきたんです。ほんま、悩みですわ。	(対応の) アドバイスがほしい	アドバイスの希求	求める情報
64	その対応を聞いたんは、私、まだ老人会のほうの地域の役を持ってますけど、警察から来てね、いろんな講演というかね、おまわりさんが来て、年寄り向きにお話になった。	警察が講演をしていた	講演会の参加	

9) 私は、若年性の認知症であっても、私に合ったサービスがあるので、意欲をもって参加し、すごしている。

no	発言	コード	サブ カテゴリー	カテゴリー
1	受けてないのでちょっと分らないんですけど、受けたら、たぶん要支援ぐらいにはなるん違うかなあと私は思うんですけど。	(介護申請を受けたら) 要支援ぐらいになると思う	介護認定の予測	
2	そうした時に。行ける場所っていうのが、たぶん若年性の人を対応にした、そういうデイサービスなんかが、Tの方ではないんですよね。	若年性の認知症の人に対応するデイサービスがない	適当なサービスの不足	介護サービスの不足
3	都会の方ではたぶんあるんですよ。例えば運動したりとか、そういう計算とかドリルとかさせてもらったりとか。そういうものがあったら。	運動したり、ドリルをさせてくれる(デイサービス)があったら良い		

Ⅲ.「10のアイメッセージ」評価に係る調査票

1. 本人調査票

本人用

本人を対象とした調査

～回答の際の注意事項（評価協力者のみなさまへ）～

ご本人に回答をお願いするものとなります。

以下の注意事項をご確認頂いた上、ご回答いただきますようお願いいたします。

●「10のアイメッセージ」評価に係る調査（ご本人）

- ①認知症のご本人が評価に参加することはサポートがないと難しい場合もあります。しかし、適切なサポートがあれば評価に参加できる方もたくさんおられます。支援者のみなさまにお願いすることは、その「評価協力者」になっていただき、評価をスムーズに遂行できるようサポートして頂くことです。（質問票を読み上げたり、質問の意味を噛み砕いて説明しながら答えていただけるよう、必要に応じた適切なサポートをお願いいたします。）
- ②答えることが難しい場合には、ご家族等パートナーに代弁していただくことも可能です。その際は、「家族の思い」でなく「本人の思い」を代弁していただくこととなります。代弁者が答えた場合は、回答者欄の「☐ 代弁者」に☑してください。
- ③回答は3段階でお願いします。それぞれの質問に対して、「そう思う」場合は○、「少しそう思う」場合は△、「そう思わない」場合は×を選択して下さい。調査票への記入は、ご本人の選択を確認しながら、原則、評価協力者が行って下さい。（選択は一つのみ）
- ④本人および代弁者が回答できない場合には、回答者欄の「☐ 回答できない」に☑してください。

本人用

『10のアイメッセージ』評価 本調査票

No.

普段の暮らしの中でどのように感じているのかお尋ねします。各質問に対し、あなたの思いに当てはまる評価に○をつけてください。
また、回答者欄も合わせて☑をつけてください。(回答いただく項目は着色欄のみとなります)

No.	評価項目	評価			回答者
		1. そう思う(○)、2. 少しそう思う(△)、 3. そう思わない(×)			
I	1 周りのすべての人が、認知症を正しく理解してくれている	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
	2 周りの人は、私らしさや私のしたいことをいつも気にかけてくれている	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
	3 周りの人は、私ができることは見守り、できないことはそばにいて助けてくれている	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
	4 私は、診断される前と同様、活動的にすごしている	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
II	5 私は、軽いうちに診断を受け、病気を理解できた	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
	6 私は、将来の過ごし方まで考え決めることができた	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
III	7 私は、身体の具合が悪くなったらいつでも診てもらえる	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
	8 私は、医療と介護の支えで住み慣れたところで健やかにすごしている	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
IV	9 私は、手助けしてもらいながら地域の一員として社会参加できている	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
	10 私は、私なりに社会に貢献することができている	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
	11 私は、生きがいを感じている	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
V	12 私は、趣味やレクリエーションなどしたいことがかなえられている	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
	13 私は、人生を楽しんでいる	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
VI	14 私を支えてくれている家族の生活と人生にも十分な配慮がなされている	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
	15 私は、家族や社会に迷惑をかけていると気兼ねすることなくすごせている	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
VII	16 私は、言葉でうまくいえなくても私の気持ちをわかってもらえている	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
	17 人生の終末に至るまで、わたしの思いが尊重されると思う	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
VIII	18 私は、適切な情報を得ている	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
	19 私は、身近に何でも相談できる人がいる	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
	20 私には、落ち着いていられる場所がある	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
IX	21 【若年性認知症の方のみ】若年性の認知症の私に合ったサービスがある	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
	22 【若年性認知症の方のみ】私に合ったサービスに意欲をもって参加している	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない
X	23 私は、いま行われている認知症を治す研究に期待している	1. ○	2. △	3. ×	☐ 本人 ☐ 代弁者 ☐ 回答できない

評価協力者氏名： 調査日：平成 29 年 月 日 ※裏面もご確認ください。

評価対象者（本人）の意見・要望

意見・要望（自由記載）

I 調査対象者（本人）について			
性別	男 ・ 女	年齢	() 歳
同居家族の有無	有 ・ 無	発病後の年数	() 年
所在市町村		DASC 点数	() 点
介護認定の有無	有（要支援 1 ・ 2、要介護 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5） ・ 無		
家族が家族評価への参加	有 ・ 無		
II 代弁者について			
性別	男 ・ 女	年齢	() 歳
本人との関係	家族（配偶者 ・ 子 ・ 兄弟姉妹 ・ その他（ ）） ・ 知人（ ）		
同居の有無	有（同居期間 年） ・ 無	代弁者が支援者の場合は、その支援期間（ 年）	
III 調査（評価）協力者として関わったことについて			
下記質問に対し1つ選んで○をつけてください。 1. 調査を終了して本人の回答能力に関する印象 ①少しのサポートがあれば自分で回答できた ②サポートがあれば何とか自分で回答できた ③十分なサポートがあっても自分では回答が困難 ④その他 () 2. 自分では回答が困難だったケースについて代弁者の回答能力 ①代弁者は、十分に代弁できていると感じた ②代弁者は、ある程度代弁できていると感じた ③代弁者は、あまり代弁できていないように感じた ④その他 () 3. これまでの調査（評価）協力者と本人との関係 ①本人のことをよく知っている ②本人のことをある程度知っている ③本人のことをあまり知らない ④その他 () 4. これまでの調査（評価）協力者と代弁者との関係 ①代弁者のことをよく知っている ②代弁者のことをある程度知っている ③代弁者のことをあまり知らない ④その他 ()		5. 本人評価の課題（自由記載 感想可）	
		事業所名	
		連絡先	

調査は以上となります。御協力ありがとうございました。

DASC18 アセスメントツール

No.

	項目	1 点	2 点	3 点	4 点	評価項目		備考
A	もの忘れが多いと感じますか	1 感じない	2 少し感じる	3 感じる	4 とても感じる	導入の質問質問 (採点せず)		
B	1 年前と比べてもの忘れが増えたと感じますか	1 感じない	2 少し感じる	3 感じる	4 とても感じる			
1	財布や鍵など、物を置いた場所がわからなくなることがありますか	1 まったくない	2 ときどきある	3 頻繁にある	4 いつもそうだ	記憶	近時記憶	
2	5 分前に聞いた話を思い出せないことがありますか	1 まったくない	2 ときどきある	3 頻繁にある	4 いつもそうだ		遠隔記憶	
3	自分の生年月日がわからなくなることがありますか	1 まったくない	2 ときどきある	3 頻繁にある	4 いつもそうだ			
4	今日が何月何日かわからないときがありますか	1 まったくない	2 ときどきある	3 頻繁にある	4 いつもそうだ	見当識	時間	
5	自分のいる場所がどこかわからなくなることがありますか	1 まったくない	2 ときどきある	3 頻繁にある	4 いつもそうだ		場所	
6	道に迷って家に帰ってこれなくなことはありますか	1 まったくない	2 ときどきある	3 頻繁にある	4 いつもそうだ		道順	
7	電気やガスや水道がとまってしまったときに、自分で適切に対処できますか	1 問題なくできる	2 だいたいできる	3 あまりできない	4 まったくできない	問題解決 判断力	問題解決	
8	一日の計画を自分で立てることができますか	1 問題なくできる	2 だいたいできる	3 あまりできない	4 まったくできない		社会的 判断力	
9	季節や状況に合った服を自分で選ぶことができますか	1 問題なくできる	2 だいたいできる	3 あまりできない	4 まったくできない			
10	一人で買物はできますか	1 問題なくできる	2 だいたいできる	3 あまりできない	4 まったくできない	家庭外の IADL	買い物	
11	バスや電車、自家用車などを使って一人で外出できますか	1 問題なくできる	2 だいたいできる	3 あまりできない	4 まったくできない		交通機関	
12	貯金のおし入れや、家賃や公共料金の支払いは一人でできますか	1 問題なくできる	2 だいたいできる	3 あまりできない	4 まったくできない		金銭管理	
13	電話をかけることができますか	1 問題なくできる	2 だいたいできる	3 あまりできない	4 まったくできない	家庭内の IADL	電話	
14	自分で食事の準備はできますか	1 問題なくできる	2 だいたいできる	3 あまりできない	4 まったくできない		食事の 準備	
15	自分で、薬を決まった時間に決まった分量のむことはできますか	1 問題なくできる	2 だいたいできる	3 あまりできない	4 まったくできない		服薬管理	
16	入浴は一人でできますか	1 問題なくできる	2 見守りや声がけを要する	3 一部介助を要する	4 全介助を要する	身体的 ADL①	入浴	
17	着替えは一人でできますか	1 問題なくできる	2 見守りや声がけを要する	3 一部介助を要する	4 全介助を要する		着替え	
18	トイレは一人でできますか	1 問題なくできる	2 見守りや声がけを要する	3 一部介助を要する	4 全介助を要する		排泄	
				DASC18(1～18 項目まで)の合計点				点／72 点

2. 家族調査票

家族用

ご家族を対象とした調査

～回答の際の注意事項（評価協力者のみなさまへ）～

ご家族の方に回答をお願いするものです。

以下の注意事項をご確認頂いた上、ご回答いただきますようお願いいたします。

●「10のアイメッセージ」評価に係る調査【家族の立場から】

- ①対象は、認知症の方のご家族です。ここでは、本人の立場としてではなく、ご家族の立場から答えてもらって下さい。
- ②回答は5段階でお願いします。それぞれの質問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「全然思わない」を選択して下さい。（選択は一つのみ）

普段の暮らしの中でどのように感じているのかお尋ねします。各質問に対し、あなたの思いに当てはまる評価に○をつけてください。
また、続柄に☑をつけてください。(回答いただく項目は着色欄のみとなります)

No.	評価項目	評価
I	1 本人の周りの人は、認知症を正しく理解している	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	2 本人の周りの人は、本人の人権や個性を尊重している	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	3 本人の周りの人は、本人ができることは見守り、できないことはそばにいて助けてくれる	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	4 本人は、診断される前と同様、活動的にすごしている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
II	5 本人は、症状が軽いうちに診断を受け、病気を理解できた	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	6 本人は、将来の過ごし方まで考え決めることができた	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
III	7 本人は、体の具合が悪くなった時、いつでも診てもらえるところがある	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	8 本人は、医療と介護の支えて住み慣れたところで健やかにすごしている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
IV	9 本人は、手助けしてもらいながら地域の一員として社会参加できている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	10 本人なりに社会に貢献することができている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	11 本人は、生きがいを感じている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
V	12 本人は、趣味やレクリエーションなどしたいことがかなえられている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	13 本人は、人生を楽しんでいる	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
VI	14 本人を支えている家族（あなた）の生活と人生にも十分な配慮がなされている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	15 本人は、家族や社会に迷惑をかけていると気兼ねすることなくすごせている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
VII	16 本人は、言葉でうまくいえなくても気持ちをわかってもらえている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	17 本人の思いが、人生の終末期に至るまで尊重されると思う	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
VIII	18 本人は、認知症について適切な情報を得ている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	19 本人の身近に何でも相談できる人がいる	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	20 本人には落ち着ける場所がある	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
IX	21 【若年性認知症の家族の方のみ】本人に合ったサービスがある	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	22 【若年性認知症の家族の方のみ】本人は、そのサービスに意欲をもって参加している	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
X	23 あなたは、認知症を治す研究に期待している	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない

評価協力者氏名：_____

調査日：平成 29 年 _____ 月 _____ 日

※裏面もご確認ください。

調査対象者（家族）について			
年齢	() 歳	所在市町村	
本人との続柄	☐ 同居家族（ ☐ 配偶者 ☐ 子 ☐ 兄弟姉妹 ☐ その他（ ）） ・ ☐ 別居家族（ ☐ 配偶者 ☐ 子 ☐ 兄弟姉妹 ☐ その他（ ））		
本人の状態	介護度 ： 自立 ・ 要支援（ 1 ・ 2 ） ・ 要介護 （ 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ）		
	認知症高齢者の日常生活自立度 ： I ・ Ⅱa ・ Ⅱb ・ Ⅲa ・ Ⅲb ・ Ⅳ ・ M		
家族が本人評価への参加	有 ・ 無		

評価者協力者について

事業所名		連絡先	
------	--	-----	--

調査は以上となります。御協力ありがとうございました。

3. 支援者調査票

支援者用

支援者を対象とした調査

～回答の際の注意事項～

注意事項をご確認頂いた上、ご回答いただきますようお願いいたします。

●「10のアイメッセージ」評価に係る調査【支援者の立場から】

- ①あなたの活動しておられる地域について、どのように感じておられるのか、支援者の立場から答えて下さい。
- ②回答は5段階でお願いします。それぞれの質問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「全然思わない」を選択して下さい。（選択は一つのみ）
- ③所在市区町村名と評価日をご記入いただき、添付の返信用封筒で7月7日（金）までに御投函ください。

あなたの活動しておられる地域についてどのように感じているのかお尋ねします。各質問に対し、あなたの思いに当てはまる評価に○をつけてください。

(回答いただく項目は着色欄のみとなります)

No.	評価項目	評価
I	1 認知症についての正しい理解がひろまっている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	2 認知症の人の人権や個性が尊重されている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	3 認知症の人ができることは見守られ、できないことはそばにいて助けてもらえている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	4 認知症の人が、診断される前と同様、活動的に過ごしている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
II	5 認知症の人は、症状が軽いうちに診断を受け、病気を理解できている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	6 認知症の人は、将来の過ごし方まで考え決めることができる	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
III	7 認知症の人は、体の具合が悪くなった時、いつでも診てもらえるところがある	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	8 認知症の人は、医療と介護の支えで住み慣れたところで健やかに過ごしている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
IV	9 認知症の人は、手助けしてもらいながら地域の一員として社会参加できている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	10 認知症の人が、本人なりに社会に貢献することができている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	11 認知症の人が、生きがいを感じている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
V	12 認知症の人は、趣味やレクリエーションなどしたいことがかなえられている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	13 京都では、本人は、人生を楽しんでいる	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
VI	14 認知症の人を支えている家族の生活や人生にも十分な配慮がなされている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	15 認知症の人が、家族や社会に迷惑をかけていると気兼ねすることなくさせている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
VII	16 認知症の人は、言葉でうまくいえなくても本人の気持ちをわかってもらえている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	17 認知症の人は、人生の終末に至るまで、本人の思いが尊重されている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
VIII	18 認知症の人が、認知症について、適切な情報を得ている	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	19 認知所の人や身近に何でも相談できる人がいる	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	20 認知症の人の落ち着ける場所がある	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
IX	21 若年性認知症の本人に合ったサービスがある	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
	22 若年性認知症の本人が、そのサービスに意欲をもって参加している	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない
X	23 認知症の人は、認知症を治す研究に期待している	1.とてもそう思う 2.少しそう思う 3.どちらでもない 4.あまり思わない 5.全然思わない

調査は以上となります。御協力ありがとうございました。

所在市町村：

調査日：平成 29 年 月 日

京都式オレンジプラン「10のアイメッセージ」 評価協力者マニュアル



認知症になっても本人の意思が尊重され、
住み慣れた地域で暮らし続けられる京都を目指して

京都地域包括ケア推進機構
認知症総合対策推進プロジェクト
平成 29 年 6 月

目 次

1 京都式オレンジプランとは	P. 1
2 京都式オレンジプランの評価の目的	P. 2
3 京都式オレンジプランの評価の方法	P. 2
4 「10のアイメッセージ」を評価する人（評価者）	P. 2
5 本人評価・家族評価における評価協力者	P. 3
6 評価協力者の役割	P. 3
7 本人評価の手順	P. 3
8 家族評価の手順	P. 5
9 本人評価に係る 23 評価項目の解説	P. 5
10 参考資料 DASC アセスメントツールの使用方法	P. 25

（平成 28 年度認知症初期集中支援チーム員研修テキストより抜粋）

1 京都式オレンジプランとは

京都認知症総合対策推進計画の通称で、府内の医療・介護・福祉・大学等 39 の関係機関で構成される京都地域包括ケア推進機構（以下、「機構」という。）の認知症総合対策推進プロジェクト（以下、「認知症プロジェクト」という。）が平成 25 年 9 月に策定したものです。

認知症の早期発見・早期対応、認知症ケアの充実や本人支援と家族支援など、関係機関・団体等の役割の明確化を図るとともに、府民、関係団体、行政、事業所それぞれの行動指針（計画）となっています。

【プランの目指す姿】

認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会

この社会の具体的な姿を、認知症の私を主語にした「10 のアイメッセージ」として設定しています。

【10 のアイメッセージ】

- 1 私は、周囲のすべての人が、認知症について正しく理解してくれているので、人権や個性に十分な配慮がなされ、できることは見守られ、できないことは支えられて、活動的にすごしている。
- 2 私は、症状が軽いうちに診断を受け、この病気を理解し、適切な支援を受けて、将来について考え決めることができ、心安らかにすごしている。
- 3 私は、体調を崩した時にはすぐに治療を受けることができ、具合の悪い時を除いて住み慣れた場所で終始切れ目のない医療と介護を受けて、すこやかにすごしている。
- 4 私は、地域の一員として社会参加し、能力の範囲で社会に貢献し、生きがいをもってすごしている。
- 5 私は、趣味やレクリエーションなどしたいことをかなえられ、人生を楽しんですごしている。
- 6 私は、私を支えてくれている家族の生活と人生にも十分な配慮がされているので、気兼ねせずにすごしている。
- 7 私は、自らの思いをうまく言い表せない場合があることを理解され、人生の終末に至るまで意思や好みを尊重されてすごしている。
- 8 私は、京都のどの地域に住んでいても、適切な情報が得られ、身近になんでも相談できる人がいて、安心できる居場所をもってすごしている。
- 9 私は、若年性の認知症であっても、私に合ったサービスがあるので、意欲をもって参加し、すごしている。
- 10 私は、私や家族の願いである認知症を治す様々な研究がされているので、期待をもってすごしている。

【計画期間】

平成 25 年度～平成 29 年度

【プランの施策】

共通方策と 8 つの個別方策で構成されています。

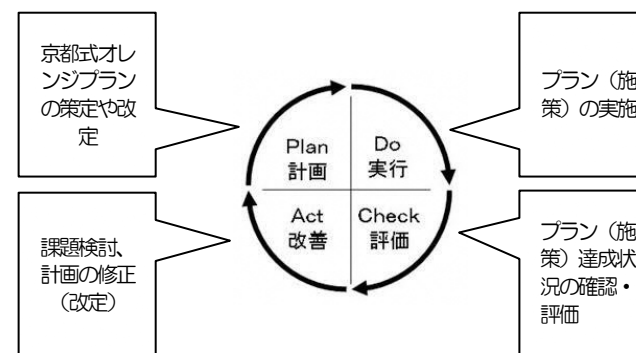
詳しくは、「きょうと認知症あんしんナビ」（<http://www.kyoto-ninchisho.org/>）をご覧ください。

2 京都式オレンジプランの評価の目的

平成 29 年度、計画期間の最終年度にあたり、本人や家族が、「認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会」になっていると感じているかを確認し、プランの達成状況を評価します。

達成できていない施策については、その理由や課題を検討し、本人や家族の思いを次のプランに反映していくために、今回、評価を行うものです。

【PDCAサイクルによるプランの達成】



3 京都式オレンジプランの評価の方法

プランの目指す社会（アウトカム）である「10 のアイメッセージ」について、現在の状況を本人・家族・支援者で評価（以下、「10 のアイメッセージ評価」という。）します。

他に、プランに掲載されている施策ごとの達成状況の確認（施策別評価）や本人や家族の生活の困りごとや願いをディスカッションで引き出して（フォーカス・グループ・ディスカッション）、改定京都式オレンジプランに反映させることを検討しています。

4 「10 のアイメッセージ」を評価する人（評価者）

（1）本人評価の評価者

地域の様々な資源やサービスを利用して在宅生活をしている認知症の人 200 人程度

※予備調査において、地域包括支援センター及び「認知症の人とその家族を支えるためのケアマネジャー研修者」が所属する居宅介護支援事業所から候補者をあげていただきます。

（2）家族評価の評価者

地域で様々な資源やサービスを利用して在宅生活をしている（していた）認知症の人の家族 200 人程度
※本人評価と同じく、予備調査において、地域包括支援センター及び「認知症の人とその家族を支えるためのケアマネジャー研修修了者」が所属する居宅介護支援事業所から候補者をあげていただきます。

（3）支援者評価の評価者

地域で認知症の人とその家族を支えている支援者 500 人程度
※地域包括支援センター職員、認知症サポート医、認知症リンクワーカー養成研修修了者、認知症の人とその家族を支えるためのケアマネジャー研修修了者、認知症カフェ運営者、介護事業所職員、認知症の人と家族の会会員、京都地域包括ケア推進機構構成団体

5 本人評価・家族評価における評価協力者

（1）地域包括支援センター職員

本人評価及び家族評価の対象者となった人が所在する地域包括支援センターの職員

（2）認知症の人とその家族を支えるためのケアマネジャー研修修了者

本人評価の対象者となった人のケアマネジメントを行う介護支援専門員

6 評価協力者の役割

- （1）本人・家族への調査趣旨の説明と同意の取得
- （2）DASC（ダスク）18 の実施
- （3）本人（代弁者）への質問（23 項目）と回答の聴取
- （4）調査票の返送

7 本人評価の手順

①自己紹介のあと、評価者である本人に調査趣旨を説明し、同意を取ってください。

※この調査は単にニーズを問うだけのものではなく、京都で実施されている認知症施策の評価や政策立案過程に反映させるという重要な意義を持つものであることを、分かりやすい言葉で「評価者である本人」にお伝えください。

「認知症本人の声を政策立案過程や評価に反映させる」という視点は新オレンジプランにも明記されていますが、先行した本人研究でも「認知症本人の声をひき出すためには、調査の意義を明確にすること（意欲を引き出す）と適切なパートナーの存在」が不可欠であることが示されています。「10 のアイメッセージの本人評価」は京都市式オレンジプランに明示された重要な政策評価であり、それには是非御協力いただきたいという趣旨の説明をお願いします。

※本人のパートナー（家族もしくは支援者）には、「本人評価」の趣旨を十分に理解していただいた上で、まずは「本人が答えるのを見守る」という基本姿勢を遵守していただくようお願いください。

本人が答えられない（答えない）時に限って「代弁者評価」をお願いすることになりますが、その判断とタイミングは評価協力者が行うので、それを待っていただくようお願いください。この場合の「代弁者

評価」とは、家族の評価ではなく「本人に変わって本人の思いを推測しての評価」であることを明示してください。10 のアイメッセージに対する「家族評価」はまた別に行うこととお伝えすることで、混同を防ぎやすくなります。

②DASC18 を実施してください。

※DASC18 は、観察式アセスメントシートですので、可能であれば事前に評価を終えておいていただいてもよいかもしれません。もし、直前に行うのであれば別室を準備して家族および関係者から聞き取って作成してください。

※基本は本人の日常生活の詳細を把握している家族および支援者から聞き取りますが、生年月日（項目 3）や日付（項目 4）など本人に確認できる項目もあります。こうした項目については、調査時に本人にも尋ねていただくことができます。

※最終章の「9 本人評価に係る 23 評価項目の解説」に詳述していますが、10 のアイメッセージ（23 項目）は、項目によって難易度が異なります。たとえば DASC の結果が比較的良くて も答えるのが難しい項目もあれば、反対に DASC の結果が少し悪くても答えることのできる項目もあります。DASC は、本人の日常生活が明らかになる十分な情報を集めれば自然と正確な評価ができるように開発されたツールです。DASC の点数を把握していると本人の認知機能のレベルが分かり、調査がやりやすくなります。結果として調査の精度と信頼性も高くなります。

③本人（代弁者）に質問項目に従ってヒアリングし、回答を評価票に記入してください。

※本人評価ですから、本人に答えていただくことが原則です。

※質問項目によって、本人が答えられない項目は、代弁者に答えていただいても結構です。代弁者が回答した項目は、回答者欄の「□ 代弁者」にチェックしてください。

※評価者（本人・代弁者）が回答を拒否されたり、苦痛を感じられたりする場合は、その質問を中断し、回答者欄の「□ 回答できない」にチェックしてください。

※項目の評価（○、△、×）以外で本人が言ったこと（意見や要望）などを裏面に記載ください。また、項目の評価にあたり、気になった点や配慮した点があれば記載ください。

④本人または家族（支援者）に確認し、評価者の基本情報を記入してください。

※性別、年齢、同居家族の有無、発病後の年数（もしくは発病年齢）、所在市町村名、DASC 点数、介護認定の有無、介護度、家族評価参加の有無

⑤代弁者（家族もしくは支援者）の基本情報を記入してください。

※性別、年齢、関係、同居の有無、同居の場合は同居期間、支援者の場合は支援期間

⑥評価協力者名と基本情報等を記入してください。

※氏名、調査（評価）日、所属、連絡先電話番号

※ 本人評価における評価協力者の印象（本人の回答能力、代弁者の回答能力）

- ※ 本人との関係（本人のことをどの程度知っているか）
- ※ 代弁者との関係（代弁者のことをどの程度知っているか）
- ※ 本人評価の課題

⑦ 調査の終了をお伝えします。

※ 本人・家族に協力のお礼と、回答いただいた情報は、集計した内容を会議等で発表することがあるが、個人が特定されることはない旨、お伝えください。

⑧ 評価票（本調査票）・DASC18 を返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。

8 家族評価の手順

- ① 自己紹介のあと、評価者である家族に調査趣旨を説明し、同意を取ってください。
- ② 依頼文・調査票・返信用封筒のセットを家族にお渡しください。
- ③ 家族に評価票を記入してもらってください。（必要に応じて、評価協力者が評価項目を解説したり、評価協力者が家族にヒアリングして記入することも可。）
- ④ 家族に確認し、評価者（家族）の基本情報を記入してください。
※年齢、所在市町村名、本人との続柄、本人の状態、本人評価参加の有無
- ⑤ 評価協力者名と基本情報等を記入してください。
※氏名、調査（評価）日、所属、連絡先電話番号
- ⑥ 記入が終わりましたら、家族に評価票を返信用封筒（要封印）に入れてもらってください。
- ⑦ 評価協力者が、返信用封筒をポストに投函返してください。

9 本人評価に係る 23 評価項目の解説

10 のアイメッセージを本人が評価しやすいよう評価項目を 23 の質問項目として作成しました。それぞれの質問項目について、その意味や、本人が回答しやすくなる「評価協力者に求められるサポート」について解説しますので、本人へのヒアリングの参考としてください。

また、「対応するサービスの例示」については、評価協力者が、10 のアイメッセージの各項目とオレングロード（認知症ケアパス）との関係を意識していただくことにより、より正確なヒアリングを行っていただくために、参考までに記載しました。

<質問項目 1>

周りのすべての人が、認知症を正しく理解してくれている

【解説】

この質問項目は、自分のことや自分の感覚ではなく、周囲の人の理解を問うています。

自分の感覚や感じはそのまま言葉にすることができますが、視点を転換して周囲の人の理解を推測する

ことは認知症の人にとってはハードルが高くなります。

①視点を転換する（自分ではなく他者が問われる）、②周りの人の言動や日頃の体験を統合して認知症に対する理解度を推測する、といった操作が必要になりますが、どちらも高度な能力を必要とします。

例えば、②の場合であれば、自分が直接体験した他者の言動であったり、見聞きしたことといった「エピソード記憶」が保持されていること、それらをその瞬間にうまく「想起」できること、そしてそれらを「統合」して「推測」すること、という複雑な思考プロセスが要請されます。

十分なサポートがないと回答が困難な項目です。

【評価協力者に求められるサポート】

①視点の転換

困惑する場合には、「あなたの周りの人たちはどうでしょう」と現実本人が体験している世界に焦点をあててみることでしょうか。その上で、「認知症を正しく理解してくれている」という一般的なテーマを、「あなたの認知症をよく理解してくれていますか」と問い直してみるとよいかもしれません。他者一般という視点の転換を免れて、自分の感覚として一人称で答えやすくなります。

②体験を統合して推測する

個々のエピソードには、客観的情報（5W1H）という側面と、その時に生じた感情・感覚の総和という側面があります。前者の客観的情報については抜け落ちてしまっている、後者の「感情・感覚の総和」は私たちの想像以上によく残されているものです。そして、こちらがその人の現在を規定しています。あなたの認知症について、「家族はどうでしょう」と言葉を足し、なじみの人やなじみの場がある場合には「〇〇の人たちはどうでしょう」と問うことで想起をサポートします。そうして具体的なエピソードが意識的に浮上してきたところで、質問に答えてもらいます。

《対応するサービスの例示》

- 家族支援プログラム（疾患教育を含む）
- 家族のピアサポート
- 認知症カフェの浸透
- 当事者が語る機会（グループディスカッションや講演など）
- 当事者が政策立案過程と政策評価に何らかの形で参加すること（本人評価の文化）
- 認知症アクションアライアンスや認知症にやさしい地域（DFC）に向けた取組
- 小学生・中学生への認知症サポーター養成講座の浸透
- 徘徊模擬訓練や地域ネットワークづくり
- 認知症サポーターのフォローアップ研修

<質問項目 2>

周りの人は、私らしさや私のしたいことをいつも気にかけてくれている

【解説】

「周りの人」に関する処理は前項と同じです。

この質問項目では、「私らしさ」と「私のしたいこと」の二つがテーマになっていますが、他者ではなく自分のことがテーマになっているという点では前項よりは答えやすいかもしれません。

ただ、「私らしさ」という概念は、現在の自分の姿を「自己の同一性・自己像」と照合するという操作を含みます。つまり、自分を対象化して眺めるという「外からの視点」を要請しますから、少し厄介です。

そして「自分らしさ」という概念は固定したものと思われがちですが、長い時間軸で見れば変動していきます。認知機能の急速な変動がある時には、「私らしさ」もまた変動していきます。これに比べると「私のしたいこと」は、自分の感覚だけでストレートに答えることができる分ハードルは低くなりますが、目の前のことではなく自分の記憶の貯蔵庫の中から「したいこと」を抽出してくる作業は思いのほか、大変です。

この辺りを説明してくれるものとして、本人の言葉を紹介します。

【本人の声】

買い物は、もともと好きで、近くのジャスコには毎日のように行っていました。

最近は、ジャスコは物が多すぎて何を買えばいいのかわからないので行かなくなりました。

いろんな商品を見るには見っていますが、欲しい、食べたい、これいいなあ、とはあまり思いません。

買い物に行くのがおっくうです。買い物と言えば、食べ物を買うぐらいですが、自分から食べたいものがなくて、選べません。

【評価協力者に求められるサポート】

困惑する場合には、前項と同様に現実には本人が体験している世界に焦点をあててみることでしょうか。具体的に、「ご家族はどうですか」とか、サポートを受けている場合には「〇〇ではどうですか」と聞いていただくとよいかもしれません。

「私らしさ」という言葉につまずいたり、「したいこと」がすぐには想起できず困惑する場合は、「いつも気にかけてくれている」という述語部分に焦点をあてて頂くことでしょうか。ここは本人に対する周囲の基本姿勢を述べたものであり、質問項目 2 の中核を形成します。「ご家族は、いつもあなたのことを気にかけてくれていますか」と問うたり、「いつもあなたの言葉に耳を傾けてくれますか、そしてあなたの過ごし方や、やりたいことを尊重してくれますか」と尋ねて頂くとよいかもしれません。なじみの場や人がある場合には「〇〇では如何ですか」と言葉を足して頂くとよいでしょう。具体的なエピソードを想起することは難しいかもしれませんが、現在の感情状態であったり感覚であればハードルはうんと低くなります。

《対応するサービスの例示》

- 家族支援プログラム（疾患教育を含む）
- 家族のピアサポート
- 認知症カフェの浸透
- 当事者が語る機会（グループディスカッションや講演など）
- 認知症アクションアライアンスや認知症にやさしい地域（DFC）に向けた取組
- 小学生・中学生への認知症サポーター養成講座の浸透
- 徘徊模擬訓練と地域ネットワークづくり
- 認知症サポーターのフォローアップ研修

<質問項目 3>

周りの人は、私ができることは見守り、できないことはそばにいて助けてくれている

【解説】

ここも、「周りの人」の処理は前項までと同じです。

質問は、「できること」と「できないこと」を区別できる（明確な病識がある）ことを前提としています。それにはかなり高度な認知機能を必要とします。

「できない」という自覚は日常生活場面での失敗の経験から生まれます。「〇〇ではいつも失敗する」といったエピソード記憶の良好さがないと、つまり記憶の連続性が保たれていないと、「できない」という自覚は生まれません。

そして、失敗の自覚だけではなく、「できることとできないこととの境界を設定する」というのは、自分を客観視して対象化する能力を必要とします。これをサポートなしで答えることは、かなり困難です。

【評価協力者に求められるサポート】

「できること」と「できないこと」の区別が難しい場合には、別々に聞く方法がよいかもしれません。たとえば、「できないこと」については、「困った時にはいつでも、家族は助けてくれますか」と問うてみるのがよいかもしれません。なじみの場や人がある場合には、「〇〇ではどうでしょう」と言葉を足していただくとよいでしょう。

また、「できること」については、「家族が精いっぱい頑張ること、自分でできるから放っておいてほしいと思うことはありますか」と尋ねてみると、それが糸口になって話が引き出せるかもしれません。

なじみの場や人がある場合には、「〇〇ではどうでしょう」と言葉を足して下さい。

《対応するサービスの例示》

- 当事者が語る機会（グループディスカッションや講演など）

- 診断後の本人支援プログラム
- 家族支援プログラム
- 認知症の人と認知症の人と家族の会のつどい
- 認知症カフェ
- ピアサポート（仲間の存在）

<質問項目 4>

私は、診断される前と同様、活動的にすごしている

【解説】

この質問は、文字通りに解釈すると「診断を受けたという記憶（自覚）」、「診断の時期」、「診断前の活動性」、「診断後の活動性」という時期を異にする 4 項目から構成され、回答には記憶の連続性が求められる難問です。

さらに診断の前と後を比較するという高度な作業を要請します。一般に認知症があると「比較」や「相対化」が困難になりますから、繰り返しこういったことが話題になり意識される環境にいる人以外は、たとえ軽度であったとしてもサポートがないと答えられないかもしれません。

そして、診断から長い時間が経過した人にとっては、この質問はほとんど意味をなしません。退職前と退職後といったように、いくつかの節目を持ちながら、加齢とともに活動性が低下していくことは、認知症に限ったことではありません。ここでは、そういった長い時間を想定しているのではなく、診断前後という短い時間での落差を問うている、つまり診断後のサポートの有無を問うていると考えるべきでしょう。そう考えると、調査対象は最近診断を受けた人や軽度の認知症の人に絞られてくるかもしれません。

ここでも、診断前後の落差を示す、本人の印象的な言葉を引用します。これは、診断後の本人と家族双方への支援の有無を問う項目です。スコットランドのリンクワーカーや、診断後の本人支援プログラム・家族支援プログラムがその代表でしょうか。

【本人の声】

認知症の診断を受けて、夢も希望もなくなった。

認知症のイメージが悪く、「ボケていだけで、まわりのみんなに迷惑をかける、お先真つ暗!!」と思って、落ち込んだ。この先何をしたいのか？ どうして生きていくのか？ わからなくて、つらかった。

毎日やることがなかった。生きがいがなく、死にたいと思った。治療といっても薬を飲むだけで、娘には怒られてばかりで、「あれもあかん、これもあかん」と自分で思っていた。認知症やし、何もしたらあかんと思っていた。塀の中に閉じ込められている感覚だった。

【評価協力者に求められるサポート】

診断後のサポートの有無と生活の再構築が問われている質問だと理解して下さい。

「診断後、途方に暮れたり、絶望したりすることはありませんでしたか」という質問で始めるとよいかもしれません。

そして、「その後、適切なサポートを受けることができましたか」と言葉を続け、「その結果、現在も活動的に過ごせていますか」といった順序で尋ねていくと、かなり答えやすくなるかもしれません。

《対応するサービスの例示》

- スコットランドのようなリンクワーカーや認知症コーディネーター
- 診断後の本人支援プログラム・家族支援プログラム
- 認知症の人と認知症の人と家族の会のつどい
- 認知症初期集中支援チーム
- 認知症カフェ
- ピアサポート（仲間の存在）

<質問項目 5>

私は、軽いうちに診断を受け、病気を理解できた

【解説】

この質問は、診断を話題にした時に「最初は MCI と言われました」と答えるような人は自力で回答が可能です。

しかし、認知症が中等度以上の人にとっては、自分の認知症を量的に評価することは至難の業です。この質問は、「認知症の診断を受けたときの記憶」、「その時のステージ」、「病気の理解」という三つの要素から構成されますが、多くの人は、いずれの要素についてもサポートが必要です。

【評価協力者に求められるサポート】

まずは、受診場面を話題にすることから始めることでしょうか。たとえば、「最初の診察は、御自分から受診されたのですか、それとも誰かに勧められて？」と話を切り出してみるとよいかもしれません。

最初に、「あれっ、変だな…」と思ってから（あるいは家族にそう指摘されてから）受診するまでの時間は短かったのですか？」と言葉を足してみます。そして、「病気については十分な説明がありましたか」と続け、最後に、「それで、病気のことを理解できましたか」と尋ねることでしょうか。

《対応するサービスの例示》

- 認知症の早期診断とリンクワーカー的機能との連携

- 認知症初期集中支援チーム
- 認知症カフェやサークル活動など認知症初期の人が利用できる資源
- 本人支援と本人同士のピアサポート
- 認知症にやさしい地域（DFC）に向けた取り組み（認知症の疾病観の変更）

<質問項目 6>

私は、将来の過ごし方まで考え決めることができた

【解説】

これは、意思決定能力低下に備えて、前もって自分が受けたいケアを話し合っておくアドバンス・ケア・プランニング（ACP）とも関連する質問項目です。そういった文化の有無や、認知症ケアパス情報共有シートの浸透、初期段階での診断の浸透が隠れたテーマです。その構成要素である、「初期診断」「意思表示の文化の共有」「それを可能にするツール」の浸透が指標になります。

【評価協力者に求められるサポート】

先ほどの質問の続きですから、「病気を理解できた」という前提でこの質問項目を評価してもらって下さい。

「病気を理解して、今後のことを誰かと話をしましたか（していますか）」と切り出すのがよいかもしれません。「今後は、こうしたい、というイメージはありますか」と言葉を続け、「将来の過ごし方を決めていますか」と尋ねます。

《対応するサービスの例示》

- 認知症ケアパス情報共有シートの浸透
- 早期診断の浸透
- アドバンス・ケア・プランニングの浸透

<質問項目 7>

私は、身体の具合が悪くなったらいつでも診てもらえる

【解説】

これは、二つの場面を含みます。一つは体調を崩した時に、それをうまくキャッチしてくれて必要な医療に誘導してくれる支援や体制があるかを問うています。もう一つは、認知症が進行した時に、入院環境にうまく適応できず、様々な行動・心理症状を引き起こし、それに医療がうまく対応できない時に、結果として医療の場から排除されてしまう場面をテーマにしています。

後者のテーマは、中等度以上の人が主たる調査対象者になりますが、この段階になると病院でのエピソード記憶は残っていないことが多いので、いきおい家族が本人の思いを代弁する形で語る回答が増えると思います。

【評価協力者に求められるサポート】

まず、調査対象者がMCIもしくは軽度のレベルか、それとも中等度以上かの判断をします。その上で、前者の方には、まず質問通りに現在のことをお聞きします。

その次に、認知症が進行した時の入院場面で起こりがちな風景を描写して、その場面を推測しながら答えてもらう方法でしょうか。

たとえば、「認知症が進行すると急激な環境変化に弱い」と言います。認知症が進行した段階での突然の入院は、急な環境変化のストレスもあって、居室が分からなくなったり、慣れない環境で混乱してパニックになったりして、病院の環境にうまく適応できないことが起こることがあります。そういう時でも、うまく診てもらえるでしょうか」と尋ねてみるとよいかもしれません。

中等度以上の場合は、過去の経験を尋ねることになるので、御自分で回答することは質問の仕方を工夫しても難しいかもしれません。

《対応するサービスの例示》

- かかりつけ医と専門医療機関との連携
- 医療とケアとの連携などサポートチーム全体での連携体制
- 急性期病院の変化（病院医療従事者認知症対応力向上研修、認知症サポートナース養成研修）
- 医師会等が作成している認知症診療マニュアルの浸透
- アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の浸透
- 在宅診療の深化
- 看取りの深化

<質問項目 8>

私は、医療と介護の支えで住み慣れたところで健やかにすごしている

【解説】

これは、現在の率直な感覚を答えてもらう質問ですから、認知症が中等度以上であっても、かなり幅広く自力で回答が可能な項目です。

「健やかに過ごしている」がメインで、「医療」、「介護」、「住み慣れたところ」という要件が附加されます。必要なサポートが提供され、生活を再構築できているかどうかを問う質問ですから、「住み慣れた」という言葉の意味として転居の有無は無視してよいかもしれません。

【評価協力者に求められるサポート】

ここはあまり多くのサポートは必要なさそうです。

話の切り出しとしては、「どこで診てもらっているのですか」と言った問いかけから始め、「どんなサービスを利用しているのですか」と話を続け、「今のお住まいは長いのですか」、「住み心地は如何ですか」といった言葉を足し、最後に「健やかに過ごせていますか」を問うといったところでしょうか。

《対応するサービスの例示》

- 認知症ケアパス情報共有シートの浸透
- オレンジロードの浸透
- 認知症カフェやリンクワーカー的機能の浸透
- 認知症初期集中支援チームの浸透
- 医療の充実
- ケアの充実
- 認知症にやさしい地域（DFC）づくりの伸展

＜質問項目 9＞

私は、手助けしてもらいながら地域の一員として社会参加できている

【解説】

この質問項目は、「手助け」、「地域の一員」、「社会参加」という三つの構成要件からなります。

悩ましいのは、「地域」の守備範囲と「一員」という言葉の幅でしょうか。「地域」とは、広くとればすべての人を含みますが、一番狭くすると自宅に住み地域活動に参加している人ということになります。一応、「病院以外の場で暮らす生活者」といったところで如何でしょう。

「社会参加」は、デイサービスも加えて、「自宅以外にでている場所がある」といった理解で如何でしょう。

【評価協力者に求められるサポート】

これも言葉の定義を除くと、答えやすい質問です。

「どこかでかける場所はおありですか」といった質問に始まり、場合によっては「デイは如何ですか」と個別サービスを問い、「それが社会参加ですね」とまとめるといったところでしょうか。

《対応するサービスの例示》

- 認知症ケアパス情報共有シートの浸透
- オレンジロードの浸透
- 認知症カフェやリンクワーカー的機能の浸透
- 地域認知症にやさしい地域（DFC）づくりの伸展
- ボランティアや就労支援
- 予防教室や介護保険によるサポート

＜質問項目 10＞

私は、私なりに社会に貢献することができている

【解説】

この質問項目は、難題です。

まず、「社会貢献」という言葉が難しいですね。「社会のお役に立っている」といった言葉に置き換えると意味は通りやすくなりますが、自分の行為あるいは存在が、社会のお役に立っているかどうかという判断を認知症の人がするのは至難の業かもしれません。

ここは噛み砕いて伝え直す努力が必要になります。「就労」、「ボランティア」、「人のお世話」、「役割」といったところがテーマとなった質問項目です。

【評価協力者に求められるサポート】

もっぱら噛み砕く作業でしょうか。

就労している人であれば、「それが社会貢献ですね」と伝えればよいでしょう。「ボランティア」も同様です。

どちらにも該当しない時には、地域・家庭・ケアの場における「何らかの役割」に焦点をあてて、「それも社会貢献と考えることもできますが、御自分ではどのようにお考えですか」と問うことでしょうか。

《対応するサービスの例示》

- 認知症本人が語る機会（カフェやサークルへの参加、講演など）
- 地域でのボランティア活動や何かの役割
- 町内会や地域の取り組みへの参加
- 本人同士のピアサポート
- 認知症本人が政策立案過程と政策評価に何らかの形で参加すること（今回の本人評価）
- 若年性認知症等の就労支援
- 就労支援 A 型・B 型

＜質問項目 11＞

私は、生きがいを感じている

【解説】

この質問項目も、「生きがい」という現時点での主観的感覚を問うものですから、答えやすい質問です。

【評価協力者に求められるサポート】

「生きがい」という言葉につまずくようでしたら、「現在はどのようなことをされているのですか」と日常の具体的な活動を問い、「どうでしょう、それは楽しいですか」と言葉を紡ぎ、「そうすると生き甲斐については？」と問えばよいかもしれません。

《対応するサービスの例示》

- 認知症本人が語る機会（カフェやサークルへの参加、講演など）
- 地域でのボランティア活動や何かの役割
- 町内会や地域の取り組みへの参加
- 本人同士のピアサポート
- 認知症本人が政策立案過程と政策評価に何らかの形で参加すること（本人評価の文化）

<質問項目 12>

私は、趣味やレクリエーションなどしたいことがかなえられている

【解説】

これは、認知症の人たちに対する見方の変更をテーマとする質問項目です。

認知症の人を「面倒をみられる存在」としてではなく「ハンディを持ちながら自分の人生を歩む主体」として捉えることと言ってもよいかもしれません。

これは、一部では当たり前になっていることですが、まだ全体化していないところです。ですから、そういう機会を与えられている人にとっては非常に答えやすい質問ですが、逆にそういう機会を与えられていない人にとっては何を聞かされているのかわかりにくいかもしれません。

【評価協力者に求められるサポート】

質問自体はシンプルですから、まずは率直にお聞きしてみることでしょうか。

困惑したり、あるいは見当外れの答えが返ってきた時には、「若い頃はどんな趣味をお持ちでしたか」と尋ねてみて「最近、それをする機会はありますか」と言葉を紡ぎてみるとよいかもしれません。あるいは、「最近になって、何か新しく始めたことはありますか」と聞いてみるのもよいでしょう。

レクリエーションについては、「最近、気分転換に、家族や友人とどこかにでかけたり、あるいは一緒に何かをして楽しむ機会はありますか」と聞いてみるのがよいかもしれません。

《対応するサービスの例示》

- 参加者の主体性を尊重してプログラムを工夫する介護保険サービス
- 認知症カフェやサークルへの参加
- 地域でのボランティア活動への参加
- 町内会や地域の取り組みへの参加
- 趣味を遂行するための支援

<質問項目 13>

私は、人生を楽しんでいる

【解説】

この質問項目は、自分を主語とし、現在この瞬間という点に焦点が絞られ、自分のありのままの感覚（主観）が問われていますから、その点では認知症の人にとって答えやすい項目です。

この質問のテーマは、認知症の診断を受けたあと人生を再構築することに成功し、認知症とともに明るく生きているか否かを問うものです。ここまでの質問の総和といってもよい質問項目です。

【評価協力者に求められるサポート】

ここは率直に尋ねて頂くのがよいと思います。

すでにここまでの質問項目に対する回答で、評価協力者にはすでに回答の予測がついているはずです。

もし、その予測と異なる回答が返ってきた時には、ここで問われていることが質問 11 や 12 とセット（広くとれば質問 9 と 10 も含まれる）であることを考慮し、「質問 11 では、こうお答えになっていましたね」と再考するきっかけを提供してもよいかもしれません。

《対応するサービスの例示》

- すべて

<質問項目 14>

私を支えてくれている家族の生活と人生にも十分な配慮がなされている

【解説】

言葉通りに捉えると、この質問は認知症の人たちにとっては非常に高度な質問です。

対象は自分ではなく家族であること、そして自分は支えられる存在であること、そして自分を支えることが家族の生活と人生にも影響を及ぼしていること、といった構造を理解できていることが前提になります。その上で、「その配慮は家族にとって十分か」という他者の需要に対する量的判断を求められます。

この質問を論理的に処理しようとする、記憶の連続性が保たれているだけではなく、相手の視点に立つて考える能力、さらには充足度を推測する能力が求められます。

この質問の背景は、「認知症の本人だけではなく家族もまた十分な援助を必要としている」という英国の認知症国家戦略重点課題に挙げられた 5 項目の一つです。十分に噛み砕いた、強力なサポートがないと答えられません。

【評価協力者に求められるサポート】

言葉通りに捉えると非常に難しい質問になりますが、評価協力者には既に答えが予測できているかもしれません。

多くの場合、本人が笑顔で人生を楽しむことができていれば、家族もまたそのような毎日を過ごしています。

もし家族が十分なサポートを受けているのであれば、それは家族の表情や言動からも読みとれる可能性があります。それを評価協力者が直感的に感じとることができるのであれば、本人もまた直感的に感じとることが可能かもしれません。認知症が進んでも、声や表情から相手の感情を読みとる能力は維持されると言います。

「ご家族の生活と人生にも十分な配慮がなされているとすれば、ご家族も穏やかに幸せな毎日を過ごしているはずですが、ご家族のあなたに対する態度は優しいですか？」と問いかけ、「一緒にいる時の表情はどうでしょう、あなたに語りかける時の口調はどうでしょう」と言葉を足していき、最後に「十分な配慮がなされていると考えますか」という質問でまとめる方法がよいかもしれません。

《対応するサービスの例示》

- 診断後の家族支援プログラム
- オランダのミーティングセンターのような場
(本人支援専用プログラム・家族支援専用プログラム、両者共通支援プログラム)
- 認知症の人と家族の会のつどい
- 家族同士のピアサポート (仲間づくり)
- 認知症カフェ
- 介護保険サービス

<質問項目 15>

私は、家族や社会に迷惑をかけていると気兼ねすることなくすごせている

【解説】

この質問項目は、他者ではなく「自分」が問題となり、さらに「気兼ね」という自分の感覚が問われているという意味では、前項に比べると随分答えやすい質問です。

しかし、「気兼ね」という感覚は、「自己と他者との関係性」の中に生まれる「間の感覚」であること、さらには自己価値観や規範意識と関連した感覚であることから、案外難しい質問です。

気兼ねの感覚は、認知症のない居候的環境に置かれた高齢者にもっとも強いかもしれません。疾患でいうと、うつ病がもっとも親和性が高くなります。逆に、前頭側頭型認知症で無頓着さが問題となるタイプは、この感覚は確認することが難しくなります。

この質問のテーマは、前の質問項目と同じ「家族にも十分なサポートがなされている」という視点と、

社会の認知症に対する意識が変わることです。そういったことを念頭に置いたサポートが必要です。

この質問は、認知症が進行するに連れて肯定的な返答が多くなることや、認知症以外の問題に由来する部分が多いことから、本人評価には不向きな質問項目かもしれません。

【評価協力者に求められるサポート】

初期の人ほど評価が辛くなりがちであり、認知症が進行するほど評価が甘くなりがちであることを念頭に支援を行う必要があります。

質問 14 とセットですから、場合によっては、「先の質問 14 では、こうお答えになっていましたが…」と、その関連性に注意を向けるサポートが必要かもしれません。

《対応するサービスの例示》

- 診断後の家族支援プログラム
- オランダのミーティングセンターのような場
(本人支援専用プログラム・家族支援専用プログラム、両者共通支援プログラム)
- 認知症の人と家族の会のつどい
- 家族同士のピアサポート (仲間づくり)
- 認知症カフェ
- 介護保険サービス
- 認知症の人にやさしいまち、認知症アクションアライアンス

<質問項目 16>

私は、言葉でうまくいえなくても私の気持ちをわかってもらえている

【解説】

この質問は、二つの解釈があります。一つは認知症を生きる不自由を言葉にすることの難しさであり、もう一つは認知症が進行して重度になり言葉で自分の気持ちを表現できなくなった段階のことです。

後者は、そういう段階に至ってもこれまでの蓄積により周囲は本人の気持ちを推測できるようになっている、といった場面を想定しています。ただ、その場面は、初期の認知症の人にとっては直接答えることができず、認知症が進行しその時期に至った人はこの質問に言葉で答えることはできませんから、後者の場合は本人評価には不向きかもしれません。

ここでは前者に絞って答えてもらうということで如何でしょう。

【評価協力者に求められるサポート】

認知症を生きる時の不自由は、周囲の人に深く理解された時にはじめて適切なサポートの提供が可能になり、認知症の人も周囲の人も幸せに生きることが出来ます。

逆にうまく理解されない場合には、認知症の人は環境に適応することができなくなります。その時にもたらされる困難は、本人と家族の双方を追いつめていきます。そういったことを背景にした質問であることを念頭に評価をサポートして下さい。

たとえば、「今まで普通にできたことが、今日ではうまくできない、といった時がありますよね。自分でもうまく説明できない。そういう時の不安や苛立ちを、周囲の人はよく分かってくれますか」と言葉を足してもいいかもしれません。

《対応するサービスの例示》

- 診断後の家族支援プログラム
- オランダのミーティングセンターのような場
(本人支援専用プログラム・家族支援専用プログラム、両者共通支援プログラム)
- 認知症の人と家族の会のつどい
- ピアサポート（仲間づくり）
- 認知症カフェ
- アドバンス・ケア・プランニング（ACP）

<質問項目 17>

人生の終末に至るまで、わたしの思いが尊重されると思う

【解説】

この質問項目は、「私の思い」が問われているという意味では、答えやすいかもしれません。

しかし「人生の終末」という最後の時に至るまでという長い時間を想定することの難しさと、周囲が自分の思いを尊重してくれるかという周囲の選択を推測することの難しさがあります。

この質問の背景は、質問6と同じで、「早期診断」、「認知症の理解」、「自己決定」、「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」、「自己決定の尊重」といったことがあります。質問自体がシンプルなので、家族への信頼という観点のみからの感覚的な評価になりがちかもしれません。

【評価協力者に求められるサポート】

まずは、「私の思いの尊重…、これまでは如何でしたか」と切り出してみるのがよいかもしれません。ついで、「人生の終末までという随分と長い時間になりますが、今後のことを誰かと話をしましたか（していますか）」と言葉を紡ぎてみる手でしょうか。

「最後の瞬間までを、こう過ごしたいという思いはありますか」と言葉を足して、「その思いは尊重されると思いますか」と尋ねてみる、といった感じででしょうか。

《対応するサービスの例示》

- 認知症ケアパス情報共有シートの浸透
- 早期診断の徹底
- アドバンス・ケア・プランニング（ACP）

<質問項目 18>

私は、適切な情報を得ている

【解説】

この質問はシンプルですが、認知症の人にとっては難しい質問です。

認知症について「適切な情報がほしい」と思っている人は答えやすい質問ですが、「情報を得たいと考えたことがない人」としては答えることが難しく、「認知症と思っていない人」は答えることができません。

この質問に自分の力で答えられる人は、MCI もしくは認知症の初期であり、病識があつて、自ら診断を希望して受診するといった行動をとれる人です。それでも、自分が得ている情報が「適切か否か」の判断は難しいところがあります。

この質問の背景には、「助かった」と思えるような情報に巡り会えたか、「人生の再構築に役立つ情報を得られたか」といった含意があります。

【評価協力者に求められるサポート】

質問5と質問6にサポートなしに適切に答えることができた人は、この質問にも自分一人で答えられるかもしれません。そうではなかった人には、なにかがしかのサポートが必要でしょう。

「適切さ」の指標を「有用性」に置き換えて、「医師やケアの人たちから得られた情報は、役立ちましたか」といった問いで始めてみるのがよいかもしれません。

場合によっては、「説明は丁寧でわかりやすいですか」と言葉を足したり、「情報を得たことで助かりましたか」と言葉を重ねてみるのもよいかもしれません。

《対応するサービスの例示》

- 診断後の本人支援プログラム
- オランダのミーティングセンターのような場
(本人支援専用プログラム・家族支援専用プログラム、両者共通支援プログラム)
- 認知症の人と家族の会のつどい
- ピアサポート（仲間づくり）
- 認知症カフェ

<質問項目 19>

私は、身近に何でも相談できる人がある

【解説】

これは、パートナー（夫婦という意味ではなく信頼できる伴走者）の有無を尋ねる質問ですから、認知症の人にとって答えやすい質問です。家族と一緒に暮らしているか近くにいる場合には、家族との関係が問われる質問でもあります。

それは同時に家族が十分にサポートされているかという質問 14 とも関連してきます。

ただ、ここで問題となる「何でも」の中には、生活上の問題だけではなく、知識や技術に関すること、すなわち医療やケアに関する相談を含みます。そういった医療・ケア・暮らしの総体について相談できる体制があるかを問うています。独居の場合も同様です。友人・近隣の人・専門職の総和を問うています。認知症の全過程に寄り添ってくれる伴走者（パートナー）の有無を問う質問です。

【評価協力者に求められるサポート】

この質問項目は、率直に、そのまま尋ねていただければよいと思います。

ただ、その回答が単に話し相手がいるというレベルに留まっている場合には、「病気のことやお薬のことはどうでしょう」という問いを足したり、「援助なしでは一人での生活が難しくなった時、誰に相談しますか」と尋ねてみるとよいかもしれません。

《対応するサービスの例示》

- 認知症コーディネーター、リンクワーカー
- パートナーの機能を果たせる人の存在
- 認知症初期集中支援チーム・訪問看護
- かかりつけ医・専門医
- ケアマネジャー・ケアスタッフ
- 認知症の人と家族の会

<質問項目 20>

私には、落ち着いていられる場所がある

【解説】

この質問も、現在の自分の主観的感覚を問うシンプルな構成ですから、認知症の人が答えやすいものです。背景は、認知症になっても普通に暮らせる社会の実現を念頭に置いたものですから、認知症があってもごく自然に過ごせる自宅以外の居場所の有無を問うものです。

たとえば、自分の家以外には居場所がなく、ずっと家に閉じこもって過ごしている場合でも、この質問に「ある」と答える場合があることには注意が必要です。また自発性の低下が強い場合には、十分なサポー

トがないまま放置されてしまうリスクがあることにも注意が必要です。

【評価協力者に求められるサポート】

まずは、そのまま質問して頂いて結構です。

ただ、質問 9 から 13 によって、その人の生活ぶりが既に推測できていますから、「家以外の居場所はどのように」と質問を足してもよいかもしれません。

《対応するサービスの例示》

- 認知症カフェ
- オランダのオーデンセハウスのような場
(第二の居間、いつでも立ち寄れる地域の中に設定された居場所)
- ケアサービス（デイ・小規模等）
- サークル活動
- 認知症にやさしい地域（DFC）づくり

<質問項目 21>

若年性の認知症の私に合ったサービスがある

【解説】

この質問は主語を「若年性」としているので、質問に回答できる人は限定されます。

構成要件は、「若年性認知症」、「私に合ったサービスの有無」と二つありますが、回答自体はそれほど難しくはありません。

「私に合ったサービス」とは典型的には若年性認知症専用プログラムを指しますが、必ずしもそこに限定されるわけではありません。ここについてはサポートがないとうまくイメージできないかもしれません。

【評価協力者に求められるサポート】

若年性認知症であるか否かは評価協力者が事前調査でスクリーニングし、本人には問う必要はありません。

「私に合ったサービス」については、「典型的には若年性認知症専用プログラムですが、そういったサービスはありますか」と尋ねてみるとよいかもしれません。

その地域にそうした専用プログラムがない場合には、「高齢者と若年者では、サービスに対する需要が違いますが、若年者の需要にもあったサービスはありますか」と言葉を足してもよいかもしれません。

《対応するサービスの例示》

- 若年性認知症デイケア
- 障害者のデイケア

- 障害者総合支援法の就労支援 A 型・B 型
- 認知症カフェ（居場所）
- ボランティア活動
- 予防事業
- パートナーの役割を果たせる人の存在（リンクワーカー、認知症コーディネーター等）

<質問項目 22>

私に合ったサービスに意欲をもって参加している

【解説】

この質問項目は、21 の質問に「そう思う」、「少しそう思う」と回答した若年性認知症の人に問う質問です。

「参加意欲」は自分の主観の問題ですから、判断は比較的容易です。

【評価協力者に求められるサポート】

先ほどお答えいただいた「そのプログラムに意欲を持って参加していますか」と尋ねるのがよいかもしれません。

《対応するサービスの例示》

- 若年性認知症デイケア
- 障害者のデイケア
- 自立支援法の就労支援 A 型・B 型
- 認知症カフェ（居場所）
- ボランティア活動
- 予防事業
- パートナーの役割を果たせる人の存在（リンクワーカー、認知症コーディネーター等）

<質問項目 23>

私は、いま行われている認知症を治す研究に期待している

【解説】

この質問は、厳密に考えると答えるのが難しい質問です。

言葉通りに解釈すると、「いま行われている認知症を治す研究」を漠然とはあれイメージできて（想起できて）、その研究に対して「期待できる・期待できない」を判断する、いわば研究評価を含んだ質問です。

これは自ら希望して現在治験を受けている場合には答えやすいかもしれませんが、多くの場合は「認知症を治す薬を開発して欲しい」という願望を表現することになりそうです。そうであれば、「いま行われている」は外してもよいかもしれません。

【評価協力者に求められるサポート】

そのまま質問していただき、もし「いまおこなわれている」という文言に注意が向いて困惑する人がいれば、「あまり難しく考えなくて、認知症の研究には期待していますか」とシンプルに問い直してもよいかもしれません。

《対応するサービスの例示》

- 治験
- 新しい治療とケアの開発

10 参考資料 DASC アセスメントツールの使用方法

（1）地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート DASC とは

認知症の人が、住み慣れた地域の中で穏やかな暮らしを継続できるようにしていくためには、地域の中で、認知症に気づき、総合的なアセスメントを行い、多職種間で情報を共有し、必要な支援を統合的に提供できるようにしていく必要がある。ここでは、そのためのツールとして開発された「地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート」（Dementia Assessment Sheet in Community-based Integrated Care System, DASC ; ダスク）について解説する。

認知症とは、何らかの「脳の病気」によって、「認知機能」が障害され、それによって「生活機能」が障害された状態を言う。そして、このような「脳の病気—認知機能障害—生活機能障害」の 3 者の連結を中核にして、さまざまな「身体疾患」、さまざまな「行動・心理症状」、さまざまな「社会的困難」が加わって、認知症の臨床像の全体が形づくられる。これらの全体を包括的に評価することを認知症の総合アセスメントと呼ぶ。しかし、認知症に気づき、認知症であることを診断するためには、まずは「認知機能障害」と「生活機能障害」を評価することが重要である。DASC-21 は、さまざまな認知症に一般的に見られる「認知機能障害」と「生活機能障害」をリストアップしたものである。DASC-21 には以下のような特徴がある（表 4-10）。

表 4-10 DASC-21 の特徴

- ・DASC-21 は、導入の A,B 項目と 1 から 21 項目の評価項目からなるアセスメントシートである。
- ・認知機能と生活機能を総合的に評価することができる。
- ・IADL の項目（6 項目）が充実しているので軽度認知症の生活機能障害を検出しやすい。
- ・4 件法で評価しているために障害の機能変動をカバーできる。
- ・設問は具体的であり、観察法によって評価できる。
- ・簡便で、短時間で実施できる。
- ・評価方法も単純である。・簡単な研修をすることによって、認知症の基本的な理解と認知症の総合的アセスメントの基本的技術を修得することができる。

表 4-10 DASC-21 の特徴（続き）

・評価結果から臨床像の全体をある程度把握することができ、かつ必要な支援の目安をつけることができる。

（2）DASC-21 を用いる場合の留意点

1) 全般的な留意点

①DASC-21 は、原則として、研修を受けた専門職が、対象の方をよく知る家族や介護者に、対象の方の日常生活の様子を聞きながら、認知機能障害や生活機能障害に関連する行動の変化を評価する尺度（Informant Rating Scale）である。

②一人暮らしの方で、家族や介護者に質問することができない場合には、対象者本人に日常生活の様子を質問しながら、追加の質問をしたり、様子を観察したりして、調査担当者自身の判断で対象の方の状態を評価する（各質問項目の、一人暮らしの方の場合の評価の留意点を参照）。

③質問は21項目あり、それぞれにつき1から4の4段階（4件法）で評価する。

④4段階評価を行う場合、1,2と3,4の間にアンカーポイントをおき、1および2が正常域、3および4が障害域であることをおおよその目安にして評価する。

⑤回答者が家族または介護者の場合には、基本的には回答者の回答をそのまま採用してかまわない。しかし、客観的な観察と回答者の回答とが著しく乖離する場合には、調査担当者の専門職としての判断に従って評価する。

⑥「～できますか」という質問に対して、家族や介護者が“実際にできるか否か”を確認していないという場合でも、家族や介護者からみて“実際にできそうか否か”を判断して回答してもらう。一人暮らしで、家族や介護者に質問できない場合には、調査担当者からみて“実際にできそうか否か”を判断して評価する。

⑦導入質問のA,B項目については、アセスメントを円滑に行うための「もの忘れ」の自覚症状についての質問である。この質問はDASC-21の導入の質問であるので、採点は行わない。

	導入質問	留意点
A	もの忘れが多いと感じますか。	導入の質問。家族や介護者から見て、対象の方の「もの忘れ」が現在多いと感じるかどうか（目立つかどうか）、その程度を確認します。 一人暮らしの場合（家族や介護者がいない場合）は、対象者本人の回答で評価してかまいません。
B	1年前と比べてもの忘れが増えたと感じますか。	導入の質問。家族や介護者から見て、対象の方の「もの忘れ」が1年前と比べて増えていると感じるかどうか、その程度を確認します。 一人暮らしの場合（家族や介護者がいない場合）は、対象者本人の回答で構いません。

2) DASC-21 の各質問項目の留意点

	導入質問	留意点
1	財布や鍵など、物を置いた場所がわからなくなることがありますか。	記憶機能（近時記憶障害）に関する質問です。財布、鍵、通帳など、物の置いた場所やしまった場所がわからなくなったり、探し物をしたりすることが頻繁にあるかどうかを確認します。 一人暮らしの場合（家族や介護者がいない場合）には、実際に、ものの置き場所を質問してみても（例：「おくすり手帳はありますか」）確認することもできます。対象の方が「物がよくなる」「誰かがもっていく」「盗まれる」という体験を自ら話す場合には、話の内容から、物を置いた場所やしまった場所がわからなくなることが頻繁にある様子を推測することができる場合があります。
2	5分前に聞いた話を思い出せないことがありますか。	記憶機能（近時記憶障害）に関する質問です。少し前に話したことを忘れてしまい思い出せないこと、例えば、その日の予定（例：病院に行く、デパートに行く、孫が遊びにくる）や電話で伝えられた用件などを頻繁に忘れてしまうかどうかを確認します。 一人暮らしの場合（家族や介護者がいない場合）には、実際に質問法の記憶課題（例：先程伝えた調査担当者の名前を再度確認してみる、実際に3単語の遅延再生課題を行う）で近時記憶障害を確認することもできます。また、日常会話の中で、つい先刻話したことを忘れて、同じことを何度も繰り返して話したり、同じ質問を何度も繰り返したりすることがあれば、その様子からも、「5分前に聞いた話を思い出せないことが頻繁にある」様子が窺われます。
3	自分の生年月日がわからなくなることがありますか。	記憶機能（遠隔記憶障害）に関する質問です。自分の年齢の記憶が近時記憶障害のレベルでも曖昧になることがあります。生年月日までわからなくなると、遠隔記憶障害がある可能性が推測されます。 一人暮らしの場合（家族や介護者がいない場合）には、あらかじめ本人の生年月日を確認した上で、実際に本人に生年月日を追加質問して確認することもできます。遠隔記憶障害が認められる場合には中等度以上の認知症が疑われます。
4	今日が何月何日かわからないときがありますか。	見当識（時間の失見当識）に関する質問です。 一人暮らしの場合には、実際に本人に今日が何月何日かを追加質問して確認することができます。日付が1～2日ずれている程度であれば、わからなくなことはそれほど頻繁ではないものと思われます。日付が極端にずれていたり、月が誤っていたりするようであれば、「今日が何月何日かわからなくなることが頻繁にある」ものと推測されます。
5	自分のいる場所がどこかわからなくなることがありますか。	見当識（場所の失見当識）に関する質問です。 一人暮らしの場合（家族や介護者がいない場合）には、実際に本人に現在いる場所や自宅の住所を追加質問してみたりしながら確認することができます。場所の失見当識が認められる場合には、中等度以上の認知症が疑われます。
6	道に迷って家に帰ってこれなくなることがありますか。	道順障害に関する質問です。これは視空間機能の障害に関係する行動の変化である可能性があります。道に迷って家に帰ってこれなくなる、外出して帰ってこれなくなる、外出先で迷子になってしまう、よく知っている

	とはありますか。	場所でも道に迷ってしまう、そのようなことがあるか否か、その程度を確認します。そもそも外出することがまったくない場合（例：身体機能が著しく低下しているなど）には「道に迷う」という行為も発生しませんが、そのような場合には「いつもそうだ」を選択して、質問文の余白にその旨をメモしておいてください。 <u>一人暮らしの場合</u> （家族や介護者がいない場合）には、実際に道に迷ってしまうことが頻繁にあるかどうかを質問し、本人の回答に基づいて調査担当者がそのようなことがありそうか否かを推測して評価します。 注）道順障害は、アルツハイマー型認知症では比較的低度の段階で認められることもあります。
7	電気やガスや水道が止まってしまったときに、自分で適切に対処できますか。	問題解決能力に関する質問で、生活上の問題に直面した際に、それに対して自分で適切に対処できるか、対処できそうか、その程度を確認します。家族には、日々の生活の中で気がついているエピソードをいろいろと聞いてみると、問題解決能力の程度を概ね判断することもできます。 <u>一人暮らしの場合</u> （家族や介護者がいない場合）には、実際にさまざまな問題場面（例：「停電になったらどうするか」「クレジットカードを紛失したらどうするか」）を例にあげてみて、その対処方法を本人に追加質問しながら評価します。たとえば「なんでも家族に相談する」や「そういうことは全部、管理人さんがしてくれる」という答えは、それ自体は問題解決につながっていますが、仮に家族や管理人がその場にいなかった場合には、自分でそれなりに対処できそうか否かを考慮して評価します。
8	一日の計画を自分で立てることができますか。	問題解決能力に関する質問で、ここでは、自発的、計画的、効果的に、目的に向かって行動できるか、その程度を確認します。その日の状況や用件に応じて、自分で計画的に行動できているか、通院日には時間に間に合うように自分で準備して病院にでかけているか、ゴミ出し日には自分で時間に間に合うようにゴミを出しているか、などを確認します。毎日、同じ時間にテレビを見て過ごしているというだけでは、計画的に行動できているとは言えません。 <u>一人暮らしの場合</u> （家族や介護者がいない場合）には毎日の生活の様子（例：今日の予定、通院のときの準備、ゴミ出しのことなど）を具体的に聞きながら評価していきます。
9	季節や状況に合った服を自分で選ぶことができますか。	常識的な判断力に関する質問です。 <u>一人暮らしの場合</u> （家族や介護者がいない場合）には、例えば、「セーターを着ていらっしゃいますが、それは今日が寒いからですか？」「ご自分で、寒いな、と思ってセーターを選ばれたのですか？」等、調査施行日の気候・気温にあった服装をしているかどうか、その服は対象の本人が選んだものなのかどうか、追加質問をしながら評価します。明らかに常識的な判断力の低下が見られる場合は中等度以上の認知症が疑われます。
10	一人で買い物はできますか。	家庭外の IADL（買い物）に関する質問です。これはお店まで行けるかどうかを問うているのではなく、日用品など必要なものを適切に買うことができるかどうか、買い物という行為を果たすことで期待される目的を達することができるかどうかを聞くものであり、その点で目的の場所に行くことができるかどうかを問う質問 11 と区別されます。同じものを頻繁に買ってくるなど、買い物に関する失敗が頻繁に見られる場合には、「あまりで

		ない」に該当します。 <u>一人暮らしの場合</u> （家族や介護者がいない場合）には本人に日常生活の様子を追加質問しながら評価します。
11	バスや電車、自家用車などを使って一人で外出できますか。	家庭外の IADL（交通機関の利用）に関する質問です。実際に交通機関を利用して外出する習慣がない場合でも、必要に応じて交通機関を利用して一人で外出することができそうかどうかを家族や介護者に確認します。交通機関を利用して外出する際に、頻繁に失敗が見られる場合には「あまりできない」に該当します。 <u>一人暮らしの場合</u> （家族や介護者がいない場合）には本人に日常生活の様子を具体的に質問しながら評価します。
12	貯金のお出し入れや、家賃や公共料金の支払いが一人できますか。	家庭外の IADL（金銭管理）に関する質問です。銀行で窓口または ATM で、自分で預金のお出し入れができるか、公共料金の請求書が来れば、自分でその支払いができるかについて確認します。これは質問 7 の問題解決にも密接に関連する質問です。 <u>一人暮らしの場合</u> （家族や介護者がいない場合）には本人に日常生活の様子を質問しながら評価します。
13	電話をかけることができますか。	家庭内の IADL（電話）に関する質問です。これは電話をしようと思う相手に電話をかけることができるかどうかを問うもので、「娘のところは“短縮 1”、息子のところは“短縮 2”を押すだけです」という回答であっても、必要な相手に必要なときに電話をかけることができるならば「問題なくできる」または「だいたいできる」に該当します。 <u>一人暮らしの場合</u> （家族や介護者がいない場合）には、電話の使用に関して、本人に具体的な質問をしながら評価します。
14	自分で食事の準備はできますか。	家庭内の IADL（食事）に関する質問です。これは、生命と健康の維持に必要な食料を自分で調達し、それなりに食べることができているかを問うものです。自分で調理しているか、惣菜を買ってきて食べているかは問いません。 <u>一人暮らしの方</u> で、偏った食生活で栄養のバランスが非常に心配な場合、冷蔵庫の中にほとんど食べ物がなかったり、腐ったものがあつたりする場合、3 度の食事を適切にとれず栄養状態の不良が疑われる場合には、「あまりできない」または「できない」になります。本人に食事の準備に関する日常生活の様子を具体的に質問しながら評価します。
15	自分で、薬を決まった時間に決まった分量のむことができますか。	家庭内の IADL（服薬管理）に関する質問です。一般に、処方薬をまったく飲み忘れず服用しているということはむしろ稀であり、通常でも多少の飲み忘れはあります。特に、昼薬と就寝前薬の飲み忘れは多いかと思えます。昼薬の飲み忘れが週の半分あったとしても朝・夕はほとんど飲み忘れがなく、「大事な薬」と本人が認識している薬（降圧薬、血糖降下薬、ワーファリンなどで、たいてい朝・夕に処方されている）が概ね服用できていて、血圧・血糖等のコントロールが良好であれば「だいたいできる」に該当します。処方薬が朝・昼・夕・就寝前ばらばらに半分以上残っている、健康維持に必須と思われる薬を相当飲み忘れている、あるいは複数の処方薬の残薬の量が著しくばらばらである場合には、「あまりできない」「できない」に該当します。 <u>一人暮らしの場合</u> （家族や介護者がいない場合）には、実際に内服してい

		る薬を確認することによって、服薬管理の様子をうかがうことができます。また、おくすり手帳を確認して短期間に処方箋が頻回に変更になっている履歴が確認できる場合には、コントロールが急速に悪化していることが推察されるため、服薬管理ができていない可能性があります。
16	入浴は一人で行えますか。	身体的ADL（入浴）に関する質問です。これは入浴に関連する一連の動作を行い、期待される効果（保潔）が得られているかどうかを問うものです。運動機能障害により介助が必要な場合には、「一部介助を要する」または「全介助を要する」を選択し、運動機能障害の部位を余白に記載します。運動機能障害とは無関係に一人で入浴できない場合には、中等症以上の認知症が疑われます。 一人暮らしの場合には本人に入浴に関する日常生活の様子を具体的に質問したり、身なりを観察したりしながら評価することができます。
17	着替えは一人で行えますか。	身体的ADL（着脱衣）に関する質問です。用意された服を一人で着られるかどうかを評価するものであり、適切な服装を選ぶことができるかどうかを問う質問9とは区別します。運動器の障害により介助が必要な場合には、「一部介助を要する」または「全介助を要する」を選択し、運動器の障害部位を質問欄の余白に記載します。運動器の障害が認められないにも関わらず一人で着替えができない場合（着衣障害）、中等度以上の認知症である可能性があります。 一人暮らしの場合（家族や介護者がいない場合）には本人に着替えに関する日常生活の様子を具体的に質問したり、実際に身なりや着衣の様子を観察したりしながら評価することができます。
18	トイレは一人で行えますか。	身体的ADL（排泄）に関する質問です。大小便のいずれも、一人でトイレを使用して、排泄に必要な一連の動作を完了できるかを問うものです。運動器の障害により介助が必要な場合には、「一部介助を要する」または「全介助を要する」を選択し、運動器の障害部位を質問欄の余白に記載します。運動器の障害が認められないにも関わらずトイレを使用して排泄できない場合（例：失禁）には、中等度以上の認知症である可能性があります。 一人暮らしの場合（家族や介護者がいない場合）には本人に排泄に関する日常生活の様子を具体的に質問したり、身なり、家の様子（尿臭など）を観察したりしながら評価することができます。
19	身だしなみを整えることは一人で行えますか。	身体的ADL（整容）に関する質問です。身だしなみ、紙や爪の手入れ、洗面、歯磨き、髭そりなどが、自分一人で行えるかどうかについて問うものです。多小手伝ってもらう場合には部分介助、全面的に手伝ってもらう必要がある場合は全介助となります。 一人暮らしの場合には、本人に質問するとともに、本人の着衣の様子、家の中の様子などを観察し、清潔保持などに支障がないかを評価します。
20	食事は一人で行えますか。	身体的ADL（食事の摂取）に関する質問です。これは、用意されている食事を、自分一人で支障なく摂取できるかを問うものです。多小介助すれば自分で摂取できる場合には部分介助、自分ではまったく摂取できない場合は全介助となります。 一人暮らしの場合には、本人に質問して確認するとともに、生活の様子全体から判断して評価します。

21	家のなかでの移動は一人で行えますか。	身体的ADL（移動）に関する質問です。これは、家の中で、トイレや風呂などに自分一人で行くことができるか、移動能力について問うものです。杖、歩行器、車椅子などを使用して一人で必要な場所に移動できる場合は支障なしとし、見守りが必要か、多小介助が必要か（部分介助）が必要かについて検討します。移動のためには全面的に介助が必要な場合には全介助とします。 一人暮らしの場合には、本人に質問して確認するとともに、生活の様子全体から判断して評価します。
----	--------------------	---

（3）DASC-21 の評価方法

1）認知機能障害と生活機能障害のプロファイルから認知症の可能性を評価する場合

①認知機能障害（記憶、見当識、問題解決・判断）の各項目のいずれかの障害領域（3～4点）であり、かつ、生活機能（家庭外の IADL、家庭内の IADL、身体的 ADL①②）のいずれかの障害領域（3～4点）の場合には、「認知症の可能性あり」と判定する。

② ①を満足し、かつ、記憶のドメインで遠隔記憶（項目 3）、見当識のドメインで場所（項目 5）、問題解決・判断で社会的判断力（項目 9）のいずれかの障害領域（3～4点）か、身体的 ADL①②（項目 16～項目 21）が障害領域（3～4点）であれば、「中等度以上の認知症の可能性あり」と判定する。

③ ①を満足し、かつ、記憶のドメインで遠隔記憶（項目 3）、見当識のドメインで場所（項目 5）、問題解決・判断で社会的判断力（項目 9）のいずれも障害領域ではなく（1～2点）、身体的ADL①②（項目 16～項目 21）も障害領域でなければ（1～2点）、「軽度認知症の可能性あり」と判定する。

2）合計点を用いる場合

DASC-21 の合計点が 31 点以上の場合には「認知症の可能性あり」と判定する。

地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート (DASC-21)
Dementia Assessment Sheet in Community-based Integrated Care System - 21 items (DASC-21)

記入日 年 月 日

ご本人の氏名：		生年月日： 年 月 日（ 歳）				男 ・ 女		独居 ・ 同居	
本人以外の情報提供者の氏名：		(本人との続柄：)		記入者氏名： (所属・職種)					
		1 点	2 点	3 点	4 点	評価項目		備考欄	
A	もの忘れが多いと感じますか	1. 感じない	2. 少し感じる	3. 感じる	4. とても感じる	導入の質問 (採点せず)			
B	1年前と比べてもの忘れが増えたと感じますか	1. 感じない	2. 少し感じる	3. 感じる	4. とても感じる				
1	財布や鍵など、物を置いた場所がわからなくなることがあります。	1. まったくない	2. ときどきある	3. 頻繁にある	4. いつもそうだ	記憶	近時記憶		
2	5 分前に聞いた話を思い出せないことがあります。	1. まったくない	2. ときどきある	3. 頻繁にある	4. いつもそうだ				
3	自分の生年月日がわからなくなることがあります。	1. まったくない	2. ときどきある	3. 頻繁にある	4. いつもそうだ		遠隔記憶		
4	今日が何月何日かわからないときがあります。	1. まったくない	2. ときどきある	3. 頻繁にある	4. いつもそうだ	見当識		時間	
5	自分のいる場所がどこかわからなくなことはあります。	1. まったくない	2. ときどきある	3. 頻繁にある	4. いつもそうだ		場所		
6	道に迷って家に帰ってこれなくなことはあります。	1. まったくない	2. ときどきある	3. 頻繁にある	4. いつもそうだ		道順		
7	電気やガスや水道が止まってしまったときに、自分で適切に対処できます。	1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない		問題 解決 判断力	問題解決	
8	一日の計画を自分で立てることができます。	1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない	社会的判断力			
9	季節や状況に合った服を自分で選ぶことができます。	1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない				
10	一人で買い物はできます。	1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない	家庭外の IADL	買い物		
11	バスや電車、自家用車などを使って一人で外出できます。	1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない		交通機関		
12	貯金のお出し入れや、家賃や公共料金の支払いは一人でできます。	1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない		金銭管理		
13	電話をかけることができます。	1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない	家庭内の IADL	電話		
14	自分で食事の準備はできます。	1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない		食事の準備		
15	自分で、薬を決まった時間に決まった分量のむことはできます。	1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない		服薬管理		
16	入浴は一人でできます。	1. 問題なくできる	2. 見守りや声がけを要する	3. 一部介助を要する	4. 全介助を要する	身体的 ADL①	入浴		
17	着替えは一人でできます。	1. 問題なくできる	2. 見守りや声がけを要する	3. 一部介助を要する	4. 全介助を要する		着替え		
18	トイレは一人でできます。	1. 問題なくできる	2. 見守りや声がけを要する	3. 一部介助を要する	4. 全介助を要する		排泄		
19	身だしなみを整えることは一人でできます。	1. 問題なくできる	2. 見守りや声がけを要する	3. 一部介助を要する	4. 全介助を要する	身体的 ADL②	整容		
20	食事は一人でできます。	1. 問題なくできる	2. 見守りや声がけを要する	3. 一部介助を要する	4. 全介助を要する		食事		
21	家のなかでの移動は一人でできます。	1. 問題なくできる	2. 見守りや声がけを要する	3. 一部介助を要する	4. 全介助を要する		移動		
					DASC 21：（1～21項目まで）の合計点 点/84 点				

©栗田圭一 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所・自立促進と介護予防研究チーム（認知症・うつ予防と介入の促進）

認知症総合対策推進プロジェクト 委員名簿

【全体会】

	所属団体・職名	氏 名
委員長	京都地域包括ケア推進機構理事長	井端 泰彦
副委員長	京都府医師会理事	西村 幸秀
委 員	京都府医師会理事	三木 秀樹
委 員	京都府社会福祉協議会副会長	櫛田 匠
委 員	京都府市長会事務局次長	田中 豊
委 員	京都府町村会理事	重井 優

【医療・ケア連携部会】

委 員	京都府立医科大学附属病院精神科・心療内科部長（認知症疾患医療センター）	成本 迅
委 員	京都府介護支援専門員会副会長	松本 善則
委 員	京都府介護福祉士会会長	柏本 英子
委 員	京都府介護老人保健施設協会理事	中村 泰三
委 員	京都府看護協会専務理事	中島 すま子
委 員	北山病院院長（認知症サポート医）	澤田 親男
委 員	京都府歯科医師会理事	山下 正純
委 員	京都私立病院協会副会長	武田 隆久
委 員	京都精神科病院協会会長	三木 秀樹
委 員	京都府地域包括・在宅介護支援センター協議会会長	川北 雄一郎
委 員	西京医師会会長	塚本 忠司
委 員	認知症の人と家族の会京都府支部代表	荒牧 敦子
委 員	福知山医師会理事	渡邊 正
委 員	京都府理学療法士会会長	並河 茂
委 員	京都府老人福祉施設協議会副会長	藤田 良一
委 員	京都市老人福祉施設協議会副会長	橋本 武也

【初期対応・地域部会】

委 員	乙訓医師会	野々下 靖子
委 員	京都府介護支援専門員会理事	北野 太朗
委 員	はやし神経内科院長（認知症サポート医）	林 理之
委 員	京都府言語聴覚士会会長	関 道子
委 員	京都府作業療法士会認知症支援委員会委員長	小川 真寛
委 員	京都社会福祉士会介護保険委員会委員長	久門 治美
委 員	京都精神科医会会長	中嶋 章作
委 員	京都市地域包括支援センター・在宅介護支援センター連絡協議会会長	源野 勝敏
委 員	京都地域密着型サービス事業所協議会副会長	三代 修
委 員	認知症の人と家族の会京都府支部副代表	山添 洋子
委 員	京都府訪問看護ステーション協議会副会長	西野 美奈子
委 員	京都府薬剤師会副会長	渡邊 大記
委 員	京都府立洛南病院副院長（認知症疾患医療センター）	森 俊夫

【京都式オレンジプラン改定検討ワーキング】

	所属団体・職名	氏 名
座 長	京都府医師会理事	西村 幸秀
委 員	京都府医師会理事 (～第4回会議)	關 透
委 員	京都府医師会理事 (第5回会議～)	三木 秀樹
	京都精神科病院協会会長	
委 員	京都府立医科大学附属病院精神科・心療内科部長（認知症疾患医療センター）	成 本 迅
委 員	京都府介護支援専門員会副会長	松本 善則
委 員	京都府介護老人保健施設協会理事	小林 啓治
委 員	北山病院院長（認知症サポート医）	澤田 親男
委 員	京都私立病院協会幹事	清水 聡
委 員	京都府地域包括・在宅介護支援センター協議会会長	川北 雄一郎
委 員	京都市地域包括支援センター・在宅介護支援センター連絡協議会会長	源野 勝敏
委 員	西京医師会会長	塚本 忠司
委 員	認知症の人と家族の会京都府支部代表	荒牧 敦子
委 員	京都府老人福祉施設協議会副会長	藤田 良一
委 員	京都市老人福祉施設協議会副会長	橋本 武也
委 員	京都府立洛南病院副院長（認知症疾患医療センター）	森 俊夫
委 員	京都府市長会・京丹後市長寿福祉課長	瀬戸 千賀子
委 員	京都府町村会・精華町福祉課長	岩井 秀樹
アドバイザー	東京都健康長寿医療センター研究所研究部長	栗田 主一
アドバイザー	認知症介護研究・研修東京センター研究部長	永田 久美子
アドバイザー	藤田保健衛生大学教授	武地 一
アドバイザー	京都文教大学教授 (第5回会議～)	平尾 和之
アドバイザー	京都府立医科大学講師 (第5回会議～)	占部 美恵
アドバイザー	社会福祉法人同和園主任研究員 (第5回会議～)	孫 希叔

京都式オレンジプラン 10のアイメッセージ評価 報告書

京都地域包括ケア推進機構
認知症総合対策推進プロジェクト

〒604-8418

京都市中京区西ノ京東梅尾町 6 番地 京都府医師会館 703

Tel : 075-822-3562 Fax : 075-822-3574

E-mail : info@kyoto-houkatucare.org

HP : <http://www.kyoto-houkatucare.org/>
